

# 愛媛県美術館

令和3年度年報・研究紀要第21号

**ANNUAL REPORT**  
and  
**BULLETIN**

**THE MUSEUM OF ART, EHIME**



# 総目次

## ■ 令和3年度年報

I	沿 革	1
II	展覧会事業	
1	コレクション展示	2
2	企画展示・特別展示	11
3	愛媛県美術館コレクションによる「おでかけ美術館」	43
III	作品の収集事業及び保存管理	
1	収集方針	46
2	取得作品の概要	46
3	収蔵作品数	49
4	保存・修復	49
5	館蔵品貸出状況	50
IV	調査研究事業	61
V	教育普及事業	
1	普及啓発事業	64
(1)	連続講座	
(2)	レクチャー	
(3)	ワークショップ	
(4)	親子ワークショップ	
(5)	土曜講座	
(6)	コレクショントーク	
(7)	コレクショントーク+	
2	創作活動支援事業	68
(1)	アトリエの設置	
(2)	創作学習の支援	
3	美術情報関係事業	69
(1)	美術館情報発信	
(2)	美術情報の提供	
4	他機関との連携事業	70
(1)	館内プログラム	
(2)	館外プログラム	
(3)	大学との連携	
(4)	調査・委員・審査・原稿執筆	
5	その他	79
(1)	第23回愛媛県美術館開館記念イベント	
VI	美術館デジタル活用魅力発信事業	80

<b>Ⅶ 貸館事業</b>	
1 展示施設の利用方法	81
2 展示施設の利用状況	82
<b>Ⅷ 入館者の状況</b>	85
<b>Ⅸ 組織及び職員構成</b>	
1 組織図	86
2 職員名簿	86
<b>X 愛媛県美術館協議会委員名簿</b>	87
<b>XI 関係法規</b>	
1 愛媛県美術館使用料条例	88
2 愛媛県美術館管理規則	89
3 愛媛県博物館協議会設置条例	92
4 愛媛県美術館協議会運営規則	93
5 愛媛県美術品等収集評価委員会設置要綱	93
<b>XII 施設・設備の概要</b>	94

■ 愛媛県美術館研究紀要 第21号

- \* 記録：リモートイベント アーティストトークー有元容子、山田彩加ー 石崎三佳子
- \* 新型コロナウイルス禍における愛媛県美術館の活動について 喜安 嶺
- \* 史料紹介 愛媛県今治市東禅寺所蔵二月三日付得居通栄書状について 土居 聡朋

## ○ 開館までの歩みとその後

- 昭和45年 9月 愛媛県立美術館が開館
- 昭和54年10月 愛媛県立美術館分館郷土美術館を設置
- 平成2年 5月 生活文化県政推進懇談会で新しい美術館の建設が提言される  
9月 愛媛県中核美術館整備検討委員会設置  
(会長：門田圭三 委員21人)
- 平成3年 3月 第1回整備検討委員会開催  
11月 「県民の美術館に対するニーズ調査及び特色ある美術館の調査」  
(～4年2月まで)  
11月 第2回整備検討委員会開催
- 平成5年 3月 第3回整備検討委員会開催
- 平成6年 6月 立地場所について検討委員会に確認
- 平成7年10月 第4回整備検討委員会開催  
11月 中核美術館基本構想報告
- 平成8年11月 現状変更許可（文化庁）  
12月 起工式
- 平成10年 4月 愛媛県立美術館は教育委員会から知事部局に移管  
9月 定礎式  
10月 愛媛県立美術館を廃止し、愛媛県美術館を設置  
11月 落成式
- 平成12年 4月 知事部局から教育委員会へ移管
- 平成21年 3月 愛媛県美術館分館（萬翠荘）を知事部局に移管
- 平成30年 4月 教育委員会から知事部局へ管理運営を事務委任
- 令和2年 4月 教育委員会から知事部局へ移管

## II 展覧会事業

### 1 コレクション展示

○令和3年4月3日～4月14日  
上田星邨コレクション特別公開 一藤原定家『明月記』断簡を中心に—  
企画展示室1

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
藤原定家	「明月記」断簡 建久九年二月十九日条	建久9年 (1198)	紙本墨書・軸	28.5×14.4	上田星邨コレクション
	「古今和歌集」卷十一断簡	鎌倉時代後期-室町時代前期	紙本墨書・軸	23.6×5.7	上田星邨コレクション
近衛基熙	消息	江戸時代中期	紙本墨書・軸	31.0×44.5	上田星邨コレクション
太宰春台	七言絶句	江戸時代中期	紙本墨書・軸	124.4×48.3	上田星邨コレクション
日下部鳴鶴	七言絶句	明治-大正時代	紙本墨書・軸	130.5×52.1	上田星邨コレクション
阪正臣	和歌 ひとむらの	明治時代	紙本墨書・軸	132.1×30.1	上田星邨コレクション
加藤義清	和歌懐紙	昭和時代初期	紙本墨書・軸	35.2×46.5	上田星邨コレクション
長尾雨山	七言絶句	昭和14 (1939) 年	紙本墨書・軸	131.3×32.6	上田星邨コレクション
夏目漱石	五言絶句	大正4-5 (1915-16) 年頃	紙本墨書・軸	41.1×28.2	上田星邨コレクション
立林何帛	朝顔図	江戸時代中期	紙本墨書	20.3×123.0	上田星邨コレクション
都路華香	水墨山水図	明治時代後期-大正時代	絹本着色・軸	88.1×30.6	上田星邨コレクション
都路華香	曙雲群鴉図	明治時代後期-大正時代	紙本墨画・軸	39.7×46.1	上田星邨コレクション
真野暁亭	羅漢図	明治時代後期-大正時代	紙本淡彩・軸	118.8×30.7	上田星邨コレクション
真野暁亭	唐美人図	明治時代後期-大正時代	紙本墨画淡彩・軸	133.6×33.2	上田星邨コレクション
上田星邨	万葉集 山部赤人の歌	昭和時代初期	紙本墨画淡彩・軸	116.3×30.0	上田星邨コレクション
	上田星邨遺愛品				個人蔵

○令和3年4月20日～7月11日 コレクション展 I  
令和2年度新収蔵品展  
常設展示室3

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
藤原定家	「明月記」断簡 建久9年2月19日条	建久9年 (1198)	紙本墨書・軸	28.5×14.4	上田星邨コレクション
作者不詳	「古今和歌集」卷十一断簡	鎌倉時代後期-室町時代前期	紙本墨書・軸	23.6×5.7	上田星邨コレクション
日下部鳴鶴	七言絶句	明治-大正時代	紙本墨書・軸	130.5×52.1	上田星邨コレクション
夏目漱石	五言絶句	大正4-5年 (1915-16) 頃	紙本墨書・軸	41.1×28.2	上田星邨コレクション
都路華香	曙雲群鴉図	明治時代後期-大正時代	紙本淡彩・軸	118.8×30.7	上田星邨コレクション
真野暁亭	童子逍遥図	明治時代後期-大正時代	紙本墨画淡彩・軸	134.4×33.2	上田星邨コレクション
真鍋博	《岸本重陳「捨てる神拾う神」挿 図原画》(『新版中学国語1』1978 年、教育出版株式会社、122頁)	昭和53年 (1978)	紙、墨、インク、鉛 筆、TP (鉛筆、色 鉛筆、インク)	14.9×19.2	
真鍋博	《星新一「人間的」挿図原画》 (『新版中学国語1』1981年、教育 出版株式会社、113頁)	昭和56年 (1981)	紙、墨、インク、コ ラージュ、TP2枚 (鉛筆、色鉛筆、 インク)	16.0×27.2	
真鍋博	《堀川直義「映像化時代と言葉」 挿図原画》『新版中学国語2』1981 年、教育出版株式会社、257頁)	昭和56年 (1981)	紙、墨、インク、コ ラージュ、TP (鉛 筆、色鉛筆)	19.6×27.4	
畦地梅太郎	火山	昭和12年 (1937)	木版多色・紙	36.0×45.8	
前川千帆	日光戦場ヶ原(贈尾上兄 畦地氏 の求めに応じて)		紙本墨画淡彩・軸	27.0×33.0	尾上梧楼庵旧蔵
坪内冕幸	[作品]	昭和32年 (1957)	油彩・紙	41.0×29.3	
坪内冕幸	[作品]	昭和32年 (1957)	油彩・紙	37.7×27.6	
坪内冕幸	[作品]	昭和32年 (1957) 頃	油彩・画布	22.5×16.0	
坪内冕幸	[作品]	昭和33年 (1958)	蓄光性夜光塗料、 糸・画布	22.8×16.0	
坪内冕幸	[4]	1970年代	印刷物、紙	30.2×24.2	
坪内冕幸	BREEZE	平成9年 (1997)	アクリル、ナイロン 糸・画布	22.8×15.8	
石本藤雄	KUJA	昭和51年 (1976)	綿	379.0×139.0	

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
石本藤雄	LOMPOLO	昭和58年 (1983)	綿	229.8×152.3	
石本藤雄	KOSKI	昭和61年 (1986)	綿	259.5×146.5	
石本藤雄	UOMA	昭和61年 (1986)	綿	282.0×148.0	
石本藤雄	LAINHEHTIVA	昭和63年 (1988)	綿	184.0×144.1	
石本藤雄	UKONHATTU	平成5年 (1993)	綿	325.0×147.0	
石本藤雄	SUDENMARJA	平成5年 (1993)	麻綿	308.0×148.0	
石本藤雄	SIIMES	平成7年 (1995)	綿	259.2×144.0	
石本藤雄	LEHMUS	平成9年 (1997)	麻	382.4×148.0	
石本藤雄	SUVISUNNUNTAI	平成10年 (1998)	綿	252.0×147.0	
石本藤雄	LÄHDE	平成11年 (1999)	麻	200.0×148.0	
石本藤雄	VILLI JA VAPAA	平成15年 (2003)	綿	252.0×143.0	

コレクション・ハイライト I  
常設展示室 3

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
ジャン=バティスト =カミーユ・コロ	ヴィル=ダヴレー 白樺のある池	1855-60年頃	油彩・画布	49.0×73.0	
ポール・セザンヌ	水の反映	1888-90年頃	油彩・画布	65.0×92.0	
ピエール・ボナール	アンドレ・ボナール嬢の肖像 画家の妹	1890年	油彩・画布	188.0×80.0	
安田靉彦	守屋大連	明治41年 (1908)	絹本着色・軸	150.3×57.0	
福田平八郎	雉	昭和44年 (1969)	絹本着色・額	75.7×44.0	武智光春コ レクション
坂本繁二郎	ブルターニュ	大正12年 (1923)	油彩・画布	45.9×54.8	
野間仁根	画室	昭和8年 (1933)	油彩・画布	162.0×130.3	
中川八郎	アゼリア	明治38年 (1895)	水彩・紙	38.3×55.0	
吉田 博	藤香漂う春の宵	明治時代後期	水彩・紙	50.5×33.9	
菅井 汲	EIYU	昭和43年 (1968)	油彩・画布	129.5×96.5	
杉浦非水	三越呉服店 春の新柄陳列会	大正3年 (1914)	リトグラフ・紙	106.5×77.0	
杉浦非水	ヤマサ醤油	1920年代	リトグラフ、オフセット・紙	43.9×77.0	
杉浦非水	装丁・雑誌表紙				
真鍋 博	星新一『魔魔の標的』表紙原画	昭和39年	ポスターカラー・紙	24.0×15.5	
真鍋 博	筒井康隆『七瀬ふたたび』表紙原画	昭和53年	墨、紙 (色鉛筆、 トレーシングペーパー)	26.4×35.7	
真鍋 博	『星をたべた馬』表紙原画(2点)	昭和40年	ポスターカラー、 エアブラシ・ケント紙	各26.0×37.5	
真鍋 博	『愛媛の昔語り』挿図原画(4点程度)	昭和35年 (1960)	墨、ポスターカラー、 スクリーン・トン・紙	13.0×12.7 ほか	
真鍋 博	静物(骨)	1955 (昭和30) 年	油彩・画布	99.0×73.0	
畦地梅太郎	宇和島城(鶴島城)『伊予風景』より	昭和11年 (1936)	多色木版・紙	26.5×36.0	
畦地梅太郎	八幡浜港(八幡浜ノ海)『伊予風景』より	昭和11年 (1936)	多色木版・紙	27.5×36.0	
畦地梅太郎	大洲臥龍 『伊予風景』より	昭和11年 (1936)	多色木版・紙	27.0×37.0	
畦地梅太郎	高浜四十島 『伊予風景』より	昭和11年 (1936)	多色木版・紙	27.5×36.5	
畦地梅太郎	松山城乾門(勝山城乾門)『伊予風景』より	昭和11年 (1936)	多色木版・紙	27.0×36.0	
畦地梅太郎	石鎚霊峰 『伊予風景』より	昭和11年 (1936)	多色木版・紙	27.5×36.0	

○令和3年7月17日～10月4日 コレクション展Ⅱ  
森のなぞなぞ美術館Ⅱ 一木の版画はおもしろい！  
常設展示室 3

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
	(木版版木)		版木		資料
歌川広重	五十三次名所図会	安政2 (1855) 年	大判錦絵		寄託作品
歌川広重	五十三次名所図会	安政2 (1855) 年	大判錦絵		寄託作品
歌川広重	五十三次名所図会	安政2 (1855) 年	大判錦絵		寄託作品
歌川広重	五十三次名所図会	安政2 (1855) 年	大判錦絵		寄託作品
歌川広重	五十三次名所図会	安政2 (1855) 年	大判錦絵		寄託作品
畦地梅太郎	鳥のすむ森	昭和50 (1975) 年	多色木版・紙	49.0×30.0	

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
畦地梅太郎	山小屋の老人	昭和28 (1953) 年	多色木版・紙	54.0×36.5	
畦地梅太郎	母の像	昭和3 (1928) 年	単色木版・紙	10.0×9.0	
畦地梅太郎	よろこびの山 『山男誕生』より	昭和48 (1973) 年	多色木版・紙	23.5×17.8	
畦地梅太郎	小名木川附近	昭和5 (1930) 年	多色木版・紙	37.0×43.0	
畦地梅太郎	石鎚山[緞帳原画]	昭和60 (1985) 年	多色木版・紙	40.0×80.0	
畦地梅太郎	(版木)		版木		資料
杉浦非水	百花譜(釣鐘人參)	昭和4-9 (1929-34) 年	木版・紙	47.0×32.0	
杉浦非水	百花譜(葱)	昭和4-9 (1929-34) 年	木版・紙	47.0×32.0	
杉浦非水	百花譜(つわ路)	昭和4-9 (1929-34) 年	木版・紙	47.0×32.0	
マックス・ペヒシュタイン	水浴する人々	明治44 (1911) 年頃	木版、水彩・紙	20.5×23.5	杉浦非水旧蔵
橋本興家	雨	昭和41 (1966) 年	多色木版・紙	48.3×60.1	
橋本興家	漁船	不詳	多色木版・紙		
橋本興家	砂庭(天竜寺)	昭和40 (1965) 年	多色木版・紙	48.3×60.1	
橋本興家	のとろの葉	昭和47 (1972) 年	多色木版・紙	71.6×51.3	
石崎重利	魚図	不詳	多色木版・紙	32.4×43.4	
石崎重利	幟立つ瀬戸	昭和3 (1928) 年	木版・紙	31.2×44.3	
石崎重利	備前・下津井	昭和12 (1937) 年	木版・紙	19.9×28.5	
石崎重利	牡丹	昭和32 (1957) 年	木版・紙	31.5×41.6	
木和村創爾郎	潮来初夏	昭和33 (1958) 年	木版・紙	76.0×80.0	
木和村創爾郎	ニコライ堂の晩秋	昭和22 (1947) 年	木版・紙	52.2×36.5	
木和村創爾郎	ステンドグラスB	昭和36 (1961) 年	木版・紙	46.5×31.7	
菊澤尋吉	母と子-平和-	昭和48 (1973) 年	木版・紙	93.0×68.0	寄託作品
菊澤尋吉	少女	昭和40 (1965) 年	多色木版・紙	44.1×29.0	寄託作品
菊澤尋吉	シコロ-愛	昭和40 (1965) 年	多色木版・紙	79.0×107.0	寄託作品
中尾義隆	石のベッド	昭和31 (1956) 年	木版・紙	45.5×68.5	
中尾義隆	易者	昭和48 (1973) 年	木版・紙	53.0×34.0	
二神日満男	誤字のあるさび壁	昭和55 (1980) 年	多色木版・紙	37.7×54.0	
二神日満男	船腹	平成元 (1989) 年	多色木版・紙	65.0×52.2	
二神日満男	廃棄物の葬列	平成3 (1991) 年	多色木版・紙	57.0×61.0	
土居明生	望郷	平成元 (1989) 年	木口木版・紙	53.8×41.5	個人蔵
土居明生	雲湧く	平成17 (2005) 年	木口木版・紙	41.8×57.0	個人蔵
土居明生	風立つ	平成3 (1991) 年	木口木版・紙	52.2×44.2	個人蔵
土居明生	向日葵1	平成28 (2016) 年	木口木版・紙	41.2×54.5	個人蔵
土居明生	秋声	平成30 (2018) 年	木口木版・紙	40.2×56.2	個人蔵
土居明生	花笑い鳥歌い 木立は踊る	令和3 (2021) 年	木口木版・紙	41.0×53.8	個人蔵
土居明生	黎明	平成16 (2004) 年	木口木版・紙	49.0×70.7	個人蔵
土居明生	穴神様	平成3 (1991) 年	木口木版・紙	61.0×41.5	個人蔵
土居明生	親子獅子	平成24 (2012) 年	木口木版・紙	61.6×51.0	個人蔵
土居明生	山守II	平成20 (2008) 年	木口木版・紙	65.8×50.8	個人蔵
土居明生	恩愛	平成22 (2010) 年	木口木版・紙	56.3×72.2	個人蔵
土居明生	生々流転1	平成3 (1991) 年	木口木版・紙	67.1×51.5	個人蔵
土居明生	食む(版木含む)	令和2 (2020) 年	木口木版・紙	32.7×28.8	個人蔵
土居明生	蘇生(版木含む)	平成8 (1996) 年	木口木版・紙	39.0×29.7	個人蔵

○令和3年7月31日～9月20日 コレクション展Ⅲ  
**かわいい展**  
**常設展示室1・2**

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
未詳	十二類絵巻	江戸時代	絹本着色・3巻		寄託作品
菊池小琴	千紫萬紅帖	大正8 (1919) 年	絹本着色・冊子	21.5×18.5	個人蔵
沖 冠岳	梅狗	江戸時代後期	絹本着色・軸	90.3×31.5	
天野方壺	祝鯛魚之図	明治12 (1879) 年	紙本着色・軸	173.4×89.6	寄託作品
西山芳園	雷神	江戸時代後期	絹本着色・軸	113.2×41.2	寄託作品
松堂	雷神	制作年不詳	紙本淡彩・軸	121.8×30.6	寄託作品
物外不遷	鬼自画賛	制作年不詳	紙本 墨・軸	116.5×25.0	

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
加藤岡谷 (揚舟)	犬	大正3 (1914) 年	紙本淡彩・軸	133.8×33.3	個人蔵
佐竹永海	竹に犬	文久2 (1862) 年	絹本着色・軸	95.7×34.2	寄託作品
加藤文麗	みみずく	制作年不詳	紙本墨画・軸	85.7×27.9	
下村為山	可喜	制作年不詳	絹本着色・軸	137.2×40.2	個人蔵
山口華楊	原生 (下図)	昭和56 (1981) 年	紙本淡彩・額	185.6×155.3	
山本雲溪	猿之図	嘉永4 (1852) 年	紙本着色・軸	120.8×52.1	
加藤岡谷	狸図	大正10 (1921) 年	絹本着色・軸	117.3×35.0	個人蔵
四田観水	狸	昭和時代	紙本着色・軸	46.4×53.8	個人蔵
阿部里雪賛、富田狸通画	狸	昭和時代	紙本墨画・軸	129.7×32.4	寄託作品
森田樵眠	松に虎図	制作年不詳	絹本墨画淡彩・軸	121.5×51.0	
長谷川竹友	印度パンジャブの里	大正8 (1919) 年	絹本着色・軸	150.7×50.5	
矢野橋村	雨霽	制作年不詳	絹本着色・軸	72.8×90.7	寄託作品
松本仙拳	六歌仙図	制作年不詳	絹本着色・軸	103.1×35.1	個人蔵
内藤鳴雪	六歌仙	大正10 (1921) 年	紙本着色・軸	135.2×32.0	寄託作品
松本仙拳	十六羅漢	大正9 (1920) 年	絹本着色・軸	125.5×34.8	個人蔵
伊藤小坡	夕くれ	制作年不詳	絹本着色・軸 (双幅)	(各) 113.5×23.1	寄託作品
大宮松之	螢	昭和20年代	紙本着色・額	136.0×76.5	
岡田三郎助	三越呉服店	制作年不詳	写真製版・紙	106.5×77.0	
ビエール・ボナール	アンドレ・ボナール嬢の肖像 画家の妹	1890年	油彩・画布	188.0×80.0	
黒光茂樹	秋茄子	昭和50 (1975) 年	紙本着色・額	124.5×192.0	
福田平八郎	水蜜桃	昭和43 (1968) 年	紙本着色・額	39.5×53.0	
高橋周桑	白菜	制作年不詳	絹本着色・額	42.5×51.0	寄託作品
田代博	豆腐	昭和61 (1986) 年頃	油彩・画布	31.7×40.9	
古茂田守介	魚	昭和33 (1958) 年頃	コンテ・紙	30.7×40.2	
下村為山	春風	制作年不詳	紙本着色・軸	125.7×30.9	個人蔵
四田観水	花見童子	制作年不詳	紙本着色・軸	124.3×32.0	個人蔵
長井一禾	楓に鴉	制作年不詳	絹本着色・軸	112.6×25.6	寄託作品
都路華香	曙雲群鴉図	明治時代後期-大正時代	絹本着色・軸	39.7×46.1	上田星邨コレクション
富岡鉄斎	鮮魚図	大正元 (1912) 年	紙本着色・軸	136.5×47.4	
下村為山	子規庵句会写生図	昭和10 (1935) 年	紙本墨画・軸	27.1×37.9	寄託作品
村上天心	達磨遊戯	制作年不詳	紙本着色・軸	130.4×65.2	寄託作品
原在中	百福図	安永8 (1779) 年	絹本着色・軸	98.4×37.2	寄託作品
中川八郎	風景	制作年不詳	水彩・紙	37.6×45.5	
吉田博	丘の上の家	明治35 (1902) 年	水彩・紙	34.9×51.2	
河合新蔵	風景 (日暮里)	明治時代後期	水彩・紙	35.6×49.8	
三並花梯	夕焼け	制作年不詳	紙本着色・軸	128.1×29.7	寄託作品
松本山雪	野馬図押絵貼屏風	江戸時代前期	紙本墨画・6曲1双	(各図) 126.5×54.4	寄託作品
木和村創爾郎	写生帖	大正8 (1919) 年	紙本着色	28.0×36.6	
長澤芦洲	桜花群雀図屏風	制作年不詳	紙本着色・2曲1隻		寄託作品
未詳	花鳥図	制作年不詳	絹本着色・軸	55.8×92.2	寄託作品
長谷川竹友	竹にヒナゲシ図屏風	制作年不詳	絹本着色・4曲1隻	172.8×281.2	寄託作品
杉浦非水	植物画スケッチ	大正~昭和時代	紙本着色		
大宮昇	野の花の譜	昭和10 (1935) 年	水彩・紙 (画帖、全56図)	51.2×31.6	
正岡子規	年賀 名刺	明治27 (1894) 年以降	紙本淡彩・軸	35.5×24.2	
野間仁根	扇面画賛 (濃藍の~)	制作年不詳	紙本着色・軸	20.0×53.3	個人蔵
平福百穂	露の臺・かけ稲	大正13 (1924) 年	絹本着色・軸 (双幅)	(各) 148.5×50.0	
海老原喜之助	幸せな雪の村	昭和5 (1930) 年	油彩・画布	72.0×100.0	
橋本興家	砂丘 I	昭和41 (1966) 年	木版・紙 額	60.0×48.8	
橋本興家	雲と風紋と馬と	昭和44 (1969) 年	木版・紙 額	60.0×49.0	
橋本興家	花と風紋	昭和51 (1976) 年	木版・紙 額	59.3×48.4	
橋本興家	冬の海	昭和51 (1976) 年	木版・紙 額	59.8×48.6	
池田遙邨	まっすぐな道でさみしい山頭火	昭和63 (1988) 年	紙本着色・額	90.2×64.5	
櫻井忠温	貼交屏風	昭和38 (1963) 年	貼交2曲屏風	90.0×87.5	

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
林史恵	江戸初期復刻犬張り子	令和2 (2020) 年	インク・紙	13.5×21.2	個人蔵
下村観山 他	日本美術院同人画集	大正12 (1923) 年	絹本彩色・画帖	(各) 23.0×32.0	
大宮昇	はるかなる世の海の歌	昭和46 (1971) 年	モノタイプ・紙	57.8×82.8	
杉浦非水	非水の図案	大正5 (1916) 年	多色木版・紙	(各) 31.0×22.8	
靨島伸彦	DOG	平成10 (1998) 年	アクリル、顔料・画布	45.5×45.5	寺田コレクション
靨島伸彦	Head	平成10 (1998) 年	アクリル、顔料・画布	42.0×41.0	寺田コレクション
靨島伸彦	Me-4	平成13 (2001) 年	アクリル、顔料・画布	33.5×33.5	寺田コレクション
靨島伸彦	Nightmare	平成13 (2001) 年	アクリル、顔料・画布	45.0×55.3	寺田コレクション
靨島伸彦	Silence	平成13 (2001) 年	アクリル、顔料・画布	46.5×46.5	寺田コレクション
靨島伸彦	Silence	平成14 (2002) 年	アクリル、顔料・画布	53.0×53.0	寺田コレクション

コレクション・ハイライト II  
常設展示室 2

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
アンドレ・ロート	マルグリットの肖像	1913年	油彩・画布	164.0×86.0	
ヴァシリー・カンディンスキー	生き生きとした白	1934年	油彩・画布	60.0×73.0	
ジャン・アルプ	ギュール	1963年 (1976年鑄造)	ブロンズ	97.0×23.5×33.0	
真鍋博	〔動物A〕	昭和31 (1956) 年	油彩・板	92.5×61.4	
真鍋博	〔靴の花〕	昭和33 (1958) 年	油彩・布	130.0×96.0	
真鍋博	〔鉛筆の鳥〕	1950-60年代	油彩・布	116.0×91.0	
真鍋博	六災図 (早ばつ)	昭和31 (1956) 年	油彩・布	161.3×256.8	
真鍋博	〔海と魚〕	昭和36 (1961) 年	油彩・布	98.5×147.3	
真鍋博	少年の時計	昭和35 (1960) 年	インク・水彩・コラージュ・紙	20.7×18.2	
真鍋博	アンドロイドは電気羊の夢を見るか?	昭和44 (1969) 年	ポスターカラー・写真	24.5×16.8	
真鍋博	地球幼年期の終わり	昭和44 (1966) 年	インク・ポスターカラー・紙	18.6×12.8	
真鍋博	筒井康隆『エディプスの恋人』表紙原画	昭和56 (1981) 年	インク・色鉛筆・トレーシング ペーパー・紙	41.8×35.8	
真鍋博	星新一『午後の恐竜』表紙原画	昭和43 (1968) 年	インク・ポスターカラー・コラージュ・紙	18.8×12.7	
真鍋博	鳥の楽園	昭和44 (1969) 年	シルクスクリーン・エッチング・アルミ	75.0×52.0	
物外不遷	人物画賛	江戸時代後期	紙本墨画墨書・軸	94.0×29.5	
大内藤圃	群猿百態図	天保12 (1841) 年	紙本淡彩 掛幅	163.2×89.0	
横山大観	白鶴幽篁	昭和16 (1941) 年	絹本金地彩色・二曲一双屏風	(各) 168.0×172.6	
菱田春草	放鶴	明治33 (1900) 年	絹本着色・軸	109.5×51.0	
富田溪仙	寿老人	大正10 (1921) 年	絹本着色・軸	149.7×50.8	

○令和3年9月11日～10月17日  
特別公開 「忽那家文書」の世界 ―よみがえる中世瀬戸内海の武士団―  
企画展示室 1

作成者名	史料名	年代	備考1	備考2
〔忽那嶋相傳之證文卷之一〕				
遠江□ (北条時政)	関東下知状案	元久2年 (1205) 5月6日	豎紙	寄託作品 重要文化財
散位 (二階堂行政)	源実朝御教書	建永2年 (1207) 5月6日	豎紙	
惟宗 (孝実) 他	将軍家政所下文	承元2年 (1208) 閏4月27日	豎紙	
沙弥 (二階堂行村)	二階堂行村書状	(年未詳) 6月3日	豎紙	
相模守平朝臣 (北条時頼) 他	関東下知状	建長6年 (1254) 3月8日	豎紙	
前常陸介	前常陸介某書状	(年未詳) 6月2日	豎紙	
陸奥守平朝臣 (北条政村) 他	将軍家政所下文	建長8年 (1256) 7月9日	豎紙	
前武蔵守平朝臣 (大仏宣時) 他	関東下知状	正応元年 (1288) 6月2日	続紙	

作成者名	史料名	年代	備考1	備考2
丹波守平朝臣(北条盛房)他	六波羅施行状	正応元年(1288)9月17日	豎紙	寄託作品 重要文化財
沙弥性運(忽那実重)	沙弥性運(忽那実重)讓状	徳治3年(1308)2月1日	豎紙	
前越前守(大仏貞房)他	六波羅御教書	延慶2年(1309)2月21日	豎紙	
〔忽那嶋相傳之證文卷之二〕				
(忽那)弥次郎重清	忽那重清軍忠状	建武2年(1335)12月25日	豎紙	
(忽那)次郎左衛門尉重清	忽那重清軍忠状	建武3年(1336)2月3日	豎紙	
忽那次郎左衛門尉重清	忽那重清軍忠状	建武3年(1336)7月 日	豎紙	
越智(土居)通重	土居通重軍勢催促状	(建武3年(1336)カ)9月21日	小切紙	
藤原(忽那)重明	忽那重明軍忠状	建武4年(1337)7月29日	豎紙	
忽那次郎左衛門尉重清	忽那重清軍忠状	建武5年(1338)3月11日	豎紙	
(足利直冬)	足利直冬感状	貞和6年(1350)7月28日	小切紙	
(足利直冬)	足利直冬感状	貞和6年(1350)10月1日	小切紙	
重□(季カ)	伊与国得丸保地頭職預ケ状	貞和6年(1350)11月20日	小切紙	
(足利直冬)	足利直冬感状	貞和6年(1350)12月26日	小切紙	
沙弥	沙弥某感状	貞和7年(1351)1月13日	豎紙	
左近大夫将監	左近大夫将監某軍勢催促状	正平2年(1347)3月22日	小切紙	
左近大夫将監	左近大夫将監某軍勢催促状	正平2年(1347)3月22日	小切紙	
左近大夫将監	左近大夫将監某軍勢催促状	正平2年(1347)4月5日	小切紙	
左近大夫将監	左近大夫将監某軍勢催促状	正平2年(1347)5月13日	小切紙	
大蔵大輔	大蔵大輔某奉書	正平3年(1348)4月2日	小切紙	
左中弁	後村上天皇綸旨	正平3年(1348)5月14日	小切紙	
右馬頭平朝臣(平高顕)	平高顕安堵状	正平3年(1348)9月27日	小切紙	
(足利直冬)	足利直冬書下	正平13年(1358)12月29日	豎紙	
左中弁	後村上天皇綸旨	正平4年(1349)3月9日	小切紙	
相模守	相模守某長龍寺住持職安堵状	正平4年(1349)8月22日	小切紙	
左中弁	後村上天皇綸旨	正平4年(1349)12月14日	小切紙	
右少将	兵部卿親王令旨	正平5年(1350)2月16日	小切紙	
右少将	兵部卿親王令旨	正平6年(1351)3月8日	小切紙	
(足利直冬)	足利直冬書下	正平11年(1356)3月9日	豎紙	
中務大輔	中務大輔某軍勢催促状	延元2年(1337)2月30日	小切紙	
左少将	左少将某軍勢催促状	(延元2年(1337)カ)3月13日	小切紙	
左少将	左少将某軍勢催促状	(延元2年(1337)カ)6月16日	小切紙	
左京権大夫	左京権大夫某軍勢催促状	延元3年(1338)11月19日	小切紙	
勘解由次官(五条頼元)	懐良親王令旨	(延元4年(1339)カ)4月28日	小切紙	
勘解由次官(五条頼元)	懐良親王令旨	(延元4年(1339)カ)4月29日	小切紙	
侍従	懐良親王令旨	(興国元年(1340)カ)10月21日	小切紙	
右兵衛督(中院定平)	中院定平奉書	興国3年(1342)4月28日	小切紙	
左少弁	後村上天皇綸旨	興国4年(1343)2月4日	小切紙	
左中將	左中將某軍勢催促状	(興国年間)11月8日	小切紙	
景隆	某景隆書状	(興国5年(1344)カ)7月30日	小切紙	
越後頭(平高顕)	平高顕軍勢催促状	興国5年(1344)9月11日	小切紙	
大蔵大輔	大蔵大輔某奉書	興国7年(1346)7月22日	小切紙	
(河野)通直	河野通直軍勢催促状	正平22年(1367)12月 日	小切紙	
刑部大輔(今川直貞)	今川直貞奉書	觀応2年(1351)12月30日	小切紙	
(平)高顕	平高顕書状	(年代未詳)6月17日	小切紙	
〔忽那嶋相傳之證文卷之三〕				
対馬守(河野通之)	河野通之宛行状	応永12年(1405)9月21日	豎紙	
(河野)通久	河野通久安堵状	応永25年(1418)9月3日	豎紙	
(河野)通久	河野通久安堵状	応永26年(1419)10月 日	豎紙	
道基(河野教通)	道基(河野教通)安堵状	(年代未詳)7月20日	豎紙	
(河野)通元	河野通元書状	(年代未詳)10月29日	切紙	
(河野)教通	河野教通宛行状	文安元年(1444)5月19日	豎紙	
(河野)教通	河野教通安堵状	文安元年(1444)8月29日	折紙	
(河野)教通	河野教通安堵状	文安元年(1444)9月6日	折紙	
戒能下野守通明	戒能通明安堵状	文安5年(1448)3月17日	折紙	

作成者名	史料名	年代	備考1	備考2
(河野) 通生	河野通生宛行状	長禄3年(1459)2月10日	豎紙	寄託作品 重要文化財
(河野) 刑部太輔	河野刑部太輔某安堵状	長禄3年(1459)6月1日	豎紙	
(河野) 刑部太輔	河野刑部太輔某宛行状	長禄3年(1459)6月1日	豎紙	
(河野) 刑部太輔(通秋)	河野通秋安堵状	寛正5年(1464)7月23日	折紙	
(河野) 通秋	河野通秋書状	(年代未詳)7月23日	折紙	
正岡信乃守俣孝	河野氏奉行人奉書	文正元年(1466)7月11日	折紙	
(河野) 通生	河野通生安堵状	文正元年(1466)4月10日	折紙	
[その他]				
(未詳)	忽那一族軍忠次第	(興国年間カ)	続紙	
少納言	後醍醐天皇諭旨	建武元年(1334)12月20日	豎紙	
小笠原宗之	小笠原流弓馬秘伝	文明17年(1485)7月11日写	卷子装	
(忽那亀寿丸)	忽那島開発記	天正15年(江戸時代前期カ)	卷子装	
	伊豫国忽那藤原相傳系圖	江戸時代前期カ	卷子装	
祈主藤原種因・護持願主藤原通能	懐中守札秘伝	享和元年(1801)弥生吉曜日	卷子装	

○令和3年10月19日～12月28日 コレクション展Ⅳ  
みる冒険 音と楽しむ  
常設展示室3

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
真鍋博	婦人画報 1971年7月	昭和46年(1971)	インク・墨・コラージュ・紙	13.0×41.0	
真鍋博	婦人画報 1971年7月	昭和46年(1971)	インク・墨・コラージュ・紙	33.7×44.7	
真鍋博	婦人画報 1971年7月	昭和46年(1971)	インク・墨・コラージュ・紙	33.7×44.3	
八木良太	VINYL(別れの曲)	平成18年(2006)	シリコン	直径18.0×高2.0	
八木良太	VINYL(Moon River)	平成18年(2006)	シリコン	直径18.0×高2.0	
ヴァシリー・カンディンスキー	生き生きとした白	昭和9年(1934)	油彩・画布	60.0×73.0	
大竹伸朗	芥子/音影Ⅱ	平成20年(2008)	油彩・墨・ボールペン 他	125.0×105.0×8.0	
杉浦非水	『少年世界』第十八巻第一號 正月號	明治44年(1911)	リトグラフ・紙	22.2×15.1	
杉浦非水	『月刊楽譜』第七巻第一號	大正7年(1918)	リトグラフ・紙	22.3×15.0	
杉浦非水	『東京』第二巻第一號	大正14年(1925)	リトグラフ・紙	22.6×32.3	
杉浦非水	『現代』第八巻第七號	昭和2年(1927)	リトグラフ・紙	22.5×14.5	
富岡鉄斎	太神楽之図	大正時代	紙本着色/軸	122.1×33.7	
平井辰夫	プレリュード	昭和47年(1972)	油彩/画布	161.7×130.0	
下村為山	風竹雀	制作年不詳	紙本淡彩/軸	135.8×39.5	
大智勝観	雷雨之図	大正14年(1925)	紙本墨画淡彩/軸	136.3×31.0	
野間仁根	漁火	昭和27年(1952)	油彩/画布	91.0×116.0	
岩波昭彦	五番街	平成13年(2001)	銀箔・墨・岩絵具等/雲肌麻紙・額	146.0×71.0	
安藤義茂	朝鮮風景	制作年不詳	紙本着色/額	67.5×174.1	
李禹煥	刻みより	昭和47年(1972)	木	72.5×59.0×3.8	
李禹煥	突きより	昭和48年(1973)	紙・パネル	70.0×60.0	
須田国太郎	杉	昭和30年(1955)	油彩・画布 額 ガラス	61.7×73.0	
海老原喜之助	幸せな雪の村	昭和5年(1930)	油彩/画布	72.0×100.0	
斎藤登	母の肖像	昭和51年(1976)	油彩/画布	96.5×145.1	

コレクション・ハイライトⅢ  
常設展示室3

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
ギュスターヴ・クールベ	波	1869年	油彩・画布	49.0×73.0	
クロード・モネ	アンティープ岬	1888年	油彩・画布	65.0×92.0	
畦地梅太郎	宇和島城遠望	昭和11年(1936)	木版多色・紙	26.5×35.2	
畦地梅太郎	面河溪 『伊予風景』より	昭和11年(1936)	木版多色・紙	27.5×36.0	
畦地梅太郎	伊予観自在寺	昭和13年(1938)	木版多色・紙	18.0×24.1	
畦地梅太郎	伊予石鎚山 『新日本百景』より	昭和13年(1938)	木版多色・紙	22.7×30.2	
畦地梅太郎	浅間山 『二六〇〇年版 山』より	昭和15年(1940)	木版多色・紙	29.6×44.9	

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
畦地梅太郎	石鎚山頂『二六〇〇年版 山』より	昭和15年 (1940)	木版多色・紙	30.0×44.9	
畦地梅太郎	瓶ヶ森 (イヨ)『二六〇〇年版 山』より	昭和15年 (1940)	木版多色・紙	29.5×45.0	
畦地梅太郎	大野ヶ原遠望 (イヨ)	昭和15年 (1940)	木版多色・紙	30.4×45.0	
畦地梅太郎	伊予の鬪牛	昭和20年 (1945)	木版多色・紙	18.0×24.0	
畦地梅太郎	八幡浜劇場	昭和21年 (1946)	木版多色・紙	32.0×45.0	
畦地梅太郎	親子鳥	昭和30年 (1955)	木版多色・紙	31.3×40.3	
畦地梅太郎	さげぶ三人	昭和43年 (1968)	木版多色・紙	51.5×39.0	
畦地梅太郎	ものの気配『山男誕生』より	昭和48年 (1973)	木版多色・紙	23.7×17.8	
喜多武清	烏鷲図	天保8年 (1837)	絹本墨画淡彩	各129.5×49.5	
小林萬吾	芝増上寺	明治25-26年 (1892-93)	油彩・画布	97.3×180.0	
中野和高	風景を配せる我家庭	昭和3年 (1928)	油彩・画布	145.0×216.5	
杉浦非水	岐阜長良川鵜飼と納涼	昭和4年 (1929)	オフセット・紙	105.5×76.9	
真鍋博	飛ぶ・翔ぶ・走る・動く	昭和53年 (1978)	フィルム・ポスターカラー	21.8×21.6	
福田平八郎	鴛鴦	昭和40年 (1965)	絹本着色	65.0×97.0	武智光春コレクション

○令和4年1月5日～3月7日 コレクション展Ⅴ  
**屏風Traveling II —2022ケンビ旅行社・船の旅**  
 常設展示室2

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
英 一蝶	乗合船川渡之図	制作年不詳	絹本着色・軸		寄託作品
三好応岸	宇和島・江戸図屏風	明治前期	紙本着色・六曲屏風一雙	(各) 95.0×262.0	
作者不詳	神田祭・大江山凱陣図	制作年不詳	紙本着色・六曲屏風一雙		寄託作品
木和村創爾郎	不忍池・数寄屋橋畔	昭和11年 (1936)	紙本着色・二曲屏風一隻	(各図) 163.0×68.2	
岩波昭彦	ブルックリン・ブリッジ	平成10年 (1998)	白金・銀箔・墨・岩絵具等/ 鳥の子紙・四曲屏風一隻	70.0×240.0	
岩波昭彦	マンハッタン	平成15年 (2003)	金銀箔・墨・岩絵具等/ 鳥の子紙・四曲屏風一隻	152.0×304.0	
富岡鉄斎	春秋山水図	明治43年 (1910)	紙本着色・軸		寄託作品
天野方壺	赤壁之図	明治15年 (1882)	紙本淡彩・軸		寄託作品
沖冠岳	百狸々図	制作年不詳	絹本着色・軸	130.1×50.7	
木下芦水	桜下遊戯図	制作年不詳	紙本着色・軸		寄託作品
三並花梯	夕焼け	制作年不詳	紙本着色・軸		寄託作品
松本山月	七福神図	江戸時代前期	紙本墨画淡彩・軸		寄託作品

**コレクション・ハイライトⅣ**  
 常設展示室2

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
メダルト・ロツン	門番の女	1883年	石膏・蜜蝋	39.0×34.0×19.0	
マリノ・マリーニ	踊り子	1953年	鉛	155.0×32.0×35.0	
土佐光起	柿本人麻呂像	江戸時代前期	絹本着色・軸	40.8×80.6	
加藤文麗	鶏図	制作年不詳	絹本墨画淡彩・軸 (双幅)	(左) 118.0×40.0 (右) 117.9×39.6	
狩野芳崖	老松小禽図	明治時代初期	紙本墨画・軸	132.7×55.0	
竹内栖鳳	花の山	明治38 (1905) 年頃	絹本着色・軸	150.5×71.0	
富岡鉄斎	蓬萊山図	大正13 (1924) 年	紙本着色・軸	144.8×39.2	
矢野橋村	柳蔭書堂図	大正8 (1919) 年	紙本墨画淡彩・軸	117.0×93.3	
矢野鉄山	平沙落雁	昭和5 (1930) 年	紙本墨画・額	280.0×188.0	
杉浦非水	非水筆翠子宛はがき	明治37 (1904) 年 11月3日	紙	9.0×14.0	
杉浦非水	杉浦非水筆 杉浦翠子宛葉書	大正12 (1923) 年 1月2日	紙	9.0×14.0	
杉浦非水	非水図案年賀状〔寅〕	大正15 (1926) 年	紙	9.0×14.0	
	非水宛年賀状		紙	14.0×9.0	
杉浦非水	〔フランス風景〕		水彩・色紙	27.0×24.2	
杉浦非水	〔帽子の女性〕		着彩・色紙	27.2×24.2	

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
杉浦非水	LE SPHINX de LA EGYPTE	昭和35 (1960) 年	紙本着色・色紙	26.9×24.1	
杉浦非水	フランス ノルマンディー パニヨール温泉場ゲーピルの城	大正12 (1923) 年	水彩・紙	25.7×22.3	
杉浦非水	フランス ノルマンディー パニヨール 温泉場テッセーラ マドレーヌの町	大正12 (1923) 年	水彩・紙	25.8×22.5	
杉浦非水	雑誌表紙				
杉浦非水	萬世橋まで延長開通 (東京地下鉄)	昭和4 (1929) 年頃	ポスター・リトグラフ、 オフセット	31.1×63.4	
杉浦非水	十二月一日開店 上野地下鉄ストア	昭和6 (1931) 年	ポスター・リトグラフ	94.5×64.3	
杉浦非水	近代人の新百貨店 日比谷の美松	昭和5 (1930) 年頃	ポスター・リトグラフ、 オフセット	105.5×76.9	
高階重紀	作品	昭和27 (1952) 年	油彩・画布	97.0×130.3	
高階重紀	作品R	昭和55 (1980) 年	油彩・画布	130.3×162.0	
有元容子	青い耳飾りの少女	平成17 (2005) 年	紙本着色・額	27.5×22.0	寺田コレク ション
有元容子	黒姫	平成15 (2003) 年	紙本着色・額	162.0×130.0	寺田コレク ション
智内兄助	春挽糸	昭和62 (1987) 年	鉛筆・油性インク・布・ 和紙・板	164.0×182.0	寺田コレク ション
福田平八郎	雉	昭和44 (1969) 年	絹本着色・額	75.7×44.0	武智光春コ レクション
福田平八郎	旭光富士	昭和46 (1971) 年	紙本着色・額	23.5×16.5	武智光春コ レクション
福田平八郎	初雪	昭和41 (1966) 年	紙本着色・額	41.5×55.5	武智光春コ レクション
福田平八郎	松竹梅	昭和41 (1966) 年	紙本着色・額	45.2×66.4	武智光春コ レクション
福田平八郎	春に匂ふ	昭和45 (1970) 年	紙本着色・額	36.5×43.5	武智光春コ レクション
福田平八郎	白梅目白	昭和43 (1968) 年	紙本着色・額	29.3×39.3	武智光春コ レクション
福田平八郎	筍	昭和40 (1965) 年	紙本着色・額	46.0×37.1	武智光春コ レクション
畦地梅太郎	潤沢 『山-北アルプス』より	昭和42 (1967) 年	木版多色	29.8×23.5	
真鍋博	花火	昭和31 (1956) 年	油彩・板	91.0×60.2	
山田彩加	生命の繋がり	平成19 (2007) 年	リトグラフ・紙	140.0×86.0	
山田彩加	形成と分裂	平成20 (2008) 年	リトグラフ・紙	106.0×84.5	

○令和4年3月23日～6月12日 コレクション展Ⅵ

描かれた「かたな」

常設展示室3

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
安田靉彦	守屋大連	明治41 (1908) 年	絹本着色／軸	150.3×57.0	
梶田半古	鶴越	明治25 (1892) 年	絹本着色／軸	143.0×69.0	
伊藤溪水	平敦盛像	明治時代後期	絹本着色／軸	150.0×80.0	
沖 冠岳	菊池武光像		絹本着色／軸	129.0×57.0	
伝 久隅守景	勿来関図	江戸時代前期	絹本着色／軸	56.0×83.0	寄託作品
	平家物語絵巻断簡	江戸時代前期	紙本着色／軸	31.5×55.0	寄託作品
	源平合戦図屏風	江戸時代前期	紙本着色／六曲一双	112.0×360.0	寄託作品
	大織冠図屏風	江戸時代前期	紙本着色／六曲一双押絵貼	126.0×49.5	寄託作品

コレクション・ハイライトⅤ

常設展示室3

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
ウジェーヌ＝ルイ・ブーダン	ブレスト、停泊地	1872年	油彩・画布	55.2×89.5	
オディロン・ルドン	アポロンの馬車	1907-08年	油彩・画布	100.3×81.2	
真鍋博	静物B	昭和27 (1952) 年	油彩・画布	60.5×72.5	
真鍋博	静物(骨)	昭和30 (1955) 年	油彩・画布	99.0×73.0	

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
真鍋博	蒲団	昭和30 (1955) 年	油彩 鉛筆・画布	161.0×255.0	
真鍋博	蓮花	1960年代	油彩・板	91.0×91.2	
真鍋博	セイブツ[人間]	昭和30 (1955) 年	油彩・画布	181.8×224.0	
真鍋博	花輪	昭和33 (1958) 年	油彩・板	91.0×121.5	
真鍋博	都会主義者	昭和30 (1955) 年	油彩・画布	91.3×183.5	
真鍋博	魚-簀	昭和32 (1957) 年	油彩・画布	59.4×46.0	
吉田蔵澤	風竹	江戸時代中期	紙本墨画／軸	133.0×54.5	
前田青邨	鯉 三題	昭和25 (1950) 年	紙本墨画／額三面	(各) 75.0×89.8	
矢野鉄山	孤琴涓潔	昭和4 (1929) 年	紙本水墨 (金彩)	284.0×218.0	
杉浦非水 (装丁)	杉韻居士著『東京の表裏 八百八街』	大正3 (1914) 年 (3版)／初版:同年	発行:鈴木書店	(箱) 19.8×13.4×2.0	寄託作品
杉浦非水 (装丁)	九条武子著『金鈴』	大正9 (1920) 年 (2版)／初版:同年	発行:東京堂	(箱) 19.2×11.7×1.5	寄託作品
杉浦非水 (装丁)	フェレンク・モルナー著 (鈴木善太郎訳)『白鳥』	大正13 (1924) 年	発行:金星堂	19.2×13.8×4.1	寄託作品
杉浦非水 (装丁)	ヘンリー・フォード著 (加藤三郎訳)『今日及び明日』	昭和3 (1928) 年 (3版)／初版:昭和2 (1927) 年	発行:大日本雄弁会講談社	(箱) 19.5×13.7×3.1	寄託作品
杉浦非水 (装丁)	川端千枝著『歌集 白い扇』	昭和7 (1932) 年	発行:泰文館	19.2×13.5×1.8	寄託作品
杉浦非水 (装丁)	鉄道省編『温泉案内』	昭和6 (1931) 年	発行:博文館	17.0×10.6×4.0	寄託作品
杉浦非水 (装丁)	内藤民治著『世界実観 仏蘭西』	大正4 (1915) 年	発行:日本風俗図絵刊行会	19.6×26.1×2.6	個人蔵
杉浦非水 (装丁)	渡辺霞亭著『小説 新渦巻 光子の巻』	大正3 (1914) 年	発行:隆文堂	23.0×15.9×2.2	個人蔵
福田平八郎	青楓大瑠璃	昭和40 (1965) 年	紙本着色	45.6×33.4	武智光春コレクション
畦地梅太郎	山のよろこび	昭和32 (1957) 年	木版多色・紙	61.8×42.3	
斎藤義重	work	昭和36 (1961) 年	油彩・合板	117.0×91.0	

## 2 企画展示・特別展示

### 企画展示一覧

場所	展覧会名	会期
本館	ミレーから印象派への流れ	令和3年5月22日(土)～7月19日(月)
	追悼水木しげる ゲゲゲの人生展	令和3年7月10日(土)～8月29日(日)
	生誕200年 三輪田米山展 - 天真自在の書 -	令和3年10月2日(土)～11月30日(火)
	平等院鳳凰堂と浄土院 その美と信仰	令和3年11月3日(水)～令和4年1月9日(日)

※このほか、「名刀は語る展」を4月24日(土)～6月27日(日)に開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和4年度へ延期。

### 特別展示一覧

場所	展覧会名	会期
本館	HELLO! えひめの企業アートコレクション ひろがる美のかたち	令和4年2月1日(火)～3月21日(月・祝)

## ミレーから印象派への流れ

- 会 期：** 令和3年6月1日（火）－7月19日（月）（43日間）  
 ※当初予定会期：5月22日（土）－7月19日（月）  
 ※新型コロナウイルス感染対策期の県有施設臨時休館措置に伴い会期短縮
- 主 催：** 「ミレーから印象派への流れ」実行委員会（愛媛県、あいテレビ）
- 協 賛：** 大一ガス
- 後 援：** 在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、松山市、松山市教育委員会、愛媛県市町教育委員会連合会、愛媛県小中学校長会、愛媛県美術会、愛媛美術教育連盟、愛媛県文化協会、（公財）愛媛県文化振興財団、（公財）松山観光コンベンション協会、連合愛媛、伊予鉄グループ、愛媛新聞社、朝日新聞松山総局、読売新聞松山支局、毎日新聞松山支局、産経新聞社、南海放送、テレビ愛媛、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM愛媛、えひめリビング新聞社
- 企画協力：** ホワイトインターナショナル
- 会 場：** 愛媛県美術館 常設展示室1・2

### 趣 旨

バルビゾン派から印象派を経てナビ派へといたる近代フランス絵画の流れを、フランスのトマ＝アンリ美術館、ドゥエ美術館、カンペール美術館、イギリスのウェールズ国立美術館、個人所蔵家から出展された、ミレーの絵画7点やモネ《睡蓮》を含む69点の名品により展望した。

**観覧者数：** 10,129名

### 関連行事

#### 土曜講座

##### 「フラワーペーパーで睡蓮をつくろう」

日 時：6月26日（土） 14：00～15：00  
 場 所：愛媛県美術館 講堂  
 講 師：高木学（当館教育専門員）  
 参加人数：4名

##### 「企画展プレビュー」

日 時：7月3日（土）、7月10日（土） 14：00～15：00  
 場 所：愛媛県美術館 講堂  
 講 師：武田信孝（当館専門学芸員）  
 参加人数：延41名

#### ショート・レクチャー「ミレーの芸術」

日 時：7月4日（日） 11：00～11：20、13：00～13：20  
 7月5日（月） 11：00～11：20、13：00～13：20  
 7月7日（水） 11：00～11：20、13：00～13：20  
 7月8日（木） 11：00～11：20、13：00～13：20  
 7月9日（金） 13：00～13：20

場 所：愛媛県美術館 講堂  
 講 師：武田信孝（当館専門学芸員）  
 参加人数：延73名



## 出品目録

### I ミレーと写実主義

作家名	作品名	制作年	技法、材質	寸法(縦×横 cm)	所蔵先
ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	水浴する羊飼いい	1848年	油彩、カンヴァス	87×117	ドゥエ美術館
ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	ワグノンヴィル城	1871年	油彩、板	32×40	ドゥエ美術館
ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	カステル・ガンドルフォ、アルバーノ湖畔で踊るチロルの羊飼いい	1855-60年	油彩、カンヴァス	49.2×65.5	ウェールズ国立美術館
コンスタン・デュティユー	風景、夜の効果		油彩、カンヴァス	100×81	ドゥエ美術館
コンスタン・デュティユー	トレポールの眺め		油彩、カンヴァス	38×55.5	ドゥエ美術館
コンスタン・デュティユー	水辺の草原		油彩、カンヴァス	20×25	ドゥエ美術館
ジュール・ノエル	海		油彩、カンヴァス	27×38	トマ＝アンリ美術館
ジャン＝フランソワ・ミレー	アラブの語り部	1840年	油彩、カンヴァス	46×38	トマ＝アンリ美術館
ジャン＝フランソワ・ミレー	モーセに扮した自画像	1841年	油彩、カンヴァス	132×100	トマ＝アンリ美術館
ジャン＝フランソワ・ミレー	部屋着姿のポーリーヌ・オノ	1843-44年	油彩、カンヴァス	100.2×81.2	トマ＝アンリ美術館
ジャン＝フランソワ・ミレー	シモン・ド・ヴォディヴィル夫人とその母デロンシャン夫人の肖像	1843-44年	油彩、カンヴァス	81×100	トマ＝アンリ美術館
ジャン＝フランソワ・ミレー	雷雨	1847年頃	油彩、カンヴァス	32.3×25.2	トマ＝アンリ美術館
ジャン＝フランソワ・ミレー	慈愛	1858-59年	油彩、板	40×45	トマ＝アンリ美術館
ジャン＝フランソワ・ミレー	冬、薪集め	1868-75年	油彩、カンヴァス	78.4×97.8	ウェールズ国立美術館
ギュスターヴ・クールベ	物思い	1864年	油彩、カンヴァス	54×45	ドゥエ美術館
ヨハン・バルトルト・ヨンキント	オーヴェルシーの眺め	1856年	油彩、カンヴァス	43×57	ドゥエ美術館
ヨハン・バルトルト・ヨンキント	断崖		油彩、カンヴァス	29×42.3	トマ＝アンリ美術館
オーギュスト・アナスタジ	ドゥアルヌネの渡し船の乗り場	1870年	油彩、カンヴァス	80×130.5	カンパール美術館
ウジェーヌ・ラヴィエイユ	村の周辺	1882年頃	油彩、板	27×35.3	トマ＝アンリ美術館
エヴァリスト＝ヴィタル・リュミネ	狩猟の帰途、またはブルターニュの密猟者	1861年頃	油彩、カンヴァス	117×90	カンパール美術館

### II モネと印象主義

作家名	作品名	制作年	技法、材質	寸法(縦×横 cm)	所蔵先
ウジェーヌ・ブーダン	日没時に戻る漁師たち	1860年頃	油彩、板	24.4×32.7	トマ＝アンリ美術館
ウジェーヌ・ブーダン	オランダの風車	1884年	油彩、カンヴァス	50×61	ドゥエ美術館
シャルル＝フランソワ・ペクラス	ムールダイク		油彩、カンヴァス	57.1×86.9	トマ＝アンリ美術館
アルマン＝オーギュスト・フレール	日没のヴォーヴィル湾	1866年	油彩、カンヴァス	82.5×122.2	トマ＝アンリ美術館
エドゥアール・ダリファール	雪の風景		油彩、カンヴァス	54.3×40	トマ＝アンリ美術館
シャルル・クワッセグ	海		油彩、カンヴァス	38×46	トマ＝アンリ美術館
シャルル・クワッセグ	浜辺の小船		油彩、カンヴァス	37.8×46.2	トマ＝アンリ美術館
スタニスラス・レピース	川岸の邸宅		油彩、カンヴァス	17×25	トマ＝アンリ美術館
ギョーム・フアス	銀行家ルブランの女性の肖像と推定	1880年	油彩、カンヴァス	117×90	トマ＝アンリ美術館
ギョーム・フアス	葡萄と林檎		油彩、カンヴァス	46.5×66	トマ＝アンリ美術館
ポール・セザンヌ	プロヴァンスの風景		油彩、カンヴァス	81.2×65.7	ウェールズ国立美術館
クロード・モネ	睡蓮	1906年	油彩、カンヴァス	78.7×88.9	ウェールズ国立美術館
クロード・モネ	バラッツォ・ダリオ	1908年	油彩、カンヴァス	92.3×73.6	ウェールズ国立美術館
ピエール＝オーギュスト・ルノワール	会話	1912年	油彩、カンヴァス	45.1×65	ウェールズ国立美術館
ピエール＝オーギュスト・ルノワール	肖像画の習作		油彩、カンヴァス	30×25	ドゥエ美術館

作家名	作品名	制作年	技法、材質	寸法(縦×横 cm)	所蔵先
アルマン・ギヨマン	ルーアンのセーヌ川		油彩、カンヴァス	60×73	ドゥエ美術館
エティエンヌ・ゴージェ	学習	1866年	油彩、カンヴァス	31.5×24	トマ＝アンリ美術館
アントワーヌ・ギュメ	漁村	1909年	油彩、カンヴァス	23.8×35	トマ＝アンリ美術館
フェリックス・ビュオ	ヴァローニュの夜の教会	1872年頃	油彩、カンヴァス	64×47.5	トマ＝アンリ美術館
ウジェーヌ・カリエール	若い女性の頭部	1887年頃	油彩、カンヴァス	33.4×24	ドゥエ美術館
ウジェーヌ・カリエール	ルシエンヌ・ブレヴァルの肖像の習作	1904年頃	油彩、カンヴァス	65×54	ドゥエ美術館
フランソワ・ミレー	トゥルプの農場	1890年頃	油彩、カンヴァス	46.5×61.5	トマ＝アンリ美術館
エミール・クラウス	リス川にかかる霧		油彩、カンヴァス	51×73	ドゥエ美術館
シャルル・アルベール・ルブール	セーヌのクロワッセ		油彩、カンヴァス	55×81	ドゥエ美術館

### Ⅲ 印象派以後そしてナビ派

作家名	作品名	制作年	技法、材質	寸法(縦×横 cm)	所蔵先
クロード＝エミール・シュフネッケル	ブルターニュの岩石の海岸	1886年	油彩、カンヴァス	50×61	カンパール美術館
イポリット・フルニエ	夢想	1893年	油彩、カンヴァス	111×90	ドゥエ美術館
ウラディスラウ・シュレヴィンスキー	ポーランドの秋の風景	1908年頃	油彩、カンヴァス	51×62	カンパール美術館
ジョルジュ＝ダニエル・ド・モンフレイ	小舟の男、ノア＝ノア (ゴージェンに基づく)		油彩、厚紙に カンヴァス	50.7×37.2	個人蔵
アーネスト・ローラン	お茶	1910年頃	油彩、板に カンヴァス	43×49	トマ＝アンリ美術館
アンリ・マルタン	調和	1894年	油彩、カンヴァス	146.3×89.3	ドゥエ美術館
アンリ・マルタン	ブルターニュの海		油彩、カンヴァス	82.7×81.7	カンパール美術館
マキシム・モーフラ	ロクテュディの干潟の黄昏	1898年	油彩、カンヴァス	54.5×65	カンパール美術館
アンリ・ウジェーヌ・ル・シダネル	ピエトル夫人の肖像	1896年	油彩、カンヴァス	197.5×89.5	ドゥエ美術館
アンリ・ウジェーヌ・ル・シダネル	日曜日		油彩、カンヴァス	112.5×192	ドゥエ美術館
アンリ・ウジェーヌ・ル・シダネル	赤いテーブルクロス		油彩、カンヴァス	100.5×81	ドゥエ美術館
ポール・セリュジエ	さようなら、ゴージェン	1906年	油彩、カンヴァス	65×92	カンパール美術館
ポール・セリュジエ	青い背景の林檎	1917年	油彩、カンヴァス	46×60	カンパール美術館
ポール・セリュジエ	尖頭アーチ型の風景	1921年	油彩、カンヴァス	105×65	カンパール美術館
フェルディナン・ロワイアン・デュ・ ビュイゴドー	藁ぶき家のある風景	1921年	油彩、カンヴァス	81.5×60.5	カンパール美術館
フェルディナン・ロワイアン・デュ・ ビュイゴドー	夕暮れの風景		油彩、カンヴァス	67×50.5	カンパール美術館
ピエール・ボナール	服を脱ぐモデル	1912年	油彩、カンヴァス	54×45	ドゥエ美術館
ジョルジュ・ラコンブ	赤い土の森	1891年	油彩、カンヴァス	71×50	カンパール美術館
エミール・ベルナール	カイロの市場	1893- 1904年	油彩、カンヴァス	72.5×56.5	トマ＝アンリ美術館
モーリス・ドニ	小舟のブルターニュの女性	1891-92年	油彩、板に紙	28×39.5	カンパール美術館
モーリス・ドニ	ル・フォゴエのバルドン祭	1930年	油彩、カンヴァス	54×82.5	カンパール美術館
ジョルジュ・デスパリーニャ	少女たち		油彩、カンヴァス	130×97	ドゥエ美術館
アンリ・モリセ	姉		油彩、カンヴァス	51×73	ドゥエ美術館
アンドレ・ドラク	女性の頭部	1949-50年	油彩、カンヴァス	30×29.5	個人蔵
リュシアン・グベール	鎌を研ぐ収穫者		油彩、カンヴァス	125.2× 107.5	トマ＝アンリ美術館

## 追悼水木しげる ゲゲゲの人生展

※令和2年度夏からの延期開催

- 会 期： 令和3年7月10日（土）－8月29日（日）（49日間）  
※夏休み期間無休／7/12（月）、7/19（月）は休館
- 主 催： ゲゲゲの人生展愛媛展実行委員会（愛媛県、愛媛朝日テレビ）、朝日新聞社
- 企画協力： 水木プロダクション
- 協 力： テクノネット、クロステック
- 協 賛： ライブアートブックス
- 愛媛展協賛： 株式会社サンメディカル
- 後 援： 愛媛県教育委員会、松山市、松山市教育委員会、愛媛県市町教育委員会連合会、愛媛県小中学校長会、愛媛県美術会、愛媛美術教育連盟、愛媛県文化協会、（公財）愛媛県文化振興財団、（公財）松山観光コンベンション協会、連合愛媛、愛媛新聞社、NHK松山拠点放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛CATV、FM愛媛、えひめリビング新聞社
- 会 場： 愛媛県美術館 企画展示室 1・2

### 趣 旨

「ゲゲゲの鬼太郎」、「悪魔くん」、「河童の三平」など数多くのヒット作を生み出した漫画家・水木しげる（1922－2015）は、作品を通じて妖怪文化を広めた妖怪研究家としても高く評価された。本展は、その追悼記念の回顧展であり、水木プロダクションの全面的な協力のもと、人間・水木しげるが遺したものを網羅的に紹介した。少年期の習作、戦地で描いたスケッチ、貸本時代からの貴重な漫画や妖怪画の原稿など、卓越した画力とメッセージ性がうかがえる作品の数々に加え、エッセイ原稿や妖怪・精霊像コレクション、私物などおよそ390点におよぶ資料を一堂に展示し、「幸福とは何か」を追い求めたその人間像にも迫った。

観覧者数：10,096名

### 関連行事

#### 講演会「水木しげると愛媛の妖怪文化」

日 時：7月31日（土） 14：00～15：30

講 師：大本敬久（愛媛県歴史文化博物館 専門学芸員・担当係長）

場 所：愛媛県美術館 講堂

参加人数：51名

#### 水木しげる絵本の読み語りと紙芝居

日 時：7月22日（木・祝）、8月15日（日）各日11：00～、14：00～（各回約40分）

※2日目の8月15日は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

語 り：別府海里（愛媛朝日テレビ）

場 所：愛媛県美術館 研修室

参加人数：延37名

#### 連続講座「水木しげるのゲゲゲの人生」

※詳細は教育普及事業報告を参照。

#### 土曜講座「美術館におばけを描こう」

※詳細は教育普及事業報告を参照。



## 出品目録

### 追悼水木しげる ゲゲゲの人生展作品リスト

○全会期展示 △前期展示（7/10～8/3） ▼後期展示（8/4～8/29）

#### 1. 境港の天才少年画家

No.	分類	作品名	制作／ 発表年	作者／ 出版社他	寸法 (mm) (高×幅×奥)	出典 (初出出版物)	展示替
1	資料	水木しげるのへの緒	1922年		105×30×30		○
2	原画 (自伝)	車輪で遊ぶ水木少年	1988年	講談社	352×249	『昭和史』第2巻 (講談社)	○
3	原画 (自伝)	のんのんばあとオレ	2006年	水木しげる	364×257	『こんなに楽しい! 妖怪の町』 (実業之日本社)	○
4	資料	小学生時代の通知表	1929年～ 1936年	境港小学校	150×220	大水木しげる展図録 2004年	○
5	スクラップブック	新聞図案集 (一集)	1931年ごろ	水木しげる	230×150	記念館公式ガイドブック 2003年3月8日	○
6	スクラップブック	地理解説 巻一	1934年	水木しげる	140×210	記念館公式ガイドブック 2003年3月8日	○
9	油彩	静物 (I)	1935年	水木しげる	216×273	水木しげる漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	△
10	油彩	静物 (II)	1935年	水木しげる	216×273	水木しげる漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	▼
12	水彩画	静物 (III)	1936年	水木しげる	276×355	水木しげる漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	▼
11	水彩、コラージュ	抽象画	1938年	水木しげる	262×358	記念館公式ガイドブック 2015年3月8日	△
8	クレパス・水彩	人物 (I)	1935年	水木しげる	330×279	水木しげる漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	○
7	クレパス画	「思い」	1936年	水木しげる	315×233	大水木しげる展図録 2004年	○
16	水彩画	人物 (II)	1937年	水木しげる	370×273	記念館公式ガイドブック 2003年3月8日	▼
15	水彩画	人物 (III)	1938年	水木しげる	282×199	大水木しげる展図録 2004年	△
13	デザイン画	図案 (I)	1938年	水木しげる	376×288	水木しげる漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	△
14	デザイン画	図案 (II)	1938年	水木しげる	378×288	大水木しげる展図録 2004年	▼
20	水彩画	「自宅近く」	1935年ごろ	水木しげる	385×293	記念館公式ガイドブック 2003年3月8日	△
21	水彩画	花	1936年ごろ	水木しげる	384×294	水木しげる漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	▼
18	水彩画	「風景」	1936年	水木しげる	384×293	水木しげる漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	△
19	水彩画	「庭」	1936年	水木しげる	384×293	記念館公式ガイドブック 2003年3月8日	▼
17	水彩画	風景	1937年ごろ	水木しげる	279×384	記念館公式ガイドブック 2003年3月8日	△
22	水彩画	大阪港	1938年	水木しげる	264×359	大水木しげる展図録 2004年	▼
23	水彩画	篠山 (I)	1938年	水木しげる	268×381	水木しげる漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	△
24	水彩画	篠山 (II)	1939年ごろ	水木しげる	234×312	水木しげる漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	△
25	水彩画	甲子園 (I)	1942年ごろ	水木しげる	268×381	水木しげる漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	▼
26	水彩画	甲子園 (II)	1943年	水木しげる	268×280	水木しげる漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	▼
27	油彩画	甲子園口	1940年ごろ	水木しげる	319×398×8		○

No.	分類	作品名	制作／ 発表年	作者／ 出版社他	寸法 (mm) (高×幅×奥)	出典 (初出出版物)	展示替
28	絵本	「雛の兄弟」	1938年	水木しげる	280×240	大水木しげる展図録 2004年	○
29	絵本	「黒馬物語」	1938年	水木しげる	200×150	大水木しげる展図録 2004年	○
30	絵本	「夢神」	1938年	水木しげる	255×178	記念館公式ガイドブック 2003年3月8日	○
35	絵本	「古い榎の木の最後の夢」	1939年	水木しげる	270×370	大水木しげる展図録 2004年	△
36	絵本	「夜中の踊」	1939年	水木しげる	270×370	大水木しげる展図録 2004年	▼
31	絵本	「黄金の卵」	1940年	水木しげる	132×215	大水木しげる展図録 2004年	○
43	水彩画	「草ノ中ニテ —野道を行けば」	1940年ごろ	水木しげる	190×300×9	屁のような人生—水木しげるの生誕 八十八年記念出版—(角川書店) 2009年12月1日	○
48	水彩画	武良家代々の寶	1940年	水木しげる	238×200×10	大水木しげる展図録 2004年	○
46	水彩画	童画 (I)	1938年	水木しげる	285×231	水木しげる漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	△
44	水彩画	「昆虫界の 名指揮者バッタ君」	1938年	水木しげる	260×350	水木しげる漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	▼
45	水彩画	童画 (II)	1938年	水木しげる	263×335	水木しげる漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	△
47	水彩画	童画 (III)	1938年ごろ	水木しげる	263×335	水木しげる漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	▼
38	水彩画	「米の中」	1938年	水木しげる	282×234	水木しげる漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	△
37	水彩画	「だれも見つた事のない 花の女王様」	1938年	水木しげる	282×234	水木しげる漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	▼
39	水彩画	「ドレミハ馬鹿物語」	1940年～ 1943年ごろ	水木しげる	243×333	記念館公式ガイドブック 2015年3月8日	△
40	水彩画	「蛙の聲一夏まで 知るや知らずや」	1940年～ 1943年ごろ	水木しげる	243×333	記念館公式ガイドブック 2015年3月8日	▼
41	水彩画	「馬鹿でも偉い人もなれ る不思議な人の物語」	1940年～ 1943年ごろ	水木しげる	243×310	水木しげる漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	△
42	水彩画	「十月にするな」	1940年～ 1943年ごろ	水木しげる	243×310	水木しげる漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	▼

## 2. 地獄と天国を見た水木二等兵

No.	分類	作品名	制作／ 発表年	作者／ 出版社他	寸法 (mm) (高×幅×奥)	出典 (初出出版物)	展示替
52	原画 (自伝)	軍装の兄と	1989年	講談社	350×250	『昭和史』第3巻 (講談社)	○
53	原画 (自伝)	ズンゲンで爆風を受ける	1988年	講談社	350×500	『昭和史』第1巻 (講談社)	○
54	原画 (自伝)	マラリアにかかる	1989年	講談社	350×500	『昭和史』第6巻 (講談社)	○
55	原画 (自伝)	トベトロとの出会い	1989年	講談社	350×250	『昭和史』第8巻 (講談社)	○
56	原画 (自伝)	トライ族から果物をもらう	1989年	講談社	350×250	『昭和史』第6巻 (講談社)	○
49	直筆原稿	出征前手記原稿	1942年ごろ	水木しげる	210×150×18	新潮2015年8月号 (新潮社) 2015年7月7日	○
50	資料	岩波文庫版 『ゲーテとの対話』	1942年 (第3刷)	エッケルマン	148×103×16	記念館公式ガイドブック (改訂版) 2012年4月20日	○
51	資料	ラバウルへ持って行った 英和辞典			130×98×25		○
57	資料	ラバウルから 家族に宛てたはがき	1944年ごろ	水木しげる	140×90	記念館公式ガイドブック 2003年3月8日	○
58	資料	戦地から父に宛てたはがき	1945年	水木しげる	140×85	大水木しげる展図録 2004年	○
59	資料	戦傷病者手帳	1964年、 1965年	厚生省発行	109×75		○
60	水彩画	「ラバウル戦記」 その一 (表紙画)	1949年	水木しげる	253×180	水木しげるのラバウル戦記 (筑摩書房) 1994年7月20日	△

No.	分類	作品名	制作／ 発表年	作者／ 出版社他	寸法 (mm) (高×幅×奥)	出典 (初出出版物)	展示替
63	鉛筆画	「ラバウル戦記」その一	1949年	水木しげる	253×180	水木しげるのラバウル戦記 (筑摩書房) 1994年7月20日	○
61	水彩・鉛筆	「ラバウル戦記」背囊を背負って砂浜を歩く	1949年	水木しげる	255×362	水木しげるのラバウル戦記 (筑摩書房) 1994年7月20日	△
62	水彩画	「ラバウル戦記」その二 前線での生活 表紙	1949年	水木しげる	255×362	水木しげるのラバウル戦記 (筑摩書房) 1994年7月20日	▼
69	鉛筆	「トーマの日々」より (泥んこの道)	1945年	水木しげる	370×260	水木しげるのラバウル戦記 (筑摩書房) 1994年7月20日	△
65	鉛筆・クレヨン	「トーマの日々」より (オーストラリア軍の忘れ物)	1945年	水木しげる	370×260	水木しげるのラバウル戦記 (筑摩書房) 1994年7月20日	▼
64	鉛筆・クレヨン	「トーマの日々」より (部落の端の家)	1945年	水木しげる	370×260	水木しげるのラバウル戦記 (筑摩書房) 1994年7月20日	△
66	鉛筆	「トーマの日々」より (怠け者の家)	1945年	水木しげる	370×260	水木しげるのラバウル戦記 (筑摩書房) 1994年7月20日	▼
67	鉛筆	「トーマの日々」より (兵舎の柵)	1945年	水木しげる	370×260	水木しげるのラバウル戦記 (筑摩書房) 1994年7月20日	△
68	鉛筆・クレヨン	「トーマの日々」より (遠くから見た兵舎)	1945年	水木しげる	370×260	水木しげるのラバウル戦記 (筑摩書房) 1994年7月20日	▼
76	資料	復員後に母に宛てた手紙	1946年～ 1947年ごろ	水木しげる	270×392×2		○
77	直筆原稿	「娘に語るお父さんの戦記」原稿	1975年	水木しげる	257×370	娘に語るお父さんの戦記 1975年7月25日 ※河出書房新社の単行本	○
70	漫画原稿 (戦記)	零戦とグラマンの血闘	1959年	兎月書房	245×165 (4枚)	『少年戦記』第2号 (兎月書房)	○
71	漫画原稿 (戦記)	奇襲ツラギ沖	1964年	東京日の丸 文庫	257×385 (表紙), 240×160 (2枚)	『日の丸戦記』第3号 (東京日の丸文庫)	○
74	漫画原稿 (戦記)	幽霊艦長	1967年	光文社	240×160 (4枚)	『月刊少年』9月号付録 (光文社)	○
72	漫画原稿 (戦記)	ダンピール海峡	1970年	文藝春秋社	240×160 (4枚)	『文春漫画読本』7月号 (文藝春秋社)	○
73	漫画原稿 (戦記)	総員玉砕せよ!	1973年	講談社	240×160 (4枚)	『総員玉砕せよ! 聖ジョージ岬・哀歌』(講談社)	○
75	漫画原稿 (戦記)	姑娘	1973年	さいとうプロ ダクション	240×160 (4枚)	『リイドコミック』増刊 (さいとうプロダクション)	○

### 3. 貧乏神との闘い

No.	分類	作品名	制作／ 発表年	作者／ 出版社他	寸法 (mm) (高×幅×奥)	出典 (初出出版物)	展示替
78	原画 (自伝)	戦後の闇市	1988年	講談社	265×410	『昭和史』第1巻 (講談社)	○
81	鉛筆スケッチ	「境港の風景」	1946年ごろ	水木しげる	257×362	記念館公式ガイドブック 2003年3月8日	△
79	水彩スケッチ	自宅付近	1946年	水木しげる	279×385	大水木しげる展図録 2004年	▼
96	水彩画	水木荘の周辺	1950年	水木しげる	267×196	トベトロとの50年 (扶桑社) 1995年7月30日	△
97	水彩画	心象風景	1952年ごろ	水木しげる	357×249	トベトロとの50年 (扶桑社) 1995年7月30日	▼
94	鉛筆画	木	1952年	水木しげる	247×357	水木しげるの漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	○
93	水彩画	生活風景 (Ⅲ)	1952年ごろ	水木しげる	287×452	水木しげるの漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	△
95	鉛筆画	風景	1953年ごろ	水木しげる	253×357	トベトロとの50年 (扶桑社) 1995年7月30日	▼
84	クレパス画	部屋 (I)	1951年～ 1954年	水木しげる	290×460	トベトロとの50年 (扶桑社) 1995年7月30日	△
85	クレパス画	部屋 (II)	1951年～ 1954年	水木しげる	290×460	トベトロとの50年 (扶桑社) 1995年7月30日	▼
88	ドローイング	「絶望の町」	1958年ごろ	水木しげる	298×235×9	大水木しげる展図録 2004年	△
89	ドローイング	「絶望の町」より 「泣くな いま お父さんの肉を食わせてやる」	1958年ごろ	水木しげる	298×235×9	大水木しげる展図録 2004年	▼
98	紙芝居原画	ダイラ (没原稿)	1955年ごろ	水木しげる	255×345	大水木しげる展図録 2004年	○

No.	分類	作品名	制作／ 発表年	作者／ 出版社他	寸法 (mm) (高×幅×奥)	出典 (初出出版物)	展示替
99	紙芝居原画	物の怪の宿	1991年	水木しげる	258×365	大水木しげる展図録 2004年	○
90	資料	武蔵野美術学校の学生証	1953年	武蔵野美術 学校	85×58	大水木しげる展図録 2004年	○
92	資料	神戸市立市民美術教室の 会員証	1955年	神戸市立美 術研究所	87×60	大水木しげる展図録 2004年	○
91	資料	兵庫県傷痍軍人会員証	1954年		92×67		○
106	資料	少年戦記の会 会員証と案内文	1959年～ 1962年		60×100	大水木しげる展図録 2004年	○
120	図面	(改築用図面案) 境港の自宅	1950年～ 1955年ごろ		145×208	水木しげるの漫画大全集別巻4 デビュー前作品大成 (講談社) 2016年10月3日	○
103	資料	家計簿	1951年～ 1966年	水木しげる	207×160×19		○
119	貸本原稿	枯葉 (未完成原稿)	1959年ごろ		274×192	水木しげるの漫画大全集 別巻1 未発表作品/未完成作品・未定稿 集 (講談社) 2013年11月1日	○
105	貸本原稿	ベビーZシリーズ 水人間現れる 第1話	1960年	兎月書房	165×162、250 ×162	『宇宙少年』1 (兎月書房)	○
107	貸本原稿	墓場鬼太郎 幽霊一家	1960年	兎月書房	244×158、 268×188	『妖奇伝』1 (兎月書房)	○
108	貸本原稿	墓場鬼太郎 幽霊一家 墓場の鬼太郎	1960年	兎月書房	245×159、 245×165	『妖奇伝』2 (兎月書房)	○
109	貸本原稿	墓場鬼太郎 地獄の片道切符	1960年	兎月書房	168×158、 245×160	『墓場鬼太郎』 (兎月書房)	○
110	貸本原稿	墓場鬼太郎 下宿屋	1960年	兎月書房	161×157、259 ×169	『墓場鬼太郎』2 (兎月書房)	○
116	貸本原稿	「鬼太郎夜話」 第5巻 亀男の巻 (没原稿)	1961年ごろ	水木しげる	267×191	水木しげるの漫画大全集 別巻1 未発表作品/未完成作品・未定稿 集 (講談社) 2013年11月1日	○
111	貸本原稿	墓場鬼太郎 怪奇一番勝負	1962年	兎月書房	269×174、258 ×164	『怪奇一番勝負』 (兎月書房)	○
112	貸本原稿	墓場鬼太郎 霧の中のジョニー	1962年	兎月書房	245×164、 258×174	『霧の中のジョニー』 (兎月書房)	○
113	貸本原稿	墓場鬼太郎 ないしょの話 (未使用原稿)	1964年	東考社	258×176	『ないしょの話』 (東考社)	○
115	貸本原稿	墓場鬼太郎 「アホな男—怪奇オリン ピック—」 (未使用原稿)	1964年	佐藤プロ	248×182	『アホな男』 (佐藤プロ)	○
114	直筆原稿	「墓場鬼太郎」 を書いた頃の思い出	2006年	水木しげる	182×257	角川MSNのインタビュー原稿	○
132	直筆原稿	「墓場」から 「ゲゲゲ」になった経緯	2006年	水木しげる	182×257		○
117	貸本原稿 (表紙)	古墳大秘記	1964年	東考社	275×195	『古墳大秘記』 (東考社)	○
118	貸本原稿	呪われた村	1965年	東考社	249×192	『呪われた村』 (東考社)	○
102	原画 (自伝)	バナナを食べる水木夫妻	1989年	講談社	350×500	『昭和史』第7巻 (講談社)	○
100	資料	茶碗セット		水木夫妻	310×730×730 (ちゃぶ台)		○
101	資料	背広 (講談社児童まんが賞 受賞時に着用)・シャツ	1965年、他	水木しげる			○
104	資料	軍艦プラモデル	1963年ごろ	水木夫妻		妖怪まんだら 水木しげるの世界 (世界文化社) 1997年8月10日	○

#### 4. 福の神来たる!!

No.	分類	作品名	制作／ 発表年	作者／ 出版社他	寸法 (mm) (高×幅×奥)	出典 (初出出版物)	展示替
122	漫画原稿 (幻想)	テレビくん	1965年	講談社	205×300	『別冊少年マガジン』 (講談社)	○
123	資料	表彰状 「講談社児童まんが賞」	1965年	講談社	312×429		○
121	原画 (自伝)	貧乏神と決別	2004年	大和書房	296×420	『水木しげる のんのん人生』	○
125	資料	日記帳	1971年ごろ	水木しげる	262×192×16、 247×194×19		○
124	資料	スクラップブック	1963年～ 1970年ごろ	水木しげる	300×226×25	大水木しげる展図録 2004年	○

No.	分類	作品名	制作／ 発表年	作者／ 出版社他	寸法 (mm) (高×幅×奥)	出典 (初出出版物)	展示替
127	資料	愛用の筆記用具		水木しげる			○
194	書齋資料	スーツケース		水木しげる			○
144	原画 (鬼太郎)	「ゲゲゲの鬼太郎」 (妖怪飛行船巨鯨号)	1968年	講談社	336×467	『週刊少年マガジン』(講談社)	○
139	原画 (鬼太郎)	「ゲゲゲの鬼太郎」 第7巻カバーイラスト	1968年	講談社	255×179	『ゲゲゲの鬼太郎』第7巻 KCコミックス (講談社)	○
140	原画 (鬼太郎)	「ゲゲゲの鬼太郎」 第6巻カバーイラスト	1968年	講談社	257×185	『ゲゲゲの鬼太郎』第6巻 KCコミックス (講談社)	○
141	原画 (鬼太郎)	「ゲゲゲの鬼太郎」 第3巻カバーイラスト	1972年	虫プロ商事	246×209	『ゲゲゲの鬼太郎』第3巻 虫コミックス (虫プロ商事)	○
142	原画 (鬼太郎)	「ゲゲゲの鬼太郎」 第1巻カバーイラスト	1972年	虫プロ商事	266×308	『ゲゲゲの鬼太郎』第1巻 虫コミックス (虫プロ商事)	○
128	漫画原稿 (鬼太郎)	「墓場の鬼太郎」 おばけナイター	1965年	講談社	各365×239	『週刊少年マガジン』(講談社)	○
137	漫画原稿 (鬼太郎)	「鬼太郎のベトナム戦記」 第1話 鬼太郎サイゴンへ 行く／第2話 危うし! 鬼 太郎扉絵	1968年	光文社	各365×239	『月刊宝石』(光文社)	○
145	原画 (鬼太郎)	「ゲゲゲの鬼太郎」 カバーイラスト	1970年	講談社	332×504	『カラー版ゲゲゲの鬼太郎』 第3巻、『カラー版人気まんが傑 作選』(講談社)	○
129	漫画原稿 (鬼太郎)	「ゲゲゲの鬼太郎」 まぼろしの汽車	1971年	小学館	各365×239	『週刊少年サンデー』(小学館)	○
130	漫画原稿 (鬼太郎)	「鬼太郎の世界お化け旅 行」 蛇人ゴゴゴン	1976年	双葉社	各365×239	『少年アクション』(双葉社)	○
136	漫画原稿 (鬼太郎)	「続ゲゲゲの鬼太郎」 皮はぎ魔の巻	1977年	日本ジャー ナル出版	各365×239	『週刊実話』 (日本ジャーナル出版)	○
135	漫画原稿 (鬼太郎)	「新ゲゲゲの鬼太郎 スポーツ狂時代」 野球狂の巻 第6回	1978年	日本ジャー ナル出版	各365×239	『週刊実話』 (日本ジャーナル出版)	○
134	漫画原稿 (鬼太郎)	「雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼 太郎」 鬼妖怪	1981年	少年画報社	各365×239	『月刊少年ポピー』 (少年画報社)	○
138	原画 (鬼太郎)	「ゲゲゲの鬼太郎」(ゲゲゲ の鬼太郎大画報 これが 鬼太郎のすべてだ!)	1985年	講談社	395×550	『月刊テレビマガジン』 (講談社)	○
146	原画 (鬼太郎)	「ゲゲゲの鬼太郎」 (しゅつげき! ゲゲゲの鬼太郎)	1985年	講談社	394×547	『月刊テレビマガジン』 (講談社)	○
143	原画 (鬼太郎)	「ゲゲゲの鬼太郎」(妖怪 の森大パノラマ)	1986年	講談社	395×547	『月刊テレビマガジン』 (講談社)	○
131	漫画原稿 (鬼太郎)	「新編ゲゲゲの鬼太郎」妖 怪危機一髪 前編	1986年	講談社	各365×239	『週刊少年マガジン』(講談社)	○
133	漫画原稿 (鬼太郎)	「鬼太郎国盗り物語」 妖怪大相撲の巻	1992年	講談社	各365×239	『デラックスボンボン』 (講談社)	○
149	原画 (河童の三平)	「河童の三平」連載第3回 扉絵	1969年	小学館	365×256	『週刊少年サンデー』(小学館)	○
148	原画 (河童の三平)	「河童の三平」連載第5回 扉絵	1968年	小学館	350×248	『週刊少年サンデー』(小学館)	○
147	原画 (河童の三平)	「河童の三平」ストントノ ス大王七つの秘宝の巻扉絵	1969年	小学館	363×256	『週刊少年サンデー』(小学館)	○
150	原画 (河童の三平)	「河童の三平」 ふしぎな甕の巻扉絵	1969年	小学館	393×274	『週刊少年サンデー増刊』 (小学館)	○
151	漫画原稿 (河童の三平)	「河童の三平」 幽霊の手 中編	1969年	小学館	250×350	『週刊少年サンデー』(小学館)	○
152	漫画原稿 (悪魔くん)	「悪魔くん」なんじゃもん じゃ 第1回／第3回	1966年	講談社	各365×239	『週刊少年マガジン』(講談社)	○
154	漫画原稿 (悪魔くん)	「悪魔くん復活 千年王 国」松下社長の危機の巻見 開き扉／占杖の巻	1970年	集英社	各365×239	『週刊少年ジャンプ』(集英社)	○
155	漫画原稿 (悪魔くん)	「悪魔くん」カバーイラスト	1978年	双葉社	260×280	『がんばれ悪魔くん2』 パワァコミック (双葉社)	○
153	漫画原稿 (悪魔くん)	「悪魔くん」カバーイラスト	1985年	小学館	545×395	『小学館入門百科シリーズ175 カラー版妖怪まんが悪魔くん』	○
156	原画 (鬼太郎)	三大スター夢の競演 妖怪総進撃	1985年	朝日ソノラマ	393×546	『宇宙船』(朝日ソノラマ)	○
158	原画 (鬼太郎)	水木しげるとその作品たち (I)	2010年ごろ	水木しげる	297×419	企画書の表紙に使っている画像	○

No.	分類	作品名	制作／ 発表年	作者／ 出版社他	寸法 (mm) (高×幅×奥)	出典 (初出出版物)	展示替
159	原画 (鬼太郎)	水木しげるとその作品たち (Ⅱ)	2010年ごろ	水木しげる	297×419	先生と布枝さんが一緒に 歩いている画像	○
157	装幀画	『妖怪なんでも入門』 表紙画	1974年	小学館	272×400	『小学館入門百科シリーズ32 妖怪なんでも入門』(小学館)	○
160	漫画原稿 (怪奇)	怪奇死人帳	1966年～ 1967年	青林堂／朝 日ソノラマ	290×218、 281×192 (カラー)	モノクロ原稿：『月刊漫画ガロ』 (青林堂)／カラーイラスト：単行 本『怪奇死人帳』(朝日ソノラマ)	○
161	漫画原稿 (怪奇)	足跡の怪	1966年	芸文社	370×209	『漫画天国』(芸文社)	○
162	漫画原稿 (怪奇)	妖怪水車 中編／カバーイラスト	1970年～ 1971年	講談社／朝 日ソノラマ	351×249	モノクロ原稿：『ぼくらマガジン』 (講談社)／カバーイラスト：単行 本『妖怪水車』(朝日ソノラマ)	○
165	漫画原稿 (幻想)	なまけの与太郎 風の神	1966年	学習研究社	229×152	『中一コース』(学習研究社)	○
163	漫画原稿 (幻想)	丸い輪の世界	1966年	青林堂	381×269	『月刊漫画ガロ』(青林堂)	○
166	漫画原稿 (幻想)	よみのくに 最初の米	1967年	小学館	374×262	『週刊少年サンデー』(小学館)	○
168	漫画原稿 (幻想)	アンコールワットの女	1968年	小学館	281×269	『ビッグコミック』(小学館)	○
169	漫画原稿 (幻想)	コケカキイキイ 神の誕生 ／表紙カバーイラスト	1970年・ 1986年	実業之日本 社／講談社	351×249	モノクロ原稿：『週刊漫画サン デー』(実業之日本社)／カラー イラスト：「『水木しげるの幻想怪奇 3』 コケカキイキイ」(講談社)	○
167	漫画原稿 (幻想)	縄文少年ヨギ 第6話 背の神	1976年	双葉社	351×249	『パワファミック』(双葉社)	○
164	漫画原稿 (幻想)	おぼけのムーラちゃん ムーラちゃん登場	1979年	講談社	351×249	『テレビマガジン』(講談社)	○
171	漫画原稿 (伝記)	新講談 宮本武蔵 剣豪 とばたもち 宮本武蔵・茶 店の一席	1965年	青林堂	290×192	『月刊漫画ガロ』(青林堂)	○
170	漫画原稿 (伝記)	巷説 近藤勇 星をつか みそこねる男 第9回／カ バーイラスト	1971年	青林堂／虫 プロ商事	351×249、210 ×317 (カラー)	モノクロ原稿：『月刊漫画ガロ』 (青林堂)／カラーイラスト：『巷 説近藤勇 星をつかみそこねる 男』(虫プロ商事)	○
173	漫画原稿 (伝記)	20世紀の狂気 ヒットラー 第1回扉絵／第10回	1971年	実業之日本 社	360×258	『週刊漫画サンデー』 (実業之日本社)	○
172	漫画原稿 (伝記)	猫楠 カバーイラスト／ 第16話	1991年～ 1992年	講談社	351×249、 299×395 (カラー)	『ミスターマガジン』(講談社)	○
174	漫画原稿 (伝記)	神秘家列伝 コナン・ドイル	1997年～ 2004年	角川書店	351×249、 345×269 (カラー)	『怪』(角川書店)	○
175	漫画原稿 (古典)	新・雨月物語 青頭巾	1973年	潮出版社	350×249	『潮』(潮出版社)	○
176	漫画原稿 (古典)	水木しげるの古代出雲	2011年	角川書店	351×249	『怪』	○
179	漫画原稿 (風刺)	怪物マチコミ	1966年	芸文社	380×270	『漫画天国』(芸文社)	○
178	漫画原稿 (風刺)	イソップ漫画 チャンピオンと晴着	1966年	青林堂	385×262	『月刊漫画ガロ』(青林堂)	○
177	漫画原稿 (風刺)	カモイ伝	1966年	青林堂	310×218	『月刊漫画ガロ』	○
180	漫画原稿 (風刺)	錬金術	1967年	青林堂	381×268	『月刊漫画ガロ』(青林堂)	○
181	漫画原稿 (風刺)	一番病	1969年	小学館	351×249、 293×211 (カラー)	『ビッグコミック』(小学館)	○
182	漫画原稿 (風刺)	ヘンラヘラヘラ	1971年	潮出版社	351×249	『希望の友』	○
183	漫画原稿 (風刺)	「パイプの森の放浪者 現 場からの報告・原発下請労 働者の知られざる実態」	1979年	朝日新聞社	332×252×5	『アサヒグラフ』(朝日新聞社) 10月26日号・11月2月号	○
184	漫画原稿 (SS)	「SILENT SHOCK」 いかりの巡回	1970年	双葉社	351×249	『現代コミック』(双葉社)	○
185	漫画原稿 (自伝)	突撃! 悪魔くん	1973年	集英社	351×249	『別冊少年ジャンプ』(集英社)	○
186	漫画原稿 (自伝)	神秘家 水木しげる伝	2006年	角川書店	351×249	『怪』	○
187	漫画原稿 (自伝)	わたしの日々	2014年	小学館	364×256	『ビッグコミック』	○
189	資料	直筆格言画 「のん氣にくらしなさい」	2008年ごろ	水木しげる	420×295		○
188	資料	直筆格言	2008年ごろ	水木しげる	272×242×2		○

## 5. 妖怪に取り憑かれて

No.	分類	作品名	制作／ 発表年	作者／ 出版社他	寸法 (mm) (高×幅×奥)	出典 (初出出版物)	展示替
190	写真	水木しげるの 妖怪写真アルバム		水木しげる		大水木しげる展図録 2004年	○
192	資料	水木しげるのパスポート	1971年、 1976年、 1981年、 1986年、 1996年	水木しげる	155×96×4		○
191	資料	愛用のカメラ (オリンパス)		水木しげる	120×90×110		○
205	原画 (妖怪)	遺念火	1968年	講談社	395×549	『週刊少年マガジン』(講談社)	△
195	原画 (妖怪)	山爺	1966年	小学館	395×549	『週刊少年サンデー』(小学館)	▼
203	原画 (妖怪)	蟹坊主	1981年	東京堂出版	395×549	『水木しげるの妖怪事典』 (東京堂出版)	△
204	原画 (妖怪)	おとろし	1968年	講談社	395×549	『週刊少年マガジン』(講談社)	▼
198	原画 (妖怪)	小豆洗い	1992年	岩波書店	390×527	『カラー版妖怪画談』(岩波書店)	△
202	原画 (妖怪)	砂かけ婆	1984年	東京堂出版	300×420	『続水木しげるの妖怪事典』 (東京堂出版)』	▼
201	原画 (妖怪)	一反木綿	1991年	講談社	390×527	『日本妖怪大全』(講談社)	△
199	原画 (妖怪)	がしやどくろ	1992年	岩波書店	390×527	『カラー版 妖怪画談』 (岩波書店)	▼
206	原画 (妖怪)	ガラッパ	1991年	講談社	395×545	『日本妖怪大全』(講談社)	△
200	原画 (妖怪)	釣瓶落とし	1992年	岩波書店	300×420	『カラー版 妖怪画談』 (岩波書店)	▼
196	原画 (妖怪)	化け草履	1993年	岩波書店	390×527	『カラー版続妖怪画談』 (岩波書店)	△
197	原画 (妖怪)	あかなめ	1992年	岩波書店	390×527	『カラー版妖怪画談』 (岩波書店)	▼
207	原画 (日本土俗)	だきつき柱	1972年	平凡社	379×536	『月刊太陽』(平凡社)	△
210	原画 (日本土俗)	厄抜け戒壇	1973年	平凡社	300×420	『月刊太陽』(平凡社)	▼
208	原画 (日本土俗)	釘抜き地藏尊	1973年	平凡社	380×540	『月刊太陽』(平凡社)	△
209	原画 (日本土俗)	道通様	1973年	平凡社	371×539	『月刊太陽』(平凡社)	▼
212	原画 (世界の妖怪)	首おばけ	1993年	集英社	296×419	『週刊ヤングジャンプ』 (集英社)	△
211	原画 (世界の妖怪)	刑天	1993年	岩波書店	297×418	『カラー版 続妖怪画談』 (岩波書店)	▼
214	原画 (世界の妖怪)	ゴブリン	1996年	岩波書店	395×542	『カラー版妖精画談』 (岩波書店)	△
213	原画 (世界の妖怪)	水精ネッキ	1995年	集英社	297×419	『週刊ヤングジャンプ』 (集英社)	▼
216	原画 (世界の妖怪)	アフリカの妖怪たち	1992年	岩波書店	300×420	『カラー版 妖怪画談』 (岩波書店)	△
215	原画 (世界の妖怪)	ニューギニアの精霊	1994年	岩波書店	300×420	『カラー版 幽霊画談』	▼
237	原画 (妖怪)	妖怪のとき・暗闇の世界		角川書店	545×395	『妖怪たちのいるところ』	○
238	原画 (妖怪)	家に棲む霊		角川書店	545×395	『妖怪たちのいるところ』	○
239	原画 (妖怪)	動物の霊		角川書店	545×395	『妖怪たちのいるところ』	○
217	民族資料	水木しげるの妖怪・ 精霊像コレクション		水木しげる		大水木しげる展図録	○
218	妖怪フィギュア	河童		鯨井 実	270×240×240		○
219	妖怪フィギュア	あかなめ		鯨井 実	270×240×240		○
220	妖怪フィギュア	油すまし		鯨井 実	270×240×240		○
221	妖怪フィギュア	死神106番		鯨井 実	270×240×240		○
222	妖怪フィギュア	こなき爺		鯨井 実	400×320×320		○
223	妖怪フィギュア	ぬっぺっぼう		鯨井 実	270×240×240		○
224	妖怪フィギュア	餓鬼		鯨井 実	270×240×240		○
225	妖怪フィギュア	石見の牛鬼		鯨井 実	320×320×320		○

No.	分類	作品名	制作／ 発表年	作者／ 出版社他	寸法 (mm) (高×幅×奥)	出典 (初出出版物)	展示替
227	妖怪フィギュア	一本ダタラ		鯨井 実	320×320×320		○
228	妖怪フィギュア	さがり		鯨井 実	400×320×320		○
229	妖怪フィギュア	かみきり		鯨井 実	270×240×240		○
230	妖怪フィギュア	泥田坊		鯨井 実	270×240×240		○
231	妖怪フィギュア	鬼		鯨井 実	320×320×320		○
234	民族資料	水木だるま		荒井 良	265×200×180		○

## 6. 水木しげるは永遠に

No.	分類	作品名	制作／ 発表年	作者／ 出版社他	寸法 (mm) (高×幅×奥)	出典 (初出出版物)	展示替
193	資料	ストーリーボード	1990年ごろ 購入		768×1305×40	大水木しげる展図録 2004年	○
235	絵馬	追悼メッセージ	2016年		200×280×4		○
236	直筆原稿	「理想の死に方」直筆原稿	2004年	水木しげる	182×257	『文藝春秋』2005年新年特別号 (2004年12月10日発売)	○
232	実物大フィギュア	鬼太郎人形			1300×680× 680		○
233	実物大フィギュア	ねずみ男人形			1780×680× 680		○

# 生誕200年 三輪田米山展

## — 天真自在の書 —

- 会 期： 令和3年10月2日（土） - 11月30日（火）（52日間）  
主 催： 愛媛県美術館  
共 催： 愛媛新聞社  
特別協力： 大阪中之島美術館、日尾八幡神社、三輪田米山顕彰会  
企画協力： 服部一啓（福岡教育大学経師）  
協 賛： 大一ガス株式会社  
後 援： 松山市、松山市教育委員会、愛媛県神社庁、愛媛県美術会、愛媛美術教育連盟、朝日新聞松山総局、読売新聞松山支局、毎日新聞松山支局、産経新聞社、NHK松山拠点放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM愛媛、えひめリビング新聞社  
助 成： 芸術文化振興基金、（公財）花王芸術・科学財団  
会 場： 愛媛県美術館 常設展示室 1・2

### 趣 旨

文政4年（1821）、伊予松山・久米郡鷹子村（現・松山市鷹子町）の日尾八幡神社の長男として生まれた三輪田米山は、明治41年（1908）に88歳で没するまで、家職を継ぎ神職として、あるいは教育者として、文徳をもって人を教化するという天命を貫いた。知識欲旺盛な米山は、和漢の学はもとよりあらゆる学問に関心を持ち、書においては書聖・王羲之を基礎とした夥しい数の学書を求め研鑽し、独自の書風を形成した。その書は、日記、短冊、軸、屏風のものから神社の神名石や注連石、幟旗など幅広く揮毫されているが、特に酔余の書は、文字の大小、粗密を見事に調和させた造形美と大胆、自由奔放の中にも高い格調を蔵する書として生前から高い評判を受けた。

米山の書が、全国に知られるようになったのは、大阪の実業家山本發次郎（1887-1951）の収藏品による。洋画家・佐伯祐三を発掘したことで知られる山本だが、「我が国近世五百年間不世出の大書家」と激賞して、戦前戦後にかけて米山作品を多く収集し、注目を集めた。これらのコレクションは現在大阪中之島美術館の所蔵となっている。

本展は、米山生誕200年という大きな節目に、見る者を圧倒し、驚かせるその唯一無二の作品を紹介するもので、当館では、前身の愛媛県立美術館での展覧会以来31年ぶりの開催となった。今日の米山評価を決定的なものとした山本發次郎コレクションを中心に、県内外に伝わる代表作や、神名石・注連石の拓本、幟旗など約120点を通して、米山芸術の尽きない魅力に、改めて触れていただく機会となった。

観覧者数：4,248名

### 関連行事

記念シンポジウム「米山、その人と芸術—未来へ語りつぐ評価と魅力」

日 時：10月3日（日） 14：00～15：30

講 師：服部一啓（福岡教育大学教授）

長曾我部延昭（伊豫豆比古命神社名誉宮司）

河野隆志（書家）

コーディネーター：長井健（当館専門学芸員・担当係長）

場 所：愛媛県美術館 講堂

参加人数：60名

連続講座「米山の書は、どう見れば面白い？」

日 時：11月6日（土）、20日（土）14：00～15：30  
講 師：長井健（当館専門学芸員・担当係長）  
場 所：愛媛県美術館 研修室  
参加人数：延40名

親子ワークショップ「大きな紙に大きな字を書こう」

日 時：白に黒Ver. 10月3日（日）、17日（日）、31日（日）  
黒に白Ver. 10月10日（日）、24日（日）  
各日①10：30～11：30 ②14：00～15：00  
講 師：高木学（当館教育専門員）、田代亜矢子（当館専門学芸員）  
場 所：愛媛県美術館 南館アトリエ2  
参加人数：延15名

対話型鑑賞プログラム

※詳細は教育普及事業報告を参照。



出品目録

第1章 三輪田米山 その人

※空欄は全期間展示

No.	作品名	材質・形状等	寸法(縦×横/cm)	所蔵	展示期間
1	日記 明治十三年五月十五日	紙本墨書/軸	27.5 × 34.5	町立久万美術館	
2	祝詞	紙本墨書/額	27.0 × 40.0		
3	愛蓮説(手本)	紙本墨書/綴本	31.5 × 23.0		
4	唐詩選・五言絶句(手本)	紙本墨書/綴本	27.0 × 20.0		
5	大学章句序(手本)	紙本墨書/綴本	27.5 × 20.5		
6	印	自用印		日尾八幡神社	
7	大硯	使用硯	25.0 × 12.5 × 高7.7	日尾八幡神社	

第2章 山本發次郎コレクション

No.	作品名	材質・形状等	寸法(縦×横/cm)	所蔵	展示期間
8	無為	紙本墨書/軸	131.4 × 63.0	大阪中之島美術館	～10/24
9	雲棲	紙本墨書/軸	136.9 × 60.2	大阪中之島美術館	10/26～
10	無違	紙本墨書/軸	124.0 × 57.6	大阪中之島美術館	10/26～
11	思義	紙本墨書/軸	119.1 × 55.5	大阪中之島美術館	～10/24
12	獨清	紙本墨書/軸	122.7 × 60.4	大阪中之島美術館	～10/24
13	思無邪	紙本墨書/軸	130.2 × 51.9	大阪中之島美術館	10/26～
14	萬事足	紙本墨書/軸	131.2 × 53.8	大阪中之島美術館	～10/24
15	智者樂	紙本墨書/軸	134.1 × 57.3	大阪中之島美術館	10/26～
16	頤光山林	紙本墨書/軸	123.7 × 60.2	大阪中之島美術館	～10/24
17-1	孳孳為善	紙本墨書/六曲一隻屏風	各 134.5 × 53.9	大阪中之島美術館	10/26～
17-2	恬而無欲				
17-3	温故知新				
17-4	前覆後誠				
17-5	温厚和平				
17-6	文行忠信				
18	文行忠信	紙本墨書/軸		大阪中之島美術館	10/26～
19	心和得天真	紙本墨書/軸	131.5 × 46.8	大阪中之島美術館	～10/24
20	聖人無常師	紙本墨書/軸	129.9 × 49.1	大阪中之島美術館	10/26～
21	洗心	紙本墨書/額	43.9 × 110.8	大阪中之島美術館	～10/24
22	山浮樽中	紙本墨書/軸	65.0 × 58.8	大阪中之島美術館	10/26～
23	樂天知命	紙本墨書/額	31.2 × 133.8	大阪中之島美術館	～10/24
24	洗我以義	紙本墨書/額	33.6 × 131.3	大阪中之島美術館	10/26～
25	萬物出乎無有	紙本墨書/軸	134.9 × 49.6	大阪中之島美術館	10/26～
26	後其身而身先	紙本墨書/軸	133.7 × 50.5	大阪中之島美術館	～10/24
27	大聲不入里耳	紙本墨書/軸/対幅	各 195.8 × 35.5	大阪中之島美術館	～10/24
28	心事一杯中				
29	君子去仁惡成名	紙本墨書/軸	195.5 × 35.5	大阪中之島美術館	～10/24
30	敬義立而德不孤	紙本墨書/軸	133.0 × 58.2	大阪中之島美術館	～10/24
31	酒浮山色入樽中	紙本墨書/軸	135.8 × 52.7	大阪中之島美術館	～10/24
32	大塊假我以文章	紙本墨書/軸	125.1 × 57.7	大阪中之島美術館	10/26～
33	水村漁市一縷孤烟紅	紙本墨書/軸	130.5 × 59.1	大阪中之島美術館	～10/24
34	御衆以寬至清無魚	紙本墨書/軸/三幅対	各 217.8 × 30.8	大阪中之島美術館	10/26～
35	樂天知命無為而尊				

No.	作品名	材質・形状等	寸法(縦×横/cm)	所蔵	展示期間
36	餘力學文斐然成章	紙本墨書/軸/三幅対	各 217.8 × 30.8	大阪中之島美術館	10/26 ~
37	智者千慮(必)有一失愚者千慮必(有)一得	紙本墨書/軸	135.2 × 59.3	大阪中之島美術館	10/26 ~
38	可ど松やか多か多奈らす可たよ可(ら)す	紙本墨書/軸	124.5 × 58.2	大阪中之島美術館	~ 10/24
39	大王波神にしま勢波安ま雲乃以可つち乃上耳い 本りせ流鴨	紙本墨書/軸	134.5 × 59.5	大阪中之島美術館	~ 10/24
40	未通女ら可袖布流や満(の)水垣能飛さしきと 伎ゆ於母ひ支和禮波	紙本墨書/軸	123.7 × 58.7	大阪中之島美術館	10/26 ~
41	賀数可乃尔於保久農登之盤都美徒連度於意勢 奴裳乃者和可難・利氣利	紙本墨書/軸	92.1 × 30.5	大阪中之島美術館	10/26 ~
42-1	志路たへ乃袖可とそおもふ若歳(業)つむみ可 幾可原能う免乃者つ者奈	紙本墨書/二曲一隻屏風	各 134.2 × 57.9	大阪中之島美術館	~ 10/24
42-2	山布可幾や登尔し安連八年古と尔者奈乃古、 路八安佐くそ阿り介留				

### 第3章 米山書の名品

#### (1) 漢字

No.	作品名	材質・形状等	寸法(縦×横/cm)	所蔵	展示期間
43	福祿壽	紙本墨書/軸/三幅対	各 166.5 × 89.4	愛媛県美術館	
44	蘭	紙本墨書/軸	111.0 × 63.0		
45	獨清	紙本墨書/額	28.4 × 61.2		
46	好古	紙本墨書/軸	28.0 × 69.0		
47	守中	紙本墨書/軸	123.8 × 54.8		
48	思義	紙本墨書/軸	131.0 × 57.0		
49	好古	紙本墨書/軸	138.0 × 63.0		
50	静嘉	紙本墨書/軸	137.0 × 62.5		
51	貞明	紙本墨書/軸	131.0 × 59.0		
52	身一	紙本墨書/軸	124.0 × 55.0		
53	忠孝	紙本墨書/軸	127.0 × 68.8	松山市立久米小学校	
54	孚佑	紙本墨書/軸	124.0 × 52.5		
55	雲眠	紙本墨書/軸	131.0 × 59.5		
56	仁義	紙本墨書/軸	131.5 × 59.0	町立久万美術館	
57	思無邪	紙本墨書/軸	123.0 × 55.0	町立久万美術館	
58	萬年樹	紙本墨書/軸	127.0 × 57.0		
59	山可移	紙本墨書/軸	131.0 × 53.7		
60	千丈松	紙本墨書/軸	130.0 × 60.0		
61	和靈神社	紙本墨書/額	55.0 × 210.0	和靈神社	
63	得一為天下正	紙本墨書/軸	133.5 × 50.5		
64	恃人不如自恃	紙本墨書/軸	132.0 × 51.0		
65	深山大澤実生龍蛇	紙本墨書/軸	140.0 × 34.0		
66	但看花開落不言人是非	紙本墨書/軸	136.0 × 62.0		
62	臨 蘭亭序第一卷	紙本墨書/卷子	272.0 × 31.3		
67	奉獻 竈神社	紙本墨書/軸	448.0 × 66.7		
68-1	履素	紙本墨書/六曲一隻屏風	各 136.4 × 56.5	多賀神社	
68-2	無違				
68-3	文在中				
68-4	獨清				
68-5	成言				
68-6	有終				
69-1	大巧若拙	紙本墨書/六曲一隻屏風	各 134.5 × 56.9		

No.	作品名	材質・形状等	寸法(縦×横/cm)	所蔵	展示期間
69-2	上善如水	紙本墨書 / 六曲一隻屏風	各 134.5 × 56.9		
69-3	徳潤身				
69-4	温如玉				
69-5	言可復				
69-6	寸心知				

(2) 拓本

No.	作品名	材質・形状等	寸法(縦×横/cm)	所蔵	展示期間
70	孳孳 / 為善	紙本墨書 / 軸 / 対幅	各 157.0 × 55.0		
71	年豊 / 民樂	紙本墨書 / 軸 / 対幅	各 130.0 × 39.5		
72	孳孳 / 為善	拓本 / 軸 / 対幅	各 148.0 × 60.0		
73	年豊 / 民樂	拓本 / 軸 / 対幅	各 99.5 × 39.5		
74	鳥舞 / 魚躍	拓本 / 軸 / 対幅	各 126.0 × 31.7		
75	龍游 / 鳳舞	拓本 / 軸 / 対幅	各 210.0 × 54.5		
76	萬機先神事 / 自餘政爲後	拓本 / 軸 / 対幅	各 222.5 × 42.0		
77	上世神皇道 / 萬機先神事	拓本 / 軸 / 対幅	各 208.0 × 47.0		
78	高井八幡宮	拓本 / 軸	134.0 × 65.0		
79	客王神社	拓本 / 軸	165.5 × 88.5		
80	伊雜神社	拓本 / 軸	207.0 × 132.5		
81	客天満宮	拓本 / 軸	268.5 × 113.5		

(3) 仮名

No.	作品名	材質・形状等	寸法(縦×横/cm)	所蔵	展示期間
82	日記	紙本墨書 / 十五葉	27.2 × 38.6		場面替え有
83	たちかへれこゝろなとめそたましきの大内やまの松迺下かけ	紙本墨書 / 短冊	36.0 × 6.0		
84	三輪のやまいかにまち見むとしふともたづぬる人もあらじとおもへば	紙本墨書 / 短冊	36.0 × 6.0		
85	こと葉がきはよみびとしらずとかいふべし この殿は木太刀の音もなかりけり おほみたからは牛をひけども	紙本墨書 / 短冊	36.0 × 6.0		
86	秋風 わかたけのそよぐを見れば秋風はけぬるき物とおもはざりけり	紙本墨書 / 短冊	36.0 × 6.0		
87	明治二十年九月三日祓川なるなでしこの花を見て なにごともながれまゝなる世の中にむかしわすれぬかはらなでしこ	紙本墨書 / 短冊	36.0 × 6.0		
88	思ふことをたゞにつけて 人は皆けふはよき日と思ふべし憂へある身はいかにしてまし	紙本墨書 / 短冊	36.0 × 6.0		
89	手尔とら八袖さへ尔本ふ女郎花古乃志ら露耳散まくをし母	紙本墨書 / 軸	120.0 × 50.6	愛媛県美術館	
90	可ら古ら(ろ)母う都聲幾け八月清美満多祢ぬ人遠空耳し留可那	紙本墨書 / 軸	134.0 × 53.0	愛媛県美術館	
91	門松や可多可多那らす加多よらす	紙本墨書 / 軸	39.0 × 14.0		
92	誰母以佐花見耳来た連山母野茂霞とと母尔春は来尔介り	紙本墨書 / 軸	116.5 × 15.0	町立久万美術館	
93	可り加年乃奈き鶴(空)や阿希ぬら舞枕耳近支窓乃月影	紙本墨書 / 軸	125.0 × 55.0		
94-1	怪来妝閣閉朝下不相迎総向	紙本墨書 / 六曲一隻屏風	各 136.0 × 52.0		
94-2	春園裏花間咲語聲				
94-3	已見寒梅發復聞啼鳥聲				
94-4	愁心視春草畏向玉階生				
94-5	相送臨高臺川原杳何極日				

No.	作品名	材質・形状等	寸法(縦×横/cm)	所蔵	展示期間
94 - 6	暮飛鳥還行人去不息	紙本墨書 / 六曲一隻屏風	各 136.0 × 52.0		
95	春雨 那す古と母安ら春奈可ら尔酒く免八以 としも那可し介ふの者流さ免	紙本墨書 / 襖	134.0 × 59.8		
96	郭公 降安免母以と者天来なけ杜宇和連母酒 く三まち天(天)社安連	紙本墨書 / 襖	133.5 × 59.2		
97	世乃中尔堂へて桜能奈可り勢八者留能古、路 八能とけ可らまし	紙本墨書 / 襖	134.0 × 59.9		
98	山さと八冬そさ飛しさま佐りけ里(る)飛とめ母 くさ母か連ぬと思へは	紙本墨書 / 襖	133.9 × 59.7		
99	者累可尔母聲能春留可那時鳥木可(乃)くれ堂 可く那け波奈り介留(り)	紙本墨書 / 襖	128.3 × 55.5		
100	勿以悪小而為之勿以善小而為不為	紙本墨書 / 襖	133.8 × 59.6		
101	柿本人麻呂 本の本の登安可しの浦の朝霧尔 志満可くれゆくふ年をしそおもふ	三十六歌仙絵馬 / 扁額	各 48.5 × 32.0	徳威三嶋宮	
102	山邊赤人 若可の浦尔し本三ちくれ八可多越 奈三あしへをさして田鶴奈支和多流				
103	僧正遍昭(照) 堂らち年八可、れと天しもう者 玉乃我くろ可三越奈てすや阿り介牟				
104	小野小町 和飛ぬ連八身越うきくさ乃根遠堂 え天佐そふ水あら八い奈んと(ぞ)思ふ				
105	藤原敏行朝臣 秋来ぬとめ尔八さや可耳見え 祢とも風の音尔そおとろ可禮ぬ留				
106	藤原興風 堂れを可母しる人耳せ牟高砂迺松 もむ可し乃とも奈ら奈く耳				
107	源重之 可勢をい多三岩う都奈三乃お能連能 三くたけ天もの遠お母ふ古路可奈				
108	中務 秋可勢のふく耳つけて母登者ぬ可那萩 の葉なら八おと者してまし 米山書				

**【展示室外】 米山書の幟**

No.	作品名	材質・形状等	寸法(縦×横/cm)	所蔵	展示期間
109	日尾八幡大神	幟 / 布製 / 一対	各 715.0 × 73.0	日尾八幡神社	
110	浮島神社	幟 / 布製 / 一対	各 652.0 × 70.0	浮島神社	
111	奉献五柱神社(黒)	幟 / 布製 / 一対	各 780.0 × 71.0	五柱神社	
112	奉献五柱神社(白)	幟 / 布製 / 一対	各 658.0 × 65.0	五柱神社	
113	天満神社	幟 / 布製 / 一対	各 660.0 × 70.0	天満神社	
114	三島大明神	幟 / 布製 / 一対	各 745.0 × 70.0	松山市越智町六組	
115	龍遊 / 鳳舞	幟 / 布製 / 一対	各 404.0 × 88.0	伊豫豆比古命神社	
116	金刀比羅宮 / 奉献山神社	幟 / 布製 / 一対	各 663.0 × 69.0	東温市則之内	
117	客王神社	幟 / 布製 / 十四旒	各 177.0 × 60.0	客王神社	
118	大宮八幡宮	幟 / 布製 / 一対	各 695.0 × 75.0	砥部町外山区久保組	
119	文在中	幟 / 布製 / 一対	各 720.0 × 25.0	松山市来住町二区 東組	10/26 ~
120	天開萬國歡	幟 / 布製 / 一対	各 623.0 × 27.0	東温市上林友清組	10/26 ~
121	素鷲社	幟 / 布製 / 一対	各 700.0 × 67.0	松山市水産町	
122	先神事 / 政為後	幟 / 布製 / 一対	各 748.0 × 70.0	松山市来住町三区 北組	10/26 ~

## 平等院鳳凰堂と浄土院 その美と信仰

- 会 期：** 令和3年11月3日（水・祝）－令和4年1月9日（日）（55日間）  
**【前期】** 11月3日（水・祝）－12月6日（月） **【後期】** 12月8日（水）－1月9日（日）
- 主 催：** 「平等院鳳凰堂と浄土院展」実行委員会（愛媛県、南海放送）、読売新聞社、平等院浄土院
- 協 賛：** 愛媛銀行、大一ガス、レクサス松山城北
- 後 援：** 松山市、松山市教育委員会、愛媛県市町教育委員会連合会、愛媛県小中学校長会、愛媛県美術会、愛媛美術教育連盟、愛媛県文化協会、（公財）愛媛県文化振興財団、（公財）松山観光コンベンション協会、愛媛県仏教会、（一社）四国八十八ヶ所霊場会、愛媛新聞社、朝日新聞松山総局、読売新聞松山支局、毎日新聞松山支局、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM愛媛、えひめりびング新聞社、西日本放送、四国放送、高知放送
- 会 場：** 愛媛県美術館 企画展示室1・2

### 趣 旨

疫病（天然痘）の流行や地震の頻発、相次ぐ合戦で世に不安と混乱が広がった平安末期。末法元年とされた1052年、平等院は創建された。人々の目の前に極楽浄土を再現すべく、伽藍は夢のように美しく造営され、鳳凰堂には本尊の阿弥陀如来像が安置され、堂内は極楽浄土図と来迎図が描かれた。本展では、平安の国風文化と浄土信仰を守り、現在に引き継ぎ伝えてきた平等院と塔頭の文化、美術、歴史を紹介した。近年の調査によって新たに発見された寺外初公開の数々の寺宝から、平等院の歴史を未来へと伝えるために各時代につくられた模造にいたるまで、いにしえから現代の文化と美が融合する平等院の魅力を伝えた。

観覧者数：16,525名

### 関連行事

#### 記念講演会

日 時：11月3日（水・祝） 14：00～15：30  
 講 師：神居文彰氏（平等院住職）  
 場 所：愛媛県美術館 講堂  
 参加人数：60名

#### レクチャー「数えて考える日本美術一百福の系譜」

日 時：12月11日（土） 14：00～15：30  
 講 師：五味俊晶（当館学芸員）  
 場 所：愛媛県美術館 講堂  
 参加人数：30名

#### レクチャー「平等院と文化財保護」

日 時：1月9日（日） 14：00～15：30  
 講 師：五味俊晶（当館学芸員）  
 場 所：愛媛県美術館 講堂  
 参加人数：33名

#### ワークショップ「螺鈿細工風ストラップをつくろう」

日 時：12月5日（日）  
 10：30～11：30／14：00～15：00  
 講 師：石崎三佳子（当館専門学芸員）  
 場 所：愛媛県美術館 本館展望ロビー  
 参加人数：14名



出品目録

【プロローグ：平等院の開創】

No	指定	名称	作者	制作時期 時代・世紀・年	所蔵	展示期間
1		藤原頼通像		江戸時代 (17-18世紀)	浄土院	通期
2	京都府指定文化財	平等院旧起 (仮名本)	良純親王 筆	江戸時代 寛永17年 (1640)	浄土院	通期
3		平等院旧起 (真名本)		江戸時代 (17世紀)	浄土院	通期
4-1		平等院庭園跡出土瓦 蓮華文軒丸瓦・唐草文軒平瓦		平安-鎌倉時代 (11-14世紀)	平等院	通期
4-2		平等院庭園跡出土瓦 鬼面文軒丸瓦		平安-鎌倉時代 (11-14世紀)	平等院	通期
4-3		平等院庭園跡出土瓦 鬼面文鬼瓦		平安-鎌倉時代 (11-14世紀)	平等院	通期
5		大日如来仏手		平安時代 (11世紀)	浄土院	通期
6		源氏物語	伝中院通古 筆	江戸時代 (18世紀)	京都府立京都学・歴史館	通期
7		源氏絵鑑帖	伝土佐光則 筆	江戸時代 (16-17世紀)	宇治市源氏物語ミュージアム	頁替

【第1部：鳳凰堂の美】

No	指定	名称	作者	制作時期 時代・世紀・年	所蔵	展示期間
8		鳳凰像 模造		昭和31年 (1956)	平等院	通期
9-1		鳳凰堂飾金具 金銅宝相華唐草文透金具		平安-鎌倉時代 (11-14世紀)	浄土院	通期
9-2		鳳凰堂飾金具 金銅宝相華唐草文透金具		平安-鎌倉時代 (11-14世紀)	浄土院	通期
9-3		鳳凰堂飾金具 鉄地銅象嵌鍍金花先形金具		平安-鎌倉時代 (11-14世紀)	浄土院	通期
参1-1		鳳凰堂飾金具 金銅宝相華唐草文透金具 復元	京都社寺鋳漆株式会社 作	平成27年 (2015)	個人蔵	通期
参1-2		鳳凰堂飾金具 金銅宝相華唐草文透金具 復元	京都社寺鋳漆株式会社 作	平成27年 (2015)	個人蔵	通期
参1-3		鳳凰堂飾金具 金銅花菱金具 復元	京都社寺鋳漆株式会社 作	平成27年 (2015)	個人蔵	通期
参1-4		鳳凰堂飾金具 金銅六葉形釘隠 復元	京都社寺鋳漆株式会社 作	平成27年 (2015)	個人蔵	通期
10		鳳凰堂天蓋 復元模造 (部分)	公益財団法人美術院 作	平成18-19年 (2006-07)	文化庁	通期
11		心月輪及び蓮台 模造	新納忠之介 作	明治38-40年 (1905-07)	奈良国立博物館	通期
12-1		本尊阿弥陀如来坐像台座華盤納入品 瓔珞片		平安時代 (11-12世紀)	平等院	通期
12-2		本尊阿弥陀如来坐像台座華盤納入品 ガラス玉		平安時代 (11-12世紀)	平等院	通期
12-3		本尊阿弥陀如来坐像台座華盤納入品 ガラス壺残闕		平安時代 (11-12世紀)	平等院	通期
12-4		本尊阿弥陀如来坐像台座華盤納入品 截金ガラス 壺蓋		平安時代 (11-12世紀)	平等院	通期
12-5		本尊阿弥陀如来坐像台座華盤納入品 古銭		唐-南宋時代 (8-13世紀)	平等院	通期
12-6		本尊阿弥陀如来坐像台座華盤納入品 螺鈿残闕		平安時代 (11-12世紀)	平等院	通期
参考2		截金ガラス 壺蓋 復元	截金=小椋範彦、松崎森平 作 ガラス制作は参考4を参照	平成22年 (2010)	平等院	通期
参考3		瓔珞 復元	ガラス玉=松田有利子 螺鈿細工=青木泰英 金銅金具=渡辺寛規 組立=あさのゆかり	平成22年 (2010)	平等院	通期
参考4		ガラス壺 復元	制作=藤原信幸、海藤博 化学分析=中井泉、白瀧絢子 監修=井上暁子	平成22-23年 (2010-11)	平等院	通期
13-1	国宝	雲中供養菩薩像 北1号		平安時代 天喜元年 (1053)	平等院	前期
13-2	国宝	雲中供養菩薩像 北13号		平安時代 天喜元年 (1053)	平等院	前期

No	指定	名称	作者	制作時期 時代・世紀・年	所蔵	展示期間
13-3	国宝	雲中供養菩薩像 南1号		平安時代 天喜元年(1053)	平等院	後期
13-4	国宝	雲中供養菩薩像 南14号		平安時代 天喜元年(1053)	平等院	後期
14-1		雲中供養菩薩像 南20号 模刻	中村美緒 作	令和2年(2020)	浄土院	通期
14-2		雲中供養菩薩像 南21号 模刻	村上清 作	平成10年(1998)	平等院	通期
15-1		鳳凰堂壁扉画 上品上生図 模写	入江波光、河津光俊 筆	昭和29-31年(1954-56)	奈良国立博物館	後期
15-2		鳳凰堂壁扉画 上品中生図 模写	林屋源之助、川面稜一 筆 落書:松元道夫 筆	昭和29-31年(1954-56)	奈良国立博物館	前期
15-5		鳳凰堂壁扉画 中品中生図 模写	吉田友一、川面稜一 筆	昭和29-31年(1954-56)	奈良国立博物館	前期
15-6		鳳凰堂壁扉画 下品上生図 模写	入江波光 筆	昭和29-31年(1954-56)	奈良国立博物館	後期
15-7		鳳凰堂壁扉画 下品中生図 模写	安井貞次、吉田友一、 川面稜一、林屋源之助 筆	昭和29-31年(1954-56)	奈良国立博物館	前期
15-8		鳳凰堂壁扉画 日想観図 模写	吉田友一、中島宇一郎 筆	昭和29-31年(1954-56)	奈良国立博物館	後期
16		平等院鳳凰堂色紙形写		江戸時代 寛政11年(1799)	浄土院	通期
17-1		鳳凰堂壁扉画 中品中生図 想定復元模写	荒木恵信 筆	平成26年(2014)	平等院	通期
17-2		鳳凰堂壁扉画 日想観図 想定復元模写	荒木恵信 筆	平成24年(2012)	平等院	通期
19-1		鳳凰堂内彩色 模写(柱)	山崎昭二郎 筆	昭和29-31年(1954-56)	平等院	前期
19-2		鳳凰堂内彩色 模写(柱)	山崎昭二郎 筆	昭和29-31年(1954-56)	平等院	後期
20-1		鳳凰堂内彩色 復元模写 (南面柱内法長押上)	馬場良治 筆	平成30年(2018)	平等院	前期
20-2		鳳凰堂内彩色 復元模写(来迎柱)	馬場良治 筆	平成16-18年(2004-06)	文化庁	後期

【第2部:祈りの心】

No	指定	名称	作者	制作時期 時代・世紀・年	所蔵	展示期間
21		聖観音立像		平安時代(11世紀)	浄土院	通期
22	宇治市指定文化財	伝帝釈天立像		平安時代(11世紀)	浄土院	通期
23	宇治市指定文化財	不動明王及び二童子像		不動明王 平安時代(12世紀) 二童子:江戸時代 正保3年(1646年)	平等院	通期
24		女神坐像		平安時代(11世紀)	最勝院	通期
25		源頼政像		江戸時代	浄土院	通期
26		源頼政像(最勝院本)		室町時代(15世紀)	最勝院	前期
27		源頼政像(浄土院本)		室町時代(15-16世紀)	浄土院	後期
29		阿弥陀三尊像 (伝釈迦三尊像)	伝張思恭 筆	高麗時代(14世紀)	浄土院	通期
30	京都府指定文化財	平等院修造勸進状	三条西実隆 筆	室町時代 明応9年(1500)	浄土院	通期
31	京都府指定文化財(附)	平等院修造勸進状写		江戸時代(17世紀)	浄土院	通期
32		鳳凰堂古瓦 龍頭瓦		室町時代(15-16世紀)	平等院	通期
33		地藏菩薩半跏像		南北朝時代(十四世紀)	浄土院	通期
34		平等院参詣図		江戸時代(17-18世紀)	浄土院	通期
35		宇治平等院図屏風	勝川春亭 筆	江戸時代	平等院	通期
36		平等院勸進状	松花堂昭乗 筆	江戸時代 寛永4年(1627)	平等院	通期
37		紺紙金字仏説阿弥陀経	檀譽龍極 筆	江戸時代 慶安5年(1652)	浄土院	通期
38		宇治平等院奉加帳	専誉俊童 筆	江戸時代 寛文10年(1670)	浄土院	通期
39-1		鳳凰堂古瓦 丸瓦		江戸時代 寛文10年(1670)	平等院	通期

No	指定	名称	作者	制作時期 時代・世紀・年	所蔵	展示期間
39-2		鳳凰堂古瓦 平瓦		江戸時代 寛文10年(1670)	平等院	通期
39-3		鳳凰堂古瓦 巴文軒丸瓦・唐草文軒平瓦		江戸時代 寛文10年(1670)	平等院	通期
40		阿弥陀来迎図	左近貞綱 筆	江戸時代(17世紀)	浄土院	通期
41		般若心経	近衛家熙 筆	江戸時代 宝永7年(1710)	浄土院	通期
42		平等院明治修理帖	新納忠之介 筆	明治39年(1906)	平等院	通期

### 【第3部 守り、語り継ぐ—浄土院の収蔵品を中心に】

No	指定	名称	作者	制作時期 時代・世紀・年	所蔵	展示期間
43		平等院境内古図 (浄土院本 甲図)		江戸時代(17世紀)	浄土院	通期
44-1	宇治市指定文化財	養林庵書院 襖絵 籬に梅図	伝狩野山雪 筆	江戸時代(17世紀)	浄土院	通期
44-2	宇治市指定文化財	養林庵書院 襖絵 籬図	伝狩野山雪 筆	江戸時代(17世紀)	浄土院	通期
45		阿弥陀如来坐像		江戸時代初期(17世紀)	浄土院	通期
46		霊元天皇綸旨		江戸時代 寛文9年(1669)	浄土院	通期
47	宇治市指定文化財	和漢朗詠集卷下断簡 (平等院切)	伝源頼政 筆	平安時代(12世紀)	浄土院	通期
48		木彫像残闕		平安-鎌倉時代 (11-14世紀)	浄土院	通期
49		飛天像		平安-鎌倉時代(11-14世紀)	浄土院	通期
50		平等院型名号釜		桃山時代 天正16年(1588)	浄土院	通期
51		宇治茶摘図	狩野洞春美信 筆	江戸時代(18世紀)	平等院	通期
52		通圓茶亭図	富岡鉄斎 筆	明治-大正時代(19-20世紀)	浄土院	通期
53		当吾来迎図	山口晃 筆	平成24年(2012)	浄土院	通期

# 特別展 HELLO! えひめの企業アートコレクション ひろがる美のかたち

- 会 期： 令和4年2月1日（火） - 3月21日（月・祝）（43日間）  
主 催： 愛媛県美術館  
特別協力： 愛媛県美術館友の会、愛媛県商工会議所連合会、愛媛県商工会連合会、愛媛県中小企業団体中央会、  
愛媛経済同友会、愛媛県経営者協会、セキ美術館、ミウラート・ヴィレッジ（三浦美術館）  
後 援： 愛媛新聞社、朝日新聞松山総局、読売新聞松山支局、毎日新聞松山支局、産経新聞社、NHK松山  
拠点放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM愛媛、え  
ひめリビング新聞社  
助 成： 一般財団法人 地域創造  
会 場： 愛媛県美術館 企画展示室 1・2

## 趣 旨

長期化する未曾有の新型コロナウイルスの影響により、美術鑑賞の機会も減少した状況下で、人々が心ならずも豊かな時間を美術館で過ごせるよう本展を企画した。

県内企業や団体等の協力のもと、県内にありながら普段は鑑賞する機会の少ない良質なその所蔵品の数々を一堂に紹介。貴重なこれらのコレクションは、愛媛県を支えてきた企業が、芸術文化を大いに支援し、その発展に貢献してきた証であり、それぞれの企業の個性をも垣間見ることが出来た。中には企業の歴史に関わる作品もあり、また作家と企業主との交流から築かれたコレクションなど、その収集経緯は多岐にわたった。また、セキ美術館とミウラート・ヴィレッジ（三浦美術館）は、それぞれ創設者の芸術に対する強い信念と熱意により生まれた、本県が誇るべき企業ミュージアムであり、本展のひとつのセクションで大きく取り上げた。

企業コレクションを一から調査の上まとめて取り上げるのは初めての試みであったが、これまでとは異なる視点で県内の美術史をとらえる契機ともなり、今後の展開が見込める展示となった。

観覧者数：4,027名

## 関連行事

### トークセッション「えひめの企業コレクション」

日 時：2月6日（日） 14：00～15：00

講 師：関厚子（セキ美術館副館長）、高木功（ミウラート・ヴィレッジ（三浦美術館）副館長）、  
杉山はるか（当館専門学芸員）、コーディネーター：土居聡朋／当館学芸課長

場 所：愛媛県美術館 講堂

参加人数：42名

## 特別展講座

### ①「えひめの企業コレクション 本展調査の概要報告」

日 時：2月12日（土）14：00～15：00

講 師：杉山はるか（当館専門学芸員）

場 所：愛媛県美術館 講堂

参加人数：17名

### ②「近代の数寄者たち 実業家と美術品収集」

日 時：3月6日（日）14：00～15：00

講 師：長井健（当館専門学芸員・担当係長）

場 所：愛媛県美術館 講堂

参加人数：13名



出品目録

HELLO! えひめの企業アートコレクション ひろがる美のかたち 出品リスト

1章 愛媛県美術館所蔵—企業コレクションゆかりの作品

	作家名	作品名	制作年	素材・技法	寸法 (cm) / 高さ×幅×奥行	所蔵先 (寄贈者名※肩書は当時)
1	天野方壺	蓮池図	明治時代中期	絹本墨画淡彩	162.5 × 50.8	井部栄治 (久万造林代表取締役) 寄贈
2	古茂田守介	ビワ	1959 (昭和 34) 年	油彩 / 画布	72.2 × 60.5	門田圭三 (南海放送代表取締役専務) 寄贈
3	畦地梅太郎	小名木川附近	1930 (昭和 5) 年	木版多色 / 紙	37.5 × 43.0	南海放送株式会社 寄贈
4	中野和高	常陸の海	1959 (昭和 34) 年	油彩 / 画布	49.7 × 60.6	井関農機株式会社 寄贈
5	三輪田米山	福祿寿	1897 (明治 30) 年	紙本墨書 / 三幅対	(各) 166.5 × 89.4	新野進一郎 (伊予鉄道代表取締役社長) 寄贈
6	エミリオ・グレコ	うずくまる女 (大) No.5	1975 (昭和 50) 年	ブロンズ	109.5 × 79.0 × 78.5	薬師寺初子 (薬師寺真元県商工会議所連合会会頭夫人) 寄贈
7	野間仁根	兄弟と昆虫	1953 (昭和 28) 年	油彩 / 画布	91.0 × 116.5	小泉順次郎 (いよてつそごう会長) 寄贈
8	正岡子規	陸羯南宛 明治二十四年十月廿一日付書翰	1891 (明治 24) 年	紙本墨書	18.0 × 147.5	坪内スミコ (坪内寿夫元来島どっく社長夫人) 寄贈

2章 ミュージアムズ セキ美術館とミウラート・ヴィレッジ (三浦美術館)

	作家名	作品名	制作年	素材・技法	寸法 (cm) / 高さ×幅×奥行	所蔵先
9	エミール=アントワーン・ブールデル	高貴な重荷	1910 年	ブロンズ	83.5 × 23.6 × 28.0	愛媛県美術館 / 関宏成 寄贈
10	下村為山	海浜図		油彩 / 画布	30.0 × 91.0	セキ美術館
11	岡鹿之助	ラヴェル礼賛	1938 (昭和 13) 年	油彩 / 画布	50.0 × 61.0	
12	熊谷守一	峠ぶきに蝶	1964 (昭和 39) 年	油彩 / 板	24.0 × 33.2	
13	横山大観	初夏竹林	1903 (明治 36) 年	絹本着色	126.5 × 49.6	
14	加山又造	凝	1980 (昭和 55) 年	紙本着色	65.5 × 91.2	
15	加山又造	日月四季	1992 (平成 4) 年	陶板 (2点組)	各 17.5 × 100.0	
16	加山又造	日月四季	1991 (平成 3) 年	紙本着色	直径 24.0	
17	加山又造	日月四季	1992 (平成 4) 年	磁器	直径 23.0	
18	加山又造	春夏秋冬デミタス碗皿コレクション	2000 (平成 12) 年	磁器 (4セット)	碗 (大) 5.7 × 直径 5.6、碗 (小) 5.0 × 直径 5.0、皿 (大) 直径 12.0、皿 (小) 直径 10.0、プチケーキ皿 2枚直径 13.0	
19		三十六人歌合		紙本墨書	14.0 × 39.5 × 34.0	
20	吉田蔵澤	墨竹図屏風	江戸時代中期	紙本墨画	各図 134.0 × 51.5	愛媛県美術館 / 三浦昭子 (三浦保夫人) 寄贈
21	三浦保	夜明けの夢	1994 (平成 6) 年	陶板画 (ミウラート)	2点組 各 179.0 × 68.5 × 3.0	ミウラート・ヴィレッジ (三浦美術館)
22	アントニ・タピエス	黄土色と栗色	1954 年	混合技法	130 × 97.0	
23	アントニ・タピエス	『カタルーニャの名匠たちへ』表紙	1974 年	シルクスクリーン / 紙	210.0 × 100.0	

	作家名	作品名	制作年	素材・技法	寸法 (cm) / 高さ×幅×奥行	所蔵先
24	アントニ・タピエス	物質のまなざし(2)	1975年	リトグラフ/紙	56.0×76.0	ミウラート・ヴァイレッジ (三浦美術館)
25	ネルソン・ドミンゲス	詩人フロレンティーノ	1992年	ミクストメディア /画布	120.0×101.0	
26		ミックス・ボール	紀元前7世紀前半	陶器	33.0×直径57.0	
27		輪状の両取手と蓋のあるピュクシス	紀元前610 - 600年	陶器	18.0×19.0×17.0	
28		アンフォラ	紀元前600 - 580年	陶器	76.0×直径40.0	
29		翼と髭のある男のアラバストロン	紀元前590 - 580年	陶器	23.0×直径9.0	
30		黒像式アンフォラ	紀元前520年 - 510年	陶器	26.8×19.0×12.8	
31		アンフォリスコス/赤(ヘレニズム)	紀元前2 - 1世紀初期	硝子	15.8×6.5×5.0	
32		アンフォリスコス/青(ヘレニズム)	紀元前2 - 1世紀	硝子	13.5×4.8×4.5	
33		マーブルガラス瓶(ローマ)	1 - 2世紀	硝子	10.0×直径6.5	
34		蛇文様瓶(ローマ)	6世紀	硝子	11.0×直径5.7	
35		フラスコ(ベルシャ)	12 - 13世紀	硝子	18.0×直径7.5	
36	塩見政誠	十六羅漢蒔絵鞘印籠	江戸時代	漆/木、象牙	13×8×4.5 根付5.3×3	
37	塩見政誠	牧童蒔絵印籠	江戸時代	漆/木	6.8×7×2 根付 5.5×2.2×2.3	
38	飯塚桃葉	暁鳥蒔絵印籠	江戸時代	漆/木	6.8×7×2.3 根付3.8×2	
39	飯塚桃葉	誰袖蒔絵印籠	江戸時代	漆/木、象牙	8.5×5.7×1.8 根付3.3×1.5	
40	春松齋	猿廻蒔絵印籠	江戸時代後期	漆/木	8.5×5.5×1.6 根付6×2.5×2.3	
41		鑑形印籠		漆/木	12.5×7.5×3 根付4.5×4×2.3	

### 3章 県内企業コレクションの名品たち

#### 3-1 おもてなしの文化

	作家名	作品名	制作年	素材・技法	寸法 (cm) / 高さ×幅×奥行	所蔵先
42	大野麥風	鯛図		絹本着色	110.0×36.5	ふなや
43	小木曾 誠	雪	2017(平成29)年	鉛筆・銀筆・水彩 /板・ジェッソ	27.0×22.0	ふなや
44	英 一蝶	布袋・花鳥図		紙本淡彩/三幅対	各115.9×48.2	ふなや
45	新渡戸稲造	森盲天外宛書簡	1932(昭和7)年	紙本墨書	17.5×76.2	ホテル古湧園 遥 (松山市立子規記念博物館寄託)
45-2	新渡戸稲造	封筒	1932(昭和7)年	紙本墨書	21.7×8.3	ホテル古湧園 遥 (松山市立子規記念博物館寄託)
46	森盲天外	和気満堂		紙本墨書	27.0×67.4	ホテル古湧園 遥 (松山市立子規記念博物館寄託)
47	河野如風	心の教え		紙本墨書	45.3×68.0	松屋旅館(西予市)
48	河野如風	伊予の手毬唄		紙本墨書	29.0×133.4	松屋旅館(西予市)
49	犬養毅	座中春色		絹本墨書	38.2×120.8	松屋旅館(西予市)
50	前島密	意適情暢	1903(明治36)年	紙本墨書	32.1×97.5	松屋旅館(西予市)
51	河東碧梧桐	迎賓	1930(昭和5)年	紙本墨書	33.7×116.5	大和屋本店

	作家名	作品名	制作年	素材・技法	寸法 (cm) / 高さ×幅×奥行	所蔵先
52	狩野章信	能絵 (道成寺)	江戸後期 (20世紀初め)	絹本着色	55.5 × 76.4	大和屋本店
53	徳本立憲	能絵		油彩 / 画布	60.0 × 50.0	大和屋本店
54	細川護熙	黒黙々		紙本墨画	31.0 × 65.4	大和屋本店

### 3-2 社史を彩る美術

	作家名	作品名	制作年	素材・技法	寸法 (cm) / 高さ×幅×奥行	所蔵先
55	中野和高	創立記念行事	1956 (昭和 31) 年	油彩 / 画布	50.0 × 60.9	井関農機株式会社
56	河東碧梧桐	祝海南新聞一万号 松杉は・・・	1911 (明治 44) 年	紙本墨書	36.0 × 6.1	株式会社愛媛新聞社
57	安倍能成	唯真故新	1961 (昭和 36) 年	紙本墨書	65.7 × 158.5	株式会社愛媛新聞社
58	畦地梅太郎	山男 (三)	1956 (昭和 31) 年	木版多色 / 紙	56.0 × 36.5	愛媛県美術館 / 南海放送株式会社寄贈
59	平塚運一	龍安寺石庭	1948 (昭和 23) 年	木版 / 紙	31.6 × 43.6	南海放送株式会社
60	前川千帆	ランプ		木版多色 / 紙	41.5 × 31.0	南海放送株式会社
61	北岡文雄	のりそだ	1985 (昭和 60) 年	木版 / 紙	91.5 × 62.0	南海放送株式会社
62	夏目漱石	文質彬彬	1914 (大正 3) 年頃	紙本墨書	30.9 × 109.5	NTT 西日本四国支店 (松山市立子規記念博物館寄託)
63	本田宗一郎	番鶏図		絹本着色	32.0 × 40.8	株式会社八西ホンダ

### 3-3 芸術愛好・パトロネージ

	作家名	作品名	制作年	素材・技法	寸法 (cm) / 高さ×幅×奥行	所蔵先
64	鈴木千久馬	薔薇	1962 (昭和 37) 年	油彩 / 画布	46.0 × 39.0	井関農機株式会社
65	八木彩霞	林の中		油彩 / 画布	45.0 × 53.0	井関農機株式会社
66	中川八郎	みかんの頃		油彩 / 画布	45.6 × 52.6	株式会社伊予銀行
67	石井柏亭	和歌の浦の朝	1951 (昭和 26) 年	油彩 / 画布	33.7 × 53.2	株式会社伊予銀行
68	大橋翠石	獅子図		絹本着色	46.0 × 52.8	株式会社伊予銀行
69	藤田嗣治	少女 (マドレーヌ)		鉛筆、パステル / 紙	84.2 × 54.0	株式会社愛媛銀行
70	小磯良平	迎賓館赤坂離宮婦人像 (音楽 エスキース)	1973 - 74 (昭和 48 - 49) 年頃	パステル / 紙	65.2 × 50.0	株式会社愛媛銀行
71	梅原龍三郎	牡丹		油彩、金泥 / 紙	60.0 × 48.0	株式会社愛媛銀行
72	坂田虎一	白蓮	1975 (昭和 50) 年	油彩 / 画布	116.8 × 90.7	株式会社愛媛新聞社
73	石井南放	臥龍	1985 (昭和 60) 年	紙本墨書	70.0 × 209.0	株式会社愛媛新聞社
74	中川八郎	興居島	1921 (大正 10) 年	油彩 / 画布	38.0 × 45.5	愛媛信用金庫
75	菅井汲	VIOLET	1963 (昭和 38) 年	リトグラフ / 紙	76.0 × 56.0	愛媛信用金庫
76	桂ゆき	仲よし	1971 (昭和 46) 年	油彩 / 画布	53.0 × 45.5	愛媛信用金庫
77	三輪田俊助	[ 門多ロク像 ]	1937 (昭和 12) 年	油彩 / 画布	54.0 × 45.8	門多漁網株式会社
78	山口薫	春の風	1935 (昭和 10) 年	油彩 / 画布	44.9 × 33.0	株式会社九一
79	山口薫	五つの沼	1962 (昭和 37) 年	油彩 / 画布	53.1 × 65.0	株式会社九一
80	林俊衛	椿		油彩 / 画布	45.6 × 37.5	株式会社九一
81	三輪田俊助	白い部屋	1964 (昭和 39) 年	油彩 / 画布	91.0 × 73.0	有限会社河野
82	田中坦三	[ 裸婦 ]	1938 (昭和 13) 年	インク・水彩 / 紙	38.5 × 27.0	株式会社サンメディカル
83	田中坦三	風景 (一本松 我家の庭)	1950 (昭和 25) 年	油彩 / 画布	44.5 × 51.3	株式会社サンメディカル
84	田中坦三	[ コラージュ ]	1967 - 70 (昭和 42 - 45) 年	インク・鉛筆・紙 / ボード	26.7 × 23.7	株式会社サンメディカル

	作家名	作品名	制作年	素材・技法	寸法 (cm) / 高さ×幅×奥行	所蔵先
85	田中坦三	LE TABLEAU	1980 (昭和 55) 年	油彩/画布	162.5 × 130.5	株式会社サンメディカル
86	田中坦三	ハコ	1990 (平成 2) 年	インク・グワッシュ /木箱、石	9.5 × 33.5 × 22.4	株式会社サンメディカル
87	田中坦三	ストーン・マーク	1996 (平成 8) 年	塗料/石	24.0 × 57.0 × 38.0	株式会社サンメディカル
88	藤田嗣治	少女	1957 年	インク/紙	58.0 × 27.6	大一ガス株式会社
89	加山又造	裸婦		鉛筆/紙	39.8 × 56.9	大一ガス株式会社
90	岩橋英遠	アマリリス		紙本着色	40.8 × 53.1	大一ガス株式会社
91	椿 貞雄	少女像		油彩/画布	80.5 × 60.8	株式会社テレビ愛媛
92	野間仁根	裸婦七人	1957 (昭和 32) 年	油彩/画布	91.0 × 116.5	株式会社テレビ愛媛
93	黒光茂樹	花	1972 (昭和 47) 年	紙本着色	130.5 × 162.2	南海放送株式会社
94	中川一政	あまりりす		油彩/画布	45.3 × 37.8	南海放送株式会社
95	馬越舛太郎	[ 風景 ]		油彩/画布	27.7 × 40.8	南海放送株式会社
96	矢野橋村	晴秋		絹本着色	48.7 × 57.0	南海放送株式会社
97	森堯茂	砂と水と No.3	1968 (昭和 43) 年	鉄	100.0 × 100.0 × 27.0	南海放送株式会社
98	ウジェース・ アジェ	サン＝クルー公園	1915 - 19 年	ゼラチンシルバー プリント	16.8 × 21.6	藤井株式会社
99	ウジェース・ アジェ	紳士服店、ゴブラン通り	1925 年	ゼラチンシルバー プリント	22.8 × 17.2	藤井株式会社
100	アンドレ・ ケルテス	モンドリアンの家で、パ リ	1926 年	ゼラチンシルバー プリント	24.6 × 18.5	藤井株式会社
101	ダイアン・ アーバス	チェンバレン家の双子 (I)	1968 年	ゼラチンシルバー プリント	26.8 × 26.5	藤井株式会社
102	奈良原一高	二つのごみ罐 - ニュー・ メキシコ、1972	1972 (昭和 47) 年	ゼラチンシルバー プリント	26.9 × 39.8	藤井株式会社
103	白岡順	ミラノ、イタリア 1992 年 12 月 23 日	1972 (昭和 47) 年	ゼラチンシルバー プリント	37.2 × 55.4	藤井株式会社
104	田中秀頼	南堀端		パステル・水彩 /紙	39.2 × 45.8	星企画株式会社
105	田中秀頼	乾門		パステル・水彩 /紙	45.5 × 37.8	星企画株式会社
106	田中秀頼	馬具櫓		パステル・水彩 /紙	54.1 × 39.4	星企画株式会社
107	島岡達三	灰被象嵌縄文壺		陶器	23.6 × 直径 24.2	株式会社松山建装社
108	14 代酒井田 柿右衛門	濁手 枝垂桜文 花瓶		磁器	28.0 × 直径 23.0	株式会社松山建装社
109	13 代今泉 右衛門	色絵吹墨草花文花瓶		磁器	28.0 × 直径 25.5	株式会社松山建装社
110	片岡球子	うらかなる富士		紙本着色	60.5 × 72.5	株式会社松山大洋工芸
111	棟方志功	振向妃の柵	1949 (昭和 24) 年	木版多色/紙	35.3 × 48.5	
112	神戸智行	いつもの場所で		紙本着色	65.0 × 90.5	
113	前田昭博	白瓷捻壺		陶器	29.0 × 直径 27.0	
114	中根櫻亀	色被せガラス切子大花器 銘 燐春		硝子	26.0 × 直径 31.0	
115	奈良美智	Untitled	1996 (平成 8) 年	インク、色鉛筆 /紙	21.0 × 29.3	
116	アンディー・ ウォーホル	キャンベル・スープ缶Ⅱ オールドファッション・ ベジタブル	1969 年	シルクスクリーン /紙	89.0 × 58.5	
117	キース・ ヘリング	Pop Shop Quad II	1988 年	シルクスクリーン /紙	57.5 × 72.0	
118	有元利夫	多島海の空	1980 (昭和 55) 年	油彩/画布	15.8 × 22.7	

	作家名	作品名	制作年	素材・技法	寸法 (cm) / 高さ×幅×奥行	所蔵先
119	有元利夫	人物	1984 (昭和 59) 年	鉛筆・色鉛筆・ パステル／紙	35.0 × 23.0	
120	長谷川利行	少女像	1935 (昭和 10) 年頃	油彩／板	27.0 × 21.5	
121	長谷川利行	地下鉄ストアー附近	1935 (昭和 10) 年	油彩／画布	60.7 × 50.0	
122	松本竣介	屋台	1942 (昭和 17) 年	鉛筆／紙	19.5 × 29.9	
123	村上友晴	無題	1981 (昭和 56) 年	油彩／画布	45.2 × 38.0	
124	村上友晴	Untitled	1986 (昭和 61) 年	油彩・アクリル ／紙	82.7 × 63.8	
125	高橋周桑	鷹図		絹本着色	116.5 × 41.3	
126	河井寛次郎	鐵釉面取湯碗		陶器	7.0 × 直径 8.0	
127	河井寛次郎	呉須合子		陶器	5.0 × 5.5 × 5.5	
128	砥部・ 北川毛窯	小德利	江戸時代中期	陶器	15.3 × 直径 9.5	

## 愛媛県美術館コレクションによる 「おでかけ美術館」

1. 会場・会期：【第1会場】今治市村上海賊ミュージアム（今治市宮窪町宮窪1285）  
令和3年（2021）4月10日（土）～4月20日（火）（10日間）  
※当初5月9日（日）まで開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため  
会期中で閉幕。
- 【第2会場】五百亀記念館（西条市明屋敷238-2）  
令和3年（2021）5月15日（土）～8月1日（日）（54日間）
- 【第3会場】宇和先哲記念館（西予市宇和町卯之町4-327）  
令和3年（2021）7月3日（土）～9月5日（日）（実質会期36日間）  
※7月27日（火）～31日（土） 空調設備工事のため臨時休館  
※8月20日（金）～9月5日（日） 新型コロナウイルス感染拡大予防のため臨時休館
- 主催：愛媛県美術館、各開催館等

### 趣 旨

コロナ禍で松山地域への移動が困難となっていた東予・南予地方の県民の方々が郷土の美術を鑑賞する機会を創出するために、県内3つのミュージアムで当館コレクションを出張展示した。

当館の情報発信の拠点を県内各地に設けるとともに、本展が地域活性化の一翼を担う契機となることを企図した。

観 覧 料：無料

観 覧 者 数：今治市村上海賊ミュージアム 986名  
五百亀記念館 1,327名  
宇和先哲記念館 269名

### 2. おでかけワークショップ

県内、東予・南予の各小中学校に対話型鑑賞法による出張ワークショップを実施した。

- ①令和3年7月5日（月） 八幡浜市立白浜小学校 169名
- ②令和3年11月24日（水） 八幡浜市立松蔭小学校 40名
- ③令和4年3月15日（火） 愛南町立一本松小学校 23名
- ④令和4年3月15日（火） 愛南町立平城小学校 22名

## 出品目録

### 【今治市村上海賊ミュージアム】

#### 瀬戸内海を描く

	作家名	作品名	制作年	材質技法	寸法 (縦×横cm)
1	武田耕雪	来島海峡の潮流	制作年不詳	絹本着色	63.5×70.0
2	富岡鉄斎	鮮魚図	1912 (大正元) 年	紙本着色	136.5×47.4
3	東山魁夷	波響く (県民文化会館緞帳原画)	1985 (昭和60) 年頃	紙本着色	52.5×100.0
4	古茂田公雄	伯方島	1962 (昭和37) 年	油彩/画布	38.0×45.5
5	智内兄助	この海の伝説	2006 (平成18) 年	アクリル・鉛筆/画布	92.0×92.0
6	土田次枝	瀬戸内海	1965 (昭和40) 年	油彩/画布	116.0×91.4
7	寺坂公雄	しまなみ海道	2000 (平成12) 年	油彩/画布	72.8×60.6
8	野間仁根	来島水道仲渡島附近	1967 (昭和42) 年	油彩/画布	72.7×91.0
9	野間仁根	瀬戸内海	制作年不詳	油彩/画布	24.2×33.4
10	石崎重利	伊予・今治港	1937 (昭和12) 年	木版/紙	20.0×28.2
11	石崎重利	伊予・来島瀬戸	1937 (昭和12) 年	木版/紙	20.1×27.8
12	吉田博	『瀬戸内海集』のうち《帆船 午前》	1926 (大正15) 年	木版/紙	55.6×40.7
13	吉田博	『瀬戸内海集』のうち《帆船 夕》	1926 (大正15) 年	木版/紙	54.3×38.9
14		紫裾濃威胴丸 (久留島家伝来)		甲冑	36.0×38.0×奥行29.0

### 【五百亀記念館】

#### 1 女性を描く

	作家名	作品名	制作年	材質技法	寸法 (縦×横cm)
1	武井周発	唐美人図屏風	1763 (宝暦13) 年	紙本金地着色	各172.0×378.0
2	遠藤広実	縁先美人図	江戸時代後期	紙本着色	91.5×39.7
3	遠藤広実	源氏物語図	1844-45 (弘化元-2) 年	絹本着色	各90.0×32.0
4	高島華宵	桜花令嬢	1933 (昭和8) 年	絹本着色	100.0×32.5
5	桜井忠温	白川女図		紙本着色	130.0×32.8
6	大宮松之	螢	昭和20年代	紙本着色	136.0×76.5
7	好永紫芳	蟲之音		絹本着色	107.0×71.2
8	津田時子	てんぐさ干す島	1987 (昭和62) 年	紙本着色	200.0×160.0
9	有元容子	青い耳飾りの少女	2005 (平成17) 年	紙本着色	27.5×22.0
10	杉浦非水	勸業債券売出し 九月十五日より九月三十日まで	1915 (大正4) 年頃	リトグラフ、オフセット/紙	77.3×52.4
11	杉浦非水	装丁・雑誌表紙 (10点程度)		書籍 (装丁)、雑誌 (表紙)	
12	杉浦非水	非水図案年賀状 (6点程度)		葉書	
13	岡田三郎助	三越呉服店 (窓)		写真製版/紙	106.5×77.0
14	安藤義茂	乙女	1945 (昭和20) 年	刀画 (カラー) /紙	28.0×22.7
15	安藤義茂	少女	1951 (昭和26) 年	刀画 (カラー) /紙	23.5×15.5
16	中野和高	制服の少女	1957 (昭和32) 年	油彩/画布	90.9×72.7
17	野間仁根	鏡と女子	1919 (大正8) 年	水彩/紙	24.0×16.0
18	松原一	裸婦	1922 (大正11) 年	油彩/画布	90.6×65.4

	作家名	作品名	制作年	材質技法	寸法 (縦×横cm)
19	古茂田守介	裸婦(3)	1946(昭和21)年	コンテ/紙	24.1×34.6
20	古茂田守介	裸婦		コンテ、パステル/紙	32.7×24.2
21	伊東深水	現代美人集第一輯 社頭の雪	1930(昭和5)年	多色木版/紙	43.0×27.7
22	中尾義隆	うつむく少女	1948(昭和23)年頃	木版/紙	38.0×27.5
23	中尾義隆	水のむ女	1949(昭和24)年頃	セメント版/紙	44.5×33.0
24	伊藤五百亀	はたち	1971(昭和46)年	ブロンズ	48.0×20.5×奥行22.5
25	芥川永	遠くの声(2)	1980(昭和55)年	ブロンズ	42.0×28.0×奥行30.0
26	藤田嗣治	立つ裸婦	1924(大正13)年	油彩・画布	99.6×64.6
27	速水御舟	ベルラジオの裏街	1931(昭和6)年	絹本着色	69.5×31.5
28	前本利彦	女人浮遊図(銀)		紙本銀地着色	171.0×438.0
29	智内兄助	花天月地	1987(昭和62)年	リトグラフ/紙	42.0×59.0
30	智内兄助	愉伽	1987(昭和62)年	リトグラフ/紙	29.4×45.8

## 2 西条ゆかりの作家

	作家名	作品名	制作年	材質技法	寸法 (縦×横cm)
31	穂月 明	月影溪流	1980年代	紙本墨画	110.0×42.0
32	高橋周桑	鮎	1951(昭和26)年	紙本着色	23.5×26.5
33	武田耕雪	石鎚山	制作年不詳	絹本着色	36.0×89.0
34	越智雄二	ステンドグラス	1970(昭和45)年	油彩・画布	90.8×73.0
35	黒光茂樹	秋茄子	1975(昭和50)年	紙本着色	124.5×192.0

### 【宇和先哲記念館】

#### 1 犬と猫

	作家名	作品名	制作年	材質技法	寸法 (縦×横cm)
1	小林古径	郊野	1919(大正8)年	絹本着色	131.0×50.4
2	藤田嗣治	犬	1923(大正12)年	鉛筆/紙	23.7×26.7
3	杉浦非水	猫		紙本着色	27.3×24.2
4	柳瀬正夢	黒の毛織い	1935(昭和10)年頃	水彩/紙	27.0×24.1
5	穂月 明	行水猫	1980年代	紙本墨画淡彩	35.0×50.0
6	浅田 彩	香は在りぬ	1979(昭和54)年	紙本着色	117.0×72.0
7	榎崎洙雀	白猫	制作年不詳	絹本着色	58.0×66.0
8	津田青楓	漱石と猫の図	1932(昭和7)年	紙本淡彩	127.8×33.6

#### 2 県美コレクションの逸品

	作家名	作品名	制作年	材質技法	寸法 (縦×横cm)
9	横山大観	曳舟	1905(明治38)年	絹本着色	118.7×50.2
10	伊藤五百亀	木陰の柵	1977(昭和52)年	ブロンズ	99.0×42.0×奥行54.0
11	富永直樹	海浜	1979(昭和54)年	ブロンズ	68.7×22.0×奥行20.0

### Ⅲ 作品の収集事業及び保存管理

#### 1 収集方針（愛媛県美術館収集方針）

##### 趣旨

古代から瀬戸内海交通の要所として栄え、これまで多くの文人・画家の輩出や来訪があった愛媛の地は、瀬戸内海の島々や石鎚山などの豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、温厚できめ細かな県民性を育んだ。このような歴史と風土から生まれた愛媛の伝統的な文化を受け継ぎながら、豊かで個性的な愛媛の芸術文化を創造するため、愛媛ならではの特色ある収集を行う。

##### 収集分野

日本画、洋画、版画、デザイン、写真、書ほかの平面作品、彫塑、工芸ほかの立体作品、映像作品等を含む。

##### 基本方針

- (1) 国内外の優れた作品の鑑賞を通して、県民の審美眼や美意識の涵養を図るため、美術史上重要な作家及びその動向を知る上で欠くことのできない作家の作品及び関連資料を収集する。
- (2) 本県出身作家及び本県ゆかりの作家を顕彰することにより、本県美術の流れを県民に理解していただくため、本県出身作家及び関連作家の作品並びに関連資料を収集する。

##### 重点方針

- (1) 国内外の優れた作品
  - ア 19世紀以降現代にいたる美術史の流れを辿れる国内外の優れた作品を中心に収集する。さらに近代の作品をより広い視野でとらえるために18世紀以前の作品も収集の対象とする。
  - イ 今日という時代を刻印する作品を収集する。
- (2) 本県出身作家及び関連作家の作品と関連資料
  - ア 松本山雪を基点として、関連する近世絵画を収集する。
  - イ 大智勝観、矢野橋村をはじめ、関連する日本画を収集する。
  - ウ 中川八郎、中野和高、野間仁根らをはじめ、関連する絵画を収集する。
  - エ 日本の前衛美術における柳瀬正夢の位置を重視し、その作品及び関連する作品等を収集する。
  - オ 杉浦非水、真鍋博をはじめ、デザインに関連する作品等を収集する。
  - カ 畦地梅太郎を中心として、関連する版画を収集する。

#### 2 取得作品の概要

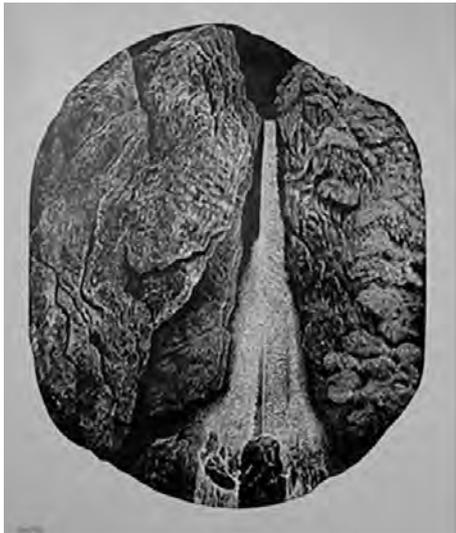
##### 購入作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・支持体	寸法 (cm)
1	土居明生	権現の滝	令和2年(2020)	木口木版・紙	69.3×56.3
2	土居明生	親子獅子	平成24年(2012)	木口木版・紙	61.6×51.0
3	土居明生	叱る、叱られる	平成23年(2011)	木口木版・紙	36.8×53.2
4	土居明生	風雪の刻	平成20年(2008)	木口木版・紙	39.4×50.0
5	土居明生	黎明	平成16年(2004)	木口木版・紙	49.0×70.7
6	土居明生	蘇生	平成8年(1996)	木口木版・紙	39.2×29.8

##### 寄贈作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・支持体	寸法 (cm)
1	浜田泰介	衰荷の歌	平成19年(2007)	アクリル絵具・紙	105.0×276.0
2	好永紫芳	梅に鶏図	昭和52年(1977)	紙本着色・二曲屏風一隻	168.5×186.0
3	二神常貞	〔風景〕	昭和24-28年(1949-53)	油彩・画布	60.4×72.8
4	土居明生	雲湧く	平成17年(2005)	木口木版・紙	41.8×57.0

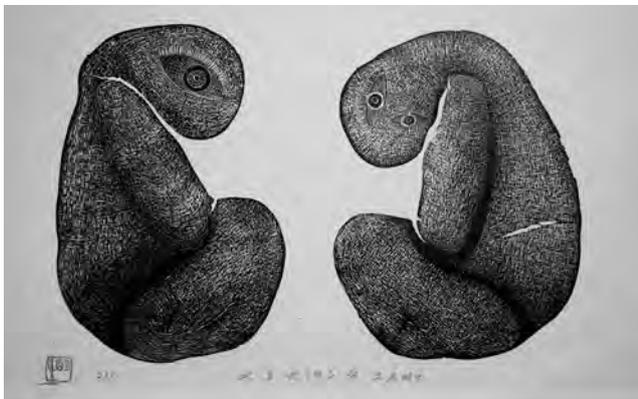
購入作品



1  
土居明生  
権現の滝  
令和2年(2020)  
木口木版・紙  
69.3×58.3cm



2  
土居明生  
親子獅子  
平成24年(2012)  
木口木版・紙  
61.6×51.0cm



3  
土居明生  
叱る、叱られる  
平成23年(2011)  
木口木版・紙  
36.8×53.2cm



4  
土居明生  
風雪の刻  
平成20年(2008)  
木口木版・紙  
39.4×50.0cm

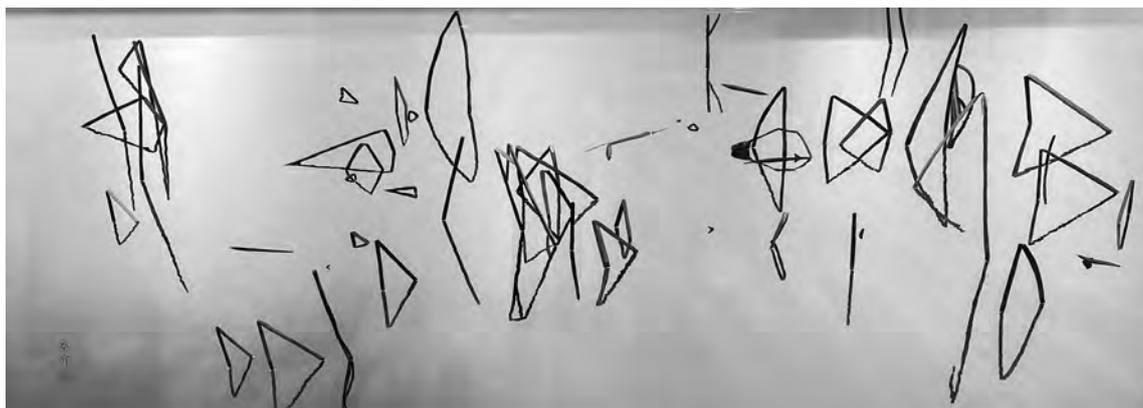


5  
土居明生  
黎明  
平成16年(2004)  
木口木版・紙  
49.0×70.7cm



6  
土居明生  
蘇生  
平成8年(1996)  
木口木版・紙  
39.2×29.8cm

寄贈作品



1  
浜田泰介  
衰荷の歌  
平成19年(2007)  
アクリル絵具・紙  
105.0×276.0cm



2  
好永紫芳  
梅に鶏図  
昭和52年(1977)  
紙本着色・二曲屏風一隻  
168.5×186.0cm



3  
二神常貞  
〔風景〕  
昭和24・28年(1949-53)  
油彩・画布  
60.4×72.8cm



4  
土居明生  
雲湧く  
平成17年(2005)  
木口木版・紙  
41.8×57.0cm

### 3 収蔵作品数

分野	～平成 22年度 末	平成 23 年度末	平成 24 年度末	平成 25 年度末	平成 26 年度末	平成 27 年度末	平成 28 年度末	平成 29 年度末	平成 30 年度末	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	合計
日本画	501点	10点	110点	2点	26点	6点	1点	24点	17点	1点	12点	2点	712点
海外絵画	9点												9点
油彩画	642点	10点		13点	4点		10点	9点		6点	3点	1点	698点
水彩画	117点		1点	11点	2点		7点						138点
素描	234点			2点						4点			240点
版画	720点		16点		14点			1点	81点	3点	1点	7点	843点
書	307点		1点								13点		321点
彫塑	38点	2点											40点
工芸	45点	1点											46点
写真	40点	3点											43点
立体・インスタレーション	29点	4点	18点	6点		3点							60点
デザイン	71点			3点	7点						118点		199点
その他	8,542点				15点		308点			3点	3点		8,871点
計	11,295点	30点	146点	37点	68点	9点	326点	34点	98点	17点	150点	10点	12,220点

### 4 保存・修復

#### (1) 収蔵庫燻蒸

内 容 : 専門業者によるブンガノンVA及びエコミューア-F Tの薬剤噴霧  
 期 間 : 令和3年9月25日  
 場 所 : 地階 収蔵部門 収蔵庫1 計908㎡

#### (2) 収蔵庫清掃

内 容 : 学芸員の当番制及び博物館実習生による清掃作業(年4回)  
 場 所 : 地階 収蔵前室、収蔵庫1・2・3、撮影室、作業室

#### (3) 館蔵品の修復

内 容 : 専門業者による修復

No.	作家名	作品名	修復前状態	修復処置	修復場所	修復期間
1	畦地梅太郎	火山	額・マットの劣化	額補修、マット新調	修復工房	令和3年4月1日～4月15日
2	木和村創爾郎	浅草寺(新東都四景のうち)	画面亀裂・剥落、縁木欠損	解体・本紙裏打ち・下地新調・補彩・縁木新調	修復工房	令和3年9月22日 ～令和4年3月15日
3	八木良太	VINYL(別れの曲)	シリコン型の破損	再制作の上、交換	作家本人	令和4年1月6日 ～2月10日

## 5 所蔵品貸出状況 令和3年度

作家名	作品名	貸出先	展覧会名	貸出期間
ギュスターヴ・クールベ	波	山梨県立美術館、ふくやま美術館、パナソニック汐留美術館	クールベと海	2020.8.31 - 2021.7.2
ウジェーヌ＝ルイ・ブーダン	プレスト、停泊地	山梨県立美術館、ふくやま美術館、パナソニック汐留美術館	クールベと海	2020.8.31 - 2021.7.2
クロード・モネ	アンティーブ岬	山梨県立美術館、ふくやま美術館、パナソニック汐留美術館	クールベと海	2020.8.31 - 2021.7.2
長谷川竹友	霊峰石鎚	町立久万美術館	芸術家のもう一つの顔	2020.12.12 - 2021.4.16
長谷川竹友	印度パンジャブの里	町立久万美術館	芸術家のもう一つの顔	2020.12.12 - 2021.4.16
正岡子規	梅花	松山市坂の上の雲ミュージアム	『坂の上の雲』のひとびと	2021.2.1 - 6.10
尾藤二洲	七言絶句	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2021.2.27 - 2022.3.1
吉田蔵澤	大幹竹	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2021.2.27 - 2022.3.1
三輪田米山	心和得天真	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2021.2.27 - 2022.3.1
下村為山	柳蔭游魚図	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2021.2.27 - 2022.3.1
下村為山	桜に雀之図	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2021.2.27 - 2022.3.1
野間仁根	神々の集い	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2021.2.27 - 2022.3.1
野間仁根	夜々の星	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2021.2.27 - 2022.3.1
村上三島	六言対句 太宗句	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2021.2.27 - 2022.3.1
建畠大夢	白井雨山像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2021.2.27 - 2022.3.1
土井要輔	子規坐像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2021.2.27 - 2022.3.1
楨江山	義農作兵衛像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2021.2.27 - 2022.3.1
佐々木二六	鐘馗	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2021.2.27 - 2022.3.1
横江嘉純	秋山大将騎馬像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2021.2.27 - 2022.3.1
秋山好古	達磨図	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2021.2.27 - 2022.3.1
正岡子規	俳句分類初稿本(五月雨)	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2021.2.27 - 2022.3.1
河崎蘭香	美人観桜廻図(寄託作品)	八幡浜市美術館	八幡浜が生んだ夭折の美人画家 河崎蘭香展	2021.4.21 - 5.20
河崎蘭香	小女春遊廻図(寄託作品)	八幡浜市美術館	八幡浜が生んだ夭折の美人画家 河崎蘭香展	2021.4.21 - 5.20
河崎蘭香	和楽之図(寄託作品)	八幡浜市美術館	八幡浜が生んだ夭折の美人画家 河崎蘭香展	2021.4.21 - 5.20
河崎蘭香	芙蓉に鶉図(寄託作品)	八幡浜市美術館	八幡浜が生んだ夭折の美人画家 河崎蘭香展	2021.4.21 - 5.20
河崎蘭香	秋菊之図(寄託作品)	八幡浜市美術館	八幡浜が生んだ夭折の美人画家 河崎蘭香展	2021.4.21 - 5.20
河崎蘭香	霜月十五日(寄託作品)	八幡浜市美術館	八幡浜が生んだ夭折の美人画家 河崎蘭香展	2021.4.21 - 5.20
河崎蘭香	双鶏図(寄託作品)	八幡浜市美術館	八幡浜が生んだ夭折の美人画家 河崎蘭香展	2021.4.21 - 5.20
高橋周桑	冬木立	浜松市秋野不矩美術館、田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16

作家名	作品名	貸出先	展覧会名	貸出期間
高橋周桑	鷺	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	柿	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	松と鳥	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	松	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	山	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	富士と松原	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	白木蓮	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	朝顔	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	鉄仙瓶	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	梅	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	濠の月	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	皿の杏	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	雪木立	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	木立	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	林	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	春暁	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	牡丹(寄託作品)	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	夕月(寄託作品)	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	蘭花(寄託作品)	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	桜(寄託作品)	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	水路(寄託作品)	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	三津富士(寄託作品)	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	曙(寄託作品)	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	桃の図(寄託作品)	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	木蓮(寄託作品)	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
高橋周桑	松と桜(寄託作品)	浜松市秋野不矩美術館、 田辺市立美術館	生誕120年 高橋周桑 モダンとロマン	2021.5.19 - 9.16
山本修司	木漏れ日'09	山本修司(愛媛県美術館特別展示室)	第3回日仏文化交流展	2021.6.1 - 6.6
杉浦非水	日本画科写生教室 五月三日	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	臨模帖「縮図 芳章」	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	画帖〔寝ている男他〕	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30

作家名	作品名	貸出先	展覧会名	貸出期間	
黒田清輝	杉浦非水像(非水図案集 発刊二際シテ)(複製)	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
	画帖〔大阪時代〕	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
	画帖〔島根時代〕	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
森脇 忠	〔裸婦〕	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
	画帖〔富士山他〕	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
	『富士山スケッチ』	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(装丁)	饗庭篁村著 『文学叢書 巢林子撰註』	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(装丁)	あやめ会著『あやめ草』	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(装丁)	与謝野晶子著『夢の華』	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(装丁)	巖谷小波編 『日本一ノ画噺』(復刻)	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	『タングラム』	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(装丁)	柳川春葉著 『生さぬなか』中・下	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(装丁)	菊池幽芳著 『百合子』上・中・下	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(装丁)	菊池幽芳、錦木清方著 『百合子画集』上	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(装丁)	柳川春葉著『かたおもひ』 一・二・三巻	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(装丁)	一海軍中佐(水野広徳) 著『戦影』	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(装丁)	田口掬丁著 『ふたおもて』前	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(装丁)	高峰 博著『夢学』	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(装丁)	桜井忠温著『十字路』	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『中学世界』 第十三巻第九号	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	『お伽世界』 第一巻第一号(原画)	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『日曜画報』 第一巻第一号	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『日曜画報』 第一巻第三十九号	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『少年世界』 第十八巻第一号	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『少年世界』 第十八巻第十号	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『台湾愛国婦人』 第四十五巻	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『文章世界』三月号	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『演芸画報』 第七年第一号	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『秀才文壇』 第十三巻第十号	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『女子文壇』 第十巻第六号	島根県立美術館、 三重県立美術館、	たばこと塩の博物館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30

作家名	作品名	貸出先	展覧会名	貸出期間
杉浦非水(表紙)	『ダイヤモンド』 第三巻第八号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『家庭雑誌』 第二巻第一号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『家庭と玩具』 第二巻第一号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『家庭』 二月号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『婦人倶楽部』 第二巻第九号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『現代』 第二巻第四号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『現代』 第二巻第六号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	三越呉服店 春の新柄陳列会	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	三越呉服店 新館落成	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	三越呉服店(エンゼル)	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『三越』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『みつこしタイムス』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	『三越のショール』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	巖谷季雄編『子宝』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	光風会洋画図案展覧会	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	光風会第二回絵画展覧会	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	南満州鉄道株式会社	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	勸業債券売出 九月一日より十日まで	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	勸業債券売だし 十一月 廿日より十二月五日まで	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『ツーリスト』 第十八号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『THE TOURIST』 Vol. X II No. 3	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	翠子宛書簡 明治36年 11月28日-12月3日付	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	写真〔非水と翠子〕	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	スケッチ	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(装丁)	杉浦翠子著 『愛しき歌人の群』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水、翠子	合作色紙	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	非水図案年賀状	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	スケッチ	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	貯蓄は根の如く 平和は花の如し	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	貯蓄は根の如く 平和は花の如し(原画)	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、 三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30

作家名	作品名	貸出先	展覧会名	貸出期間
杉浦非水	美味滋強飲料 カルピス	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	星名刺	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(装丁)	柳川春葉著『かたおもひ』 一・二・三巻	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(装丁)	田口掬丁著 『ふたおもて』前	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『雄弁』第十五巻第五号	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『たかね』第十九号	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	『たかね』第十九号(原画)	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	非水図案絵葉書	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	『非水の図案』	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	『非水一般応用図案集』	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	『非水百花譜』(昭和版)	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	スケッチ〔植物〕	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『アマチュア』 第一巻第一号	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	熱砂(『芸術写真選集』 第一輯所収)	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	絵本(『芸術写真選集』 第一輯所収)	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	二月堂(『芸術写真選集』 第一輯所収)	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『家の光』第三巻第五号	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	奥多摩一景	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	土管の雪	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	大仏	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	ベットのまどゐ	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	〔くらげ〕	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	〔樹氷〕	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	日立電気冷蔵庫	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	〔浅間山噴火〕	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	昭和九年十一月廿四日 新雪の浅間	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	昭和二十二年八月十四日 十二時二十五分位噴火	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(装丁)	杉浦翠子著『生命の波動』	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『短歌至上主義』 第三巻第二号	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30

作家名	作品名	貸出先	展覧会名	貸出期間
杉浦非水	〔潮干狩り〕	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	岐阜長良川鵜飼と納涼	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	佐渡まで海上二時間	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『家の光』第二巻第八号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『現代』第八巻第十二号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『科学知識』第十三巻第六号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『科学知識』第十五巻第四号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	爽快美味滋強飲料 カルピス	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	「カルピス」 徳用壘包紙(青、赤)	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	「カルピス」壘ラベル	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
藤田嗣治	自画像	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
	藤田嗣治肖像写真	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
	旅行鞆	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	ヨーロッパ日記	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	フランス語ノート	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	スケッチ	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
	アルバム (フランス留学時代)	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	ヨーロッパ遊学中に 撮影した写真	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
	非水アルバム帖	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
	アルバム	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	蔵書票 (人魚、飛天)(原画)	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
	収集物 (工芸品、郷土玩具他)	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
	『外国文字集』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
	『名物控帳』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
	スクラップブック (招待券、入場券他)	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
	メニュー	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
	ホテルラベル	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
	非水宛年賀状	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	銀座三越 四月十日開店	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	新宿三越落成 十月十日開店	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30

作家名	作品名	貸出先	展覧会名	貸出期間
杉浦非水(表紙)	『大阪の三越』	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	LETTER TABLET (孔雀)	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	団扇〔青い花〕	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	団扇〔海景〕	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	七人社第二回 創作ポスター展覧会	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	七人社第三回 創作ポスター展覧会	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	SHICHININSHA	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『アフィッシュ』 第一年第一号	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
野村 昇	七人社第十回創作図案展	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
青井辰雄	多摩帝国美術学校第I回 図案科会展覧会	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
	『デセグノ』1	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水、渡邊 素舟共著	『図案の美学』	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水、渡邊 素舟編	『実用図案資料大成 植物資料図案集』上巻	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水、渡邊 素舟編	『世界植物図案資料集成』	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水、渡邊 素舟編	『世界人物図案資料集成』	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	巻一男女共通 幾何学的 単独充填模様(原画)	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	巻三男子巻四女子 風景の図案的表現(原画)	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	ヤマサ醤油	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	古河コッパーペイント	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	東洋唯一の地下鉄道 上野浅草間開通	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	科学の粋をあつめた地下 鉄道 上野浅草間開通	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	科学の力に魂の叫び	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	国の文化は道路から	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	画帖 〔ポスターラフスケッチ他〕	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	『非水創作図案集』	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(装丁)	佐藤紅緑著『第一步』	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(装丁)	エクトル・マロー著(片岡 鉄平訳)『あゝ故郷』	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(装丁)	沖野岩三郎著 『赦し得ぬ悩み』	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『新曲童謡 大風小風』	島根県立美術館、 三重県立美術館、 福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30

作家名	作品名	貸出先	展覧会名	貸出期間
杉浦非水(表紙)	『現代』第六巻第六号	高根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『科学』第二巻第三号	高根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『雄弁』第十五巻第十号	高根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『東京』第一巻第二号	高根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『東京』第二巻第一号	高根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『実業界』第三十四巻第四号	高根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『処女の友』第十巻第五号	高根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	『街』第一巻第一号(原画)	高根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水(表紙)	『むれ星』第二巻第十一号	高根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	エスケーコナ石鯨	高根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	「琥珀ワニス」ラベル	高根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	黎明無風 浅間連作の内	高根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
杉浦非水	雨	高根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2022.6.30
畦地梅太郎	鳥城(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	阿蘇山(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	大正池(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	山(山湖シリーズ)(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	山(山湖シリーズ)(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	山(山湖シリーズ)(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	洪峠の小沼(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	雲海(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	火山のあと(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	雪富士遠望(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	石鎚山(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	槍ヶ岳(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	山男(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	二人の山男(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	親子鳥(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	鳥をいだく(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20

作家名	作品名	貸出先	展覧会名	貸出期間
畦地梅太郎	やまのなかま(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	なみだ(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	かりうとと犬(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	残雪のみち(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	山のある日(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	冬山の像(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	白い流れ(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	山男(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	山の呼ぶ声(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	白い山男(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	赤い帽子(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	樹海をとぶ鳥(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	鳥のよぶ声(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	山の家族(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	よろこびの山(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	山の家族(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
畦地梅太郎	火の山の家族(寄託作品)	畦地梅太郎記念美術館	畦地梅太郎 下絵・版画展 版画の始まりと終わり	2021.7.7 - 11.20
牧田嘉一郎	松山城	五百亀記念館	えひめ的美・伊藤五百亀と 郷土ゆかりの作家展	2021.8.18 - 12.20
塩月桃甫	風景	五百亀記念館	えひめ的美・伊藤五百亀と 郷土ゆかりの作家展	2021.8.18 - 12.20
松原一	ダリア	五百亀記念館	えひめ的美・伊藤五百亀と 郷土ゆかりの作家展	2021.8.18 - 12.20
古茂田公雄	自画像	五百亀記念館	えひめ的美・伊藤五百亀と 郷土ゆかりの作家展	2021.8.18 - 12.20
藤谷庸夫	金扇	五百亀記念館	えひめ的美・伊藤五百亀と 郷土ゆかりの作家展	2021.8.18 - 12.20
藤谷庸夫	F嬢像	五百亀記念館	えひめ的美・伊藤五百亀と 郷土ゆかりの作家展	2021.8.18 - 12.20
北川民次	ロバ	府中市美術館	動物の絵 ふしぎ・かわいい・へそまがり	2021.9.7 - 12.20
小林古径	郊野	府中市美術館	動物の絵 ふしぎ・かわいい・へそまがり	2021.9.7 - 12.20
豊田随可	旭丹頂・月黒鶴 (寄託作品)	府中市美術館	動物の絵 ふしぎ・かわいい・へそまがり	2021.9.7 - 12.20
柳瀬正夢	MV時代	レンバツハハウス美術館(ドイツ)	Group Dynamics - Collectives of the Modernist Period	2021.9.16 - 2022.6.29
中野和高	少女像	徳島県立近代美術館	子どもどころ	2021.9.18 - 12.15
古茂田守介	少女	徳島県立近代美術館	子どもどころ	2021.9.18 - 12.15

作家名	作品名	貸出先	展覧会名	貸出期間
加倉井和夫	子	徳島県立近代美術館	子どもころ	2021.9.18 - 12.15
正岡子規	河東碧梧桐宛書簡 明治26年1月31日付	松山市立子規記念博物館	子規、俳句革新の道	2021.9.22 - 11.4
遠藤広実	源氏物語図	徳島市立徳島城博物館	住吉派の興隆と阿波の画人たち	2021.10.8 - 11.26
住吉広賢	清少納言・小督局図 (寄託作品)	徳島市立徳島城博物館	住吉派の興隆と阿波の画人たち	2021.10.8 - 11.26
古茂田美津子	サーカスのテント	ミウラート・ヴィレッジ	生誕100年 古茂田美津子展 守介とノスタルジア	2021.11.5 - 2022.2.10
古茂田美津子	街の風景I	ミウラート・ヴィレッジ	生誕100年 古茂田美津子展 守介とノスタルジア	2021.11.5 - 2022.2.10
古茂田美津子	サーカス(2)	ミウラート・ヴィレッジ	生誕100年 古茂田美津子展 守介とノスタルジア	2021.11.5 - 2022.2.10
古茂田美津子	冬日	ミウラート・ヴィレッジ	生誕100年 古茂田美津子展 守介とノスタルジア	2021.11.5 - 2022.2.10
古茂田守介	人物	ミウラート・ヴィレッジ	生誕100年 古茂田美津子展 守介とノスタルジア	2021.11.5 - 2022.2.10
古茂田守介	風景	ミウラート・ヴィレッジ	生誕100年 古茂田美津子展 守介とノスタルジア	2021.11.5 - 2022.2.10
古茂田守介	バレリーナ	ミウラート・ヴィレッジ	生誕100年 古茂田美津子展 守介とノスタルジア	2021.11.5 - 2022.2.10
古茂田守介	枯れた向日葵	ミウラート・ヴィレッジ	生誕100年 古茂田美津子展 守介とノスタルジア	2021.11.5 - 2022.2.10
古茂田守介	干魚と壺	ミウラート・ヴィレッジ	生誕100年 古茂田美津子展 守介とノスタルジア	2021.11.5 - 2022.2.10
古茂田守介	貝がら	ミウラート・ヴィレッジ	生誕100年 古茂田美津子展 守介とノスタルジア	2021.11.5 - 2022.2.10
古茂田守介	バレリーナ	ミウラート・ヴィレッジ	生誕100年 古茂田美津子展 守介とノスタルジア	2021.11.5 - 2022.2.10
古茂田守介	ピーマン	ミウラート・ヴィレッジ	生誕100年 古茂田美津子展 守介とノスタルジア	2021.11.5 - 2022.2.10
古茂田守介	西洋かぼちゃ	ミウラート・ヴィレッジ	生誕100年 古茂田美津子展 守介とノスタルジア	2021.11.5 - 2022.2.10
	『版』第4号	五百亀記念館	棟方志功展 西条市との出会い	2021.12.25 - 2022.4.10
	『版』第7号	五百亀記念館	棟方志功展 西条市との出会い	2021.12.25 - 2022.4.10
尾藤二洲	十四字句	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 - 2023.3.31
吉田蔵澤	墨竹	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 - 2023.3.31
三輪田米山	和歌(手にとらば…)	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 - 2023.3.31
下村為山	枯芭蕉に水仙	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 - 2023.3.31
下村為山	河畔図	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 - 2023.3.31
野間仁根	ライオンとかぶと虫	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 - 2023.3.31
野間仁根	迷宮物語	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 - 2023.3.31
村上三島	五言対句(花乱似無主…)	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 - 2023.3.31
建昌大夢	白井雨山像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 - 2023.3.31
土井要輔	子規坐像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 - 2023.3.31

作家名	作品名	貸出先	展覧会名	貸出期間
楨江山	義農作兵衛像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 - 2023.3.31
佐々木二六	鐘馗	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 - 2023.3.31
横江嘉純	秋山大将騎馬像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 - 2023.3.31
秋山好古	達磨図	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 - 2023.3.31
正岡子規	俳句分類初稿本(五月雨)	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 - 2023.3.31
八木彩霞	石手川堤 夏	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	石手川堤防 雪の朝	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	海老	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	面河溪	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	観音像	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	鯉	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	睡蓮	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	雪中の猛虎	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	瀬戸の船	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	鯛	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	ダゲール街のアトリエ	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	十勝の牧場	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	薔薇	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	薔薇	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	牡丹	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	ライオン	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	裸婦 グランシヨミエール	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	鯉の滝登り	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
	パリにて(八木彩霞、藤田嗣治、石黒敬七)	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	森永ミルクキャラメル 図案他	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	明治天皇肖像(写真)	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10

下記のテーマで調査研究を行った。

### 土居聡朋 学芸課長

テーマ：中世伊予の地域史研究、中世～近代の書・古文書の研究、愛媛県の社会教育史

内 容：

#### 【中世伊予の地域史研究】

当館に寄託されている国指定重要文化財「忽那家文書」の文書様式や内容等について調査研究を行った。

#### 【中世～近代の書・古文書の研究】

寄贈申し出のあった藤原定家「明月記」断簡や夏目漱石書等、上田青邨収集資料の調査研究を行い、その成果を「研究紀要」19号にて公開した。

#### 【愛媛県の社会教育史】

主に行政資料を中心に愛媛県立美術館創設時の県・県議会・関係団体の動向を考察し、その成果を『1970⇔2020 未来へ 愛媛県立美術館設立50周年記念展』図録中の論考として公開した。

### 長井健 専門学芸員・担当係長

テーマ：三輪田米山の調査研究、杉浦非水と日本のアール・デコ

内 容：

#### 【三輪田米山の調査研究】

令和3年度企画展「生誕200年 三輪田米山展」開催に向けて、県内外の米山作品調査を行い、その成果を展覧会および図録にて発表した。

#### 【杉浦非水と日本のアール・デコ】

杉浦非水が近代日本のグラフィックデザイン創成期に果たした役割を検証し、特に、渡欧経験により得たヨーロッパのデザインの様式と理念を、どのように日本に紹介して、いわば「日本のアール・デコ」が展開していったかの調査研究を行った。また、令和3年度より全国巡回する「杉浦非水 時代をひらくデザイン」展の全体監修を担当し、出品交渉や展示構成等の準備を行った。

### 鈴木有紀 専門学芸員・担当係長

テーマ：「対話型鑑賞」を応用した常設展示の研究

内 容：

#### 【対話を軸とした常設展示活動の研究】

平成27年度～30年度まで実施したえひめ「対話型授業」プロジェクトで得た知見をもとに、常設展示室内で「対話的」な展示について実践・模索した。

### 高木学 教育専門員

テーマ：美術作品への関心を高めるセルフガイドの活用について

内 容： 展示作品について興味を持って鑑賞できるツールとしてのセルフガイドについて調べた。対象とする年齢に応じて発問や活用方法を変えるなど、作品に興味に向かうような工夫があり、それらを参考に小中学校向けに、展示作品と学習内容を結び付けることができる内容のチラシを作成した。今後は、一つ一つの作品を深く鑑賞することのできるセルフガイドの作成を行いたい。

#### 田代亜矢子 専門学芸員

テーマ：視覚に頼らない鑑賞方法（触図・対話）について、アートカードゲームについて

内 容：

##### 【視覚に頼らない鑑賞方法について】

コレクショントークプラスとして対話型鑑賞法を基礎に、ナビゲーター2名体制での鑑賞を2か月に一回のペースで実施しながら、改善試行を繰り返している。また、2.5D印刷を得意とする株式会社佐川印刷と共同で作品図版を分版した触図制作を行った。

##### 【アートカードゲームについて】

アートカードゲーム100の作成に向け、所蔵作品より作品選定、遊び方を検討した。

#### 石崎三佳子 専門学芸員

テーマ：「みることを考える」取り組み、リモートイベント

内 容：

##### 【「みることを考える」取り組み】

コレクション展において、音をテーマに音に関わる作品紹介や音を意識した作品鑑賞を促す展示を行うとともに、手で触ることのできる素材ツールを設置し、視覚以外の感覚を意識した美術の楽しみ方を試行した。併せて、コレクション展に合わせたワークショップを実施した。

##### 【リモートイベント】

県外在住の郷土作家をリモートでつなぎ、自身の作品や制作について語っていただくアーティストトークを開催するにあたり、作家の選定、リモートイベントの方法について検討した。

#### 武田信孝 専門学芸員

テーマ：欧米と日本を中心とした近現代美術史

内 容： 令和3年度企画展「ミレーから印象派への流れ」の開催にあたり、会場掲示用のコラム「モネとジヴェルニー」の原稿を執筆した。音声ガイド原稿の校閲を行った。加えて、同展関連行事として、「企画展プレビュー」と題し土曜講座の講義を2回行い、ショート・レクチャー「ミレーの芸術」の講師を9回務め、同展を観覧する団体（愛媛大学教育学部配当科目「西洋美術史」履修者及び担当教員）対象の講座の講師を1回務めた。

令和3年度特別展「HELLO! えひめの企業アートコレクション ひろがる美のかたち」の開催にあたり、会場掲示用の解説9件（西洋近代彫刻、日本近代洋画、日本現代工芸）の原稿を執筆した。

#### 杉山はるか 専門学芸員

テーマ：水木しげる研究、県内企業コレクションについて、県ゆかりの現代作家について

内 容：

##### 【水木しげる研究】

水木しげる展の実施に際し、その作品を中心に作家の生涯を研究し、講座を実施した。

##### 【県内企業コレクションについて】

企業コレクション展の開催に際し、各企業のコレクションを調査の上、展覧会を構成し、リーフレットを作成した。

##### 【県ゆかりの現代作家に関する調査研究】

県ゆかりの作家についての調査研究。本県出身の書家・紫舟の複製版画刊行に添える文章を執筆した。

## 五味俊晶 学芸員

テーマ：平等院所蔵品の調査、松本仙拳や矢野橋村を始めとする愛媛県に関わりの深い日本画家の作品調査、デザイン史に関する調査研究

内 容：

### 【平等院所蔵品の調査】

「平等院鳳凰堂と浄土院」展の実施に際し、平等院の所蔵作品を調査し、展覧会の開催につなげた。また新規作成した図録において作品解説を行った。

### 【松本仙拳や矢野橋村を始めとする愛媛に関わりの深い日本画家の作品調査】

愛媛県にゆかりの深い日本画家についての調査を行い、コレクション展「かわいい展」のなかで紹介した。また、『研究紀要』20号において松本仙拳と矢野橋村についての論考を発表した。

### 【デザイン史に関する調査研究】

日本のデザイン史やイラストレーションに関する調査研究を行い、令和3年度より全国巡回する「杉浦非水 時代をひらくデザイン」展の図録に論考を掲載した。

## 青木朋子 学芸員

テーマ：杉浦非水コレクションの分析

内 容： 当館所蔵の杉浦非水の日記や画帳に残る文章について研究し、『研究紀要』20号において論考を発表した。また、令和3年度より全国巡回する「杉浦非水 時代をひらくデザイン」展の図録にも論考を掲載した。

## V 教育普及事業

### 1 普及啓発事業

#### (1) 連続講座

##### ①はじめましてのコレクション

一藤原定家、夏目漱石、都路華香など

内 容 新収蔵品の上田星邨コレクションを書跡と絵画に分けて解説した。

講 師 土居聡朋学芸課長、長井健担当係長

日 時 6/5 (土)・7/3 (土) 各14:00~15:30

受講人数 延 44 名 (募集対象 一般 30名)

##### ②水木しげるのゲゲゲの人生

内 容 企画展に即し、水木しげるの誕生から漫画家への道について解説した。

講 師 杉山はるか専門学芸員

日 時 7/24 (土)・8/21 (土) 各14:00~15:30

受講人数 36 名 (募集対象 一般 30名)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため2回目は中止。

#### (2) レクチャー

##### ①畦地梅太郎と愛媛の山

内 容 コレクション展に関連し、畦地梅太郎と愛媛の山と題し解説した。

講 師 杉山はるか専門学芸員

日 時 10/30 (土) 14:00~15:30

受講人数 15 名 (募集対象 一般 60名)

##### ②戦国時代 河野氏の肖像画について

内 容 松山にかつて伝わっていた戦国時代河野氏の肖像画の像主比定や描かれた数について解説した。

講 師 土居聡朋学芸課長

日 時 11/27 (土) 14:00~15:30

受講人数 12 名 (募集対象 一般 60名)

##### ③数えて考える日本美術一百福の系譜

内 容 複数個から構成される美術作品を紹介しつつ、日本美術が内包する複数性の重要性について解説した。

講 師 五味俊晶学芸員

日 時 12/11 (土) 14:00~15:30

受講人数 30 名 (募集対象 一般 60名)

##### ④非水さんとその仲間たち

内 容 杉浦非水の日記や年賀状をもとに交友関係について解説を行った。

講 師 青木朋子学芸員

日 時 1/15 (土) 14:00~15:30

受講人数 6 名 (募集対象 一般 60名)



### ⑤俳文学と美術

内 容 正岡子規の写生論を軸に、近代における俳文学と美術の相互関係について解説した。

講 師 長井健担当係長

日 時 2/5 (土) 14:00~15:30

受講人数 10名 (募集対象 一般 60名)

### (3) ワークショップ

#### ①みることを考える

内 容 視覚以外の感覚も働かせながらいろいろな角度で「みる」ことを試した。

<音と楽しむ>

作品から聞こえてくる音を拾い集め、その音と結びつく作品を探すゲームを行った。また、八木良太《VINYL》(氷のレコード)を実演した。

<コレクショントークplus plus>

アイマスクや触図(絵画の構図を凹凸で表したもの)、会話を用いて、作品鑑賞を楽しんだ。

講 師 石崎三佳子専門学芸員・田代亜矢子専門学芸員・高木学教育専門員

日 時 10/23 (土)、12/4 (土) 各14:00~15:30

参加人数 延 19名 (定員 12名)



#### ②じっくり軸JIKU

内 容 掛軸を見て、巻いて、楽しんだ。

講 師 鈴木有紀担当係長

日 時 2/26 (土) 14:00~15:30

参加人数 6名 (定員 12名)

### (4) 親子ワークショップ

簡単に制作できるキットを使って、参加者だけでできる講座を行った。

時 間 各13:00~14:00、14:00~15:30

募集対象 各2組 (一般の方、1名の参加可)

#### ①ポリ袋でミニポーチ

内 容 ポリ袋をアイロンで貼り合わせて、小さな小物入れをつくった。

担 当 石崎三佳子専門学芸員

日 時 4/4、11、18、25 各日曜日

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、18日、25日は中止。

参加人数 延 26名



#### ②竹で音を出そう

内 容 竹が出す音を楽しみながら、打楽器をつくる。

担 当 田代亜矢子学芸員

日 時 5/2、9、16、23、30 各日曜日

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

③傘にペイントしよう

内 容 ビニールに塗ることのできる絵の具を使って、雨の日  
に楽しむ傘を作った。

担 当 高木学教育専門員

日 時 6/6、13、20、27 各日曜日

参加人数 延 42 名



④ダンボール・モビール

内 容 夏をイメージしたダンボール型にお絵かきして、モビ  
ールに組み立てた。

担 当 田代亜矢子専門学芸員

日 時 7/4、11、18、25 各日曜日

参加人数 延 38 名



⑤木っ端でスタンプ

内 容 木っ端のスタンプを使ってオリジナルエコバックを作  
った。

担 当 鈴木有紀担当係長

日 時 8/1、8、15、22、29 各日曜日

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、15日以降は中  
止。

参加人数 延 21 名



⑥石ころアート ～不思議ないきものづくり～

内 容 石に目や足など、いろいろなパーツを付けて、オリジ  
ナルのいきものをつかった。

担 当 高木学教育専門員

日 時 9/5、12、19、26 各日曜日

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。



⑦はじき絵でクリスマスツリー

内 容 クレヨンが絵の具をはじくことを使った『はじき絵』  
で紙のクリスマスツリーをつかった。

担 当 高木学教育専門員

日 時 11/7、14、28 各日曜日

参加人数 延 29 名

⑧めかくしスケッチ

内 容 美術館の絵を「ヒント」にイメージして絵を描き、最  
後に展示室で絵を探した。

担 当 鈴木有紀担当係長

日 時 1/9、16、23 各日曜日

参加人数 延 13 名



⑨折り染めに挑戦

内 容 和紙4枚を三角形や四角形に折ってできた角や線に染料で染めて、模様をつけた。  
担 当 田代亜矢子専門学芸員  
日 時 2/13、20、27 各日曜日  
参加人数 延 16 名



⑩小さなうつつわをつくろう

内 容 粘土で植木鉢、小物入れなど小さなうつつわをつくった。  
担 当 石崎三佳子専門学芸員  
日 時 3/13、20、27 各日曜日  
参加人数 延 20 名



(5) 土曜講座

内 容 学芸員の調査・研究活動の成果や日々の美術館での活動について紹介する。  
講 師 当館学芸課職員  
日 時 土曜日 各14:00～(他のイベント開催時は休止)  
参加人数 延 95 名(開催回数 6回)

No.	開 催	講 座 名	講 師	
1	4/10	革タグをつくろう	高 木 学	*
2	4/17	ピンホール写真を体験しよう	田代亜矢子	*
3	5/29	最後まで藍液から色を取り出そう!	田代亜矢子	*
4	6/19	令和2年度新収蔵品展より	杉山はるか	
5	6/26	フラワーペーパーで睡蓮をつくろう	高 木 学	
6	7/3	企画展プレビュー	武田 信孝	
7	7/10	企画展プレビュー	武田 信孝	
8	7/17	美術館におばけを描こう	高 木 学	
9	8/7	美術館におばけを描こう	高 木 学	
10	8/28	ポリ袋でミニポーチ	石崎三佳子	*
11	9/4	『非水百花譜』の世界	長井 健	*
12	9/11	みる・考える・話す・聴く ―木版画の森探検―	鈴木 有紀	*
13	9/18	日本美術に見る「かわいい」	五味 俊晶	*
14	9/25	みる、よむ忽那家文書 ―中世瀬戸内海の世界―	土居 聡朋	*

※\*は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

(6) コレクショントーク

内 容 所蔵作品を対話型鑑賞で楽しむワークショップ。コロナ感染対策のため研修室にてスライドで実施。  
ファシリテーター 当館学芸員・当館作品ガイドボランティア  
日 時 4/4 (日) 6/6 (日) 30 (水) 7/7 (水) 16 (金) 25 (日) 8/1 (日) 11 (水)  
9/8 (水) 17 (金) 26 (日) 10/6 (水) 24 (日) 11/3 (水) 12 (金) 21 (日) 12/1 (水)  
12 (日) 1/9 (日) 19 (水) 28 (金) 2/6 (日) 23 (水) 3/4 (金) 13 (日) 23 (水)  
各14時～15時  
参加人数 延 289 名 (開催回数 26回)

## (7) コレクショントーク+

内 容 見える人も見えない人も一緒に作品鑑賞を楽しむワークショップ。コロナ感染対策のため研修室にてスライドで実施。

ファシリテーター 当館学芸員・当館作品ガイドボランティア

日 時 6/18 (金) 10/15 (金) 12/17 (金) 2/18 (金) 各14時～15時30分

参加人数 延 62 名 (開催回数 4回)

## 2 創作活動支援事業

### (1) アトリエの設置

創作活動ができる場として、アトリエ1 (版画全般)、アトリエ2 (染織、木工、写真等) を設置し、県民に開放している。

#### アトリエ利用状況

(単位：開館日数以外は人)

区 分	開室日数	利用人数			計
		アトリエ1	アトリエ2	アトリエひろば	
4月	20	21	53	0	74
5月	0	0	0	0	0
6月	26	49	103	0	152
7月	27	47	285	0	332
8月	26	23	75	0	98
9月	26	31	27	0	58
10月	27	64	83	0	147
11月	25	48	123	0	171
12月	24	37	61	0	98
1月	23	39	53	0	92
2月	24	22	70	0	92
3月	26	25	82	0	107
計	275	406	1,015	0	1,421
1日平均		1.5	3.6	0	5.2

※アトリエひろばの開設は感染防止のため中止

※4月24日～5月31日は新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館

### (2) 創作学習の支援

アトリエ等での創作活動を行うにあたって、制作方法や技法などについて相談にのり、アドバイスを行った。また、アトリエの利用促進のため、下記の事業を開催した。

#### ①アトリエ教室

初めてアトリエを利用する方に、利用者の要望に対応した基本的な機材の使い方や制作手順を指導するワークショップを開催した。

日 時 アトリエ1 (版画) 第1・3水曜日・土曜日

アトリエ2 (多目的) 第2・4水曜日・土曜日

種 目 シルクスクリーン、銅版画、ポリエステルフィルム・リトグラフ、ドライポイント、紡ぎ、染め (インド藍・草木染め)、フェルト、おひさま写真など

対 応 者 高木学教育専門員・石崎三佳子専門学芸員・田代亜矢子専門学芸員

参加人数 延 120 名 (開催回数 41回)

## ②夏休みイベント

夏休み版 親子ワークショップ

「うちわにコラージュしよう！」

うちわに色紙や雑誌の切り抜きを貼り付けて、オリジナルのうちわを作った。

「異なるものオブジェ」

石や流木に針金で手足をつけて、不思議な生き物を作った。

日 時 7/22 (木・祝) ・23 (金・祝)

①10:30～、②11:15～、③13:00～、④13:45～、

⑤14:30～ (所要時間30分程度)

参加人数 延 122 名 (定員 各5組)



## 3 美術情報関係事業

### (1) 美術館情報発信

#### ①ホームページ、SNSでの情報発信

美術館の概要、展覧会や講座の案内などを紹介している。 (<https://www.ehime-art.jp/>)

#### ②年間予定表「みるん・するん」

みるん (展覧会スケジュール) ・するん (教育普及プログラム) を掲載したイベントスケジュールを半期毎に変形6折れで、各10,000部発行した。

#### ③美術館ニュース「Canforo (カンフォロ)」の発行

第62号 (令和3年7月)、第63号 (令和4年2月) をA4版、4頁で各2,000部刊行した。



【第62号】



【第63号】

#### ④メールマガジンの配信

メールマガジン「カンフォロ」を月1回配信している。

### (2) 美術情報の提供

#### ①美術館情報図書コーナーの設置

新館1階に美術情報図書コーナーを開設、一般の利用に役立てている。

収蔵図書数 計44,179冊 (閉架を含む)

#### ②DVD上映ブース

美術情報図書コーナー内に2台のDVD上映ブースを設置し、希望者が視聴できる。

上映DVD数 計46番組

#### 4 他機関との連携事業

##### (1) 館内プログラム

美術館活用を希望する団体からの研修依頼に応え、当館学芸員及び職員が講師を務めた。

##### ①教員研修の受け入れ

	研修名	日時	対象者	人数	研修内容
1	松山市教育センター 「課題別実践力 向上セミナー」	8/6(金) 9:40~12:00	小中学校教諭	9	対話型鑑賞
合計				9	

##### ②学校団体の受け入れ

##### ア 職場体験の対応

	研修名	日時	対象者	人数	研修内容
1	松山市立日浦中学校	10/20(水)~22(金) 9:30~15:00	中学2年生	1	施設見学、展示室のひみつ探し、 収蔵庫清掃、館内WS補助等
2	松山市立鴨川中学校	11/10(水)~12(金) 9:30~15:00	中学2年生	4	施設見学、展示室のひみつ探し、 プロムナード補助、対話型鑑賞等
3	松前町立松前中学校	11/16(火)・17(水) 9:30~15:00	中学2年生	4	施設見学、開館記念日準備、展 示室のひみつ探し、WS準備等
合計				9	

##### イ 体験学習の受け入れ

学校団体等の要望により、アトリエでの創作体験学習の対応をした。

※人数の( )は引率者数

	学校名	日時	対象者	人数	活動内容
1	(株)石原スポーツクラブ 学童保育いまなび塾	4/7(水) 10:00~12:00	小学生	21 (2)	展覧会鑑賞 創作体験「大きな風船」
2	第一高等学院	6/17(木) 13:00~15:00	高校生	10 (1)	レジ袋からエコバック
3	道後みらいクラブ	7/3(土) 10:00~16:00	未就学児親子	70	藍染体験
4	KTCおおぞら高等学院 (リモート対応)	7/5(月) 11:20~12:10	高校生	50 (1)	美術館・学芸員について
5	NPO法人いよ ココロザシ大学	8/11(水) 13:30~15:00	小学生	43 (3)	対話型鑑賞
6	だんだん	8/12(木) 10:00~13:00	小学生	18 (4)	創作体験「おひさま写真」
7	松山ビジネスカレッジ	10/4(月) 9:40~16:20	専門学生	4 (1)	シルクスクリーン体験
8	愛光学園	10/21(木) 9:40~14:30	中学生	220 (11)	展覧会鑑賞 対話型鑑賞
9	KTCおおぞら高等学院	11/18(木) 13:00~14:30	高校生	3 (2)	レジ袋でエコバック
10	福山市視覚障害者 地域活動支援センター	12/6(月) 11:00~12:00	障がい者 施設職員	26	コレクショントーク+
合計				465 (25)	

ウ 展覧会観覧受け入れ

展 覧 会 名		児 童 ・ 生 徒 数					合 計
		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	大学・ 専門学校 特別支援 学校等	
1	名刀は語る（コロナ対策により中止・延期）						
2	ミレーから印象派への流れ	2校		3校	1校		6校
		60名		260名	146名		466名
3	追悼水木しげる展 ゲゲゲの人生展		1校	1校	2校		4校
			64名	215名	27名		306名
4	生誕200年三輪田米山展		4校	3校	32校		39校
			237名	326名	394名		957名
5	平等院鳳凰堂と浄土院 その美と信仰		2校	5校	26校	1校	34校
			104名	322名	281名	16名	723名
6	特別展 えひめの企業 アートコレクション			2校			2校
				305名			305名
7	コレクション展		7校	11校	62校	2校	82校
			405名	1428名	1134名	58名	3,025名
合 計		2校	14校	25校	123校	3校	167校
		60名	810名	2,856名	1,982名	74名	5,782名

③令和3年度 愛媛県インターンシップ

愛媛県インターンシップの受け入れを行った。

実習期間 8/19（木）～23（月） 各9：30～18：00

松山大学

実習生 1名（新型コロナウイルス感染症拡大防止により愛媛大学1名キャンセル）

(2) 館外プログラム

施設や団体等の美術に関する事業依頼に応じ、当館学芸員及び職員を派遣した。

【講義・レクチャー】

①「愛媛県美術館コレクションによるおでかけ美術館」講演会

内 容 愛媛県美術館のコレクション

日 時 6/13（日） 14：00～15：30

場 所 五百亀記念館

講 師 長井健担当係長

参加人数 30 名

②黒潮町対話型授業研究会／黒潮町教育委員会（各小中学校教職員・教育委員会職員）

内 容 対話型鑑賞を用いた出前授業及び講話・助言『対話的授業とは～子どもの考えを引き出し、対話をつなげる手法～』

日 時 6/23（水） 14：30～16：40

場 所 黒潮町立入野小学校

講 師 鈴木有紀担当係長

参加人数 31 名

③松山市立垣生小学校4年4組（図画工作科 対話型鑑賞）の授業

内 容 図画工作科 対話型鑑賞の授業  
日 時 7/1（木） 9：00～10：00  
場 所 松山市立垣生小学校  
講 師 鈴木有紀担当係長  
参加人数 24 名

④企画展「杉浦非水 時代をひらくデザイン」記念講演会

内 容 杉浦非水が目指したもの：その生涯と仕事  
日 時 7/24（土） 14：00～15：30  
場 所 島根県立石見美術館  
講 師 長井健担当係長  
参加人数 25 名

⑤オリーブ学級／西条市神拝公民館

内 容 絵画鑑賞初心者向けの対話型鑑賞  
日 時 7/28（水） 10：00～11：30  
場 所 神拝公民館  
講 師 鈴木有紀担当係長  
参加人数 中止

⑥東予コミュニティ・カレッジ「愛媛の博物館・研究機関講座」／愛媛県生涯学習センター

内 容 広重が描いた「伊予西條」を読む  
日 時 7/30（金） 13：30～15：30  
場 所 愛媛県総合科学博物館  
講 師 土居聡朋学芸課長  
参加人数 30 名

⑦黒潮町対話型授業研究会／高知県黒潮町教育委員会

内 容 1学期の振り返り・実践交流及び助言  
日 時 8/3（火） 15：00～16：45  
場 所 黒潮町役場  
講 師 鈴木有紀担当係長  
参加人数 12 名

⑧坂の上の雲ミュージアム連続講座「近代国家とは何か」

内 容 近代洋画について  
日 時 8/14（土） 14：30～16：00  
場 所 松山市坂の上の雲ミュージアム  
講 師 青木朋子学芸員  
参加人数 13 名

⑨鬼北町研修主任委員会／鬼北町教育委員会、鬼北町教育振興会、鬼北町研修主任委員会

内 容 根拠を持って自分の意見が言える子どもの育て方-2学期から使える対話型鑑賞-  
日 時 8/17（火） 13：30～15：30  
場 所 鬼北町立三島小学校  
講 師 鈴木有紀担当係長  
参加人数 コロナ禍により中止

⑩八幡浜市教頭会出前鑑賞ワークショップ／八幡浜市教育委員会

内 容 対話力を高めるための絵画作品鑑賞ワークショップの実施、指導者のファシリテーターとしての役割の伝授 等  
 日 時 10/1 (金) 14:45～15:45  
 場 所 八幡浜市保内庁舎 3F大会議室  
 講 師 鈴木有紀担当係長  
 参加人数 22 名

⑪第59回広島県造形教育研究大会 記念講演『教えない授業』に載せきれなかったこと

内 容 著書「教えない授業」～美術館発「正解のない問い」に挑む力の育て方  
 日 時 10/15 (金) 8:40～12:40  
 場 所 福山市立桜丘小学校  
 講 師 鈴木有紀担当係長  
 参加人数 中止

⑫「杉浦非水 時代をひらくデザイン」記念講演会

内 容 杉浦非水が目指したもの：その生涯と仕事  
 日 時 10/17 (日) 14:00～15:30  
 場 所 たばこと塩の博物館  
 講 師 長井健担当係長  
 参加人数 40 名

⑬課題別研修「【小・図画工作】新学習指導要領を踏まえた図画工作の授業づくり」

内 容 「対話型鑑賞の考え方と基本スキルについて」「ナビゲーションの実践」  
 日 時 10/19 (火) 13:10～16:00  
 場 所 愛媛県総合教育センター  
 講 師 鈴木有紀担当係長  
 参加人数 4 名

⑭松蔭小学校職員研修

内 容 「絵画作品鑑賞ワークショップ」～指導者のファシリテーターとしての役割～  
 日 時 10/20 (水) 15:15～16:30  
 場 所 八幡浜市立松蔭小学校  
 講 師 鈴木有紀担当係長  
 参加人数 14 名

⑮坂の上の雲ミュージアム連続講座「松山」

内 容 中世の伊予松山研究最前線  
 日 時 10/23 (土) 14:30～16:00  
 場 所 松山市坂の上の雲ミュージアム  
 講 師 土居聡朋学芸課長  
 参加人数 20 名

⑯課題別研修「【中・美術、県立・芸術】新学習指導要領を踏まえた図画工作の授業づくり」

内 容 「対話型鑑賞の考え方と基本スキルについて」「ナビゲーションの実践」  
 日 時 10/26 (火) 13:10～16:00  
 場 所 愛媛県総合教育センター  
 講 師 鈴木有紀担当係長  
 参加人数 3 名

⑰出前鑑賞ワークショップ（2・4・6年児童及び教職員）

内 容 児童の対話力を高めるための絵画作品鑑賞ワークショップの実施、指導者のファシリテーターとしての役割の伝授 等  
日 時 10/27（水） 10：20～14：30  
場 所 八幡浜市立白浜小学校  
講 師 鈴木有紀担当係長・作品ガイドボランティア  
参加人数 70 名

⑱伊予史談会 令和3年11月例会

内 容 愛媛における三輪田米山評価・顕彰の趨勢  
日 時 11/7（日） 9：30～12：00  
場 所 愛媛県生活文化センター  
講 師 長井健担当係長  
参加人数 30 名

⑲町立久万美術館イベント「アート茶話」

内 容 座談会形式の教育普及活動「三輪田米山展について」  
日 時 11/7（日） 14：00～15：00  
場 所 町立久万美術館  
講 師 長井健担当係長  
参加人数 14 名

⑳出前鑑賞ワークショップ

内 容 児童の対話力を高めるための絵画作品鑑賞ワークショップの実施、指導者のファシリテーターとしての役割の伝授等  
日 時 11/10（水）、2/17（木） 各10：20～14：20  
場 所 八幡浜市立白浜小学校  
講 師 鈴木有紀担当係長・作品ガイドボランティア  
参加人数 各 169 名

㉑中予コミュニティ・カレッジ「愛媛の博物館講座」／愛媛県生涯学習センター

内 容 三輪田米山の書、その魅力について  
日 時 11/18（木） 13：30～15：30  
場 所 愛媛県美術館  
講 師 長井健担当係長  
参加人数 23 名

㉒黒潮町対話型授業研究会／黒潮町教育委員会

内 容 対話型鑑賞を用いた出前授業及び講話・助言『対話的授業とは～子どもの考えを引き出し、対話をつなげる手法～』  
日 時 11/18（木） 14：30～16：35  
場 所 黒潮町立入野小学校  
講 師 鈴木有紀担当係長  
参加人数 31 名

㉓図画工作科（対話型鑑賞）の授業

内 容 第4学年 図画工作科（対話型鑑賞）の授業  
日 時 12/8（水）3/15（火） 11：15～12：00  
場 所 愛南町立一本松小学校  
講 師 鈴木有紀担当係長  
参加人数 23 名

②4 図画工作科（対話型鑑賞）の授業

内 容 3 学年図画工作科（対話型鑑賞）の授業  
 日 時 12/8（水） 13：25～14：10  
 場 所 愛南町立平城小学校  
 講 師 鈴木有紀担当係長・作品ガイドボランティア  
 参加人数 44 名

②5 対話型鑑賞

内 容 対話型鑑賞（3 年生・5 年生）  
 日 時 12/9（木） 10：25～12：00、  
 1/27（木）・2/25（金）・3/14（月） 11：15～14：25  
 場 所 八幡浜市立松蔭小学校  
 講 師 鈴木有紀担当係長  
 参加人数 40 名

②6 トークセッション 苦難を乗り越え、時代を駆け抜けた 愛媛県出身の三人の偉人  
 一八木彩霞×重見周吉×和田重次郎／和田重次郎顕彰会事務局

内 容 トークセッション講師  
 日 時 12/12（日） 13：00～15：00  
 場 所 愛媛県美術館 講堂  
 講 師 長井健担当係長  
 参加人数 60 名

②7 出前鑑賞ワークショップ

内 容 児童の対話力を高めるための絵画作品鑑賞ワークショップの実施、指導者のファシリテーターとしての役割伝授等  
 日 時 12/15（水）、2/17（木） 各10：20～14：20  
 場 所 八幡浜市立白浜小学校  
 講 師 鈴木有紀担当係長・作品ガイドボランティア  
 参加人数 各 169 名

②8 「杉浦非水 時代をひらくデザイン」記念講演会

内 容 杉浦非水が目指したもの：その生涯と仕事  
 日 時 1/16（日） 14：00～15：30  
 場 所 三重県立美術館  
 講 師 長井健担当係長  
 参加人数 55 名

②9 心のバリアフリーシンポジウム「アートと障がい者福祉はなぜ融合してこなかったのか」／  
 「とうおんアート・ラボ」実行委員会

内 容 愛媛県美術館における視覚障がい者の鑑賞活動補助の取り組みについて  
 日 時 2/11（金） 16：00～18：00  
 場 所 東温アートヴィレッジセンター・アトリエNEST  
 講 師 石崎三佳子専門学芸員  
 参加人数 41 名

③0 黒潮町対話型授業研究会／黒潮町教育委員会

内 容 一年間の振り返り・まとめ  
 日 時 3/10（木） 15：30～16：40  
 場 所 黒潮町役場  
 講 師 鈴木有紀担当係長  
 参加人数 12 名

③美術館博物館委員会東西合同シンポジウム「美術史が生まれる現場から」発表報告／美術史学会

内 容 杉浦非水コレクション—収集と活用の25年  
日 時 3/12 (土) 13:00~17:00  
場 所 オンライン形式  
講 師 長井健担当係長  
参加人数 約 100 名

【ワークショップ】

①西条市中公民館「けんぴワークショップ」

内 容 対話型鑑賞、新聞紙で遊ぼう、竹の楽器作り、藍染め体験、など  
日 時 6/12 (土)、6/26 (土)、7/17 (土)、10/30 (土)、11/13 (土)、12/18 (土)、  
1/15 (土)、3/5 (土) 各9:30~11:00  
※3月は、コロナ感染症対策のため材料、使用書にて個々で創作  
場 所 西条市中央公民館  
講 師 鈴木有紀担当係長、石崎三佳子専門学芸員、田代亜矢子専門学芸員、青木朋子学芸員、高木学  
教育専門員  
参加人数 のべ 233 名

②惣開校区連合自治会「令和2年度惣開小学校 プリンセス&プリンス教室」

内 容 新聞紙で遊ぼう・絵の具で遊ぼう  
日 時 8/6 (金) 10:00~14:30  
場 所 惣開公民館  
講 師 石崎三佳子専門学芸員、田代亜矢子専門学芸員  
参加人数 のべ 65 名

③松山市立北条南中学校 文化祭

内 容 コラグラフ  
日 時 10/31 (日) 12:55~14:40  
場 所 松山市北条南中学校  
講 師 高木学教育専門員、田代亜矢子専門学芸員  
参加人数 20 名

④SDGsアート・フェスティバル事業／多喜浜小学校1年生

内 容 石ころアート水族館～多喜浜の海の生き物～  
日 時 11/9 (火) 9:30~11:30  
場 所 あかがねミュージアム  
講 師 高木学教育専門員  
参加人数 13 名

⑤まなび推進課「夢まつり」

内 容 竹琴・革タグ  
日 時 11/27・28 (土・日) 27日 10:00~15:30、28日 10:00~14:30  
場 所 県民文化センター  
講 師 鈴木有紀担当係長、石崎三佳子専門学芸員、田代亜矢子専門学芸員、高木学教育専門員  
参加人数 159 名

⑥湯山児童クラブ

内 容 クリスマスツリー  
日 時 12/23 (木) 13:30~15:00  
場 所 第1・3湯山児童クラブ  
講 師 石崎三佳子専門学芸員、田代亜矢子専門学芸員、高木学教育専門員、創作ボランティア  
参加人数 38 名

⑦生涯学習センター「ふれあいフェスタ」

内 容 ちょっと変わった織り体験  
 日 時 2/27（日） 10：30～15：30  
 場 所 愛媛県生涯学習センター  
 講 師 田代亜矢子専門学芸員、石崎三佳子専門学芸員、高木学教育専門員  
 参加人数 70 名

(3) 大学との連携

①令和3年度 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習の受け入れを行った。  
 実習期間 8/2（月）・4（水）～8（日） 各9：30～18：00  
 受入大学 愛媛大学法文学部、広島大学教育学部  
 実 習 生 8 名

②愛媛大学理学部「博物館資料保存論」

学芸員資格取得のための博物館学課程科目の授業を行った。  
 日 時 9/22（水） 13：30～15：30  
 講 師 長井健担当係長・鈴木有紀担当係長  
 参加人数 41 名

(4) 調査・委員・審査・原稿執筆

【調査】

内 容	主催	実施日（期間）	対応者
伊予市内における未指定文化財調査	伊予市教育委員会	2/2（水）	長井健担当係長
「杉浦非水 時代をひらくデザイン」にかかる作品調査（アドミュージアム、地下鉄博物館）	毎日新聞社	3/16（水）～ 3/17（木）	長井健担当係長

【委員】

内 容	主催	実施日（期間）	対応者
史跡河後森城跡調査・整備検討委員会委員	松野町	4/2（金）～ 3/31（木）	土居聡朋学芸課長
ギャラリーしろかわ運営審議会委員	西予市立美術館ギャラリーしろかわ	R 3 4/1（木）～ R 5 3/31（金）	石崎三佳子専門学芸員
松山市文化財保護審議会委員	松山市教育委員会	R 3 4/1（木）～ R 5 3/31（金）	長井健担当係長
松山市社会教育委員	松山市教育委員会	R 3 11/15（月）～ R 5 11/14（火）	長井健担当係長

【審査】

内 容	主催	実施日（期間）	対応者
「水」への絵はがき応募作品の審査	松山市水資源対策課	7/19（月）	高木学教育専門員
「かまぼこ板の絵」展覧会 知事賞選考	文化振興課	7/20（火）	高木学教育専門員
令和3年度愛媛県民総合文化祭総合プログラム表紙原画デザイン選考委員会	文化振興課	8/2（月）	武田信孝専門学芸員
歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール、啓発標語コンクール	愛媛県歯科医師会	9/14（火）	高木学教育専門員
愛媛県薬物乱用防止啓発用ポスター	愛媛県薬務衛生課	9/15（水）	高木学教育専門員
「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間ポスター」の審査会	愛媛県障がい者社会参加推進センター	9/17（金）	高木学教育専門員
緑化キャンペーンポスター原画	（公財）愛媛の森林基金	10/4（月）	高木学教育専門員
障がい者芸術文化祭～愛顔ひろがるえひめの障がい者アート展～	愛媛県障がい者アートサポートセンター	11/26（金）	高木学教育専門員

【原稿執筆】

内 容	掲載誌	執筆者
三輪田米山生誕200年によせて 米山の書	『月刊絵手紙』令和3年4月号～9月号（月刊絵手紙、令和3年4月～9月）	長井健担当係長
連載「アートの宝石箱から」 矢野橋村《柳蔭書堂図》	『愛媛新聞』令和3年4月3日	五味俊晶学芸員
連載「アートの宝石箱から」 高橋周桑《梅》	『愛媛新聞』令和3年4月18日	五味俊晶学芸員
連載「アートの宝石箱から」 下村為山《月下宿鳥図》	『愛媛新聞』令和3年5月1日	五味俊晶学芸員
連載「アートの宝石箱から」 松本奉山《萬翠荘》	『愛媛新聞』令和3年7月3日	青木朋子学芸員
木下恵介個展 リーフレット解説文	木下恵介個展（GALLERY TAGA2、令和3年7月5日）	杉山はるか専門学芸員
連載「アートの宝石箱から」 富岡鉄斎《鮮魚図》	『愛媛新聞』令和3年8月5日	五味俊晶学芸員
第40回愛媛広告賞会報 審査員としてのコメント	『愛媛広告協会報No.85』（愛媛広告協会、令和3年8月20日）	杉山はるか専門学芸員
コロナ禍、続く模索と展開 —展覧会とオンラインコンテンツ	『ZENBI 全国美術館会議機関誌』第20号（全国美術館会議、令和3年9月1日）	長井健担当係長
連載「生誕200年三輪田米山展に寄せて」	『愛媛新聞』令和3年10月9日、16日	長井健担当係長
愛媛県美術館所蔵作品等の解説	2022年版伊予銀行カレンダー（伊予銀行、令和3年11月）	長井健担当係長
連載「アートの宝石箱から」 坪内晃幸《作品》	『愛媛新聞』令和3年11月13日	杉山はるか専門学芸員
連載「平等院鳳凰堂と浄土院 その美と信仰展から」	『読売新聞』令和3年11月19日、20日、22日、23日、24日	五味俊晶学芸員
村上通康・通総—海賊衆から豊臣大名への転身 宇都宮豊綱—喜多郡を支配した伊予宇都宮氏最後の当主	『戦国四国武将列伝』（令和3年12月）	土居聡朋学芸課長
紫舟「吉祥乃花乱舞」2019年制作 版画出版にあたり解説原稿執筆	シルクスクリーン版画 紫舟 吉祥乃花乱舞（共同印刷、令和4年2月8日）	杉山はるか専門学芸員
連載「えひめの企業アートコレクション展より」	『愛媛新聞』令和4年2月19日、26日、3月5日	杉山はるか専門学芸員
連載「アートの宝石箱から」 吉田蔵澤《墨竹図屏風》	『愛媛新聞』令和4年3月12日	長井健担当係長
緑化キャンペーンポスター 原画コンクール審査会の講評	『愛媛の森林第39号』令和4年3月発行	高木学教育専門員

## 5 その他

### (1) 第23回愛媛県美術館開館記念イベント

にぎわいのある美術館づくりを目指し、愛媛県美術館開館記念日である11月27日を多くの方に美術館に親しんでいただく特別な日として祝し、11月21日（日）に各種事業を実施した。

#### ①コレクション展の観覧料無料

時 間 9：40～18：00  
場 所 常設展示室3  
内 容 コレクション展の観覧料が無料になる。  
参加人数 310名

#### ②対話型鑑賞プログラム

時 間 11：00～11：30  
場 所 研修室  
内 容 企画展「三輪田米山展」の関連作品について、対話型鑑賞を行う。  
参加人数 23名

#### ③コレクショントーク

時 間 14：00～15：00  
場 所 研修室  
内 容 当館所蔵作品について、対話型鑑賞を行う。  
参加人数 14名

#### ④《VINYL》氷のレコード実演

時 間 15：15～15：30  
場 所 特別展示室3  
内 容 八木良太氏の氷でできたレコード作品《VINYL》の実演を行う。  
参加人数 23名

#### ⑤親子ワークショップ

時 間 ①10：30～11：15、②13：00～13：45、③14：30～15：15  
場 所 展望ロビー  
内 容 簡単に制作できるキットを使って、参加者だけで創作を行う。  
種 目 ①マラカスをつくろう、②クリスマスツリーの飾りづくり、③ステンシルで年賀状  
材 料 費 ①100円、②150円、③100円  
参加人数 ①16名 ②32名 ③27名

#### ⑥大地は大きな黒板だ！

時 間 11：30～12：00、13：30～14：00  
場 所 美術館前庭  
内 容 石だたみにチョークで大きな絵を自由に描く。  
参加人数 49名

#### ⑦俳句コンテスト —美術館を詠もう—

内 容 企画展展示作品および美術館建物を題材とした俳句を募集する。  
募集期間 10月19日から11月21日  
応募総数 168句  
展示期間 12月28日まで

#### ⑧図録進呈

②③⑤の参加者を対象に過去の展覧会図録を進呈した。  
配布冊数 90冊

## VI 美術館新デジタル活用魅力発信事業

デジタルシフトを更に推進し、リモートツールを取り入れるとともに、更なる館蔵品のデジタルデータの充実や、アートカードといった貸し出しキットの作成により、コロナの影響を受けることなく、対話型鑑賞法等の独自の魅力を発信するスクールプログラムを実施することで、アフターコロナの来館を促進した。

また、来館者に向けて、県外在住の県若手アーティスト等のリモートイベントを実施することにより、コロナの影響を極力避けながら、地域ゆかりの文化芸術の魅力を発信した。

### 1 美術館デジタル活用魅力発信事業

#### (1) 教育現場へのリモートプログラムの実施

教育機関を対象とし、館蔵品のデジタル高画像等を活用した対話型鑑賞法のリモート授業の実施

##### ○リモート環境の整備

- (1) リモート機材の導入 (PC、ディスプレイ、Webカメラ等)
- (2) デジタル教材撮影機材の導入 (デジカメ等)

##### ○リモート用教材の充実

- (1) 館蔵品デジタル教材の作成を行った
- (2) 所蔵作品の中から100点を選びアートカードを作成し県内学校現場への貸出準備を行った。

##### ○リモートによるモデル授業の実施

オンライン会議システムを通して美術館と特に東予・南予地域の学校の教室とを繋ぎ、対話型鑑賞を中心に所蔵品・資材等を用いた鑑賞プログラムを実施した。

##### (1) 愛南町立一本松小学校 4年生

日 時 令和4年1月13日(木) 2月4日(金) 2月15日(火) 11:15~12:00

ファシリテーター 鈴木有紀担当係長

参加児童 延べ 69名 (23名×1クラス×3回)

##### (2) 愛南町立平城小学校 3年生

日 時 令和4年1月21日(金) 2月3日(木) 2月24日(木) 9:25~11:10

講 師 鈴木有紀担当係長

参加児童 延べ 132名 (22名×2クラス×3回)

##### ○リモートイベント アーティストトーク

美術館所蔵作品の中から愛媛県出身作家を取り上げ、県外在住の作家にリモートで出演いただき、作品や制作活動について語っていただく、アーティストトークを開催した。

場 所 講堂 ※リモート (ZOOM) での参加あり

定 員 60名

##### (1) かんじんなことは目に見えない

日 時 令和3年12月25日(土) 14:00~15:00

講 師 八木良太 (現代美術家、今治市出身、京都府在住)

聞き手 藤城里香 (無人島プロダクションオーナー)

受講者 30名 (講堂20名、リモート10名)

##### (2) 私の山や海の風景

日 時 令和4年1月23日(日) 14:00~15:00

講 師 有元容子 (日本画家、今治市出身、東京都在住)

受講者 58名 (講堂22名、リモート36名)

##### (3) 創作版画の表現と、絵画表現への展開

日 時 令和4年2月20日(日) 14:00~15:00

講 師 山田彩加 (版画家、今治市出身、岡山県在住)

受講者 53名 (講堂25名、リモート28名)



## Ⅶ 貸館事業

### 1 展示施設の利用方法

県民の美術活動の推進及び創作成果の発表の場として、新館特別展示室（1～3）、講堂、研修室、南館県民ギャラリー（1～12）、を有料で貸与している。

#### (1) 仮受付

使用日の1年前の月の初日に仮受付を行う。ただし、研修室のみ使用日の6ヶ月前からの仮受付となる。

#### (2) 申請

使用日の2ヶ月前頃に、使用許可申請書の様式を利用者に発送し、使用者の申請により使用を許可する。

#### (3) 使用料納付

使用許可後、納付通知書を利用者に送付し、利用者は、使用前に納入する。

#### (4) 利用時間及び休館日

利用時間：午前9時40分～午後6時。

休館日：毎週月曜日（第1月曜日を除く）、第1月曜日の翌日及び12月29日～1月3日。

（祝日及び振替休日にあたる場合は、その翌日）

#### (5) 搬出入

貸館は、原則として1週間単位で実施している。（新館講堂、研修室は除く。）

搬入は使用期間内の初日に、搬出は日曜日に実施している。

#### (6) 使用料

別表のとおり。

(別表) 愛媛県美術館施設使用料

(令和4年3月31日現在)

区 分			使用料（1日）	
新館	特別展示室1	入場料が無料の場合	5,070円	
		入場料が有料の場合	8,110円	
	特別展示室2	入場料が無料の場合	3,570円	
		入場料が有料の場合	5,710円	
	特別展示室3	入場料が無料の場合	5,930円	
		入場料が有料の場合	9,480円	
	講堂	入場料が無料の場合	午前9時40分から正午まで	1,840円
			午後1時から午後6時まで	3,060円
			全日（午前9時40分から午後6時まで）	4,900円
		入場料が有料の場合	午前9時40分から正午まで	2,940円
			午後1時から午後6時まで	4,890円
			全日（午前9時40分から午後6時まで）	7,830円
研修室	午前9時40分から正午まで	2,030円		
	午後1時から午後6時まで	2,650円		
	全日（午前9時40分から午後6時まで）	4,680円		
南館	県民ギャラリー1		15,110円	
	県民ギャラリー2		11,870円	
	県民ギャラリー3		3,230円	
	県民ギャラリー4		4,310円	
	県民ギャラリー5		4,310円	
	県民ギャラリー6		2,150円	
	県民ギャラリー7		2,150円	
	県民ギャラリー8		6,470円	
	県民ギャラリー9		2,800円	
	県民ギャラリー10		2,900円	
	県民ギャラリー11		2,900円	
	県民ギャラリー12		3,230円	
	すべての県民ギャラリー		54,480円	

## 2 展示施設の利用状況

### 本館（新館）

展覧会名		会期	展示室	日数	内容	入場者数	観覧料
4月	第69回春季県展	4/20～ 4/23	特別展示室 1～3	4	アンデパンダン方式 日本画、版画、彫刻、写真、デザイン	601	一般・団体(600円・500円)、高齢者・大生・団体(400円・300円)
3年4月合計				4		601	
6月	第三回日仏文化交流展	6/1～ 6/6	特別展示室 1～3	6	水彩画、油絵、オブジェ	291	無料
	第51回世界児童画展四国展	6/12～ 6/13	特別展示室 1～3	2	3歳～15歳までの日本及び世界の児童画の展示(四国各県の入賞者の作品展示が主)	279	無料
	第22回いろどりの書作展	6/16～ 6/20	特別展示室 1～3	5	書道展	437	無料
3年6月合計				13		1,007	
7月	第20回地域交流&スマイルキッズ美術展	7/28～ 8/1	特別展示室 1～3	5	県内で活動している障がい者(児)あちの油絵をはじめ、地域の子供たちの平面、粘土作品などの他、ボランティアの人たちの絵画、書道、写真などを展示します。	556	無料
3年7月合計				5		556	
11月	大森達夫 写真展	11/3～ 11/7	特別展示室 1	5	モノクロ写真の作品展	272	無料
	21世紀えひめの伝統工芸大賞令和3年度出品作品展示会	11/13～ 11/14	特別展示室 1～3	2	標記事業の審査会及び展示会等を実施。なお、基本的にクローズで実施し、展示会(11/13～14)の際は一般開放とする。	225	無料
	障がい者芸術文化祭～愛顔ひろがる えひめの障がい者アート展～	12/2～ 12/12	特別展示室 1～3	10	県内に居住地等を有する障がい者から作品(絵画、書、陶芸、その他立体作品)を募集し、作品展を開催する。	2,286	無料
3年11月合計				17		2,783	
12月	通過展	12/2～ 12/26	特別展示室 2～3	5	愛媛県内で美術を志す10代・20代、10名による展覧会	377	無料
3年12月合計				5		377	
1月	第1回愛媛県小学生防災学習コンクール受賞作品巡回展	1/6～ 1/12	特別展示室 1	6	コンクール受賞作品展示(レポート)	116	無料
	令和3年度小・中学生のふるさと学習作品展	1/6～ 1/12	特別展示室 2～3	6	愛媛にゆかりの深い人物について、県内の小・中学生が自主的に調査・研究した作品の中から、特別賞と中予地区優秀賞受賞作品を展示	194	無料
	マツワカ!ポスターコンペ展	1/15～ 1/30	特別展示室 1～3	12	松山市まちづくり推進課主催若者がつくる松山PRポスター及びプロジェクトチーム「マツワカ」の3年間の活動記録の展示	207	無料
4年1月合計				24		517	
2月	愛媛県・陝西省友好都市協定締結7周年記念「牛子華山水画展～空海の足跡を辿って23年～」※陝西省との友好交流パネル展同時開催	2/23～ 3/9	特別展示室 1～3 常設展示室 3	13	本県と陝西省との友好都市協定7周年を記念して、陝西省出身の水墨画家「牛子華」氏が23年間かけて描き上げた四国八十八カ所霊場全寺院の山水画を展示するとともに、陝西省との交流経緯をパネルや動画上映し、陝西省との更なる交流の深化と県民の理解促進を図る。	3,357	無料
4年2月合計				13		3,357	
3月	ミライシアター	3/18～ 3/21	特別展示室 1	4	写真展	172	無料
	第20回えひめ児童版画コンクール「天才ちるどれん」	3/24～ 3/27	特別展示室 1～3	4	愛媛県内小学生の版画展	411	無料
	八木彩霞・HiRo彩霞とヨーロッパ現代アーティスト展	3/30～ 4/10	特別展示室 1～3	11	絵画の展覧会	368	無料
4年3月合計				19		951	
3年度合計				100		10,149	

南館

展覧会名		会期	展示室	日数	内容	入場者数	観覧料		
4月	第69回春季県展	4/20～4/23	ギャラリー1～12	4	アンデパンダン方式の公募展 日本画他7部門 約1,300点展示	1,171	区分	当日	団体
							一般	600円	500円
							65歳以上	400円	300円
							高大生	400円	300円
							無料：小中生、障がい者		
3年4月計				4		1,171			
5月	コロナ感染防止のため 全て中止			0		0			
3年5月計				0		0			
6月	伊藤茂明+ (現代詩人堀内統 義朗読会) 展	6/22～6/27	ギャラリー3	6	PHOTOコピープリント版画・ド ローイング・オブジェ作品空間・ 現代詩人コラボ	39	無	料	
	日本版画会四国支部展	6/29～7/4	ギャラリー 6・7	6	版画作品展示	311	無	料	
3年6月計				12		350			
7月	愛媛女流書家連盟展	7/21～7/25	ギャラリー 1・2・3・7	5	書作品展示	1,700	無	料	
	大洲中央病院退職記念 寺尾光司絵画展	7/28～8/8	ギャラリー1	11	絵画展示	674	無	料	
3年7月計				16		2,374			
8月	第49回書芸展	8/11～8/15	ギャラリー 1～8	5	書道作品展示	970	無	料	
	第40回書神会 全国書道展覧会	8/19～8/22	ギャラリー 1～12	4	書道展	256	無	料	
	第72回毎日書道展四国展	8/25～8/29	ギャラリー 1～12	5	書道作品約900点を展示	1,660	一般 500円 大学生 300円 高校生以下、65歳以上無料		
3年8月計				14		2,886			
9月	第32回愛媛独立書展	9/8～9/12	ギャラリー 1～7	5	書道作品展示	822	無	料	
	古磚拓本展 愛媛	9/8～9/12	ギャラリー 8・9	5	中国古磚と拓本展示	702	無	料	
	2021年公募近美四国展	9/15～9/19	ギャラリー1	5	洋画・日本画・ミクストメディアの 作品展示	443	無	料	
	第5回愛媛水墨画会展	9/22～9/26	ギャラリー2	5	水墨画作品展示	664	無	料	
	第19回牛子華中国水墨山水 画研究会展	9/22～9/26	ギャラリー 5・6	5	水墨画作品展示	546	無	料	
	第108回日本水彩松山展 第57回愛媛水彩展	9/22～9/26	ギャラリー 8～10・12	5	水彩画作品展示	547	無	料	
	第28回書神会松山支部展	9/24～9/26	ギャラリー1	3	書道作品展示	263	無	料	
3年9月計				35		3,987			
10月	令和3年度県民総合文化祭 第70回秋季県展 (前期)	10/19～10/26	ギャラリー 1～12	7	県民各層より美術作品を公募 し、入選、入賞作品約1,800点を 展示 (日本画・彫刻・工芸・書道)	3,207	区分	当日	団体
							一般	600円	500円
							65歳以上	400円	300円
							高大生	400円	300円
							無料：小中生、障がい者		
10月	令和3年度県民総合文化祭 第70回秋季県展 (後期)	10/29～11/5	ギャラリー 1～12	7	県民各層より美術作品を公募 し、入選、入賞作品約1,800点を 展示 (洋画・版画・写真・デザイン)	4,179	区分	当日	団体
							一般	600円	500円
							65歳以上	400円	300円
							高大生	400円	300円
							無料：小中生、障がい者		
3年10月計				14		7,386			

展覧会名		会期	展示室	日数	内容	入場者数	観覧料
11月	第43回双樹会愛媛支部展	11/9～11/14	ギャラリー2	6	日本画・洋画・水彩画・水墨画・鉛筆画・陶芸小品	526	無料
	第14回新作能面展	11/10～11/14	ギャラリー3	5	能面・狂言面の展示	388	無料
	ANNIVERSARY 30th パッチワーク彩樹第16回作品展	11/10～11/14	ギャラリー8～12	5	パッチワーク作品展	713	無料
	第31回MOA美術館松山児童作品展	11/13～11/14	ギャラリー4	2	絵画展示	379	無料
	令和3年度県民総合文化祭第35回愛媛県高等学校総合文化祭(減免)	11/18～11/21	ギャラリー1～12	4	県内の高等学校、中等教育学校後期課程及び特別支援学校高等部の生徒による美術・工芸・書道・写真部門の総合的な作品展	1,200	無料
	令和3年度県民総合文化祭第18回中学生美術作品展(減免)	11/23～11/28	ギャラリー1・2	6	県内の中学生が制作した美術作品を展示(コンクールではなく、参加を希望する学校ごとに出展)	998	無料
	2021松山国際写真集団展	11/24～11/28	ギャラリー3・4	5	写真展示	412	無料
	高橋版画教室展	11/23～11/28	ギャラリー6	6	版画作品展	274	無料
	第17回幽仙会展	11/24～11/28	ギャラリー5	5	表装・俳画・絵手紙	440	無料
3年11月計				44		5,330	
12月	旗港の書 併催会員展	12/1～12/5	ギャラリー1	5	宇都宮泰然コレクションと泰申会員作品展	233	無料
	第38回愛媛県高等学校書道教員書作展(減免)	12/8～12/12	ギャラリー1	5	書道作品	209	無料
	済美展2021(済美高校)	12/8～12/12	ギャラリー2～7	5	美術科3年生の卒業制作及び1・2年生と教員の美術作品(日本画、洋画、デザイン、彫刻、情報メディアデザイン、素描)	940	無料
	済美展2021(済美幼稚園)	12/8～12/12	ギャラリー3・4	5	園児作品(絵画、制作物、習字)	658	無料
	第48回松山市医師会趣味の美術展	12/15～12/19	ギャラリー1	5	書、絵画、写真等	325	無料
	創元会愛媛支部展	12/21～12/26	ギャラリー1	6	油彩等展示	336	無料
	第45回愛光幼稚園舎作品展	12/22～12/25	ギャラリー8～12	4	水彩画・土粘土	1,444	無料
3年12月計				35		4,145	
1月	第49回えひめこども美術展(減免)	1/5～1/16	ギャラリー1～12	11	愛媛県在住の幼児、児童生徒の平面、立体、書写など約1,000点の作品を展示	4,506	無料
	第46回書界展	1/19～1/23	ギャラリー1～12	5	書道作品展	1,732	無料
4年1月計				16		6,238	
2月	第69回愛媛県学生書道展(愛媛県習字教育研究会)	2/12～2/13	ギャラリー2～7	2	愛媛県下の幼稚・小・中・高校生の書作品展	725	無料
	第60回愛媛県学生書道展(愛媛県書写教育協議会)	2/19～2/20	ギャラリー9～12	2	愛媛県下小・中・高等学校生の書道作品のうち特別賞16点、特選48点、秀作210点を展示	286	無料
	愛媛大学書道部展	2/23～2/27	ギャラリー2・7	5	書道作品展	202	無料
	松山市中学校美術科教員展	2/26～2/27	ギャラリー3	2	絵画・彫刻などの作品展	188	無料
4年2月計				11		1,401	
3月	第47回愛媛県美術館友の会美術展	3/2～3/6	ギャラリー8～10・12	5	洋画、日本画、書道、かな書道、工芸、写真	482	無料
	第11回アトリエ版画グループ展	3/1～3/6	ギャラリー3	6	版画	305	無料
	創作アプリケ展	3/2～3/6	ギャラリー2	5	創作アプリケ	306	無料
	東日本大震災復興11年の歩み展	3/9～3/13	ギャラリー11	5	東日本大震災復興10年の歩み写真展	363	無料
	愛媛2021朝日写真展	3/18～3/21	ギャラリー4	4	写真	58	無料
	第53回洗心書道会全国書道展	3/24～3/27	ギャラリー1～12	4	書作品展(一般～学童)	615	無料
	象社の書27	3/30～4/3	ギャラリー1	5	前衛書を中心とした書作品	388	無料
第4回愛媛県高等学校美術教員作品展	3/30～4/3	ギャラリー2・3	5	絵画、彫刻、デザイン、工芸、映像、インスタレーション作品	396	無料	
4年3月計				42		2,913	
令和3年度合計				243		38,181	

## Ⅷ 入館者の状況

### 新館・南館

年 月	総入館者数	常設展					企画展				
		総観覧者	有料観覧者	無料観覧者	開催日数	一日平均	総観覧者	有料観覧者	無料観覧者	開催日数	一日平均
10～2年度合計	7,994,487	1,087,251	109,879	977,372	6,347	171.30	2,831,915	2,133,534	698,381	5,179	546.81
3年4月	21,715	451	23	428	20	22.55	0	0	0	20	0.00
3年5月	0	0	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0.00
3年6月	12,178	2,141	146	1,995	26	82.35	3,973	2,684	1,289	26	152.81
3年7月	26,591	2,492	169	2,323	29	85.93	10,792	7,257	3,535	29	372.14
3年8月	16,140	2,088	318	1,770	30	69.60	5,460	4,009	1,451	29	188.28
3年9月	8,032	991	629	362	26	38.12	491	0	491	17	28.88
3年10月	14,269	925	153	772	16	57.81	2,645	873	1,772	27	97.96
3年11月	25,919	2,437	165	2,272	25	97.48	8,413	5,326	3,087	25	336.52
3年12月	20,956	2,844	165	2,679	24	118.50	5,957	4,579	1,378	24	248.21
4年1月	16,978	1,607	227	1,380	25	64.28	4,461	3,437	1,024	7	637.29
4年2月	8,460	964	99	865	25	38.56	1,711	1,059	652	24	71.29
4年3月	13,888	750	180	570	26	28.85	2,323	968	1,355	19	122.26
3年度合計	185,126	17,690	2,274	15,416	272	65.04	46,226	30,192	16,034	247	187.15
総計	8,179,613	1,104,941	112,153	992,788	6,619	166.93	2,878,141	2,163,726	714,415	5,426	530.44

年 月	施設利用人数							自主事業参加者(再掲)		備 考
	県民 アトリエ※1	その他 (南館相談等)	県民 ギャラリー	ハイビジョン ギャラリー 等	図 書 コーナー	その他 (講堂・研修室・特別 展示室ほか)	計	講 座	その他※2	
10～2年度合計	360,871	255,160	2,130,587	82,944	228,111	1,017,648	4,075,321	26,338	43,070	
3年4月	255	1,027	1,171	0	222	18,589	21,264	0	34	
3年5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
3年6月	370	853	131	0	0	4,710	6,064	30	544	
3年7月	571	990	2,207	0	312	9,227	13,307	250	244	
3年8月	277	750	3,272	0	0	4,293	8,592	9	140	
3年9月	82	794	3,987	0	0	1,687	6,550	0	52	
3年10月	416	1,181	5,273	0	309	3,520	10,699	0	592	
3年11月	435	1,105	7,443	0	401	5,685	15,069	104	719	
3年12月	330	749	4,145	0	225	6,706	12,155	0	155	
4年1月	301	656	6,238	0	163	3,552	10,910	39	115	
4年2月	306	688	1,401	0	233	3,157	5,785	28	222	
4年3月	338	1,032	2,349	0	271	6,825	10,815	43	69	
3年度合計	3,681	9,825	37,617	0	2,136	67,951	121,210	503	2,886	0
総計	364,552	264,985	2,168,204	82,944	230,247	1,085,599	4,196,531	26,841	45,956	0

※1 施設利用人員の「県民アトリエ」には、友の会実技教室も含まれる。

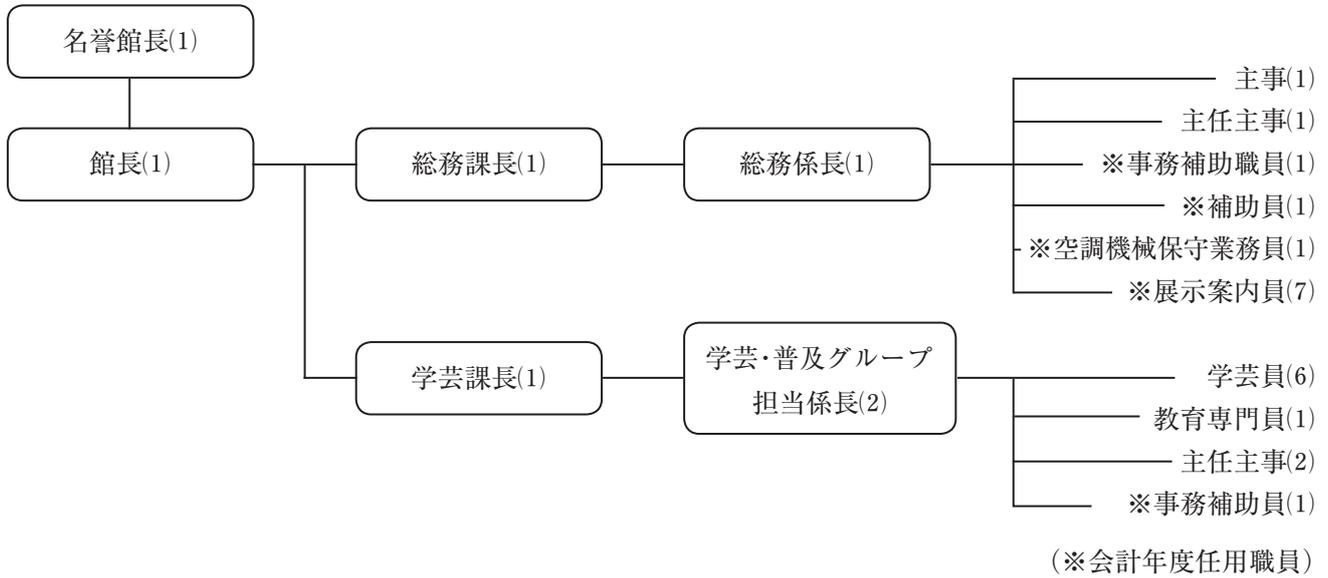
※2 エントランス等にて開催された、美術館主催による事業の参加人数

# IX 組織及び職員構成

## 1 組織図

令和4年3月31日現在

職員数 / 29名



## 2 職員名簿

職名	氏名	職名	氏名
名誉館長	玉井日出夫	学芸課長	土居 聡 朋
館長	中川美奈子	学芸・普及 G担当係長	長井 健
総務課	総務課長	〃	鈴木 有 紀
	総務係長	教育専門員	高木 学
	主事	専門学芸員	田代 亜 矢 子
	主任主事(再任用)	〃	石崎 三 佳 子
		〃	武田 信 孝
		〃	杉山 は る か
		学芸員	五味 俊 晶
		〃	青木 朋 子
		主任主事(再任用)	宮岡 清 子
		〃	黒田 秀 嗣

(※会計年度任用職員除く)

## X 愛媛県美術館協議会委員名簿

令和4年3月31日現在

役 職	氏 名	現 職
会 長	本田 元広	(株)愛媛銀行会長
副会長	吉田 恭三	愛媛県美術会会長
委 員	梶岡 秀一	京都国立近代美術館情報資料室長・主任研究員
〃	稲畑ルミ子	名勝依水園・寧楽美術館 学芸参与
〃	伊達 優香	東京大学大学院情報学環客員研究員
〃	関 厚子	セキ美術館副館長
〃	稲田 哲也	愛媛県教育研究協議会 図工・美術委員長
〃	菊池 博喜	愛媛県高等学校教育研究会 芸術部会副部会長
〃	宮崎 恵	愛媛県PTA連合会副会長
〃	近藤 律子	(公募)

設置：平成12年7月21日（任期：2年）

## XI 関係法規（令和3年4月1日現在）

### 1 愛媛県美術館使用料条例

（使用料の徴収）

第1条 愛媛県美術館（以下「美術館」という。）を使用する者から、この条例の定めるところにより、使用料を徴収する。

（使用料の額）

第2条 前条に規定する使用料（以下「使用料」という。）の額は、別表に定める額の範囲内で知事が定める額とする。

2 前項に定めるもののほか、特別の企画による展示に係る観覧料は、当該特別の企画による展示に要する費用を勘案して知事がその都度定める額とする。

（使用料の納付時期）

第3条 使用料は、美術館の使用の前に納付しなければならない。ただし、知事が必要と認めるときは、後納させることができる。

（使用料の減免）

第4条 知事は、特に必要と認める者に対しては、その使用料を減免することができる。

（使用料の不還付）

第5条 既に納付した使用料は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、この限りでない。

- (1) 天災その他美術館を使用する者の責めに帰することができない理由により使用が不能となったとき。
- (2) 別表施設使用料の項に掲げる施設を使用する者又は美術館が収集し、保管し、若しくは展示する美術品及び美術に関する資料の閲覧、撮影、複写、模写、模造等若しくはこれらにより得たものの展示若しくは刊行物への掲載（以下「特別利用」という。）をする者が知事が定める日までに使用又は特別利用の取消しを申し出て、知事がやむを得ないと認めたとき。

（委任）

第6条 この条例に定めるもののほか、使用料の徴収に関し必要な事項は、知事が定める。

一部改正〔平成12年条例30号〕

附 則

この条例は、平成10年10月1日から施行する。

附 則（平成12年3月24日条例第30号）

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成16年3月26日条例第18号）

この条例は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成21年3月24日条例第28号）

- 1 この条例は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 改正後の愛媛県美術館使用料条例別表の規定は、この条例の施行の日以後の許可に係る特別利用について適用する。

附 則（平成26年3月28日条例第9号抄）

（施行期日）

1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。（後略）

（経過措置）

3 第16条の規定による改正後の愛媛県美術館使用料条例別表の規定は、施行日以後の使用に係る使用料で、施行日以後にその全額又は未徴収額について徴収するものについて適用し、施行日前の使用に係る使用料及び施行日以後の使用に係る使用料で、施行日前にその全額について徴収したのものについては、なお従前の例による。

附 則（平成29年3月24日条例第5号抄）

（施行期日）

1 この条例は、平成29年4月1日から施行する。（後略）

（経過措置）

3 第16条の規定による改正後の愛媛県美術館使用料条例別表の規定は、施行日以後の使用に係る使用料で、施行日以後にその全額又は未徴収額について徴収するものについて適用し、施行日前の使用に係る使用料及び施行日以後の使用に係る使用料で、施行日前にその全額について徴収したのものについては、なお従前の例による。

附 則（令和元年7月9日条例第3号抄）

（施行期日）

1 この条例は、令和元年10月1日から施行する。（後略）

（経過措置）

3 第15条の規定による改正後の愛媛県美術館使用料条例別表の規定は、施行日以後の試験、検査、鑑定、調査、研究、分析、使用、占用等（以下「試験等」という。）に係る使用料で施行日以後にその全額又は未徴収額について徴収するものについて適用し、施行日前の試験等に係る使用料並びに施行日以後の試験等に係る使用料で施行日前にその全額について徴収したのものについては、なお従前の例による。

附 則（令和2年3月27日条例第9号抄）

（施行期日）

1 この条例は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年3月26日条例第4号抄）

（施行期日）

1 この条例は、令和3年4月1日から施行する。（後略）

（経過措置）

2 第5条の規定による改正後の愛媛県産業技術研究所の使用料及び手数料条例別表の規定は、この条例の施行の日（以下「施行日」という。）以後に徴収する使用料及び手数料について適用し、施行日前に徴収した使用料及び手数料については、なお従前の例による。

3 第3条の規定による改正後の愛媛県立衛生環境研究

所使用料条例第2条第1項第1号及び第2号の規定、第8条の規定による改正後の愛媛県農林水産研究所使用料条例別表の規定、第10条の規定による改正後の愛媛県美術館使用料条例別表の規定並びに第11条の規定による改正後の愛媛県海岸占用料等徴収条例別表第2の規定は、施行日以後の試験、検査、鑑定、調査、研究、分析又は使用（以下「試験等」という。）に係る使用料及び施行日以後の採取に係る土石採取料で施行日以後にその全額又は未徴収額について徴収するものについて適用し、施行日前の試験等に係る使用料及び施行日前の採取に係る土石採取料並びに施行日以後の試験等に係る使用料及び施行日以後の採取に係る土石採取料で施行日前にその全額について徴収したものについては、なお従前の例による。

別表(第2条、第5条関係)

種別		単位	金額
常設展観覧料		1人1回につき	500円
施設 使用料	展示室	1室1日につき	29,450円
	講堂	1日につき	7,830円
	研修室	1日につき	4,680円
	県民 ギャラリー	全室使用	1日につき
単室使用		1室1日につき	15,110円
特別利用料		1点1回につき	5,500円

## 2 愛媛県美術館管理規則

(趣旨)

第1条 この規則は、愛媛県美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(事業)

第2条 美術館は、博物館法(昭和26年法律第285号)第3条第1項に掲げる事業を行う。

(開館時間)

第3条 美術館の開館時間は、午前9時40分から午後6時までとする。

2 館長は、特別の事情があると認めるときは、前項に規定する開館時間を変更することができる。

(休館日)

第4条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 毎月の第1月曜日以外の月曜日及び当該第1月曜日の翌日（これらの日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、当該休日の直後の休日でない日）
- (2) 1月1日から3日まで及び12月29日から31日まで

2 館長は、特別の事情があると認めるときは、臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。

(入館の制限)

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当すると認めら

れる者については、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- (1) 美術館の秩序を乱し、又は乱すおそれのある者
- (2) 美術館が収集し、保管し、若しくは展示する美術品及び美術に関する資料（以下「美術館の美術品等」という。）又は美術館の施設、附属設備等を滅失し若しくは損傷し、又は滅失し若しくは損傷するおそれのある者
- (3) その他美術館の職員の指示に従わない者（観覧券の交付）

第6条 館長は、美術館が展示する美術品及び美術に関する資料を観覧しようとする者が観覧料を納付したときは、観覧券を交付する。

(使用の許可)

第7条 美術館の施設のうち、次の各号に掲げる施設を使用しようとする者は、それぞれ当該各号に定める期間内に愛媛県美術館使用許可申請書（様式第1号。以下「使用許可申請書」という。）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

- (1) 企画展示室、常設展示室、特別展示室、講堂及び県民ギャラリー 使用日の1年前から7日前まで
- (2) 研修室 使用日の6月前から2日前まで

2 館長は、前項の規定による使用の許可の申請があった場合において、使用が適当であると認めるときは、使用の許可を決定し、当該申請をした者に対し、愛媛県美術館使用許可書(様式第2号。以下「使用許可書」という。)を交付するものとする。この場合において、美術館の管理運営上又は公益上必要があると認めるときは、許可に条件を付することができる。

3 館長は、第1項に定める期間外に使用許可申請書の提出があった場合であっても、特に理由があると認めるときは、同項の使用の許可をすることができる。

(許可の基準)

第8条 館長は、美術館を使用しようとする者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、前条第1項の使用の許可をしないものとする。美術館の管理運営上やむを得ない理由があるときも、同様とする。

- (1) 美術館の秩序を乱すおそれがあるとき。
- (2) 美術館の美術品等又は美術館の施設、附属設備等を滅失し、又は損傷するおそれがあるとき。

(使用の許可の変更)

第9条 第7条第1項の使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、使用日時、入場料徴収の有無その他知事が定める事項を変更しようとするときは、あらかじめ愛媛県美術館使用変更許可申請書(様式第3号)に使用許可書を添えて館長に提出し、その許可を受けなければならない。

(使用の許可の取消し等)

第10条 館長は、使用者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、その使用の許可を取り消し、又は使用を制限し、若しくは停止することがある。美術館の管理運営上やむを得ない理由があるときも、同様とする。

- (1) この規則に違反し、又は美術館の職員の指示に従わないとき。
  - (2) 偽りその他不正な手段により使用の許可を受けたとき。
  - (3) 風俗を乱すおそれがあるとき。
  - (4) 使用の許可の条件に違反したとき。
- (使用料の額)

第11条 愛媛県美術館使用料条例（平成10年愛媛県条例第26号。以下「条例」という。）第2条第1項に規定する知事が定める使用料の額は、別表に掲げるとおりとする。

(観覧料の減免)

第12条 知事は、条例第4条の規定に基づき、次に掲げる者に対しては、観覧料を免除する。

- (1) 教育課程に基づく学習活動として、展示室を観覧する県内の高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の生徒及びその引率者並びに展示室を観覧する県内の小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部若しくは中学部の児童又は生徒の引率者
- (2) 身体に障害を有する者で、本人又はその保護者が身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条に規定する身体障害者手帳の交付を受けているもの及びその介護者
- (3) 療育手帳（知的障害者の福祉の充実を図るため、児童相談所又は知的障害者更生相談所において知的障害と判定された者に対して支給される手帳で、その者の障害の程度その他の事項の記載があるものをいう。）の交付を受けている者及びその介護者
- (4) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護者
- (5) 65歳以上の者

2 知事は、前項に定めるもののほか、必要と認めるときは、条例第4条の規定に基づき、観覧料を免除し、又はその一部を減額することがある。

3 前2項の規定にかかわらず、特別の企画による展示に係る観覧料の減免については、知事がその都度定める。

4 第1項第1号の規定により観覧料の免除を受けようとするときは、あらかじめ、学校長が愛媛県美術館観覧料免除申請書（様式第4号）を知事に提出しなければならない。

5 第1項第2号から第5号までの規定により観覧料の免除を受けようとする者は、これらの規定に該当するこ

とを証する書類を提示しなければならない。

(特別利用料の減免)

第13条 知事は、条例第4条の規定に基づき、次に掲げる者に対しては、特別利用（条例第5条第2号に規定する特別利用をいう。以下同じ。）に係る使用料（以下「特別利用料」という。）を免除する。

- (1) 美術に関する教育、学術上の調査研究又は啓発のために特別利用をする者で、知事が必要と認めるもの
- (2) 美術館の広報に関し効果があると認められる用途に供することを目的として特別利用をする者

2 知事は、前項に定めるもののほか、必要と認めるときは、条例第4条の規定に基づき、特別利用料を免除し、又はその一部を減額することがある。

(使用料の還付)

第14条 条例第5条第2号に規定する知事が定める日は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

- (1) 企画展示室、常設展示室、特別展示室、講堂及び県民ギャラリー 使用日の30日前の日
- (2) 研修室 使用日の7日前の日
- (3) 美術館の美術品等 特別利用日の前日

第15条 条例第5条ただし書の規定により、知事は、次の各号に掲げる場合においては、それぞれ当該各号に定める額を還付する。

- (1) 条例第5条第1号に該当する場合 使用料の全額
- (2) 条例第5条第2号に該当する場合 使用料の50パーセントに相当する額

2 前項の規定により使用料の還付を受けようとする者は、愛媛県美術館使用料還付申請書（様式第5号）を知事に提出しなければならない。

(美術館の美術品等の特別利用)

第16条 美術館の美術品等の特別利用をしようとする者は、愛媛県美術館美術品等特別利用許可申請書（様式第6号）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。この場合において、当該美術館の美術品等が寄託されたものであるときは、同申請書に、当該美術館の美術品等の寄託者の承諾書を添付しなければならない。

2 館長は、前項の規定による特別利用の許可の申請があった場合において、特別利用が適当であると認めるときは、特別利用の許可を決定し、当該申請をした者に対し、愛媛県美術館美術品等特別利用許可書（様式第7号）を交付しなければならない。この場合において、美術館の美術品等の管理上必要があると認めるときは、許可に条件を付することがある。

(美術館の美術品等の館外貸出し)

第17条 館長は、美術館の業務に支障がない場合であつて、美術に関する学術上の調査研究又は啓発のために特

に必要と認められ、かつ、美術館の美術品等の取扱い上の安全が確認できるときは、美術館の美術品等の館外貸出しを行うことができる。

2 前項の規定により美術館の美術品等の館外貸出しを受けようとする者は、愛媛県美術館美術品等館外貸出許可申請書(様式第8号)を館長に提出し、その許可を受けなければならない。この場合において、当該美術館の美術品等が寄託されたものであるときは、同申請書に、当該美術館の美術品等の寄託者の承諾書を添付しなければならない。

3 館長は、前項の規定による館外貸出しの許可の申請があった場合において、館外貸出しが適当であると認めるときは、館外貸出しの許可を決定し、当該申請をした者に対し、愛媛県美術館美術品等館外貸出許可書(様式第9号)を交付しなければならない。この場合において、美術館の美術品等の管理上必要があると認めるときは、許可に条件を付することができる。

4 美術館の美術品等の館外貸出期間は、50日以内とする。ただし、館長がやむを得ない理由があると認めるときは、この限りでない。

5 館長は、館外貸出期間中であっても、館外貸出しを許可した美術館の美術品等の返還を求めることができる。(美術品等の寄贈又は寄託)

第18条 美術館は、美術品及び美術に関する資料(以下この条において「美術品等」という。)の寄贈又は寄託を受けることができる。

2 美術館に美術品等を寄贈しようとする者は愛媛県美術館美術品等寄贈申出書(様式第10号)を、美術品等を寄託しようとする者は愛媛県美術館美術品等寄託申請書(様式第11号)を館長に提出しなければならない。

3 館長は、前項の規定による寄贈の申出又は寄託の申請があった場合において、当該寄贈の申出又は寄託の申請に係る美術品等の受入れが適当であると認め、当該美術品等の寄贈又は寄託を受けたときは、寄贈者又は寄託者に対し、愛媛県美術館寄贈美術品等受領証(様式第12号)又は愛媛県美術館寄託美術品等預り証(様式第13号)を交付しなければならない。

4 寄託を受ける美術品等の取扱いについては、館長が寄託しようとする者と協議して定める。

5 美術館は、寄託を受けた美術品等の不可抗力による損害に対しては、その責めを負わないものとする。(損害賠償等)

第19条 自己の責めに帰すべき理由により、美術館の美術品等又は美術館の施設、附属設備等を滅失し、又は損傷した者は、原状回復をし、又はそれによって生じた損害を賠償しなければならない。

(補則)

第20条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、知事が定める。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則(令和3年3月26日規則第14号抄)  
(施行期日)

1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 第3条の規定による改正後の愛媛県産業技術研究所の使用料及び手数料に関する規則本則使用料の表及び手数料の表の規定は、この規則の施行の日(以下「施行日」という。)以後に徴収する使用料及び手数料について適用し、施行日前に徴収した使用料及び手数料については、なお従前の例による。

3 第2条の規定による改正後の愛媛県立衛生環境研究所の使用及び使用料に関する規則別表第1の規定、第5条の規定による改正後の愛媛県農林水産研究所使用規則別表1の表の規定、第7条の規定による改正後の愛媛県在宅介護研修センター使用規則別表の規定及び第11条の規定による改正後の愛媛県美術館管理規則別表の規定は、施行日以後の試験、検査、分析及び使用(以下「試験等」という。)に係る使用料で施行日以後にその全額又は未徴収額について徴収するものについて適用し、施行日前の試験等に係る使用料及び施行日以後の試験等に係る使用料で施行日前にその全額について徴収したものについては、なお従前の例による。

別表(第11条関係)

1 常設展観覧料

区 分	一 般	団 体 (20人以上)
1 高等学校及び中等教育学校の後期課程の生徒、大学の学生その他これらに類する者	220円	170円
2 15歳以上の者(中学校及び中等教育学校の前期課程の生徒並びに1に該当する者を除く。)	330円	260円

2 施設使用料

区 分		使用料
企画展示室1	入場料が無料の場合	15,040円
	入場料が有料の場合	24,060円
企画展示室2	入場料が無料の場合	15,040円
	入場料が有料の場合	24,060円

常設展示室 1	入場料が無料の場合		13,610 円
	入場料が有料の場合		21,770 円
常設展示室 2	入場料が無料の場合		18,410 円
	入場料が有料の場合		29,450 円
常設展示室 3	入場料が無料の場合		12,030 円
	入場料が有料の場合		19,240 円
特別展示室 1	入場料が無料の場合		5,070 円
	入場料が有料の場合		8,110 円
特別展示室 2	入場料が無料の場合		3,570 円
	入場料が有料の場合		5,710 円
特別展示室 3	入場料が無料の場合		5,930 円
	入場料が有料の場合		9,480 円
講 堂	入場料が無料の場合	午前 9 時 40 分から正午まで	1,840 円
		午後 1 時から午後 6 時まで	3,060 円
		全日 (午前 9 時 40 分から午後 6 時まで)	4,900 円
	入場料が有料の場合	午前 9 時 40 分から正午まで	2,940 円
		午後 1 時から午後 6 時まで	4,890 円
		全日 (午前 9 時 40 分から午後 6 時まで)	7,830 円
研 修 室	午前 9 時 40 分から正午まで		2,030 円
	午後 1 時から午後 6 時まで		2,650 円
	全日 (午前 9 時 40 分から午後 6 時まで)		4,680 円
県民ギャラリー 1			15,110 円
県民ギャラリー 2			11,870 円
県民ギャラリー 3			3,230 円
県民ギャラリー 4			4,310 円
県民ギャラリー 5			4,310 円
県民ギャラリー 6			2,150 円
県民ギャラリー 7			2,150 円
県民ギャラリー 8			6,470 円
県民ギャラリー 9			2,800 円
県民ギャラリー 10			2,900 円
県民ギャラリー 11			2,900 円
県民ギャラリー 12			3,230 円

注 県民ギャラリーをすべて使用する場合の使用料は、この表の規定にかかわらず、54,480 円とする。

### 3 特別利用料

区 分	単 位	金 額
閲覧	1 点 1 日につき	550 円
模写・模造	1 点 1 日につき	5,500 円
撮影・複写	1 点 1 回につき	5,500 円
原版使用	1 点 1 回につき	5,500 円

注 1 文書は、1 葉を 1 点とする。

2 びょうぶは、1 隻を 1 点とする。

3 1 そろいをなす卷子は、1 巻を 1 点とする。

4 掛軸は、1 幅を 1 点とする。

5 小型の物で 1 組又は 1 箱となっているものは、1 組又は 1 箱を 1 点とする。

6 多数の物で 1 そろい又は 1 具となっているものは、数量に応じて数点に分けるものとする。

7 その他の資料は、各個を 1 点とする。

※ 様式については、掲載を省略します。

施設使用許可申請書が必要な場合は、愛媛県美術館ホームページ(<https://www.ehime-art.jp/>)を参照してください。

### 3 愛媛県博物館協議会設置条例

(設置)

第 1 条 博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 20 条第 1 項の規定に基づき、次の表の左欄に掲げる博物館に、それぞれ同表の右欄に掲げる博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

愛媛県総合科学博物館	愛媛県総合科学博物館協議会
愛媛県歴史文化博物館	愛媛県歴史文化博物館協議会
愛媛県美術館	愛媛県美術館協議会

(任命の基準)

第 2 条 協議会の委員(以下「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命する。

(定数)

第 3 条 委員の定数は、それぞれ 14 人以内とする。

(任期)

第 4 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(雑則)

第 5 条 この条例に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この条例は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 2 年 3 月 27 日条例第 9 号抄)  
(施行期日)

この条例は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

#### 4 愛媛県美術館協議会運営規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、愛媛県博物館協議会設置条例(平成 12 年愛媛県条例第 31 号)第 5 条の規定に基づき、愛媛県美術館協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第 2 条 協議会に会長及び副会長各 1 人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。

(招集)

第 3 条 協議会の会議(以下「会議」という。)は、愛媛県美術館長が招集する。

2 会議の日時、開催場所及び会議に付議する事項は、あらかじめ委員に通知しなければならない。

(会議)

第 4 条 会議は、会長が議長となる。

2 会議は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第 5 条 協議会の庶務は、愛媛県美術館において処理する。

(委任)

第 6 条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

この規則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

#### 5 愛媛県美術品等収集評価委員会設置要綱

(設置)

第 1 条 美術作品の収集等に関する事務を適正かつ円滑に行うことを目的として、愛媛県美術品等収集評価委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(任務)

第 2 条 委員会は、次の事項について教育長の諮問に応じて審議を行う。

(1) 美術作品の選定及び評価に関すること。

(2) 美術作品の情報提供に関すること。

(3) その他必要な事項に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、委員 7 人以内をもって組織する。

2 委員は、美術に関する知識を有する者の中から、教育長が委嘱する。

(委員長及び副委員長)

第 4 条 委員会に委員長及び副委員長各 1 人を置く。

2 委員長は、委員のうちから互選し、副委員長は委員長が指名する。

3 委員長は、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第 5 条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 委員会の会議には、委員長が必要に応じて、委員でない者の出席を求めることができる。

(任期)

第 6 条 委員の任期は、委嘱の日から 2 年間とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(庶務)

第 7 条 委員会の庶務は、愛媛県美術館において処理する。

(その他)

第 8 条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は教育長が定める。

附 則

この要綱は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 14 年 2 月 5 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 16 年 2 月 20 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 18 年 3 月 3 日から施行する。

## XII 施設・設備の概要

### ○ 新 館

#### (1) 施 設

所在地	愛媛県松山市堀之内
設計	株式会社日建設計
施工	
建築	大成・野間共同企業体
電気	四電工・三信電設共同企業体
空調	須賀・日比谷共同企業体
衛生	株式会社ダイイチマリン
昇降機	三菱電機株式会社
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上3階地下1階
面積	(敷地面積) 7,199.73㎡ (建築面積) 3,218.78㎡ (延床面積) 10,365.46㎡

#### 仕 上 げ

外部	特注磁器質ボーダータイル 打込PC版
屋根	銅板葺・アルミハニカムパネル アスファルト防水の上コンクリートパネル敷
特殊工法	PC版圧着構造・外壁大型カーテンウォール

#### (2) 設 備

##### 【空調設備】

空調方式	中央ダクト方式・パッケージ方式・ファンコイル方式
主要熱源機	直だき吸収冷温水機・空気熱源ヒートポンプユニット
熱源設備	(ガス焚吸収式冷温水機) + (空気熱源回収形ヒートポンプ) + (冷温水蓄熱槽) 組み合わせ方式
容 量	ガス焚吸収式冷温水機 150R ton×1台 空気熱源熱回収形ヒートポンプ100R ton×1台
空調系統・空調方式	展示室 8系統 単一ダクト変風量 収蔵庫 4系統 単一ダクト定風量方式 一部ファンコイル併用 一 般 15系統 単一ダクト定風量方式 単一ダクト変風量 (ファンVAV)方式 1F 中監盤室、講師控室、ボランティア室 ビル用マルチパッケージ方式
換気設備	熱源機械室、電気室、特殊ガスボンベ室、荷捌室、EV機械室他は第1種換気とし、便所、湯沸他は第3種換気とする。
排煙設備	自然排煙…エントランスホール等 機械排煙…BF廊下、企画展示室(1)、(2)、常設展示室(1)、(2)、展示ロビー(3)、搬入口、荷解室、ハイビジョンギャラリー
蓄熱槽	冷水槽…540 m <sup>3</sup> 、温水槽…170m <sup>3</sup>

(床下二重ビット利用)

##### 【電気設備】

引 込	高圧・架空
電 灯	Tr200KVA×3台
動 力	Tr500KVA×2台
コンデンサ	低圧 50KVr×6台
リアクトル	低圧 3KVr×6台
発電機	3φ3W220V 205KVA・240PS 1φ3W 110V 6Kw ディーゼル軽油

直流電源 サイリスタ全自動式整流器 3φ3W 200V 10時間 MS-E 300Ah/54セル  
 放送機器 出力(非常・業務)720W 出力(BGM)360w  
 卓上型2台 ワイヤレス 800MHz  
 テレビ共聴 VHF・UHF・BSアンテナ  
 電話 PCM時分割方式 一般内線90/120内線 10/10回線64局線1/10回線 PHS 接続装置 10/10  
 回線 アナログ局線10/12回線 INS1500局1/4回線  
 インターホン 身障者用・夜間訪問用  
 電気時計 ダイチ製 DC-3002、DC-3006  
 火報防火扉 GP型1級50回線 副表示20L 諸警報55L 防排煙130L ガス漏れ5L  
 表示設備 DC24V 発光ダイオード(2モード形)

【衛生設備】

給水設備 飲用 松山市上水道引き込み(50mm)→受水槽(11m<sup>3</sup>)加圧ポンプ方式  
 雑用 雨水利用+井水→受水槽(28m<sup>3</sup>) 加圧ポンプ方式  
 給湯設備 中央給湯方式(太陽熱利用)+局所方式  
 真空式温水ヒーター 100,000kcal/H 2台  
 貯湯槽2m<sup>3</sup> 2台  
 電気湯沸器 30リットル8台  
 排水設備 建物内汚水・雑排水分流方式(雨水は分流)  
鉢ガス機(中) 吸引式冷温水機及び真空式温水ヒーターに供給  
 消火設備 屋内消火栓設備、連結散水設備(5系統)、イナージェン消火設備(6系統)、  
 消火器設備、移動式粉末消火設備、フード消火設備(厨房)  
 その他 太陽熱利用設備、雨水再利用設備(有効水量206m<sup>3</sup>)、井水設備

【昇降機設備】

乗用油圧エレベーター(15人乗 車椅子対応)2台  
 乗用油圧エレベーター(11人乗 車椅子対応)1台  
 荷物用油圧エレベーター(4,200kgW カゴ3,500mm×D4,800mm×H3,000mm)1台

○ 南 館

(1) 施設

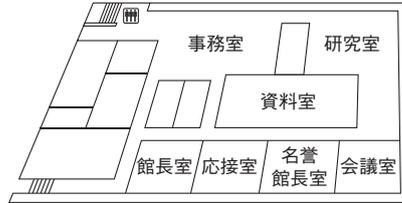
所在地 愛媛県松山市堀之内  
 構造 鉄筋コンクリート造  
 地上3階地下1階  
 面積 (敷地面積)2,301.50m<sup>2</sup>  
 (建築面積)921.20m<sup>2</sup>  
 (延床面積)4,296.69m<sup>2</sup>

区分	室名	面積(m <sup>2</sup> )
南館	創作部門	
	県民ギャラリー1~12	2,004
	県民アトリエ1	68
	県民アトリエ2	105
	実技教室	124

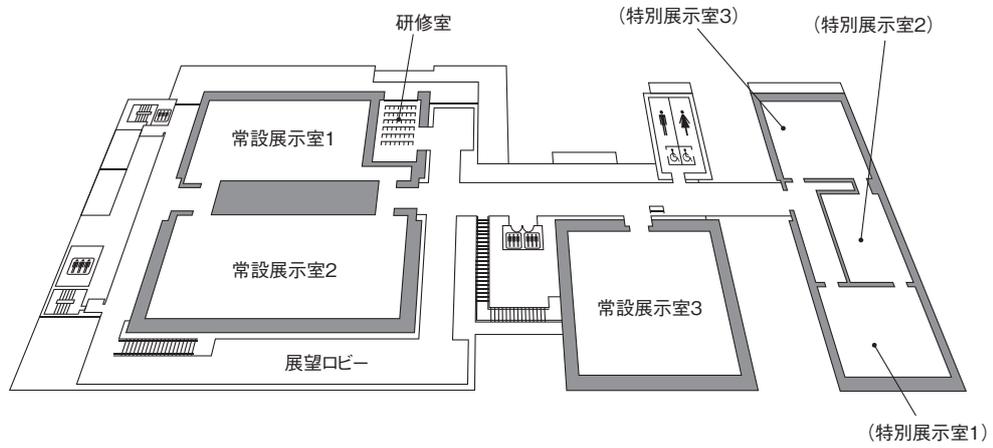
● 館内案内図 ●

# 新館フロア

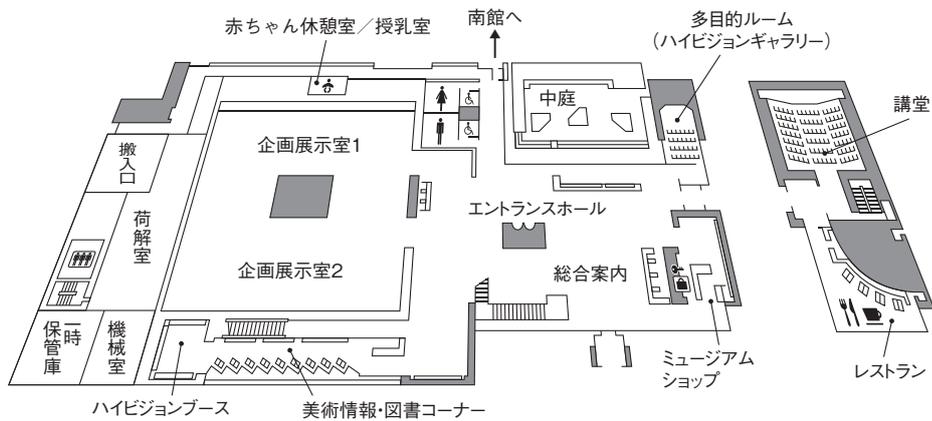
3階



2階



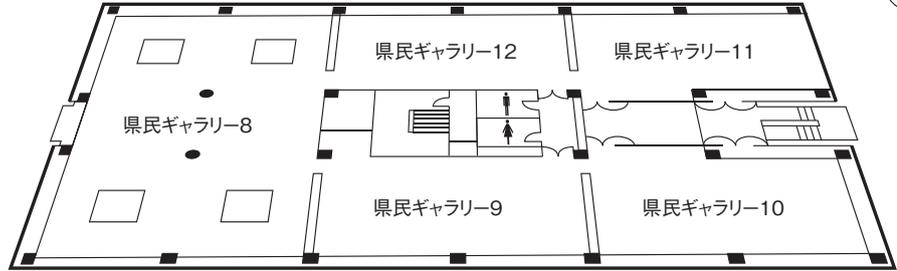
1階



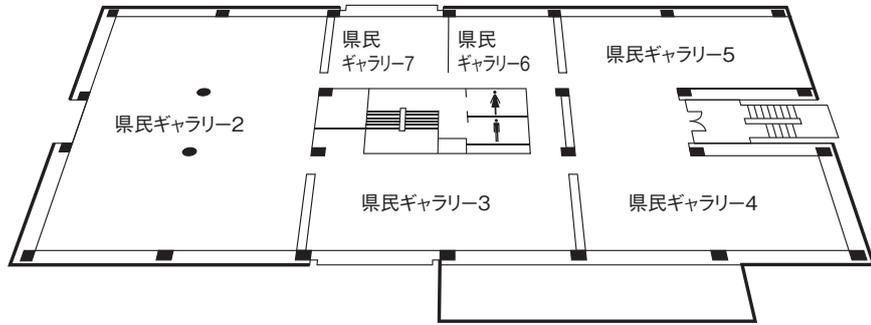
# 南館フロア



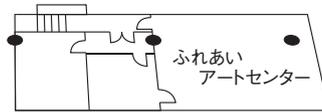
3階



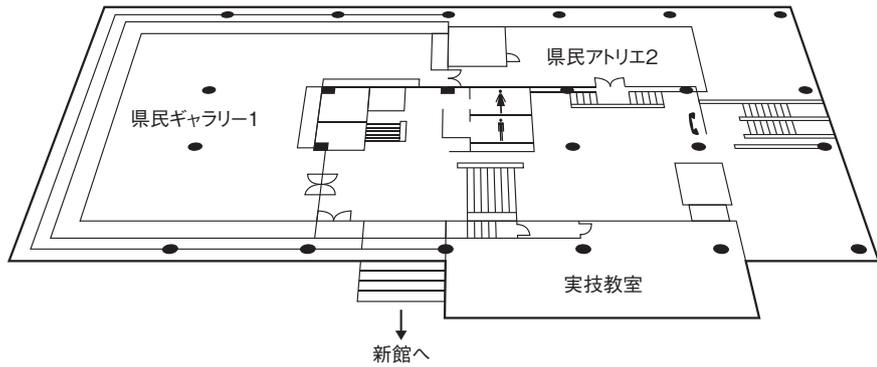
2階



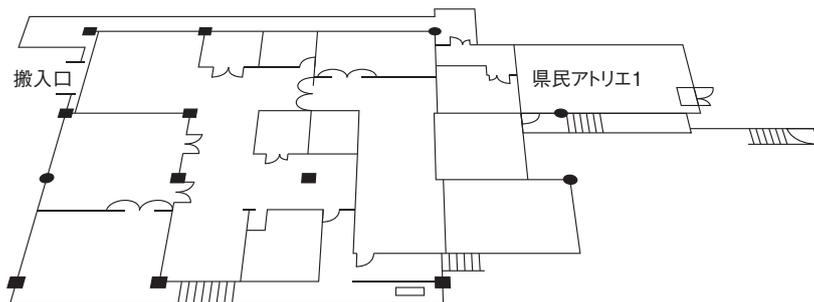
中2階



1階



地下1階





# 愛媛県美術館

---

研究紀要 第21号

**BULLETIN**

**THE MUSEUM OF ART, EHIME**



## 記録：リモートイベント アーティストトーク -有元容子、山田彩加-

石崎 三佳子

### はじめに

新型コロナウイルス感染症の広がりにより、県をまたぐ往来が困難な状況下、美術館デジタル活用魅力発信事業の一つとして県外在住の作家と利用者をつなぐリモートイベントを実施した。作家の選定は、当館が作品を所蔵していること、愛媛県出身であること、制作技法が重ならないことから、有元容子（日本画）、八木良太（メディアアート）、山田彩加（版画）の3名を取り上げた。リモートイベントでは、3名の作家をリモートで繋ぎ、作品や制作活動について語っていただいた。

八木良太氏のリモートイベントの内容については、令和2年度研究紀要第20号にて記録した。

本稿では、有元容子氏、山田彩加氏の内容を書き起こし、記録する。

### 開催情報

「私の山や海の風景」

日時 2022年1月23日（日） 14:00～15:00

講師 有元容子（日本画家）

参加者 58名（講堂22名、リモート36名）

「創作版画の表現と、絵画表現への展開」

日時 2022年2月20日（日） 14:00～15:00

講師 山田彩加（版画家）

参加者 53名（講堂25名、リモート28名）

場所 愛媛県美術館 講堂

※作家はZOOMによる出演、参加者は講堂及びZOOMにて聴講

「私の山や海の風景」 講師：有元容子

私は15歳までの記憶ですが、今でも鮮明に覚えているのは、教室の窓いっぱい大きな煙突のある工場が見えていたこと。そして、そこで発生しているいろんな音。それは、工場で出ている音だったんですけれ

ども、それがずっと忘れられません。

小さな島だったので、高台に行くとき島の周りが海しかないのですね。工場と住宅のある、私たちの住む島以外の明神島、ねずみ島、梶島という三つの島に囲まれていた風景です。そんなところで育ちましたので、学校は中学までしかなく、高校は外に出なければいけませんでした。今映っているのが四阪島（図1）なのですけれども、手前に工場のある島があり、奥が住宅のある島で、その高台に小学校と中学校、それから一番てっぺんにお宮がありました。大山祇神社ですね。私は中学を卒業しますと、高校に行くのですけれども、四阪島からはどこの高校に行ってもよくて、私は父親の出身である今治市の今治西高等学校というところに進学しました。そこの美術部に入ったんですけれども、そこにいったことが一番、私の初めての大きな転機だったと思います。

美術部に入りますと、大変すぐれた指導者である高階重紀先生がいらっしゃいました。高階先生は、東京藝大（当時、東京美術学校）の油画の出身です。とてもすぐれた作品を描いている二紀会の作家でした。私たちは団塊の世代で、当時1クラスが55人で10クラス、1学年が550人もいました。当然美術部員も、大勢いたのですけれども、その中には智内兄助、山本耕造、川畑宜士、桑名正子、達川清君たちがいました。この写真（図2）は、奥が私で、前が桑名正子さん。桑名さんは今、パリで芸術活動をしています。毎日、石膏像の木炭デッサンをしました。それが一番の基礎だというふうに先生に言われまして、先輩たちが教えてくれるのです。大体ひと月に1枚完成するものですから、1年に12枚、3年で36枚から40枚ぐらいしか描けませんでしたけれども、もう本当にそれしかやらないっていう感じに、毎日、やっていました。

もう嬉しいことも辛いことも恥ずかしいことも含めて、青春時代の切磋琢磨っていうのは、こういうものなんだなというふうに思ったほどです。そこで、3年

間を過ぎまして、運よく藝大に合格することができました。

藝大では、日本画を学びました。ちょうどその学生運動が盛んなころでもありましたけれども、藝大ではあまり学生運動が盛んにならなくて。ただ、先生たちがやっぱり作家だなと思ったのは、授業が休講になってしまうので、自分はこんなことで時間を無駄にして、自分の絵を描く時間をもったいないからといって、辞められた先生たちが何名かいらっしやいました。

日本画は特に専門性が強く、とても面白かったのですけれども大変でした。特に画材が高くて、こんなはずではなかったと毎日思っていました。私は現役で入りしたので、他の人が皆、大人に見えました。私はその時点では、まだまだ未熟だったのだと、はっきり思います。技術的な面で合格したのかもしれませんが、精神的には全然不合格だったのだと思います。そんな感じで、2年生までは追いつけなくて、また絵を描くことを真剣に考えていなかったのだと思います。

3年になって、有元利夫と知り合いました。この変な写真がそうなんですけれども、ちょうど上野公園でふたりを友達が撮ってくれた写真(図3)です。これくらいしか写真が残ってないのですけれども、この有元利夫と知り合ったことが、第2の転機といえると思います。この人と出会わなければ、私は一生絵を描かなかったかもしれません。そのくらい、絵を描くことっていうことに、大学に入ってあまり魅力を感じられなかったんですね。この先のこととか、今もお話しましたが、本気で絵を描くことを具体的に全然考えてなかったからだと思います。まず初歩的な勉強の仕方や、絵の勉強の仕方ですね。そういうことや絵画の面白さはもちろんのこと、こうした創作とともに、生きていくことっていうのを初めて考えたのが、この時だったと思います。

卒業後、2年して、結婚しました。夫は広告会社に就職して、働いてくれていましたけれども、夫の勧めもあって、しばらくして私は日本画の公募展で、創画会という会に出品し始め、もう2年目あたりで春の賞を取ったり、秋も賞候補になったりしていました。それは、夫がいろいろ助言してくれたからなのですけれども、そんなこんなをやっているうちに、有元利夫も絵を描きたくて、会社を辞めたのです。

実は会社勤めをしながら、個展などをしていたのですけれども、大変評判が良く、最初からほとんど売完という信じられないような人でした。つまり一つの家

に2人の作家がいるというのは、とても難しいことで、しばらくして相談の結果、私は絵を描くのをやめ、夫の仕事の助手をすることになりました。なぜやめることができたのかというと、やはり自分が描きたかった絵は、こういうものではなかったのではないかと、漠然と思ったのだと思います。その頃ちょっと仏画のようなものを描いていました。

少し夫のことをお話します。これは夫の《花降る日》(図4)という作品ですが、絵を描き始めて数年しないうちに、この作品で安井賞に推薦されまして、これで特別賞をとりました。もう1点《古曲》という作品も出品しました。これは《舞踊》(図5)という絵です。大体その有元利夫の絵を紹介するのに、何かこうやって、作品をお見せしているのですが、これは《夜のカーテン》(図6)という絵です。

先ほど仏画を描いていたとお話ししましたが、これ(図7)は私の創画会に出していた作品なのですけれども、やはり夫がいろいろ平家納経の本を出してきたりして、こういうふうなものを参考にして、こういう絵を描いたらいいのではないかと、というふうに助言してくれるものですから、それを聞いて一生懸命描いていたのですが、結局、本当に自分が描きたいものは何だったのかっていうことを、真剣に考えないまま、描いていたのでしょね。2人でいろいろ話し合いをしていると、やっぱり自分の弱点というのが見えてくるのですね。それで、自分でも制作に行き詰ってくるのですけれども、そういうものを続けて描く自信がなかったのだと思います。それで、私は、そこで筆を折ったという言い方はおかしいですけれども、絵を描くのをちょっとやめて、夫の仕事の助手をすることになりました。

そうこうしているうちに、息子が生まれたのですけれども、ほぼそれから1年後ぐらいに、夫は呆気なく病気で亡くなってしまいました。

そこからですね、私の波乱の人生が始まるのです。これ(図8)は陶芸の修行をしようと思い立ってですね、唐津の九州の隆太窯という、中里隆さんという作家がやっている窯元に無理やりお願いをしまして、弟子入りしたところですね。一番奥が、中里隆先生、真ん中はもう以前からいたお弟子さんです。一番手前の左が私ですね。まだ1年も経ってないと思いますけれども、もうここでの修行たるや、本当に今までのことが360度ひっくり返ったような生活でして、何しろその今まで一生懸命勉強をして、大学にまで入って、そこも4

年かけて卒業してですね、絵も描いていた、創画会にも出していた私が、もう何一つ通用しないんですね。本当に恥ずかしいようなことで、何をやっても何も知らないっていうのが、本当によくわかった年月でした。朝から晩まで、つまりすごい肉体的なことで、もうくたくたに疲れて、ただ寝るだけみたいな。子供を寝かせてるときに一緒に寝てしまうぐらい、そのくたくたに疲れて、何も知らないことばかりの恥ずかしいことっていうのが逆に快感になるぐらい、ここで目を開かされました。何を知ってても、それは全然何か偉いことじゃないんだっていうことにもすごく気が付きました。そのとき私が38歳でした。これからの人生ですね、今までのやってきたことっていうのが、そこから始まったような気がしています。

東京に帰ってくるのは、本当は4年いないと修行にならないって言われたのですが、精神的に続かないんですね。2年して子供が小学校に入ることになったので、そこで、子供が小学校に東京で入りますからとって逃げるように、東京に戻ってきました。ここがですね、これ(図9)がその隆太窯の全景で、すばらしく広い敷地に窯と工房がいろいろあります。東京に戻って、修行の続きをやるのですけれども、だんだんできるようになってきたので、これ(図10)はほんの一部ですけれども、こんな作品を作りながら、この陶芸をやって、発表して売って、私は生活をしていました。絵を十年間止めていたものですから、生活の基盤がない訳ですね。

初めて個展をした時に、まだまだ未熟なので、大きな作品があまりつくれないということで、そのギャラリーの壁が真っ白にあいていて、とてもおかしいものですから、そこに私は陶芸の土を使って、絵を描いてみたらどうだろうかと思って、そういったドローイングをいくつか描きまして、そこに展示をしました。絵の具というのは、ちゃんとすぐそのそのものが、絵の具になるように精製されているのですが、陶芸の土っていうのはとても面白くて、精製されていない土なので、不純物が混じっています。その不純物がとても温かい感じがして、そのことがあって、私は気に入りました。陶芸の土以外にも、友人が発掘現場などで発見した赤い土ですとか、黒い土でもとても面白い風合いのある土とかがあると、そういうものを教えてくれて、そういう土を私も集めまして、そういうもので絵を描いて、展示をしていました。なぜそうしたのかというと、やはり陶芸と陶芸の土っていうのはよく合うと思

ったからなのですね。この違和感がないということがとても大事なので、それを考えて、そのようにしました。

これ(図11)が日本画の材料なんですけれども、つまり宝石の一種なんですね。日本画の顔料というのは、いろんな色があるんですけれども、ほとんどが宝石の原石ですけれども宝石にならない屑石のようなものですが、とても綺麗な色で出来ています。なので、大変高価ですね、お値段もお高いです。これが絵の具になるとこういうふうになるっていうことなのですが、やはり精製されているので、とても綺麗ですし、いろいろ粒子も荒いのから細かいのまであって、とても美しく、絵の具自体が綺麗です。

この(図12)白いところが先ほど申し上げた陶芸に使う、例えば白化粧土というのがありまして、それは朝鮮カオリンっていうのですけれども、エンゴベという白い化粧土にする材料です。それはちょっとピンクがかっていて、ほんのり温かい感じがする土です。そういうものを使って、数年、絵を描いていました。こういう絵(図13)も描きましたし、これは岩絵具と両方併用していますけれども、ずっと、いわゆるモノクロというか、そういうものに近い、絵を描いていたというふうに思っています。

これ(図14)はいわゆる鵜島っていうところですね。村上水軍ですか、あの島ですけど、カレイ山の展望台から見たところを、描いた絵です。これも、結局その白い土と茶色の焦茶色の土を使って描いています。この辺はだんだん絵の具が、いわゆる日本画の岩絵具がまじってくるんですけれども、そういうものを長く続けて、描いています。

この辺でもう山がたくさん出てくるんですけれども、そのなぜ山の絵を描くかというと、結局、東京の下町にずっと長く住んでいますとそこには緑もあるには、あるのですけれども、やはり四阪島で育ったっていうことがすごく大きくなって、どこにいても、やっぱり緑を求めている自分がいました。実は夫が亡くなった後、わりとすぐに、山梨県の方に小さな山小屋を建てまして、そこから近隣の山によく登るといって、山歩きですね。山の中を子供と一緒に、犬も飼っていましたが、犬も一緒に歩いたり走ったりなんかしていることが、すごく楽しくて、そういうことをしていました。そういう自然の中にいることがとても自分には気持ちがよくて、九州に行っている間も、いつの間にかスケッチブックが九州の美しい風景でいっぱいになってい

るっていう、そういうことに気が付いたんです。私は、だんだん山や緑の中に入っていくことで、そうだからからはもう、自分の好きな絵を描こうと思って、山の絵を描き始めたわけですね。なぜ鳥じゃないのかというと、東京は鳥が見えないんですよ。とても遠いので、なかなか鳥を見に行くっていうことはできないし、子供がまだ学校に入ったというような時代でしたので、今治に帰るっていうこともなかなかできなかったものですから、結局、東京から近い山のあるところに行く、というような格好で、山の絵を描くようになりました。山の絵を描くといっても、なかなか高い山には登れないので、別に山岳部でもワンゲルでもなかったもので、そういったノウハウが自分では身につけていないものですから、どうしたらいいかわからなくて、低い山をただ歩いているだけだったんですけれども、あるとき山の頂上に登ったら、そこから見た風景っていうのは、とても気持ちがよくて、山の周りがずーっと遠くまで見えるんです。そして、あるとき山に登ったら、雲海になってたんですね。ずっと霧が出て、その霧の中にぽつんぽつんと近隣の、そんなに高い山ではなかったですけれども、その山頂がぽつぽつ見えて、それがまるで海に浮かぶ島のように見えたことがあって、これはもう鳥や海と、みんな全部同じじゃないかって思えたことがありました。そこで私は、そういったものをだんだん自分で描いていければいいなというふうに思いながらやっていったわけなんです。

あるとき、息子もだんだん成長してくるんですが、中学に入りましたら、その学校の先生が、大学の山岳部出身で、もうガンガン山に登る人だったんです。その方のお友達で、女性の登山家を紹介してくれました。私の山小屋は南アルプスの北岳とか、そういう高い山がいくつもある中の甲斐駒ヶ岳の麓にあるのです。その女性の登山家が、ちょうどそこに毎年冬に登っているということで、冬ではありませんでしたが、夏休みに、そこに登らせてあげますよということになって、一緒に2人で登りました。このときに初めて、私はプロの登山家からどのような装備をして、どのように登っていくのか、どんな服装でなければならないのかということを、初めて知りました。

そのたったの1回の経験でしたけれども、それがずっと何十年も私の山登りの基礎になっています。そんなことがなかったら、きっと多分どこかで、遭難して死んじゃったたかもしれません。そういうことを、本当に教えてくださった方には、心から感謝をしている

次第です。

そんなことですね、山梨県、それから長野県の山に登る機会が多かったんですけれども、四国の方の山にも登りたいと思っていました。

石鎚山というのは、四阪島が別子銅山の学校だったときに、中学になったら学校登山をするようになってたんですけれども、私は中学に入った途端に公立になりまして宮窪町立四阪島小学校中学校<sup>(1)</sup>になってしまったので、登れませんでした。なのでずっとずっと後になってからようやく石鎚山に登るのですが、その前に、高校の同級生で、川畑宜士君っていう人がいて、その人が、当時、高校の美術の先生をしていて、自分は登山部の顧問だから、「一緒に登れるよ」って言って、笹ヶ峰に連れてってくれたことがありました。私と息子と3人で一緒に登ったんですけど、5分ぐらいしたら、川畑君は足がつってですね、登れなくなりました。でも、結局は山頂まで登ったんですけど、そんなことがありながらもとても気持ちよかったです。

四国の山もすごくいいなと思って、次に、その川畑君がですね、東赤石の山小屋をやっている学校の先生がいるから、その人を紹介します、って言うのでその方を紹介してくれまして、今度は本格的に、その人と一緒に東赤石に登りました。

これ(図15)は息子を描いた絵ですね。一応、絵は年代順になっているので、これは1999年ですかね、息子が15歳のときに、息子をモデルにして描いた絵なんですけど、これは鳥取県の倉吉博物館の菅橋彦大賞っていうコンペがあって、それで佳作賞をいただいた作品ですね。私の絵の中には、山と鳥と花がちょっとですかね。人物像はほとんどありませんで、今回、このお話をいただいたときに、人物も描いてると思って、それで、一生懸命探し出した作品です。

これ(図16)は二ツ岳ですね。東赤石へ登ったときに見た山ですけれども、こんなふうにとろとろ暗いわけではなく、これは、単に使った材料が、まだこの頃も土を使っていたので、そういう色になっています。

これ(図17)は八巻山ですね。これが東赤石の中心になっている山なんです。

本当に初めて四国の山らしい山に登りまして、そこから瀬戸内海がものすごくよく見えるっていうことに気が付きまして、そこから見た風景も、スケッチはしてきたんですけれどもなかなか絵にすることが難しかったです。山に登ると何を見るかっていうと、その山

頂から四阪島を探すんですね。ああ、あった、あの遠くの方のあの島がそうかなっていうふうに見るっていうことで、ふるさとして何ていいものなんだろうっていうふうに、どんなときも思い出しました。もうすごく、なんていうか、海とその海岸線を見ると、本当になつかしかったです。

これ(図18)は、山梨県の山で、千頭星山っていう山です。この頃にですね、両洋の眼展という、油画と日本画とが一緒になっているような展覧会がありまして、何人かの評論家の先生たちが推薦した作品を出すというような展覧会でして、これがそのときの何回目かに出した作品で河北倫明賞というのをいただいています。山梨県の山です。この奥に南アルプスという仙丈ヶ岳とか、甲斐駒は隣ですね、北岳とか、ずっと連なってある手前の山です。

これ(図20)は仙丈ヶ岳ですね。いくつか山に登っています。

これ(図21)は四国の山ですね。タイトルは《守山》と書いてありますが、石鎚のお向かいの手箱山だっと思ひます。

これ(図22)は黒戸山という、最初に登らせてもらった甲斐駒ヶ岳の手前の山なんですけれども、一番甲斐駒ヶ岳に登るのに、一番難しく、長い距離を歩いて登らなければならないという山です。

それからですね、今回、愛媛県美術館には、私の絵が2点あると思うのですが、一つは、《黒姫》(図23)という山と、それからもう一つは、《青い耳飾りの少女》(図24)っていう絵があります。これ(図25)は少女の方のクロッキーなんですけれども、このモデルさんは、息子とほぼ同年代で、友達だって言って、連れてきた少女だったんです。この子は、今、コンテンポラリーのダンサーでちょっと有名な高瀬譜希子さんという女性です。アルバイトでモデルをしてくれまして、ダンサーなので、ものすごくポーズの体の線もとても綺麗ですね。1年ぐらいずっと週に1回モデルさんお願いして、描かせてもらっていました。

私がトルコ石のイヤリングを手づくりで作って、その子に「こんなのつける」って言ったら、嬉しいって言ってもらってくれて、すぐ自分で耳につけてくれたので、それを描きました。小さな作品ですけども、その絵も美術館の方にかけていただいていると思ひます。

それから、多分そのとき一緒に、美術館に入りました《黒姫》という、100号近くの絵があるのですけれど

ども。そちらは黒姫に、矢川澄子さんという私の大好きな文学者がいまして、大体英語の翻訳をしていた方なんですけれども、その方が夫の有元利夫の絵が大好きで、ご自分のエッセイ集で『反少女の灰皿』っていうエッセイ集を出すときに、カットを描いてくれないかということで、描いたことがありました。それ以降とても親しくしていただいています、(自宅のある)黒姫にも何度も遊びに行かせていただきました。そのときに、有元もまだ元気だった頃だったので、一緒に行かされたことがありました。とてもすてきな住まいでそこにずっと、住んでらしたんです。(矢川さんは)澁澤龍彦さんの最初の奥様ですね、ずっと鎌倉におられたんですけども、離婚してから黒姫に行かれてそこで執筆活動をしていました。

あるとき、編集者から電話がありまして、「実は矢川さんが亡くなったのよ」ということで、あんなにお元気そうだったのにと本当にびっくりしました。仕事で上京された時、黒姫に戻るのには、上野から長野方面に向けて乗る電車ですから、うちが日暮里で上野の次の次ですから電車に乗る前に、うちに寄って、私と息子の顔を見て「元気？」って言って、それからしばらくお茶飲んで帰られるような方でした。もう亡くなったというので、矢川さんのところへ行きました。亡くなった顛末もいろいろお聞きしましたがけれども、結局1人でとても、寂しかったようでした。帰りはその友達とその黒姫の山を背にしてずっと帰ってくるわけですけど、その時に黒姫のスケッチをしまして、そのスケッチを元に描いた絵が、この黒姫山です。

山にはいろんな思い出が少しずつこうあるのですが、特に黒姫の山には、そういう気持ちがあり、どうしても私の中でこう描かざるを得なかったみたいなものがありました。

これ(図26)も高瀬譜希子さんの絵です。本当にいろんな表情でいろんなポーズをしてくれた、いいモデルさんだったと思ひます。

これ(図27)は唯一、果物ですね。いくつか描きましたけれども、花梨の実です。

これはカレイ山展望台から見た伯方島ですかね。大体いつもふと気が向いて、今日は天気がいいな、かすんでないなっていうふうに思うと、車で展望台まで行って、写真を撮ってスケッチして帰ってくるんですけど、それも最近、今治に帰る機会が多くなったからそういうふうのできるの、若い頃は仕事もあり、いろんな事情があつて帰りたくてもなかなか帰れず、遠く

から本当にふるさとを思うだけっていうふうでした。今はいつでも、コロナがなければですね、いつでも帰られるので、本当にいいなと思います。これは今の四阪島ですね。カレイ山展望台から四阪島が見えたので、ちょっと拡大して、写してみました。

これはもう皆さんご存知のしまなみ海道です。橋のなかった時代も知っていますし、できた当時は橋ができてよかったのかなって疑問でしたけど、橋ができてから、この島々もこうやって、船じゃなく自動車でパッと来て、見ることができるので、今はできてよかったなというふうに思っています。

これ(図28)は朝日岳です。私、愛媛新聞にもちょっとエッセー<sup>(2)</sup>を書いているんですけども、東北の山が好きで、大朝日っていう朝日連峰の中の大朝日、日本海側ですかね。山形県のあたりの連峰ですけども、月山と大朝日それから鳥海山というふうに、並んでるんですけども、登るチャンスがあったので、そういったところも描きました。

これ(図29)はしまなみ海道から見た橋桁になってると思いますけど、ちょっとした岬になってるような島です。

これ(図30)は瓶ヶ森ですね。四国の山もだんだん描けるようになってきたので、そういったところも機会があったら、登って描くようにしています。だんだん登れなくなりましたけれども面白いです。

これがさっきも出てきましたけど能島と鵜島とですね。村上水軍の根城になった島ですけども、やはりこういうふうに、多島海と呼ばれるほど、本当にここには島が多くて、海も嵐でなければ本当に鏡のようになんかべたーとなってます。それがやはり懐かしいですね。これはそれを絵にしたものです。少しツンツンですけど、絵は絵空事っていうぐらいで、本当はその通りじゃなくてもいいんですけど、山の絵の展覧会するとき登山家には山が正確に描かれているっていうことがすごく問題になるらしくて、ここはこんなふうじゃないっていうことをよく言われました。でも、絵描きの私としては、ここにそれがあっても何にも関係ないっていうふうに思えるので、結局は自分の好きなように描いています。

これ(図31)はですね、後に私はちょっと大学で陶芸を教えることになりまして、数年陶芸と絵を教えていたのですけれども、その時にちょっと展覧会をやりました。これは多分皆さんもご想像通りで四阪島です。四阪島の工場の大煙突です。作りながらすごく面

白くて、実はこれは香炉になってまして、下の台と上の煙突とその下のものがバクって外れるんです。その中に、お香を焚くと煙突から煙が出るようになってます。こんなことをして、ちょっと遊びました。

これ(図32)は北岳ですね。山は、その山に登るとその山が描けないので、その山が見える山に登るんです。これもあの北岳も登ったことがあるんですが、北岳に登るととても気持ちはよかったんですけど、北岳の周りの山しか描けないんですね。北岳を描きたいと思って、北岳の向かいの山の櫛形山というところに戻りました。

これ(図33)は九州ですね。九重連山に行きまして、九重連山は2度行ったんですけど、最初は11月で雪が降って、途中で帰ってきました。

これ(図34)はその次に、リベンジしようと思って、夏ちょっと前、花が咲く前ですね。4月か5月ですけど、とてもいいときに行きまして、これは中岳というところの山頂です。とてもいい色で綺麗でした。それを絵にしまして、ここは本当に九重連山というぐらいで、もうたくさん山の山が連なっているものですから、ものすごく描きごたえがありました。

これもそうですね。三俣山という山ですね。

これ(図35)がようやく出てきました。石鎚山です。ここもとても道がよくなっていて、大変登りやすかったです。ただ、私はこの先には、怖くて行けません。若かったら行けたと思いますけど、皆さん、どんどん下りて、細い細いカミソリの刃のようなところをずっと歩いていきます。私は足がすくんで行けませんでしたので、そこから絵を描いて帰ってきました。

これ(図36)は大山ですね。私の絵は多分、雲がたくさん出てくるんです。「人を描きませんね」って言われたときに、「雲が言葉です」って言ったことがあって、自分でも上手いこと言ったなと思ったんです。やはり空と雲の様子とか、今でもそうですね。朝、犬と散歩をするときに必ず空を見まして、今日は雲があると思うと、なんかちょっと嬉しいんですね。晴天だと雲が一つもなくって、お天気はいいんですけども、何というか、やっぱり雲があると、そこに何か風情があって、雲は、今日はどんな言葉を発しているんだろう。今日はどんなふうに雲は待っているんだろうっていうふうに考えることがあって、そう思いながらいつも上を向いて歩いているので、時々転びます。

これがですね、先ほどの石鎚山に登ったときに、麓では濃霧で、山に登りたい人もみんな帰っていったよ

うなお天気の日だったんです。でも、せっかく来たのだから、途中まで歩いて、そこでやっぱり霧が晴れなかったらもう帰ろうと思いながら登った石鎚が途中から、もう本当にピーカンになっちゃって、すごいお天気がよかったですよ。その時にパッと後ろ振り向いたら、石鎚の向かいに見える山がものすごく綺麗に見えて、それを今度はそこに登らなくちゃと思って、これ(図37)は堂ヶ森に登りまして、そこから見た、鞍瀬の頭というところですね。これの向こう側に石鎚があるんですけど、堂ヶ森まで登ったら、もう体力がなくなってそこから一步も動けませんでした。なので、次に登ろうと思うんですけど、多分ちょっと難しいような気がします。四国の山はですね。石鎚スカイラインっていうのがあって、そこから登れる山はとても楽なんですけど、堂ヶ森ですとか、他の山は下の麓から登らなきゃいけないんですね。それがもう本当に苦痛で、若い人だったら大丈夫だと思うんですけど、つまり往復しないといけないので、泊まるにしてもテントが要るし、本当に大変でした。でも、いいスケッチができました。もうちょっとしか滞在しませんでしたけど、これ(図38)がニノ森ですかね。石鎚から後ろ振り向くとこの山が見えるんですね。もう本当に綺麗で、すごく感動しました。それを描いた山です。

これ(図39)はですね、私の山小屋がある甲斐駒ヶ岳の麓で、甲斐駒ヶ岳です。それを描いた絵です。

これ(図40)は大三島のところですね。御申山ですね。鷲ヶ頭山っていうところに登りまして、このときは犬も一緒に登ったんですけど、これ登山道です。犬が先に行って、私に早く来いと言って、振り向いているところです。これがそのとき描いた絵です。

これ(図41)はですね、岩城の千年桜で《山上の桜》というタイトルですけど、横長のそんなに大きくない作品です。このときも、ここに行くには、すごく遠回りすれば車で行けるんですけど、フェリーで行きました。貸自転車借りまして、この山頂まで自転車で登りました。桜が咲いて、とても綺麗でした。

これ(図42、43)が山以外の花の作品です。

山に登ると、1冊ずつスケッチブックを持っていくのですが、こんなふう(図44)に描いて帰ってくるということです。

これでお話は終わるんですけど、私が絵を描いてよかったと思うことは、やはり自分の中で全部解決できるっていうか、必ずどこかで絵を描きながら行き詰まって、時間をかけたり、どうしようかって悩む

んですけど、必ずそこで何かを乗り越えるときがあるんですよ。その乗り越えた時っていうのが、大した結果じゃなかったとしても、すごく嬉しいんですね。そのときに、絵を描いていてよかったなって思うのです。止められないですね。やはりゆっくりゆっくりではありますけれども、これからもそうやって絵を描いていきたい、何かを創っていきたい、っていうふうに思っています。

今日は皆様どうもありがとうございました。

(受講者からの質問)

大学のとき、陶芸の体験というのはおありになったんでしょうか。そして、もう一つは絵を再びを始められたときに、一番困難に思われたことはなかったんでしょうか。

(回答)

まず、陶芸のことについてですけども、藝大では、陶芸は習いません。陶芸は工芸科の中にありまして、工芸科の人も多分陶芸はやらないと思いますね。陶芸を専攻した人だけが陶芸ができるのであって、やらないと思います。ですので、私は絵画科なので、絵に関する、例えば版画ですとか、そういったことはやりましたけれども、陶芸はやりませんでした。なぜ陶芸をやったかという、夫が亡くなった後アトリエに夫の描きかけの絵がずらっと並んでたんですね。それを外して、じゃあさよなら、これは要りませんね、というように簡単に、一点も外せなかったんですよ。アトリエのものを動かすっていうことがね、できませんでした。ですので、アトリエを使わないのでできる仕事はないかと思って考えたら陶芸だったんです。陶芸は、ちょっとたまたまその中里先生と、ちょっとだけお会いしたことがあったので、本当に厚かましかったですけれども、本当に申し訳ないけど私は「弟子にしてください」って言って、ひたすらお願いして無理やり弟子になったんですね。それはある程度正解だったというふうに思います。何かを作るっていうことは、絵だけじゃなく、手を使って何かをやることすべてが芸術、美術だと思うので、そこで私は芯からたたき直されたみたいなのがあったので、それは本当にありがたかったなと思います。そのときはひどいなと思って、泣いたこともありましたけど、陰ながらですよ。そういうことを、言葉ではなく体で覚えさせられたっていうことが、ものすごくありがたかったなというふうに、後で思いました。

絵を描くことについてですけれども、絵はですね、やはり夫が描いているのを見て、とても勉強になっていたのです。その間10何年間でしたけど、絵の描き方ってというか、絵のつくり方ってということは、ほとんど迷いませんでした。そのことよりも、私は見たものをそのまま描いていく、そっくりじゃなくても、最近本物とちょっとそっくり過ぎて面白くないですけど。昔の絵を見てると、こんなふうには私はアレンジして、山をこんなに面白く描いてたなと思って、今回もすごく勉強になったんですけど、もっともっと絵空事にしていきたいなというふうに思いました。ですので、困ったことは、ほとんどありませんでした。ただ、もっといいものにしたいって困ったことはいっぱいありましたけど、描くことに関して、困ったってことはほとんどありませんでした。

(受講者からの質問)

利夫先生の絵は、音楽を感じさせるような絵だって、それは、容子先生にも影響を与えているんですか。

(回答)

有元利夫は、絵から音楽が聞こえるように、音楽は音楽を聞いて、絵を感じるようになっていつも言っていましたけれども、私は自分の絵から音が聞こえるようにというふうには、1度も思ったことがありません。もっと精一杯で必死です。

有元容子 略歴

- 1948年 愛媛県越智郡宮窪町四阪島（現今治市）生まれ
- 1971年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業
- 1977～80年 創画展に出品  
'78、'79春季展賞受賞
- 1988～89年 唐津隆太窯にて陶芸を学ぶ
- 1990年頃～ 「現代美術展－郷土ゆかりの作家たち－」今治市河野美術館（愛媛）以後毎年出品
- 1994～2009年 「両洋の眼・現代の絵画展」日本橋三越（東京）・愛媛県立美術館（愛媛）他  
'98河北倫明賞受賞
- 1999年 「第4回菅栢彦大賞展」倉吉博物館（鳥取）佳作賞受賞
- 2001～03年 「日本秀作美術展」読売新聞社主催

- 2002年 「東日本の美－山」東京ステーションギャラリー（東京）  
有元利夫と共著『花降る日』を新潮社より出版
- 2006～12年 実践女子大学美学美術史学科教授
- 2008・2012年 個展 松山三越（愛媛）
- 2014年 「寺田コレクション自然と生命への讃歌」茨城県天心五浦美術館（茨城）
- 2021年 「寺田小太郎 いのちの記録展－コレクションよ、永遠に」多摩美術大学美術館（東京）
- ほか個展・グループ展多数

[註]

- (1) 私立校であった別子学園四阪島小学校・中学校は、昭和36年4月1日に公立学校に移管され、宮窪町立四阪島小学校・中学校となる。
- (2) 四季録『愛媛新聞』に2021年4月7日から2022年3月31日まで寄稿。

## 「創作版画の表現と、絵画表現への展開」

講師：山田彩加（版画家）

これから私の作品や制作内容について、お話をさせていただきます。よろしくお願いたします。

まず、現在の作品制作や表現に至るまで、私が芸術に関わり始めたきっかけからお話したいと思います。私は元々子供の頃から絵を描くことが好きでした。母の話によると、どんな時でも紙とペンさえあれば、熱心に絵を描いている子供だったようです。

左の写真（図1）は、子供の頃に鉛筆で絵を描いていたときの様子です。右の画像（図2）は小学一年生の頃に描いた思い出深い写生大会の絵です。当時から、上手く描くということより、自分の中で譲れない描き方のこだわりや強いイメージがあり、絵の表現に納得できるまで描き続けるという一面があったように思います。

私の母親は美容師をしており、父親は建築士でした。母は散髪から着物の着付けまでを全て行い、父は大きい紙をテーブルに広げて、物差しと鉛筆で、建築の図面を描いていました。私はその父の仕事道具でもあるロール紙を切ってもらって、よく鉛筆で絵を描いていました。両親ともに形を作り出す職業で、仕事に強いポリシーを持ってこだわっている所は、父も母も同じ

でした。幼い頃からその両親の働く姿を見てきたことも、絵を描き続ける一つの重要なきっかけになっているのではと、思っています。

本格的に芸術の世界へ踏み込もうとしたのは、高校3年の2004年でした。当時は大学の進路について悩んでおり、その際に私の所属していたバレエ部の副顧問であった美術の先生から、美術系大学への進学を進められ、芸術大学への進路を決意しました。幼少期から絵を描くことが生活の一部となっていたので、芸術の道を志すことにも違和感はありませんでした。

当初は日本画へ行こうと考えていて、右の写真(図3)の様な水彩やアクリル絵具などを使って主に静物画を描いていました。しかし、地元の美術館である印象的な油絵を見たことをきっかけに、油絵をやりたいと思うようになりました。

高校3年時の夏休みの1ヶ月間ほど、上京して東京の立川美術学院の夏期講習に通い、油絵の表現技法や絵画の構図などを学び始めました。朝は学科を学び、夜9時頃まで制作に励んでいました。キャベツの油絵(図4)では、葉の重なりを入念に描いたり、この頃から細かい描写を好む傾向がありました。

これら(図5~7)は大学の油画科に入学してからの作品です。入学して初めての課題が「自由にドローイングしなさい」という課題でした。まず、自分が描きたいものは何か?ということを考えて、とりあえず植物や蝶など身近なものをよく観察してデッサンしました。

その頃、大学1年時(2004年)に履修した美術解剖学の授業で、木の根っこと毛細血管を比較した画像をスライドで見て、それらの類似性にとっても感銘を受けました。それから、人体と植物を融合させたようなドローイングをするようになりました。中央の作品では手と植物の根っこを融合させ描いています。

これらの作品は、大学2年までに油画科で学んだテンペラや壁画作品の一部です。

左の作品(図8)は洋画作品の一部分を模写した壁画で、漆喰をいくつかに分けて塗り固めながら、顔料を染み込ませる方法で制作しました。漆喰を塗った所は1日の間に仕上げる必要があったので、壁画制作は時間との戦いでした。右の作品(図9)は、藝大の石膏室でコレオーニ將軍騎馬像を描いたテンペラ画になります。

学部2年までは、油絵具を実際に作ったり、洋画の伝統的な基本の技法を学びました。自身に合う表現方

法やコンセプトについて、様々な技法に触れながら試行し探求していました。

2005年の学部2年のときに、初めてリトグラフという版画技法に触れました。版画講義の中でも、私はリトグラフと木版木の講義を選択しました。描いたものがそのまま版画にできるというリトグラフの方法は、鉛筆デッサンを好んでいた自分にとって、とても入りやすく手に馴染むものでした。鉛筆による表現の柔らかさの魅力に対して、版画のインクの黒色からはまた異なった力強い魅力を私は感じました。左の画像の《種》(図10)という作品では、大学近くのスーパーでクルミやキノコを購入し、拾った落ち葉を加えてモチーフとして組み合わせて制作しました。これが初めてのリトグラフ作品になります。

木版画(図11)の方は、色の付け方・刷り方によって平らな箇所でも木目が出てきて、その木目の出方に大変魅力を感じました。

リトグラフと木版木の集中講義を受けた後も、引き続き油絵を中心に制作していました。表現したい独自の画風やコンセプトが定まらず、制作に行き詰まっていた時期でもありました。

油絵の技法ではシュルレアリスム的な表現に興味を抱き、存在感や迫力を持たせるようにモチーフを大きく描いて、そのものの細かな質感を表現したり、モチーフの持つ異なった存在意義や魅力を引き出そうと試みていました。(図12、13)

こちらは、アクリル絵具を用いて制作した作品です。左の作品(図14)では心臓から植物が生えているように描き、右の作品(図15)ではかぼちゃをモチーフとして、かぼちゃの断面図から人体を連想しながら描いた作品になります。この頃から解剖図やカラーアトラスを参考にして、人体の内部や一部を観察しよくデッサンしていました。

2年時に受講したりトグラフの表現方法に惹かれ、学部3年時には全ての版種を通して、本格的に版画を学びました。全ての版種で、樹木や自然にあるものをモチーフとして制作しました。左から、リトグラフ(図16)・銅版画(図17)・木版画(図18)・シルクスクリーン(図19)の作品になります。銅版画では、エッチングの技法を用いています。

全版種の技法を2週間ごとに一通り学ぶことで、それぞれに適した表現方法を試行し、それぞれの特徴を持った版画作品として成り立って行く過程を知ることができました。

これら(図20、21)は、リトグラフの技術を学びながら、ダーマトグラフを使って独自の表現を作り出そうとしていた頃の作品になります。学部3年の頃制作したこれらの作品からは、自身の求める表現がリトグラフの中で見つけられるのではという、強い希望を感じました。

作品《浸蝕》(図21)は、Prints Tokyo 2007という版画の公募展に初めて応募した作品になります。自分の体や手をモチーフの主体として、解剖図にある筋肉や血管を、葉脈や根っここと融合させて制作しました。

リトグラフの版画技法について、簡単にお話できたらと思います。リトグラフとは、油性の描画材で描いたものがそのまま、または反転する形で版画になる技法です。水と油の反発作用を利用した版画技法です。1798年ごろ、ドイツのアロイス・ゼネフェルダーが発見しました。石灰石を使用して主に制作されていましたが、近年日本では、軽量化されたアルミ版が使用されています。リトグラフで使用されるアルミ版は、特殊な薬品が塗布され、研磨剤(金剛砂)によって、石灰石の性質に似た多孔質に加工されています。詳しい工程については、また後ほどご説明します。

右の作品は、私が影響を受けた版画作品です。右下にあるプレスダンの《善きサマリア人》(図22)という細密な石版画作品を実際に初めて見たとき、リトグラフでもこのような細密な描写ができるのかと、感銘を受けました。この作品を見てより一層リトグラフに興味を抱くようになりました。

上の2枚(内1点、図23)は、プレスダンと師弟関係にあったルドンの作品です。無意識や夢をテーマとし、植物や人間を融合させたような作品もあります。ルドンの幻想的な世界観や、プレスダンやデューラーによる細密な版への描写は、自身が版画を制作する根底で影響を受けました。

学部4年時の2007年、初めて個展を行いました。奥野ビルにあるGaiery銀座フォレストで、1週間、個展を行いました。水彩画や油絵、リトグラフ作品(図24~26)の数点を展示しました。《創造する手》(図20)をDMの画像として使用し、作品を額装して展示する等、自らの展示を構成することの難しさや楽しさを、初めて経験しました。

こちらの作品(図27)は、《命の繋がり》という作品で、愛媛県美術館でも収蔵いただいている作品です。私にとって初めてのリトグラフ大作になります。本作品は100×80cmのアルミ板2枚を使用して、上下の

イメージを繋げています。自然と人体の繋がりを重視したドローイングや、リトグラフ制作を行う中で、肉体全体と自然の融合を試みた作品になります。実家で一緒に暮らしていた猫をモデルにしています。今思うと、故郷の空気や自然、人や動物との繋がりを懐かしむ気持ちが作品に現れているように感じます。《命の繋がり》と題名をつけ、現在の制作でも根幹となっているコンセプトを、この頃確立しました。

版画作品では、一本一本の線や描写が重なって版に刻まれ残される様子が、その人の時間や人生を刻んでいるかのように深く、美しいものだなと感じました。

これらの作品(図28、29)は、学部から修士に進学した頃の作品になります。「命の繋がり」というコンセプトを基に、どの様にリトグラフで作品を展開していくのか、ということを試行錯誤していました。この時期から、「森羅万象へ広がる繋がり」という、目に見えない精神的な概念を具現化した、網目状の描写や、ひも状の描写を作品に取り入れて行きました。これらの作品は2点とも、森羅万象に存在する命が生死を重ねて繋がり、宇宙へと広がっていく様子を表現しています。人体の中で植物と融合していた表現が、外の世界へ増殖し広がっていく表現へと変化していきました。

2010年からは博士に進学し、奨学金制度を利用しながらもアルバイト、制作と留学の準備を続けていきました。そして、2011年には、協定校留学制度を用いて自らコンタクトを取り、秋から1年間パリのエコール・デ・ボザールに留学しました。

ボザールでは、教授毎のアトリエで面接を経て、在籍する形となっていました。私は洋画を専属とする教授のアトリエに入りました。主に前期は、様々な授業を受けながら制作していました。版画工房では石版画の制作を行いました。左3点の写真(内1点、図32)は、ボザールのリトグラフ工房で、右2点(内1点、図33)はIDEM PARIS版画工房の写真です。IDEMは、ピカソやダリ、シャガールなどが版画制作をしていたムルロー工房を引き継いでできた工房です。滞在中に訪問する機会がありました。どちらの工房にも大小沢山の石灰石が保管してあり、歴史を感じる古典的なプレス機が使用されていました。ボザールの教授から石版画技法を教えていただき、主に石灰石を用いて作品を制作しました。

こちらは、実際に現地で制作した作品です。作品の

モチーフは主に、ルーブル美術館にある石膏像をデッサンしたものでした。美術館には度々通いながらデッサンを行いました。現地では、主に、石灰石への描写に適したKorn社のリトペンシルNo.5 を使い制作していました。一番左の胸像（図34）が、ゴムを塗布する前のリトペンシルで描画した状態で、隣の画像（図35）がゴムを塗布した後の画像です。

留学時には版画以外に、技法材料や形態学の講義も受講しました。右下（図36）が技法材料の教室で、右上（図37）が、形態学の講義風景です。

一番左の作品（図38）は、技法材料で制作した、ラ・トゥールの《大工の聖ヨセフ》の模写です。実際にルーブルにある作品を観察して、油彩で制作しました。

形態学とは、解剖学と人体デッサンの実技が合わさったような授業で、実際の人体モデルを見て、前の大きい黒板に人体や筋肉をチョークでデッサンします。空間認識や人体の形態を改めて詳しく学びました。

留学中は14区にある国際大学都市の日本館に住んでいました。寮には、様々な研究者の方が住んでいました。

その日本館の大サロンでは季節毎に様々な行事が行われていて、当時現地に滞在していた芸術家の4人で大サロンを借りてグループ展（図39）を行いました。額縁はホームセンターから木を買ってきて、自作しました。

日本館では「クリシエを超えて」展というアートの公募展も行われ、実行委員の一人として参加しました。

中央の作品（図40）はグループ展で展示した油絵です。滞在時に訪れた教会を、油彩で制作しました。中央左の画像はパリ郊外の街にあるpoissy教会を描きました。中央右の画像（図41）は、パリのノートルダム大聖堂の一部を、当時デッサンし描いたものになります。

留学した期間は、たくさんの歴史的な芸術文化に触れ、芸術・デッサンの原点に戻って、改めて技術を学ぶと言う、大変貴重な時間となりました。

帰国後の2012年には、博士展に向けての制作と論文の執筆に取り掛かりました。実物サイズの紙に、完成図を考えながらエスキースを行いました。《生命の変容と融合-0への回帰》というタイトルで、左の作品（図42）が一番最初に仕上がったパーツの一部です。この懐中時計は、母からもらった懐中時計をモチーフにしています。日をまたぐ直前の時間を意識して描いています。

これらの画像は、大作リトグラフを制作している様子です。左の写真（図44）は、作品一枚一枚の境目をダマトグラフで繋げている仕上げ段階の様子です。

右の写真（図45）は、1枚目から2枚目へ繋げながら制作している様子です。最初に完成させた一枚目をマットフィルムに刷り、反転させて1枚目のイメージを端から2枚目3枚目へと繋げていきます。全体の完成図をイメージしながら、一枚ずつ完成させています。（図45の）右の作品は、《手向けられた花をも、命と共に》というタイトルの作品です。こちらも、1,000×800mmのアルミ板を2枚使用して、縦に繋げています。本作品は制作の最中に東日本大震災がありましたので、花を手向けると言う弔いの気持ちが強く現れた作品になります。

こちらが作品《生命の変容と融合-0への回帰》（図46）です。1,000×800mmのアルミ板4枚と、500×800mmの半サイズのアルミ板2枚を合わせて、合計6枚を繋げて、横 2,150mm×縦 1,500mmの大きなリトグラフ作品を完成させました。本作品中央の胎児は生命の誕生を表し、それぞれの人物や生物は時間の流れやそれに伴う肉体的変化を表しています。鳥や植物、虫、動物など、様々なモチーフを紛れるように描き入れました。懐中時計に結ばれた鎖は、一連の「命の連鎖」を表しています。背景の惑星は、現在の地球と、過去や未来の地球の姿を表しており、そこから外側へ広がる樹の枝や網目状の表現は、生命のパワーやエネルギーが、宇宙全体へ勢いよく延々と広がっていく様子を表しています。生命が物質として森羅万象へ繋がりが広がっていくことに対して、意識はどのように変化していくのかというテーマを元に、生と死が表裏一体の事として時間の流れと共に繰り返される様子を描きました。《生命の変容と融合-0への回帰》は、様々な展覧会で展示しました。

右下の写真（図47）は、作品の前で博士論文を発表している風景です。博士論文のタイトルは、「命の繋がり—芸術的観点を探求する生命の本質」というタイトルです。コンセプトの「命の繋がり」を、細胞などの目に見える物質的な存在と、意識や精神などの目に見えない・形のない存在として分け、自身の作品と交えて、芸術的な観点から探求しました。博士論文の執筆と初めてのリトグラフの大作は、今までの作品制作とコンセプトの集大成を表すものになりました。

2014年に博士を出てから、主人の仕事の関係で、沖縄の読谷村に2014年春から2018年の12月まで住ん

でいました。その間2016年には今治市で出産をし、制作活動と生活・育児を両立して行く上で様々な葛藤や奮闘がありました。育児をしながらの制作活動は大変でしたが、1日の中で少しでも空いた時間には作品を制作していました。

読谷村に住んでいる間、沖縄の自然に影響した作品をたくさん制作しました。

左の作品は《Womb of nature》(図48)と言う作品で、自然の胎内をイメージし制作しました。こちらの作品でも、ガジュマルの根やサンゴ礁など、沖縄の自然で発見したものを取材しモチーフにしています。

沖縄に住み始めて、ガジュマルの樹をよくモチーフとして取り入れるようになりました。ガジュマルの樹は精霊キジムナーが住み、魂(マブヤー)が宿る神聖な樹として親しまれています。いくつもの気根を地面に伸ばして成長する姿には、生命の力強さや偉大さを感じるばかりでした。

右の作品《樹々の囁き・翠色の瞳》(図49)は、那覇の平和記念公園に存在するガジュマル(図50)を取材し、モチーフとして参考にしました。

左の作品(図51)は、《命の森》と言うタイトルです。生命の誕生を表す卵を中心に、ガジュマルに寄りかかる人物、月などをモチーフとして、制作しました。

右の作品(図52)は《孤月への誘い》という作品で、ガジュマルの幹から出現する母体から命のつながりを表した網目状の線が、周囲に広がり溶け込んでいく様子を描いています。

左の作品は、《夢III-ある騎士の憂鬱》(図53)という作品です。本作品を制作しようと考えたきっかけは、沖縄の読谷村に住み始めた頃、周囲の自然の中で多数残された沖縄戦の痕跡を見て、衝撃を受けたことでした。亡くなった人達の深い無念が傷跡から感じられたことと、そのような戦争に向かう人達はどのような心境だったのかと考えました。生と死に直面し、憂鬱な表情を浮かべる人物の心情や葛藤を想像しながら、本作を制作しました。

右の作品《月の光》(図54)では、生命の誕生や死を通じた万物の流れを優しく見守るような表情の人物を中心に、月の光が及ぼす生命の繊細な感情の揺動を、細かな線の集積として表現しました。

こちら(図55)は2015年に、地元にある今治市玉川近代美術館で個展を開催した時の様子です。地元的美術館で初めて個展を行い、油絵を含めた2003年頃から2015年までの作品約40点を展示しました。玉川

近代美術館では、2019年にも作品を展示させていただきました。同じく今治市出身の野間祥子さんと二人展という形での展覧会です。アーティストトークに加えてワークショップも行いました。

故郷での大きな個展は、芸術活動を志した原点を顧みて、今までの制作姿勢や作品を振り返る大変良い機会となりました。

リトグラフ作品と同時に、アクリル絵具や色鉛筆を用いたペイント作品も、制作しています。(図56～62)

ペイント作品の場合、リトグラフの作品とは対照的に主に色を多彩に使用して制作することも多いです。《扉》(図57)という作品は、ノートルダム大聖堂で見たステンドグラスをイメージして、制作しています。

左の2点(図58、59)は2019年に個展で展示したアクリル作品で、右の1点(図60)は台湾で展示した作品です。

《永遠の祈り》(図58)というタイトルの作品も、パリにあるノートルダム大聖堂のばら窓をテーマに、表現しました。当時ノートルダムの大火災が発生した頃で、その出来事に衝撃と悲しみを受け、実際に見たバラ窓の印象を背景に、祈りを捧げる人物を中心として、描きました。

右の作品は《鮮やかな思い出》(図59)という作品で、琉球手毬や思い出に浸る人物をモチーフに、アクリル絵具や色鉛筆を用いて描いた作品です。

左の《深い夢》(図61)は、夢の世界をイメージして制作した作品で、心の扉を解放し、自由に羽ばたいていく心を鳥のモチーフを用いて描いています。右の《秘密》(図62)という作品は、生と死が紙一重であり、隣り合わせに存在していることをメッセージとした作品です。

2019年は沖縄から岡山県津山市に引っ越しをしたりと、周囲の環境がガラッと変化した年でもありました。

こちらは2019年7月にシロタ画廊で開催した個展の様子です。「霧が晴れた先には」という展覧会タイトルで、右の作品は実際に沖縄の海岸で見つけた不思議な形状の石(図65)をモチーフとして、制作しました。

右の《霧が晴れた先には》(図64)という作品は、2019年1月に亡くなった父をモデルに、制作した作品です。父が亡くなった日、津山市は霧が濃い日でした。この霧が晴れたら、生きていた父に会いに行けるのではと考えていた当時の気持ちや、常に忙しかった父が

穏やかに過ごすことができたらという願いを込めて、制作した作品になります。

左の作品(図66)は、リトグラフの上から手彩で着色しています。版画に着色する場合は、それぞれのエディションで着色の加減に大きな違いが出ないように、イメージを定着させて描くように心がけています。版画に色をつける際は、モノクロームの時点で出来上がったイメージを左右しないよう、手彩色で行うことが多いです。ただ、メディウムで薄めた一色の淡い色の層を、全面に一版だけプレスすることはあります。

右の作品は《少女が抱えた夢》(図67)という作品で、たくさんの夢と未来を抱えて佇む少女のイメージを想像し、制作しました。自身の娘をモデルにして、制作した作品です。少しずつ床に落ちている花は、たくさんの夢や未来が成長によって選択されていく様子を表しています。

本作品(図68)は、《悠久の旅人》と題した作品です。ガジュマルを背景に胎児のような形をした樹や、旅人に寄り添う象、夢の中に現れる羊、誕生を象徴する卵、死を象徴する骸骨、そこを延々と旅する人物などをモチーフにし、その世界をイメージしながら制作しました。

これらの作品は《遺伝子の行方》というタイトルの作品です。左の作品《遺伝子の行方I》(図69)の人物描写では、目を瞑って瞑想し、命の行く末と万物の流れに身を委ねている様子を描きました。その人物を中心に、ジャーマンアイリスや枯葉などの植物や水、時計や繋がり象徴化した鎖をモチーフとして交えて描いています。ジャーマンアイリスの花をモチーフとした理由は、衣が波打つ様な美しい形に魅力を感じたからです。ギリシャ神話では、虹の女神の首飾りから溢れた神酒の雫が、アイリスの花となったという物語もあります。

連作として制作したのが、右の画像の《遺伝子の行方II》(図70)です。こちらは《遺伝子の行方I》とは逆に、遺伝子の行く末を探求しようと、目を開いて先を見ている人物を中心に描きました。

これら全てのパーツを合わせて、イメージサイズ(140×180cm)の一つの作品として仕上げました。6枚の紙を繋げて完成させています。(図71)

左の図(図72)は、完成前の構想図です。このような、版画で1つのパーツから大きい作品へイメージを広げていく作業はとても達成感があります。絵画的な表現も交えて、1つのオリジナルな創作版画として

作り上げ、版画という固定概念を超えて、一つの芸術作品として展開していきたいと感じています。

昨年(2021年)9月には、津山市にあるPORT ART & DESIGN TSUYAMA(図73、74)で個展を開催しました。大正9年(1920)に竣工した津山市指定重要文化財・旧妹尾銀行林田支店を活用し、芸術文化の創造・発信拠点として様々な展覧会やイベントが行われている場所です。

大正時代のモダンな雰囲気を感じられる歴史的な建物となっており、そちらに作品を展示した際は大正時代と現代が作品によって繋がったような、大変魅力的な展覧会を開催することができました。

こちらの作品は、PORTの個展や昨年1月に開催された「ドローイングとは何か」展に展示された作品《樹々の鼓動・薄氷に溶ける霜の花I》(図75)です。本作品では、俯いて横たわる人物とそれを見つめる動物が、自然へと包まれて行く様子を描きました。モチーフとして、ガジュマルや彼岸花、月、植物などを加えて描いています。動物は19年の天寿を全うした実家の猫をモデルに描いています。タイトルの“霜の花”は、一面にパッと現れて一瞬で儚く消えて行くフロストフラワー(氷の花)の和訳であり、その様子を命の一瞬の輝きや鼓動のイメージと重ね合わせて、タイトルに加えました。

昨年(2021年)4月にシロタ画廊で開催した版画と本の展覧会「NINE PRESSES」展に向けて、初めての版画集・版画詩集を作成しました。

版画詩集「泡沫の夢」(図76)と、版画集「幻想の光」(図77)では、自身で詩や文章を作成し、それらに基づく風景をイメージし制作しました。版画集「言葉の樹」(図78)では、自身が美しいと感じる言葉を元に制作しました。紙は阿波和紙を使用し、一部は雁皮紙を用いて制作しています。

昨年のグループ展や個展では、制作した3冊の版画集を数回展示し、展覧会を展開していきました。

版画集の表紙作品は、18部~20部(版画集の冊数分を)限定して、作成しています。版画集の箱は自ら作成し、版画作品は製本して本の中にとじられた形となっています。

2014年から、版画を制作する際はいくつかの版画工房を利用していました。

沖縄に滞在していたときはコントロールボワンという那覇の工房に通いお世話になりました。東京では板津石版画工房や、町田にある版画工房Kawalabo!でも、い

くつか版画を制作しています。

昨年度(2021年度)からは、津山市の商業施設 sense TSUYAMA内にあるテナントの一つとして、こちらのアトリエ・エスキス 版画・絵画工房(図79)を開いています。sense TSUYAMAは、元々幼稚園で使われなくなった廃校がリノベーションされた所です。様々な施設が集まった場所となっています。

様々な賞等で賜った資金を活用し、中型と大型の手動プレス機を設置しています。現在は制作活動中心で、月に一度様々なワークショップを行っている形です。

これからは、リトグラフの実際の描画や製版・刷りの様子について、動画を交えながらお話したいと思います。こちらは、実際にアルミ板へ描写している様子を撮影したものです。4倍速の動画となります。左の画像(図80)のようにダーマトグラフを尖らせながら、細かい描写を行っています。主に全体のイメージを見ながら描写を行いますが、その時々状況によって、一部分を完成させて次の部分を完成させたり、画面のところどころに手を入れて行ったりと、それぞれの場所から線が増殖していくように描いています。(図81)ダーマトグラフはすり減るのが早いので、このように補助棒などを使って芯を最大まで使えるように心がけています。手の油分が反応するのを防ぐため、常に手の下にはあい紙などを挟んで描写を行います。

こちらは、先ほどご紹介した版画集「言葉の樹」の表紙作品を描画している様子です。作品の大きさにかかわらず、大きい作品でも小さい作品でも、モチーフの描き方や表現の仕方を変化させないように、常に手先に緊張感を持たせて制作しています。

このように、緻密な作業を全体のイメージを見ながら繰り返し積み重ねることで、1つのイメージで作品を作り上げて行きます。

製版の様子を動画でまとめました。2倍速になっています。製版とは、アルミ版や石版に描画した部分をインクに置き換えるという、描いたものを版画へと変化させる作業です。リトグラフは製版が一番重要な部分で、版が壊れないように慎重に作業します。

描画が終わった後は、ラズンとストーンパーをひいて画面の保護を行い、アラビアゴムを柔らかいハケで均等に塗布して乾燥させます。製版まで約1週間置きます。動画では製版前2回目のゴム引きのため、ウエスで塗布しています。

製版の際は、一度ハケで引いたゴムを洗い流し、再

度薄くウエスでゴムを伸ばしてからよく乾燥させます。プリントクリーナーで描画部分を落とし、エゲンラッカー、チンクターの順番で塗布します。ここまでは、水分を使うことは厳禁です。水で版を洗いながら、硬めに調整した製版インクを盛って製版を完成させています。1つ間違えたり、手順の中で他の溶剤が混ざると版が壊れてしまうため、製版の作業は丁寧に行います。

こちらは、板津石版画工房で作品をプレスした2015年頃の映像です。4倍速に変換しています。制作している作品は、博士展で出展した《生命の変容と融合・0への回帰》の一部です。右から左へ均等にインクを盛り、見当に合わせて紙を置き、スポンジで湿らせながら、徐々に圧をかけてプレスしています。こちらはバロンケント紙を使用しています。

板津石版画工房のプレス機は柔らかいチンパン等を使用した独自の電動プレス機ですが、新日本造形で購入できる一般的な平版プレス機は、チンパンがある程度しなりのある硬質のものが使用されています。

時間の関係でご紹介できなかった作品や展覧会の内容とともに、スライドのまとめに入りたいと思います。

自分の根幹となる作品コンセプトや描きたい作品イメージの基盤をしっかりと持って、制作を生活の一部として取り入れて行くこと。そのことに加えて、モチーフや構図に悩んだり、どの様に描いたらいいのかわからなくなった場合でも、身近な風景や物など、とりあえず感覚的に何かを作っていくという制作の継続性というのは、とても大切なことだと感じています。版画が1つのオリジナルな芸術表現・絵画的な表現として認識される今、さらに発展した作品が作って行けるように、今後も地道な制作活動を続けて行きたいと思っています。

ご静聴いただき、ありがとうございました。これから実際に、少しの時間ですが、版画を刷る実演をしたいと思っています。

(リトグラフ制作の実演)

山田彩加 略歴

1985年 愛媛県今治市生まれ  
 2008年 東京藝術大学絵画科油画専攻卒業  
 2010年 東京藝術大学大学院修士課程 美術研究科絵画専攻版画研究領域修了  
 2011-12年 パリ国立美術学校 エコール・デ・ボザール留学  
 2013年 東京藝術大学博士審査展 野村美術賞受賞（受賞作：図46）  
 2014年 東京藝術大学大学院博士課程 美術研究科美術専攻修了（博士/美術）  
 日本版画協会第82回版画展 準会員最優秀賞受賞（受賞作：図48）  
 2015年 「山田彩加展-命の繋がり-」今治市玉川近代美術館（愛媛）  
 「都美セレクション新鋭美術家2015」東京都美術館（東京）  
 東京国際ミニプリント・トリエンナーレ大賞受賞（図53）  
 2019年 第5回バンコク国際版画トリエンナーレ買上賞受賞（受賞作：図68）

「山田彩加×野間祥子-今治市出身若手作家展」今治市玉川近代美術館（愛媛）  
 2020年 FACE展2020／東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館、読売新聞社 オーディエンス賞受賞（受賞作：図71）  
 よんでん文化振興財団 よんでん芸術文化奨励賞受賞  
 第13回岡山県新進美術家育成「I氏賞」選考作品展 奨励賞受賞（受賞作：図71）  
 2021年 第9回「ドローイングとは何か」展招待東京都美術館（東京）

個展・グループ展多数

〔付記〕

書き起こしにあたり、文章として読みやすくするため、言葉の補足、修正を行った。

本稿書き起こしにあたり、有元容子氏、山田彩加氏にはご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

有元容子 図版



図1



図2



図3



図4  
有元利夫 《花降る日》  
1977年



図5  
有元利夫 《舞踊》  
1979年



図6  
有元利夫 《夜のカーテン》  
1980年

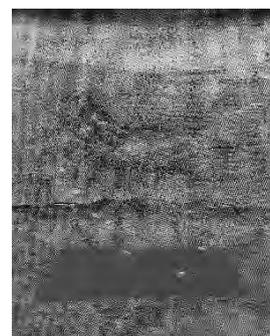


図7  
《散》1979年  
春季創画会春季展賞



図8 隆太窯



図9



図10



図11



図12  
タイトル不明 1998年



図13  
《夏の川》1998年



図14  
《鶴島》1999年



図15  
《15歳》1999年  
第4回菅橋彦大賞展佳作賞



図16  
《二ツ岳》2000年



図17  
《八巻山》2001年



図18 《星に続く山》1998年  
両洋の眼展



図19  
《遼山》1999年 両洋の眼展

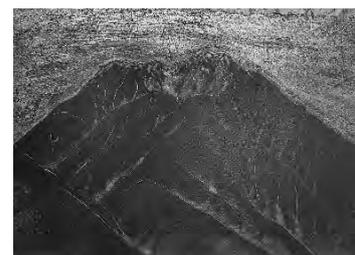


図20  
《仙丈ヶ岳》1999年



図21  
《守山》1999年

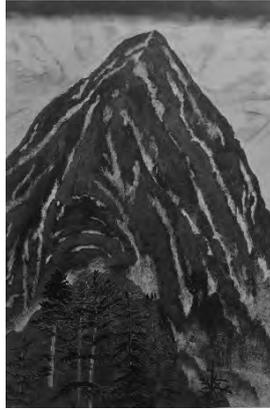


図22  
《黒戸山》2001年



図23  
《黒姫》  
愛媛県美術館蔵



図24  
《青い耳飾りの少女》  
愛媛県美術館蔵



図25



図26  
《ふと見上げて》2001年



図27  
《誰のものでもなく》2005年



図28  
《朝日岳》2005年



図29  
《蜜柑の島》2008年



図30  
《瓶ヶ森への道》2012年

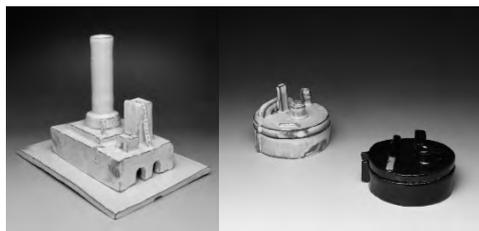


図31 《香炉》2012年



図32  
《春待つ山》2014年



図33  
《山頂の池》2017年



図34  
《星生山》2017年



図35  
《石鎚》2015年



図36  
《大山》2016年



図37  
《鞍瀬の頭》2017年  
第29回現代美術展（今成市河野美術館）出品



図38  
《二ノ森》2017年



図39  
《甲斐駒ヶ岳》2018年



図40  
《御串山》2017年



図41  
《山上の桜》2021年



図42 タチアオイ



図43 カラスウリ



図44

山田彩加 図版



図1

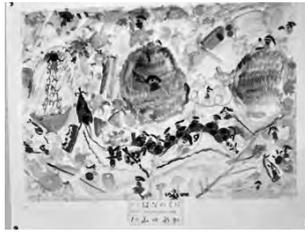


図2



図3 百合のある風景



図4 キャベツのある風景



図5



図6



図7



図8 フレスコ画 (模写)



図9 テンペラ画 (石膏デッサン)



図10 リトグラフ



図11 木版画

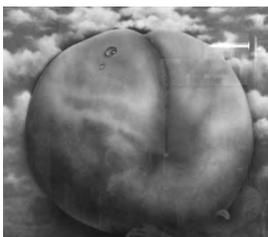


図12  
《桃のある風景》2005年  
油彩、画布



図13  
《誕生》2005年  
油彩、画布



図14  
《存在するという意味を考える  
ためのドローイング》  
2006年  
水彩、アクリル絵具、紙



図15  
《断面図》2006年  
水彩、アクリル絵具、紙



図16  
《人体の質感に似た樹》  
リトグラフ、紙



図17  
《樹の精霊》  
銅版画、紙



図18  
《木洩れ日》  
木版画、紙



図19  
《カエルの散歩》部分  
シルクスクリーン、紙



図20  
《創造する手》2006年  
リトグラフ、紙



図21  
《浸蝕》2006年  
リトグラフ、紙



図22  
ロドルフ・プレスダン  
《善きサマリア人》  
1861年 リトグラフ



図23  
オディロン・ルドン《「エド  
ガー・ポーに」1. 眼は奇妙  
な気球のように無限に向か  
う》1882年 リトグラフ



図24  
《南瓜と葡萄のある静物》2006年 油彩、画布



図25  
《変換》2007年 リトグラフ、紙



図26



図27  
《命の繋がり》  
2007-2008年  
リトグラフ、紙



図28  
《森羅万象に捧げる祈り—命の根源》  
2009年  
リトグラフ、紙



図29  
《森羅万象に捧げる祈り》2009年  
リトグラフ、紙



図30  
《不朽の老樹》2010年  
リトグラフ、紙



図31 《Coma》2010年  
リトグラフ、紙



図32 エコール・デ・ボザール 版画工房



図33 IDEM PARIS 版画工房



図34 ゴムを塗布する前、リトペンシルで描画



図35 ゴムを塗布した後



図36



図37



図38  
ジョルジュ・ド・ラ・トゥール  
《大工の聖ヨセフ》模写



図39  
パリ日本館大サロンでのグループ展「4SCÈNES」



図40  
《L' église de Poissy》  
2012年 油彩、画布



図41  
《Notre-Dame de Paris》  
2012年 油彩、画布



図42

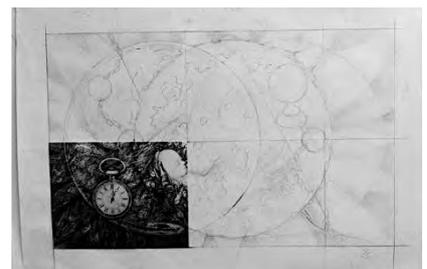


図43  
大型作品に向けてのエスキース



図44



図45



図46 《生命の変容と融合—0への回帰—》  
2012-2013年 リトグラフ、紙



図47



図48  
《Womb of Nature》2014年  
リトグラフ、紙



図49  
《樹々の囁き・翠色の瞳》2018年  
リトグラフ、紙



図50  
作品のモチーフ：那覇・平和記念公園近  
くにあるガジュマルの樹  
2018年撮影取材



図51 《命の森》2017年 リトグラフ、紙



図52  
《孤月への誘い》2016年  
リトグラフ、紙



図53  
《夢Ⅲ—ある騎士の愛鬱》2015年  
リトグラフ、紙



図54  
《月の光》2015年  
リトグラフ、紙



図55



図56 《Womb of Naturell》2015年  
アクリル絵具、鉛筆、色鉛筆、中性ボード紙



図57  
《扉》2015年  
アクリル絵具、鉛筆、色鉛筆、  
中性ボード紙



図58  
《永遠の祈り》2019年  
アクリル絵具、鉛筆、色鉛筆、  
ペン、中性ボード紙



図59  
《鮮やかな思い出》2019年  
アクリル絵具、鉛筆、色鉛筆、  
ペン、中性ボード紙



図60  
《金魚-花花.》2018年  
アクリル絵具、鉛筆、色鉛筆、  
ペン、中性ボード紙



図61  
《深い夢》2015年  
アクリル絵具、鉛筆、色鉛筆、  
中性ボード紙



図62  
《秘密》2015年  
アクリル絵具、鉛筆、色鉛  
筆、中性ボード紙



図63  
《張り詰めた糸・頬を伝う涙》  
2018年  
リトグラフ、紙



図64 《霧が晴れた先には》2019年  
リトグラフ、紙



図65  
石：《霧が晴れた先には》のモチーフ



図66 《Face》2017年  
リトグラフ、色鉛筆、アクリル絵具、紙



図67  
《少女が抱えた夢》2019年  
リトグラフ、紙



図68 《悠久の旅人》2018年  
リトグラフ、紙



図69  
《遺伝子の行方I》2018年 リトグラフ、アクリル絵具、色鉛筆、紙



図70  
《遺伝子の行方II》2018-2019年 リトグラフ、アクリル絵具、色鉛筆、紙



図71  
《遺伝子の行方-眼差し》  
2018-2019年  
リトグラフ、紙

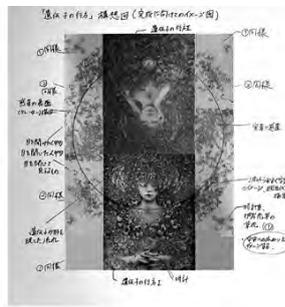


図72  
《遺伝子の行方-眼差し》構想図



図73



図74



図75  
《樹々の鼓動・薄氷に溶ける霜の花I》2020-2021年  
リトグラフ、アクリル絵具、鉛筆、紙



図76  
版画詩集『Le Rêve fugace- 泡沫の夢』



図77  
版画集『幻想の光 - Lumière fantastique』



図78  
版画集『言葉の樹 - Tree of Words』



図79



図80

図81

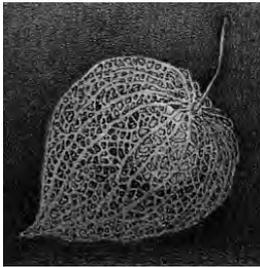


図82

《透かしほおずき》  
版画集『言葉の樹-Tree of words』  
2020年 リトグラフ、紙



図83

《幻想の光(版画集/幻想の光)》  
2021年  
リトグラフ、紙



図84

《支配された思考》2021年  
アクリル絵具、色鉛筆、鉛筆、  
中性ボード紙



図85

《存在の本I-変遷と反復》  
2014年  
リトグラフ、紙



図86

《夢先への案内》2015年  
アクリル絵具、鉛筆、色鉛筆、  
中性ボード紙



図87

《空虚》2015年  
アクリル絵具・鉛筆・色鉛筆、中性ボ-ド紙



図88

《深い夢-鼓動》2020年  
リトグラフ、ダーマトグラフ、鉛筆、  
色鉛筆、紙

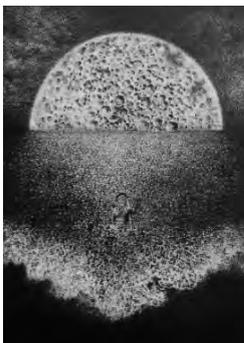


図89

BLIND PEAK 限定展示作品  
2017年、リトグラフ、紙



図90

《奇跡の海》2015年  
リトグラフ、紙



図91

《光と陰》2015年  
リトグラフ、紙



## 新型コロナウイルス禍における愛媛県美術館の活動について

喜安 嶺

### はじめに

新型コロナウイルス感染症が、国内で一例目となる感染事例を確認した2020年1月に世界保健機構（WHO）が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言してから、3年が経過した。当初このワクチンも治療薬もない感染症は、同機関により約2か月後の3月11日に「世界的な感染拡大の状況、重症度等から新型コロナウイルス感染症をパンデミック（世界的な大流行）とみなせる」と表明される。<sup>i</sup> そこから、それぞれの地域で、そして生活の様々な場面において、日々変化する感染対策が生活に欠かせないものとなり、多くの人々が暗中模索の暮らしを経験することとなった。厚生労働省により、2023年2月時点で、全人口の4人に1人が新型コロナウイルスの診断を受けたと発表されており、マスクやアルコール消毒等、多くの人々が取り組んできた感染対策を振り返ると、その数字に改めて脅威を覚える。<sup>ii</sup> そして、緊急事態宣言、まん防、移動自粛、不要不急、ソーシャルディスタンス等、いくつも登場した新たな言葉を少しずつ耳にしなくなってきた昨今、2023年5月より、新型コロナウイルス感染症は、感染法上の分類が2類相当から5類に引き下げられることが発表された。そして、「新型」コロナウイルス感染症の名称が、平時への移行を象徴するように「コロナウイルス感染症2019」に変更する検討段階に入っている。しかし、WHOも緊急事態宣言は解除しておらず、今現在も感染者本人をはじめ、医療や介護関係者等多くの人がこのウイルスと闘っている。この様なタイミングではあるが、社会教育機関である当館がこの3年をどの様に過ごしたか、過去にならぬ内に本稿において記録しておきたい。

この3年間、当館も様々な影響を受けてきた。最初は何の館も手探りであり、感染症対策に取り組みながら、どの選択が最良であるか葛藤する場面の連続であった。その中で、業種別のガイドラインが作成される

こととなり、日本博物館協会によって2020年5月に「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」が策定された。このガイドラインは2023年2月時点で5回改訂され、近く改訂が予定されている。この改訂により、来館者をお願いしていたマスクの着用やイベントの制限等がなくなり、消毒や換気を継続しつつ、新たな運用を進めていくことになる。ガイドラインは、感染状況や感染症対策等の変化に応じた内容で、現場の運営における重要な指針となった。当館では、図書コーナーや講堂があるため、他にも図書館や音楽堂等のガイドラインも判断の参考とした。一方で、館種別を超えて県内の博物館同士でこまめに情報交換を頻繁に行い、各自自治体や国の方針や現場での運営上の課題を共有し合った。

また、このコロナ禍において印象的だったのは、都道府県単位での動きが目立ったことにある。これほどメディアに各地域の首長が登場したことはないと思われた。新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく「緊急事態宣言」の全体方針は国により示されるが、具体的な措置は地域の実情により各都道府県により実施されたためであろう。<sup>iii</sup> 先述したガイドラインにも、時点により「開館」や「展覧会や公演等の開催等」判断の内容は異なるが、当初より施設の判断は「所在する都道府県等の知事からの要請等を踏まえ」とある。それゆえ、博物館の臨時休館や事業の実施に関しては、地域により判断が異なる場面も少なくなかった。世界的、全国的な感染流行でありながら、地域の特徴が色濃く出たこともこのコロナ禍のひとつの特徴ではないかと考えている。故に、当館独自の記録であるが、今後時間をかけてこの3年間で検証されていく中で、ひとつの地域に所在する博物館としての葛藤が何らかの役に立てばと思う。

### 感染拡大による臨時休館／事業への影響 (2020年度)

2020年4月の緊急事態宣言を受けて、当館では、当初4月14日～26日、その後延長により最終的にゴールデンウィークの終わる5月10日までの約1か月臨時休館とした。この間に県立学校も4月20日～5月10日まで一斉臨時休業等となっている。この4～5月に予定していた企画展2本はいずれも翌年度に会期を延期している。

臨時休館については、隣接する同じ社会教育機関である県立図書館も5月12日まで休館しており、学校の休業と同時に公共施設も休館となり、連休に重なっていたとは言え、教育の機会が著しく失われていたことを痛感する。こうした状況を踏まえ、この時期に当館では「おうちでミュージアム」としてワークショップや延期となった企画展の解説動画等の配信を開始した。予算措置のない中で、ワークショップについては、職員の手づくり動画となった。家にある身近なもので楽しめるワークショップの紹介だが、その動画製作自体が映像をつくる面白さを伝えるものともなっている。

iv (図1)



(図1) 愛媛県美術館YouTube「おうちワークショップ へんしんポリ袋」

また延期となった企画展は2本とも地元マスコミとの実行委員会の形式であったため、解説動画はテレビ局が製作を担当したことで、十分なノウハウを持たない当館でも速やかな配信が可能となった。一方で、現在当館の企画展は、県単独よりも2007年からはじまった実行委員会主催のものが大半となっている。閉館する施設は県管理施設だが、企画展の延期による損失やリスクは構成する民間企業にも影響するため、休館にあたっては、実行委員会での度重なる協議が必要であった。

この課題はもちろん当館だけではなく、大型美術館

とマスコミで共催されるブロックパスター (大量動員型) 展では、問題がより深刻であり、この時期にマスコミでも美術館展覧会の今後のあり方が度々取り上げられた。そして、この流れの中で、自館のコレクションを活用することの重要性についても再認識されるようになっていく。また、1982年に読売新聞社と日本テレビ放送網等の呼びかけにより発足し、現在公立美術館約150館が加盟する美術館連絡協議会が2022年度より事務局業務から撤退した。「全国の公立美術館が連携を図り、芸術、文化の向上および発展に資することを目的に」設立され、幅広いネットワークを有する同会の事務局は読売新聞社内であり、「展覧会の共同企画や巡回展開催」に大きな役割を果たしていた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、公立館を対象とした活動を見直すとしている。<sup>v</sup> 当館のような地方の公立館では、同事務局に主にコレクションを基とした巡回可能な企画を提案すること、またされることで、単館の財源や人員では実施困難な展覧会に共同して取り組むことができていた。現状は、感染症対策も踏まえ、まだ展覧会事業を100%の形で実施できていないため、今後その影響は益々大きくなっていくことが想像に容易くない。非営利を前提として運営している博物館においては、財源がなければ展覧会の開催はほぼ不可能であり、厳しい経済状況の中で、コロナ禍に受けた打撃から回復するには、恐らく今までにない新しい工夫が必要であるとはいえ、まだ様々な打撃を受けている渦中であって眼前の課題に手一杯で取り組めていないのが現状である。

当館では主催事業であるイベントやアトリエ教室も中止となった。イベントについては、当館学芸員を講師としたワークショップが対面や接触リスクを鑑み、多くが中止になったものの、新たに「親子ワークショップ」が6月の再開後から開始された。親子に限らず、生活を共にするグループや大人ひとりでも参加可能で、説明書を含むキット一式を渡し、最低限の説明を講師が行い、後は自主的に創作活動の環境が整っているアトリエにて実施する内容となっている。この事業は、感染症対策として企画されたが、自分たちで話し合い、それぞれのペースで楽しめることから、毎回好評を博し、継続している事業である。(図2)

また、県内の中核館でもある当館では、この緊急事態宣言中の2020年5月4日に厚生労働省より公表された行動指針「新しい生活様式」を参考に、「美術館新文化スタイル定着促進事業」に新規予算を計上し取り

組んだ。このソフト事業について簡単ではあるが紹介したい。



(図2) 親子ワークショップ

## I. デジタル技術を活用した情報発信

臨時休館が決まった際には、手づくり、または地元マスコミの協力を得て、動画配信をはじめたが、5月に策定された「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」には、「閉館を継続する場合、施設に来館しなくても、施設所蔵の美術品などの閲覧や解説等、博物館が提供可能な情報をオンライン上で利用できるコンテンツの公開を推進するなどの工夫を行うことが望めます。」との記述が確認できた。コンテンツを充実させること、また移動自粛が求められる中で、所蔵品のアーカイブ等に関して遅れをとっていた当館として、閉館による教育機会の減少をフォローすべく、下記の事業を実施した。

### ○館蔵品のデジタル化

文化遺産オンラインを活用して、「美術品などの閲覧や解説」を可能にするため、館蔵品の新規撮影や既存の作品フィルムのスキャニングを実施。(図3)



(図3) 文化遺産オンラインHP「杉浦非水《三越呉服店 春の新柄陳列会》」

### ○愛媛県美術館情報提供コンテンツ

- ・美術館PR動画制作

### ①コレクション紹介…主要コレクションの紹介 5本

### ②当館PR動画

### ③美術館の舞台裏

### ④障がい者をつくるプロジェクト紹介

- ・外国人対応施設案内コンテンツ
- ・創作活動事例紹介コンテンツ
- ・美術館利用の補助コンテンツ

これまで利用に際しての情報提供は職員が直接実施していたため、タブレットなどを利用することで、利用者と従事者双方の感染リスク低減を目的としている。また、感染対策を前提としながら、外国人や障がい者等、これまで当館が利用にあたって対応が十分に行き届いていなかった層に対してもより効果的な手段を増やすことができた。

また、最後に、現在当館YouTubeにて公開されている〈県美コレクション「今日の一品」〉については、緊急事態宣言に合わせて愛媛CATVが独自に製作・放映されたものを、同社の許可を得て動画コンテンツ化したもので、地元企業からの有難い支援であった。(図4)



(図4) 愛媛CATV、愛媛県美術館YouTube〈県美コレクション「今日の一品」 三輪田米山《福禄寿》〉

### ○愛媛県美術館コレクションによる「おでかけ美術館」

- ・コレクション巡回展

### ①八幡浜市美術館

### ②ギャラリーしらかわ

### ③新居浜市美術館

- ・出張PRパネル展

### ①南予 5件

### ②東予 5件

- ・おでかけワークショップ

### ①南予 4校

### ②東予 4校

当館は、県庁所在地県内最大の人口規模である松山市（中予地域）に所在しているが、県内でも他地域に比べ感染拡大が起りやすいことから、他地域と松山地域との移動自粛等の措置が取られていた。このため、県内唯一の県立美術館として、東予地域及び南予地域の郷土美術鑑賞や美術教育の機会減少の対策として移動美術館活動を企画実施した。当館から個々の地域と協議の上、地元ゆかりのあるコレクションの出張展示や、先述した館蔵品のデジタル化による画像データを活用したPR活動も合わせて実施した。どの地域についても、コロナにより活動が制限される場面が増えていたことから好評を得た。（図5）

また当館の代表的な教育普及プログラムである対話型鑑賞法によるワークショップも小中学校にて行い、子どもたちの教育機会減少のフォローアップとした。いずれも地域格差をささやかながら是正し、地域の芸術文化の魅力を伝えることで地域活性化の一翼を担う契機となることを目的とした。



（図5）おでかけ美術館 実施風景

その他にもハード事業として、新館や南館を県産材によって木質化し、抗菌化も行った。

新館では、国の方針に基づき、三密対策を徹底した上で、快適で安心できる空間づくりに取り組んだ。愛媛県は森林の豊かな資源を有しており、停滞する地場産業や経済の支援となることと、それだけではなく、これまでとは異なる他者との感染リスクが低いだけではなく、心理的にも安心できる空間づくりを目指した。当館には、ガラス張りとなっているエントランスホールの中庭に楠が3本あるが、これは松山城三の丸跡にある歴史的な土地柄を意識し、現存していた楠が保存されるように中庭に配置したためであり、木質化によって、当館を象徴する楠（当館の機関紙『Canforo』もこの楠にちなんだもの）とも親和性の高いデザインとなった。（図6）

また、南館は、当館の前身である愛媛県立美術館の



（図6）エントランス 県産材による椅子

建物であり、1970年に竣工した。50年以上が経っており2017年には耐震工事も行われたモダニズム建築として、現在は1～3階全てが県民の文化芸術活動の発表の場である県民ギャラリーとなっている。12室に分かれ、面積は2,004㎡と広く、利用団体も多く、県展をはじめとして、多くの団体に貸出をしており、当館と同等の面積を有する展示施設が市内には少ないこともあり、当館の臨時休館や貸出停止等は、市井の芸術活動にも影響を及ぼした。また臨時休館の決定は、感染状況や医療体制等により決定が直前であることから、貸館団体の展示作業や広報物印刷後に決まることもあった。しかしながら、この時、全ての利用者の方々からご理解をいただき、感染対策としての全館臨時休館に同意いただけたことを忘れてはならない。

臨時休館によって、文化芸術活動の発表の場の拠点としての役割を改めて意識する機会ともなり、また新館の鑑賞主体の利用とは異なり、利用者が主催となる南館における安全性や快適さを検討し、展示を行う際に利用者が触れる床面や壁面の抗菌化を木質化と共に行った。（図7）経年劣化もあり、利用者離れも懸念されていたが、感染症対策等を実施する中で、まさに安全で快適な貸館会場として生まれ変わることとなった。利用者からも喜びの声が聞かれ、コロナ後の更なる利用増に向けて意欲的な取り組みも実施したい。



（図7）抗菌化・木質化された南館県民ギャラリー1

## II. 感染拡大による臨時休館／事業への影響（2021年度）

翌年に2回目の臨時休館となった。時期は1回目と同じく、人流が復活する連休時期の4月24日～5月31日の約1か月であった。まん延防止等重点措置の適用（4月25日～5月31日）を受けて、県管理施設の全館閉館となり、企画展1本が次年度に延期、そしてもう1本は休館中の開催中止として会期短縮となった。

前回の休館時における企画展実行委員会内での大きな課題のひとつであった収益の損失リスクについては、文化庁の補助事業「ARTS for the future!」（コロナ禍からの文化芸術活動の充実支援事業）<sup>vi</sup>の支援を受けることで、延期や会期の短縮という選択が比較的容易になった。この補助金の一部は、前年の公共施設等の休館要請により発生した文化芸術活動の損失や課題に対してのレスポンスとなるもので、収束することのなかった新型コロナウイルス感染症の先の見えないリスクにより消極的な判断に傾きがちな関係者を後押しする事業として、翌年の2022年度も「ARTS for the future! 2（コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業）」として継続された。

予算リスクは回避できたものの、既に前年度企画展の延期2本が入り込んでいた上、更なる延期によって次年度事業との会場および作品の借用先との調整に、担当者を中心とした心理的な負担は相当なものであった。

この臨時休館中の5月には、3度の緊急事態宣言を受けて、文化庁長官名で「文化芸術に関わる全ての皆様へ」として次のメッセージが発出された。

「文化芸術活動は、断じて不要でもなければ不急でもありません。このような状況であるからこそ、社会全体の健康や幸福を維持し、私たちが生きていく上で、必要不可欠なものであると確信しています。」<sup>vii</sup>

感染症対策を適切に、ガイドラインに応じて講じることで、感染リスクを最小限にして開館すること可能とした上で博物館を管轄する省庁トップの上記発言は、長期の臨時休館等の特殊な環境下の対応を余儀なくされる中で、これまで考えてきた社会での博物館の存在意義が揺らいでいたこともあり、心強いものであった。

その後は、臨時休館することなく現在まで来ているが、展示室内での解説やトーク、またアトリエ教室をはじめとした教育普及事業は、県内の感染状況等に応じて中止や延期が続いた。こうした中で、低リスクで来館者、または当館に関心を寄せてくれる潜在的な利

用者に向けて、前年度実施し好評であった「美術館新文化スタイル定着促進事業」を継続し、新たな事業「美術館新デジタル活用魅力発信事業」も実施した。新型コロナウイルス感染症の先行き不透明な中で、地域格差を生じさせない館外事業と、感染状況に影響を受けにくいデジタルプログラムを下記の内容で展開した。

### 【継続】

#### ○「おでかけ美術館」

- ・コレクション巡回展
  - ①今治市村上海賊ミュージアム
  - ②五百亀記念館
  - ③宇和先哲記念館
- ・おでかけワークショップ
  - ①南予 4校
  - ②東予 4校

コレクション巡回展は前年度に続き各市町から評価が高く、先方負担のチラシ作成等広報にも力を入れて貰い、集客も上回った。残念ながら①、③の会場会期中に県内の感染状況が拡大したため、途中で会期終了や臨時休館となった。しかしながら、県と市町双方の条件が合わず、今回は開催を見送った博物館からも本事業継続について強い希望が寄せられた。



（図8）おでかけ美術館 広報用チラシ（今治市村上海賊ミュージアム）

### 【新規】

- 教育現場へのリモートプログラムの実施
  - ・リモート機材（PC、モニター、webカメラ等）
  - ・デジタル教材撮影用機材の導入（デジカメ等）
  - ・リモートによるモデル事業の実施（5件）

・アートカード100の作成と活用

○リモートイベント アーティストトーク (3件)

本事業では、社会教育機関である美術館として、文部科学省が2019年に打ち出した「GIGA スクール構想」の核である「児童生徒を誰ひとり取り残さず、留め置かない学習機会の創出」について対応するため、まず学校現場へのリモートによる事業対応を念頭に、専用機材を導入した。また、これまでは、館蔵品のデジタル化を外部委託で実施してきたが、柔軟かつ予算の枠に縛られることなくデジタル事業を実施できるよう、デジタル教材を自館で用意できる関連機材も併せて導入している。

上記機材を活用し、施行的に遠隔地にある小学校を対象にしたモデル授業を計5件、201名の生徒を対象に対話型鑑賞プログラムを実施した。(図9) これまで既存の機材で対応してきたリモートプログラムやオンライン事業についても、接続や音質等が改善し、本事業のもうひとつの目的である島しょ部等の学校や来館が難しい事情を抱える児童生徒に対しても、等しく授業ができる等、学校との事業展開の可能性が広がった。

また、愛媛県では、2021年度から児童生徒1人1台端末が本格導入され、学校教育活動において、ICTが効果的に活用されることとなっている。加えて、文部科学省による「2021年度(令和3年度)学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」の確定値が発表された。これによると、都道府県別の教員のICT活用指導力では、分類した4つの大項目すべてで、本県が1位となっている。<sup>viii</sup>

全国の公立学校の授業を担当している全教員を対象とした調査であり、学校現場でのオンライン授業の受け入れ側の体制が整っているという証左であり、今後学校を対象としたオンラインプログラム展開の後押しとなる結果である。



(図9) リモートによるモデル事業

そして、オンライン授業や学校現場で所蔵品に親しんで貰うため、用紙に抗菌ニス加工を施し「アートカード100」を作成した。(図10) シンプルに片面に作品画像と数字のみを掲載し、年代や参加人数によって遊び方を工夫できるように、所蔵品から100点選定した。主に県内の小中学校を対象として作成したが、大学や留学生等からも利用希望があり、早くも活用の広がりをみせている。



(図10) アートカード100

初の本格的なリモートイベントとして、本県出身の作家で、現在県外で活躍する3名をゲストに迎え、Zoomで現地と会場をつなぐことで、移動自粛等の影響を受けることなく、主催としても久しぶりにイベントの中止や変更、また来場者の入場制限等を心配することなく、イベントを実施することができた。

【講師】

- ①八木良太(現代美術家、今治市出身、京都府在住)／  
聞き手:藤城里香(無人島プロダクションオーナー)
- ②有元容子(日本画家、今治市出身、東京都在住)
- ③山田彩加(版画家、今治市出身、岡山県在住)

また、八木氏の回では、本人だけではなく、所属する東京のギャラリーオーナーにも聞き手としてオンラインで参加いただき、愛媛・京都・東京の三地域がつながる機会となった。版画家の山田氏は、アトリエでの制作風景の公開もあり(図11)、現地開催では難しい内容が、オンラインで可能となった貴重なイベントとして好評を博した。<sup>ix</sup>



(図11) イベント実施風景 (山田彩加氏)

### Ⅲ. コロナと共に開館し、運営を継続していく (2022年度)

2022年3月にすべてのまん延防止等重点措置が終了し、11月にはCOCOA（新型コロナウイルス接触確認アプリ）も機能停止することとなった。

本県では、独自の警戒レベルが、感染状況や医療体制のひっ迫により変動した一年間となったものの、大きな行動制限はなく、新型コロナウイルス感染症に対して、基本的な対策を講じることで、同感染症を理由とした事業の中止や変更等が一度もない3年目となった。

本年は、アフターコロナを見据え、県内の芸術文化を活性化するため、過去2年間の成果を活用しながら、今後の新たなオンライン事業等の展開を踏まえた新規のハード事業として「文化施設活動継続環境整備事業」を、ソフト事業メインの「美術館地域芸術文化活性化事業」を意欲的に展開した。

#### ○文化施設活動継続環境整備事業

- ・Wi-Fiの増設
- ・講堂・研修室等デジタル化・オンライン配信機能の増強

#### ○美術館地域芸術文化活性化事業

- ・「美術館に行こう！」バスツアー 18校
- ・交流スペースの活性化
  - ①TeamLabCameraの設置
  - ②ハイビジョンギャラリーの見直し
- ・創作スペースの活性化

これまでのリモート授業やイベント実施において、オンラインのメリット等が浮き彫りになったこと、またコロナ禍において各館でもオンラインやデジタル事



(図12) ハイビジョンギャラリー

業が活発化していることを受けて、当館でも全館でWi-Fiを設置し、既存のネットワークについても強化を行った。また、あわせて、講堂・研修室・ハイビジョンギャラリー等の映像機器を使用するスペースについては、開館時から24年経過していることから画質や機器の劣化が課題となっていたが、ネットワーク接続可能かつ高精細な画質再生に優れた機器を導入することで（図12）、講座やイベントについても様々な事業展開を想定している。

また、当然のことながら、2020年から学校団体の利用が遠ざかっている。当館のある松山市は、県内でも感染者が多く、たびたび移動自粛の対象になったこともあり、文化芸術に親しむ機会を子どもたちに提供するため、県下の小学校及び特別支援学校を対象にバスツアーを実施した。事前に応募をかけた際に各学校の教員にアンケートを実施したところ、ほとんどの学校からコロナ禍で子どもたちの文化芸術を体験する機会が減少したとの回答があり、募集枠を大幅に上回る応募があった。

プログラムでは、事前に学校に出前授業に出向き、バスツアー当日に鑑賞する当館所蔵品についての対話型鑑賞を行った。また、当日には、学校の滞在時間、規模にあわせて相談しながら、鑑賞や創作体験プログラムを実施した（図13）。特に東予地方や南予地方からの募集が多く、来場アンケートをとったところ、今回初めて来た児童生徒が圧倒的であった。新型コロナウイルス感染症のため、校外学習が長らくできていないことから、先生方からも好評を博した。また実施側としても、延べ18校から1,100人を超える児童生徒の参加があり、久しぶりに大勢の児童生徒を対象としたプログラムを実施したことで、確かな手ごたえを感じることができた。一方で、この事業は、単年度の企画

のため、美術館に来る機会がなかなか得られない遠隔地域の子どもたちに対して、オンライン等を活用しながら、継続的に地域格差をなくしていく努力をする必要性も感じている。



(図13) バスツアー実施風景 (館内作品鑑賞)

また、コロナ禍で様々な施設に利用制限がかかり、特に大勢の人が一定時間滞在する部屋については、利用を停止する等してきた。

館に来た人々が交差するエントランスホールにおいても、吹き抜けの心地よい空間に、県産材の椅子も設置しているが、コロナ禍前に実施していたコンサート等を見送っている。この交流スペースにウルトラテクノロジスト集団チームラボの「TeamLabCamera」によるフォトブース「ケンピカメラ」を6月から翌年3月まで設置している。このブースはオープンスペースかつ非接触での撮影が可能であることから感染リスク



(図14) フォトフレーム 「沖冠岳 《百狸々》」

が低く、また撮影用フレームを独自に開発することができる。当館では、観光客の来館も多いことから、県外でも人気のあるゆるキャラの「みきゃん」と「こみきゃん」のフレームを常時1種類と、コレクション展に合わせて出品中の作品をフレームとして10種類導入した(図14)。コレクション展への誘客を狙い、また遊びながら所蔵品を知る契機をつくることができた。カメラには、フレームに使用した作品の名刺サイズのカードを設置したが、こちらも人気であった。

また、全国的にも珍しい、県民が自由に使用できる創作スペースである南館のアトリエ1及び2についても、利用者の回復とアフターコロナにおける増加を狙い、専門性の高い作家2名を招聘し、公開制作とワークショップを実施した。

#### 【講師】

- ①本出ますみ (ウール格付け人、京都在住)
- ②岩淵華林 (シルクスクリーン作家、神奈川在住)

本出氏は、羊毛の洗いや紡ぎの工程について、理論的な説明を交えつつ、体感するワークショップを、紡ぎ車や織機があるアトリエ2で実施した。また、岩淵氏は、様々な版画制作が可能なアトリエ1において、シルクスクリーンのテクニックを公開制作で紹介し(図15)、実際にワークショップで制作に取り組んだ。いずれもこの機会であれば、直接見て知ることができない高度で分かりやすい内容となっている。実施内容は、分かりやすいダイジェスト版の動画に編集し、当日の参加者に限らず、引き続きアトリエ利用者が随時プロの技術や知識に触れられるように工夫している。



(図15) 岩淵氏の公開制作風景

## さいごに

この新型コロナウイルス感染症と共にあった3年間を振り返ると、博物館においても平時にはないことの連続であった。この経験も地域差があり、これから少しずつ共有され、この3年間が何であったのかを俯瞰して話すことがやってくるのだろうと思われる。

そして、感染症対策に取り組み、アフターコロナを見据えたイレギュラーな活動をしていく中で、平時には見過ごしていた課題も見えてきた様に思う。新型コロナウイルス感染症は直接的な罹患者のみならず、この間に犯罪情勢統計では子どもの虐待疑いの件数が過

去最多となり、自殺者も増加する等、人々のところにも痛ましい影響を与えた。

この3年間を振り返り、美術館に何ができたのか、できるのかと、問い続ける中で、画家の猪熊弦一郎の言葉を思い出した。猪熊は、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館の落成式の際に、「美術館は心の病院」と言葉をのこした。新型コロナウイルス感染症が完全に収束をしたとしても、傷ついた人々の心が癒えるには時間が必要だと思っている。そんな時に、心の病院として頼りになる美術館でいられるように心掛けていきたい。そうした活動を実施できた時に、漸くこの3年の葛藤が実を結ぶのではないかと思う。

<sup>i</sup> 国立感染症研究所HP「IDWR 2020年第21号〈注目すべき感染症〉新型コロナウイルス感染症(COVID-19)」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2487-idsc/idwr-topic/9669-idwrc-2021.html>

<sup>ii</sup> 厚生労働省「新型コロナウイルス感染症の“いま”に関する11の知識(2023年2月版)」

<https://www.mhlw.go.jp/content/000927280.pdf>

<sup>iii</sup> 内閣府HP「新型インフルエンザ等対策特別措置法における国と地方との関係」(2020年8月5日)

[https://www.cao.go.jp/bunken-suishin/kaigi/doc/teianbukai108shiryoushiyou2\\_2.pdf](https://www.cao.go.jp/bunken-suishin/kaigi/doc/teianbukai108shiryoushiyou2_2.pdf)

<sup>iv</sup> 愛媛県美術館YouTube

<https://www.youtube.com/@user-fl1mc2nd3e>

<sup>v</sup> 美術手帖「美術館連絡協議会が事務局業務の停止を発表。コロナで活動見直しへ」

<https://bijutsutecho.com/magazine/news/headline/23907>

<sup>vi</sup> 文化庁「公募」サイト

[https://www.bunka.go.jp/shinsei\\_kobo/boshu/20210326\\_01.html](https://www.bunka.go.jp/shinsei_kobo/boshu/20210326_01.html)

「本事業では、新型コロナウイルスにより、文化芸術活動の自粛を余儀なくされた文化芸術関係団体において、感染対策を十分に実施した上で、積極的に公演等

を開催し、文化芸術振興の幅広い担い手を巻き込みつつ、「新たな日常」ウイズコロナ時代における新しい文化芸術活動のイノベーションを図るとともに、活動の持続可能性の強化に資する取り組みを支援します。」※本事業は、2021年1月8日から2021年12月31日までに行われた展覧会等が対象。

<sup>vii</sup> 文化庁長官 都倉俊一「文化芸術に関わる全ての皆様へ」2021年5月

[https://www.bunka.go.jp/koho\\_hodo\\_oshirase/sonota\\_oshirase/pdf/message202105.pdf](https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/sonota_oshirase/pdf/message202105.pdf)

<sup>viii</sup> 文部科学省HP「令和3年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」

[https://www.mext.go.jp/content/20221027-mxt\\_jogai02-000025395\\_100.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20221027-mxt_jogai02-000025395_100.pdf)

※調査基準日は2022年3月1日。

<sup>ix</sup> このトークイベントについては、下記記録を参照のこと。

田代亜矢子「記録：リモートイベント アーティストトーク 八木良太×藤城里香 かんじんなことは目に見えない」『愛媛県美術館令和2年度年報・研究紀要第20号』2022年

石崎三佳子「記録：リモートイベント アーティストトークー有本容子、山田彩加一」『愛媛県美術館令和3年年報・研究紀要第21号』2023年

## 3年間の主な動向について (2020年から2023年)

年月	当館の動向	県内の主な動向	国内外の主な動向
2020 (令和2) 年 1月			〔14日〕 WHO新型コロナウイルスを確認 〔15日〕 日本国内で一例目となる感染者確認 〔21日〕 WHO人から人への感染確認 〔28日〕 新型肺炎を指定感染症として閣議決定 (2月7日施行) 〔31日〕 WHO「国際的な緊急事態」宣言
2月			〔19日〕 WHOが新型コロナウイルス感染症の正式名称を『COVID-19』と命名 〔25日〕 新型コロナウイルス感染症対策の基本方針の発表
3月	・事業の一部中止、延期 (10件)	一例目となる感染者確認	〔2日～春休み〕 全国の小・中・高等学校等に臨時休校要請 専門家会議による3密回避の呼びかけ 〔10日〕 大規模イベント開催自粛要請 〔11日〕 WHO、世界的大流行「パンデミック」との認識 〔14日〕 新型インフルエンザ等対策特別措置法施行 〔25日〕 外務省が初めて世界全体を対象に「危険情報」にレベルを引き上げ
4月	・講堂・研修室の貸出、新規予約の中止 ・全館臨時休館(4月14日～26日) ・企画展①会期変更 (2021年2月に延期) ・企画展②会期変更 (2021年度に延期) ・事業の中止・延期 (10件) ・全館臨時休館延長(～5月10日) ・動画「 <u>けんびのワークショップ mini!</u> 」等配信開始	〔13日〕 松山市を含む中予地域への不要不急の往来自粛要請に伴い、松山市及びその周辺地域と、愛南町に所在する県管理施設 (県武道館、美術館、図書館、とべ動物園、こどもの城等) の閉館 (～4月26日) 〔20日〕 県立学校の一斉臨時休業等(～5月6日、5月10日に延長) 〔27日〕 一部事業者への休業要請 (～5月6日)	〔7日〕 7都府県に緊急事態宣言 (～5月6日) ※各地域独自の医療体制に依る等した緊急事態宣言が個別に発出される 〔16日〕 緊急事態宣言、全都道府県に拡大、13都道府県は「特定警戒都道府県」

5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展②会期変更（2021年度に延期）</li> <li>・企画展③会期変更（2021年度に延期）</li> <li>・事業の見直し（新規4件、中止5件）</li> <li>〔14日〕日本博物館協会による「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」の策定</li> <li>〔25日〕同ガイドラインの改訂</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〔1日〕県管理施設全館休館（～5月10日）</li> <li>〔5日〕緊急事態措置（7日～10日）</li> <li>〔8日〕県独自の警戒レベルの設定（「感染縮小期」、「感染警戒期」、「感染対策期」）</li> <li>緊急事態措置（11日～31日）</li> <li>〔11日〕「感染対策期」から「感染警戒期」に移行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〔4日〕緊急事態宣言、全都道府県を対象に月末まで延長</li> <li>〔17日〕緊急事態宣言、8都道府県を除き解除</li> <li>〔21日〕緊急事態宣言、5都道府県を除き解除</li> <li>〔25日〕全国で緊急事態宣言解除</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新プログラム「親子ワークショップ」の開始（4件）</li> <li>・事業の中止（5件）、アトリエ教室の中止（～8月）</li> </ul>	〔19日〕「感染縮小期」に移行	〔19日〕コロナ感染者との濃厚接触を通知アプリ「COCOA」利用開始
7月			
8月			
9月	〔18日〕博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインの改訂		
10月	〔14日〕博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインの改訂 ・おでかけWS（1件）		
11月	・おでかけWS（3件）	〔20日〕「感染警戒期」への移行	
12月	・おでかけ美術館（コレクション展①）19日～翌年1月11日、八幡浜市美術館		<ul style="list-style-type: none"> <li>〔19日〕関西2府4県などが「緊急宣言」を採択</li> <li>〔21日〕医療団体が「医療の緊急事態」宣言</li> <li>〔26日〕コロナ変異ウイルス初確認</li> <li>〔28日～1月末〕全世界からの外国人の新規入国停止</li> </ul>
2021（令和3）年1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>〔16日〕混雑状況表示システム導入</li> <li>・おでかけ美術館（コレクション展②）4日～3月21日、ギャラリーしろかわ</li> <li>・おでかけ美術館（出張PRパネル展）（5件）</li> <li>・おでかけWS（1件）</li> </ul>	〔8日〕「感染警戒期」における特別警戒期間（～26日、2月7日まで延長、3月7日に再延長）	〔8日〕4都県で緊急事態宣言（以後「宣言」と表記）（～2月7日） 〔13日〕宣言、11都道府県に拡大

<p>2月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>おでかけ美術館 (コレクション展③) 27日～3月28日、新居浜市美術館</u></li> <li>・ <u>おでかけ美術館 (出張PRパネル展) (3件)</u></li> <li>・ <u>おでかけWS (3件)</u></li> </ul>		<p>[2日] 宣言、1県解除、10都府県は3月7日まで延長          [3日] 特措法、「まん延防止等重点措置」を盛り込んだ改正案可決成立 (13日施行)          [17日] ワクチン先行接種開始          [28日] 6府県で解除</p>
<p>3月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>制作動画公開 (4件)</u></li> <li>・ <u>制作コンテンツ公開 (3件)</u></li> <li>・ <u>おでかけ美術館 (出張PRパネル展) (2件)</u></li> </ul>	<p>[1日]「感染警戒期」における特別警戒期間終了          [25日]「感染警戒期」における特別警戒期間</p>	<p>[5日] 1都3県の宣言再延長 (3月末まで)          [21日] 宣言すべて解除</p>
<p>4月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の中止、延期 (5件)</li> <li>・ 美術情報・図書コーナー利用停止</li> <li>・ 企画展③の開催休止 (2021年7月に再開)</li> <li>・ 企画展④の会期変更 (2022年度に延期)</li> <li>[24日] 全館臨時休館 (～5月31日)</li> </ul>	<p>[8日]「感染対策期」への移行 (～21日、5月19日に延長)          松山市との不要不急の往来自粛による県管理施設のうち集客施設 (とべ動物園、えひめこどもの城) の閉館          [22日]「感染対策期」の延長、不要不急の外出自粛により、県管理施設のうち集客施設 (とべ動物園、えひめこどもの城、南レク、総合科学博物館、歴史文化博物館) の閉館          [25日] まん延防止等重点措置の適用 (～5月31日) 県管理施設の全館閉館</p>	<p>[5日]「まん延防止等重点措置」(以後「措置」と表記) 1府2県に適用開始          [12日] 3都府県に追加適用          [16日] 3都府県に追加適用          [20日] 4件に追加適用          [25日] 4都府県に緊急事態宣言 (5月11日まで)</p>
<p>5月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企画展⑤の臨時休館中の開催休止</li> </ul>	<p>[23日] 適用解除</p>	<p>[12日] 宣言の月末までの延長、2県の追加          [13日] 措置、5県追加          [16日] 宣言、3道県を追加、措置に3県追加          [21日] 宣言に1県追加          [28日] 宣言、6月20日まで延長</p>
<p>6月</p>	<p>[1日] 開館再開</p>	<p>[1日]「感染警戒期」における特別警戒期間へ移行          県管理施設は感染防止対策を徹底して再開 (貸館の条件付き利用許可)          [22日]「感染警戒期」に移行</p>	<p>[10日] 3県、措置解除          [17日] 9都道府県で宣言解除</p>

7月		〔29日〕「感染警戒期」における特別警戒期間への移行 県管理施設のうち、松山市及び周辺地域の集客施設は入場制限を実施	〔9日〕1都に宣言、1県8月22日まで延長
8月	事業の中止・延期（8件）、アトリエ教室の中止（～9月12日）	〔11日〕「感染対策期」への移行 県外及び松山市との不要不急の往来自粛 県管理施設は、入場制限の強化や施設内の一部の閉鎖（松山市及び周辺地域は、現対策を強化） 〔20日〕まん延防止等重点措置の適用（～9月12日） 県管理施設のうち、とべ動物園・こどもの城等は閉鎖、図書館は貸出・閲覧に限定 貸館利用の新規受付停止	〔2日〕6都府県に拡大、措置5道府県に 〔8日〕8県を措置に追加 〔20日〕宣言、13都府県に拡大、措置16道府県に 〔25日〕宣言、21都道府県に、措置12県
9月	講座・ワークショップ等の中止（7件）、アトリエ教室の中止（～26日） 〔9日〕博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインの改訂 〔21日〕同ガイドラインの改訂	〔13日〕「感染対策期」 県外との不要不急の往来自粛、松山市民は外出自粛	〔12日〕宣言、19都道府県で今月30日まで延長、措置8県が適用 〔30日〕宣言、措置、すべて解除
10月		〔1日〕「感染警戒期」へ移行 〔20日〕「感染縮小期」へ移行	
11月			〔30日〕オミクロン株対応として全世界からの外国人の新規入国原則停止
12月	〔25日〕リモートイベント①アーティストトーク（八木良太）		〔1日〕3回目ワクチン接種開始
2022（令和4）年1月	〔23日〕リモートイベント②「アーティストトーク（有元容子） ・リモートモデル授業の実施（2件）」	〔12日〕不要不急の往来自粛	〔9日〕3県で措置適用（～1月31日、2月20日に延長、1県3月6日に再延長、1都8県3月21日に再延長） 〔19日〕13都県に措置（～2月13日、3月6日に延長、2府7県3月21日に再延長） 〔27日〕18道府県に措置（～2月20日、3県を除き3月6日に延長）

2月	〔20日〕リモートイベント③アーティストトーク (山田彩加) ・リモートモデル授業の実施 (4件)		〔5日〕1県に措置 (～2月27日、3月6日に延長) 〔12日〕1県に措置 (～3月6日)
3月			〔21日〕措置の終了公示
4月		〔1日〕「感染警戒期」への移行	
5月			
6月	・teamLabCamera「ケンビカメラ」の設置 (11フレーム、～翌年3月31日)		
7月		〔12日〕「特別警戒期間」への移行	
8月		〔8日〕愛媛県B.A.5対策強化宣言 (～月末) 〔23日〕愛媛県B.A.5医療危機宣言 (～9月16日) 県管理施設の入場制限の徹底	
9月	・バスツアー「美術館に行こう！」開始 (県内18校、～3月10日)	〔17日〕「感染警戒期」における特別警戒期間へ移行	
10月	・アトリエWS&公開制作 (羊毛と遊ぶ、3件)	〔29日〕「感染警戒期」へ移行 (新居浜・西条圏域を除く)	
11月	・アトリエWS&公開制作 (シルクスクリーンをしる、たのしむ、3件)		〔17日〕COCOA機能停止
12月		〔5日〕「感染警戒期」における特別警戒期間へ移行 〔15日〕医療ひっ迫警戒宣言	
2023 (令和4) 年 1月			
2月		〔15日〕「特別警戒期間」へ移行	

- ・ 下線部は、新型コロナウイルス感染症対応で新規に実施したソフト事業
- ・ 企画展① (「岩合光昭 いよねこ 猫と旅する写真展」：2020年4月11日～6月14日 (4/11、12のみ開催)  
【変更後】2021年2月11日～3月28日)
- ・ 企画展② (「追悼・水木しげる ゲゲゲの人生展」：2020年6月27日～8月23日  
【変更後】2021年7月10日～8月29日)

- ・企画展③（「スヌーピー・ファンタレーション展」：2021年3月27日～5月9日（3月27日～4月25日まで開催、以後休止）【変更後】2021年7月24日～8月2日（再開）
- ・企画展④（「名刀は語る展」：2021年4月24日～6月27日【変更後】2022年4月16日～6月12日
- ・企画展⑤（「ミレーから印象派への流れ」展：2021年5月22日～2021年7月19日【変更後】2021年6月1日～7月19日）

（参考）

- ・内閣官房HP 新型コロナウイルス感染症対策 (<https://corona.go.jp/>)
- ・NHK新型コロナタイムライン (<https://www3.nhk.or.jp/news/special/covid19-timeline/>)
- ・愛媛県HP 新型コロナウイルス感染症に関する情報 (<https://www.pref.ehime.jp/h25500/kansen/covid19.html>)





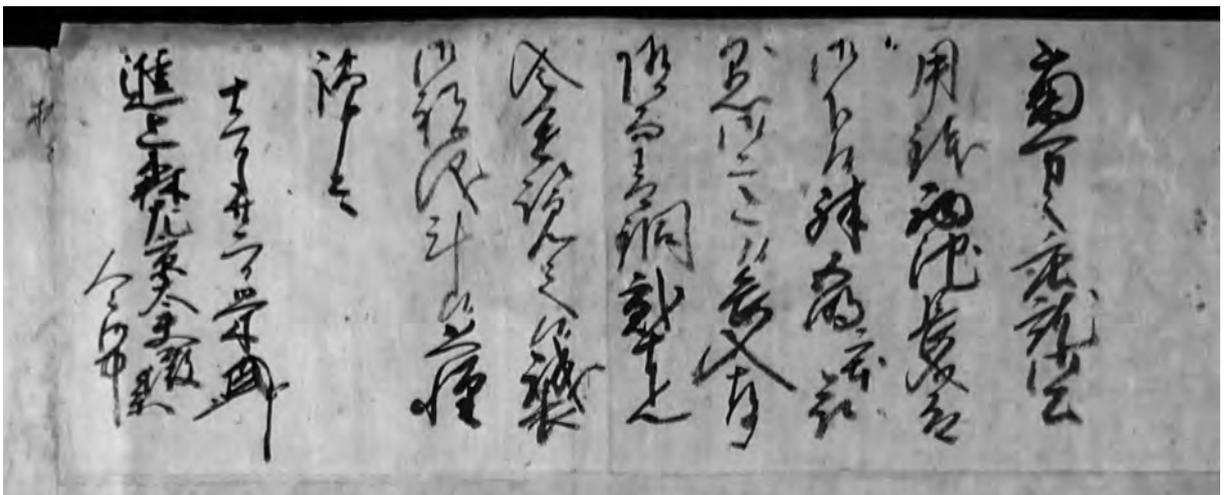
【写真1-3】東禅寺所蔵通栄書状花押



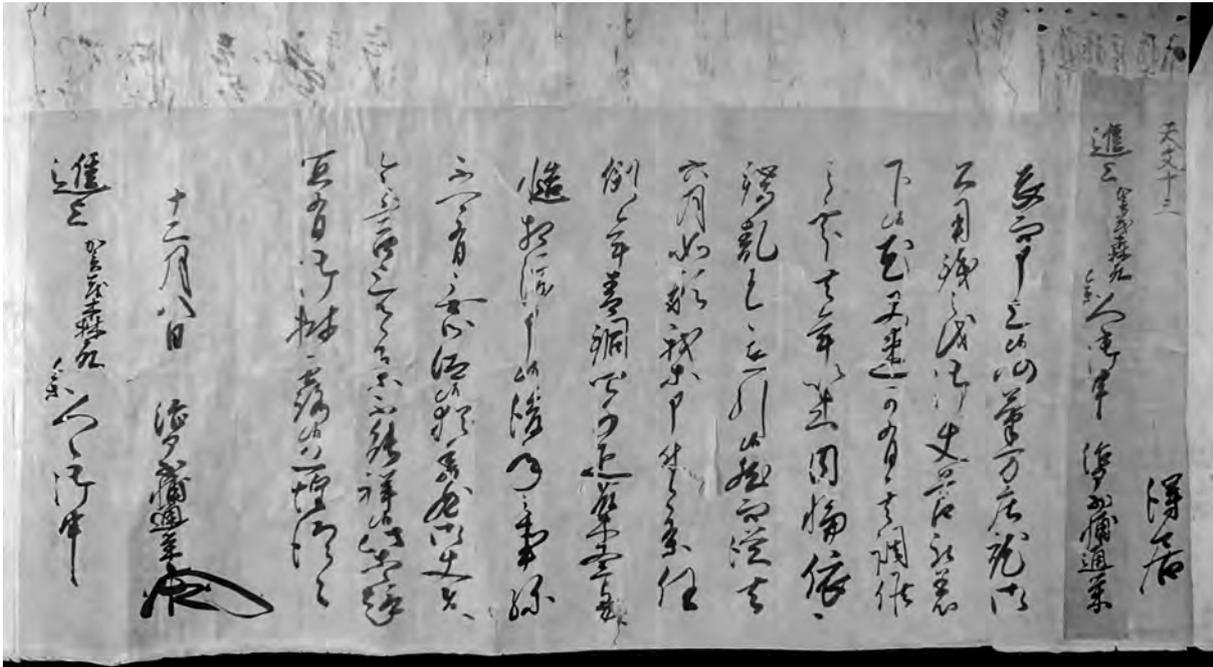
【写真2-2】参考資料1 通栄花押



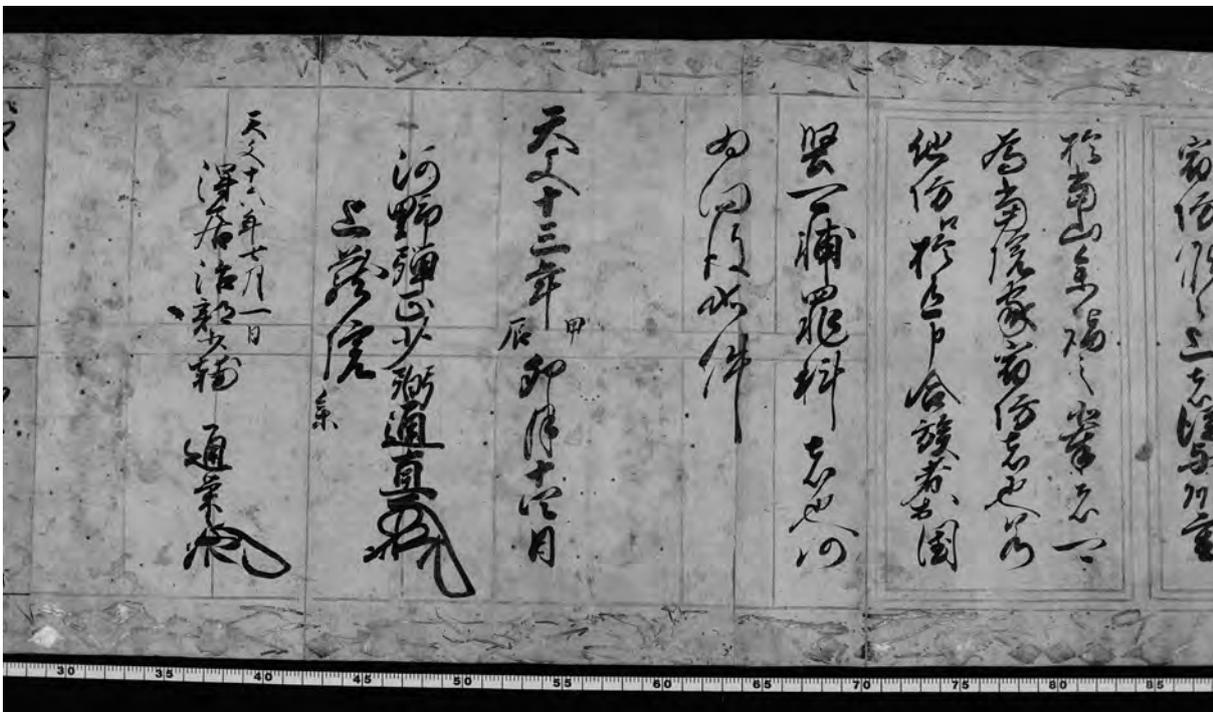
【写真3-2】参考資料2 通栄花押



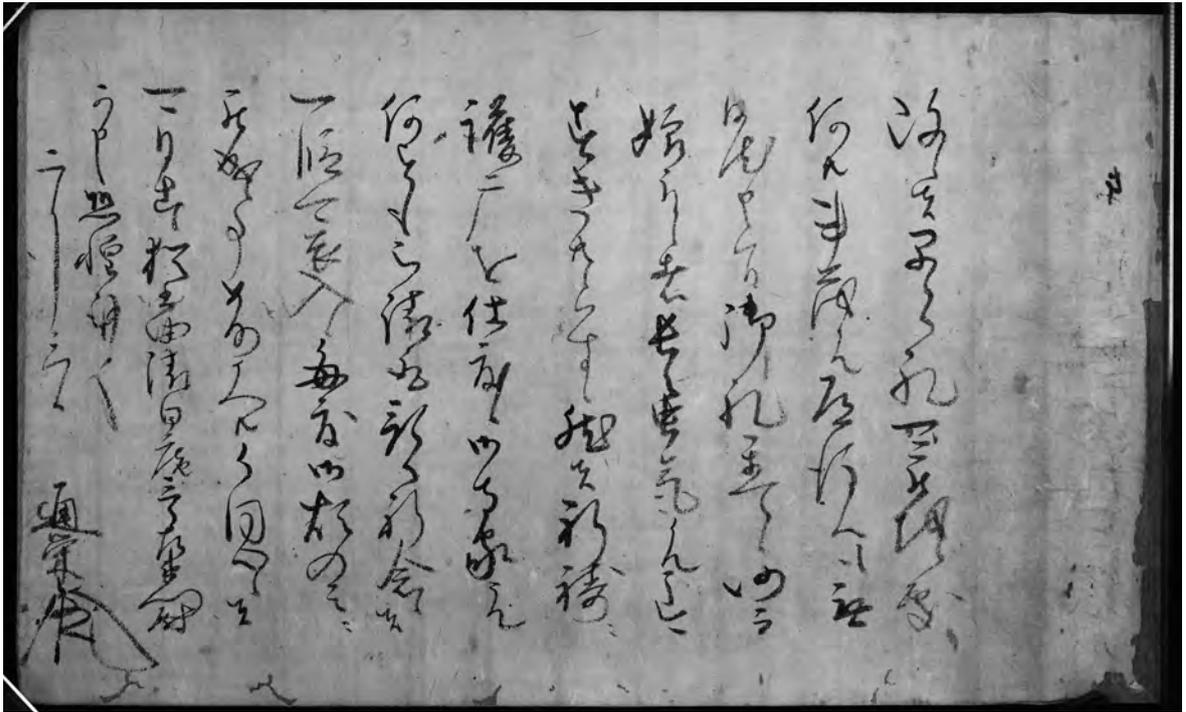
【写真4】十二月廿日付栄書状「馬場義一家文書」



【写真2】(参考資料1) 天文十三年十二月八日付得居治部少輔通榮書状「馬場義一家文書」



【写真3】(参考資料2) 天文十六年七月一日付得居治部少輔通榮署名加判「高野山上藏院文書」



【写真1】愛媛県今治市東禅寺所蔵 二月三日付得居通栄書状



【写真1-2】二月三日付得居通栄書状（裏面）

菊万庄を拠点としていた得居氏と松山平野方面の寺院との交流や、戦国期在地領主の娘への愛情、病気快癒のため加持祈祷が行われていたことを具体的に示している。愛媛県内で新たに戦国期の文書が発見されたことは極めて貴重であり、企画展「国宝 高野山金剛峯寺展」の開催が契機となって新史料の発見につながったことは美術館としても極めて意義深いものと考えている(17)。

なお、東禅寺には、今回紹介した得居通榮書状のほかにも、藤堂高吉寄進状、河野家譜、河野系図、天正九年藏敷八幡宮奉納大般若經奥書写など中世く近世初期に関わる興味深い史料を伝えている。これらの調査は今後の課題である。

註

- (1) 同展の内容は企画展図録「国宝高野山金剛峯寺展実行委員会編・発行、二〇二二年」を参照。
- (2) 川岡勉「道前」「道後」地名の歴史的考察」(愛媛大学地域創成研究センター編・発行『地域創成研究年報』一、二〇〇五年)
- (3) ①『愛媛県史 古代・中世』第二編第三章第三節(山内譲執筆、一九八四年)、②山内譲『海賊衆来島村上氏とその時代』二〇一四年、③同『伊予の中世を生きた人々』室町時代』二〇一三年。
- (4) 伊予国菊万荘は、平安時代後期には賀茂別雷神社領となっていた荘園で、正和四年(一二三〇)以後、預所職は賀茂社神主家が代々知行した(延慶三年十月廿六日付洞院右大将家御教書「早稲田大学所蔵文書」(『愛媛県史資料編 古代・中世』四三九号。以下『県史』とする。)、(文保元年)五月十五日付花山院師信御教書「賀茂別雷神社文書」(『県史』四七六号)、正慶二年十一月六日付平惟繼御教書「賀茂別雷神社文書」(『県史』五五九号)。鎌倉末期頃の当荘の耕地面積は一三〇町であった(伊予国内宮役夫米未済注文「御裳濯川和歌集裏書」(『県史』四七五号)。詳細は註(3)①③を参照。
- (5) 永享十二年八月廿二日付森富久契状「馬場義一家文書」(「賀茂社領古證文」を出典とし『県史』二二六五号に収録)
- (6) 文明十三年九月三日付森貞久契状「馬場義一家文書」(註(5)と同じく『県史』一五〇〇号に収録)
- (7) 明応四年七月六日付得居通敦寄進状「遍照院文書」(『県史』一五五九号)、同六月日遍照院寺領坪付案「遍照院文書」(『県史』一五五八号)
- (8) 宗昌寺寺領坪付「宗昌寺文書」(『県史』一五三三三号)。なお、本坪付にみえる風早平野の各

領主の所領の展開については、土居聡朋「伊予国宗昌寺領故地における中世後期景観の復原―文明十八年宗昌寺々領坪付を素材として―」服部英雄編『地域資料叢書八 中世景観の復原と民衆像―史料としての地名論―』花書院、二〇〇四年所収)を参照。

(9) 天文九年五月三日付得居通清立願状「馬場義一家文書」(註(5)と同じく『県史』一七〇二号に収録)

(10) 天文十三年六月廿二日付河野通直(彈正少弼)安堵状「石手寺文書」(『県史』一七四〇号)。なお、河野通直(彈正少弼)と晴通との対立については、川岡勉「戦国期における河野氏権力の構造と展開」(大阪大学文学部日本史研究室編『古代中世の社会と国家』清文堂、一九九八年(のち川岡勉「室町幕府と守護権力」二〇〇二年に収録)、西尾和美「天文伊予の乱再考―高野山上藏院文書」を手がかりとして」(『四国中世史研究』九号、二〇〇七年。一部改稿の上、川岡勉編『高野山上藏院文書の研究―中世伊予における高野山参詣と弘法大師信仰に関する基礎的研究―』愛媛大学教育学部、二〇〇九年に再掲)、磯川いづみ「天文中世河野氏の内訌―「天文伊予の乱」の再検討―」『四国中世史研究』十四号、二〇一七年)、川岡勉「天文伊予の乱と河野氏権力」『四国中世史研究』一五号、二〇一九年)等を参照。

(11) なお、後世の家譜である『予陽河野家譜』は、天文十一年、河野彈正少弼通直が後継者を来島村上氏の通康に推した際、これに対抗して重臣たちは河野通政(晴通)を推したが、通直側に仕出したのは来島村上氏と得居一族ばかりであったと記しており、得居氏も河野氏当主の地位を巡る内訌に一定の関与があった可能性もある。

(12) 定成隆「上藏院文書の古文書学的考察」川岡勉編『高野山上藏院文書の研究』二〇〇九年)

(13) 山内譲氏のご教示による。

(14) 景浦勉校訂『予陽河野家譜』(歴史図書社、一九八〇年)による。

(15) 四月四日付口羽通良書状写「屋代島村上文書」。なお、元龜年間(伊予の動向については得能弘一氏、西尾和美氏、中平景介氏、山内譲氏、桑名洋一氏ら近年多くの研究がある。詳しくは桑名洋一「元龜年間争乱時における河野氏家中の混乱について」(『四国中世史研究』十五号、二〇一九年)等を参照されたい。

(16) 註(3)②に同じ。

(17) 本文書の発見は、令和四年十二月六日付あいテレビ「Nスタえひめ」特集にて報道された。

〔謝辞〕 本稿の執筆にあたっては、東禅寺住職 佐々木康祐氏、高野山別格本山金剛三昧院住職 久利康暢氏、馬場統之信氏、今治城学芸員 藤本誉博氏、伊予史談会会長 山内譲氏、京都市歴史資料館 松中 博氏、西尾市岩瀬文庫長 林知左子氏、松前史談会 河野孝氏らの協力を得た。また、本文書調査の契機となった企画展「国宝 高野山金剛峯寺展」は、株式会社あいテレビ営業局専門職理事 梶原稔浩氏及び愛媛県美術館 専門学芸員 担当係長 長井健氏両名を中心に長年にわたる尽力のもと開催されたものである。記して感謝申し上げます。

の高野山参詣者は上蔵院を宿坊とすることを定めたもので、従来、本文書は写しであるとする見方が石野弥栄氏によってなされてきたが、定成隆氏はこれを正文とみなし、通直は奉加帳形式の豪華な巻物に宿坊證文を記し、以後上蔵院を宿坊とする者に署名・加判させるつもりであったと推測している<sup>(12)</sup>。三年後の天文十六年七月に得居通栄は高野山に登山し、通直の證文の後に署名・加判したとみなせる。

参考史料一、参考史料二にはそれぞれ得居通栄の花押が据えられている。山形の右側の線が大きく内側にはねられ、内部に「R」のような字を記し、山形右側線の内側及び山形左側線の外側にそれぞれ点を打つ。本書状には名のみで姓や官途名の記載がないが、参考史料一・二の花押と本書状の花押を比較すると、基本的な形状が一致しており、得居治部少輔通栄の発給とみなすことができよう。ただし参考史料一の花押の縦横比が約〇・四六、参考史料二の花押の縦横比が約〇・五三なのに対し、本書状の花押の縦横比は約〇・六一と参考史料一・二に比べてやや縦長となっており、年代的には参考史料一、参考史料二と離れるものとみられ、参考史料二より遅くに発給された可能性もあるが、発給年代は不明といわざるを得ない。また、本書状で通栄が使用者として宛所の寺院に遣わした清白庵三郎左衛門尉は、通栄の家臣と想定されるが、この人物についても他の史料に全く登場せず、詳細は不明である。

なお、『原史』では、「賀茂社古證文」所収の十二月廿二日付「栄」書状写を「得居通栄書状」として収録している。しかしながら原本である「馬場義一家文書」の同書状(写真4)を改めて確認すると、花押の形状が全く異なることから、ここではひとまず別人と考えておきたい<sup>(13)</sup>。

以上、得居通栄に関する確実な史料は先述の三通であり、決して情報が多くないが、二次史料にはもう少し通栄に関する記載もみられるので、参考のため紹介しておきたい。まず河野弾正少弼通直の家臣団を記したとみられる高野山上蔵院文書の「彈正少弼通直家頼記」(高野山別格本山金剛三昧院所蔵)には、「難波衆」

として記された十六名の一人として「得居治部少輔」の名がみえる。戦国末期までの河野氏の事績をまとめた『予陽河野家譜』<sup>(14)</sup>には天文十年六月に大内氏家臣の白井房胤が大三高島に來襲した際、これに抗戦した諸氏の中に、大祝氏のほか「得居、來嶋、正岡」があったといい、また、先述したとおり、天文十一年、河野氏当主の地位をめぐり河野弾正少弼通直と河野通政(晴通)を推す重臣らが対立した際、得居氏は通直方に出仕したという。ここまでの記載は通栄の名はないが、元龜三年(一五七二)七月には、安芸毛利氏勢力の苫西・津高・神名氏らが伊予に來襲し河野勢と交戦したが、恵良城(現松山市)を包圍攻撃し「得居治部入道父子」が二神氏らとともに突入し城を陥落させたという。また元龜三年九月には織田信長と好を通じた阿波三好勢と新居郡を支配していた石川氏が手を結び河野氏に攻撃し、その後織田氏家臣の山岡氏らの勢力が中予に來襲し恵良城を占領され、この時に「得居治部入道聖運」が防戦したが破れ聖運らは自害したという。これらの記載は確実な史料では確認できないが、元龜三年四月には芸州勢が生楚城(場所不明)・甲の城(現松山市の雄甲城・雌甲城か)を落城させており<sup>(15)</sup>、天文十六年以降に通栄が出家したことや、元龜年間の伊予における争乱の中で没した旨の記載は、一定の事実を反映した可能性もある。

その後、得居氏の家督は來島村上氏の通幸が継承し、天正年間に入ると、得居通幸は、來島村上氏の家督を継承した通総と行動を共にして、拠点鹿島城(現松山市鹿島)に移し、毛利方と織田方の瀬戸内地域での対立が激しくなった天正九年(一五八一)には通総と共に織田方に付き、河野・毛利勢と交戦を繰り広げた。豊臣政権下の朝鮮派兵のため渡海し、文祿三年(一五九四)に渡海先で没した<sup>(16)</sup>。

おわりに

愛媛県今治市東禅寺で所在が確認された二月三日付得居通栄書状は、これまで知られていなかった河野氏家臣の得居通栄の動向の一端を示す史料で、野間郡の

とする伊予の人物としては、戦国期河野氏の家臣、得居通栄があげられる。山内讓氏の成果(3)に沿い得居氏の概要についてみると、得居氏の名が確実な史料上に登場するのは室町時代の永享十二年(一四四〇)で、伊予国野間郡、現在の今治市菊間町内に比定される京都上賀茂社の荘園であった菊万庄(4)の所務請負を担う存在として「河野得居宮内大輔」の名がみえる(5)のが初見である。その名乗りからして、もとは風早郡(旧北条市、現松山市北部)を本拠とし、南北朝後期から道後湯築城に移した伊予国守護河野氏の一族であることが窺える。その後、文明十三年(一四八一)には、河野得居宮内大輔の子孫とみられる「河野得居伊勢守」が四十五貫文で再び所務を請負っている(6)。

得居氏の本拠は菊万庄、現今治市菊間町菊間及びその周辺とみられ、明応四年(一四九五)には得居宮内大輔通敦が菊万庄内の遍照院に寺領を寄進している(7)。文明十八年(一四八六)に作成された宗昌寺坪付では、風早平野における野間郡との堺付近にも得居氏の所領がみられる(8)。天文九年(一五四〇)、請負代官の地位にある得居通清は、得居家の家督を継承するにあたって、四〇余貫文を「前々の如く進納する」旨の立願状を社家に提出している(9)。

「通栄」の名が記された文書は、本史料を含め全三通が確認される。

(参考史料一) 天文十三年十二月八日付得居治部少輔通栄書状「馬場義一家文書」

(写真2)

(参考史料二) 天文十六年七月一日付得居治部少輔通栄署名加判「高野山上蔵院

文書」(写真3)

(本史料) 二月三日付通栄書状「東禅寺文書」

参考史料一は、『県史』では「賀茂別雷神社文書」により収録されているが、山内讓氏及び京都市歴史資料館松中博氏のご教示、並びに所蔵者の馬場紘之信氏の御許可を得て、原本にあたる「馬場義一家文書」の調査を行うことができた。『県

史』収録の翻刻と一部文言が異なるため、ここに改めて掲載する。

畏而申上候、仍菊万庄就御／公用錢之儀、御使節被差／下候、尤早速可有其調候／之處、去年以来内輪依／錯乱、于今延引候、然而従去／六月如形我等申付候之条、任／例年青銅四千疋藤木又三郎殿<sup>カ</sup>へ／慥相渡申候、後年之事、弥／不可有無沙汰候、猶委曲御使者へ／令言上候之条、不能詳候、此等之趣／宣有御披露候、恐惶謹言、

十二月八日 治部少輔通栄(花押)

(封紙ウハ書)

「天文十三

得居

進上 賀茂森殿

治部少輔通栄

参 人々御中

」

天文十三年(一五四四)十二月八日、得居治部少輔通栄が、京都賀茂別雷神社社家の森氏(『県史』では森泰久とする)に宛てた書状である。菊万庄の公用錢の納入は昨年以來「内輪」の「錯乱」により今まで延引していたが、さる六月に伝えたように、例年通り青銅四千疋(四十貫文)を使節の藤木又三郎に渡すことを伝えている。「去年以来内輪依錯乱」とはどのような状況を示すのか明確でないが、天文十年から十一年にかけて河野通直(彈正少弼)と晴通との間で当主の地位を巡る対立があり、通直(彈正少弼)は湯築城を追放されたものの、晴通の死により、天文十三年に通直は高野山参詣を経て七月十四日に湯築城に入城しており、入城に先駆けて天文十三年六月廿二日付で彈正少弼通直が石手寺地藏院の寺領を安堵している(10)。天文十三年六月には、それまでの地域の混乱も一定の収束をみせたことから、菊万庄においても賀茂社への公用錢の送付について目途が立った旨、得居通栄等から報告されたものであろうか(11)。

参考史料二は天文十三年(一五四四)四月十四日付河野通直宿坊證文を記した巻物の後に署名・加判したものである。同證文は、河野通直(彈正少弼)が今後

新出史料といってよいことが判明したことから、本稿で概要を紹介するものである。

## 一 二月三日付得居通栄書状について

本書状（写真1）の料紙は楮紙で、現存の法量は縦二十四・五センチメートル、横三十九・〇センチメートル。文書の天地及び奥の宛所は切断されている。全体に裏打ちがされているが、端裏の部分のみ糊付けされておらず、裏書を確認できる。文書袖の下部は欠損があり、切封の跡の可能性はある。翻刻・内容は河野孝氏の依頼により西尾市岩瀬文庫長 林知左子氏が作成したものをもとに、山内譲氏の指摘により一部修正した。

### 【翻刻】

（裏書）「東禅寺御□□ 河野々」

改候者早々御礼可罷越候処

何共事茂く候て道後へも無

沙汰申候間御礼遅々候、仍而

娘にて候者長々虫気にて于今

すき共候ハす候、然者祈祷二

護摩を仕度候、御寺家にて

何をも被請取預御祈念候者

一段可畏入候、毎度御煩のミニ

罷成候事如何候へ共御同心候者

可目出候、猶委曲清白庵三郎左衛門尉

可申候、恐惶謹言、

二月三日

通栄（花押）

### 【内容】

年が改まりましたならば早々に参上すべきところを、何かと多用にて道後へも無沙汰してしまい、御礼が遅れています。娘が長らく虫気（体調不良の一種。腹痛等）で未だにすつきりと快癒いたしません。それで護摩祈祷をいたしたく存じます。お寺様にて何か謝礼をお請け取りの上、ご祈念くださいますならば誠に恐れ入ります。毎度ご面倒ばかりおかけするのいかがなものかと思いますが、ご同意下さいますならば喜ばしく存じます。なお詳細については清白庵三郎左衛門尉が申し上げます。

本書状の奥は切断されており、通栄が本書状を差し出した宛所は不明である。文書袖裏に記された裏書は書きぶりからして後世のものであろう。文面は丁寧で、内容からも本書状は寺院に宛てたもので、「道後へも無沙汰申し候間、御礼遅々候」とあることから、道後方面の寺院である可能性が高い。本書状の発給前に何度も祈祷を依頼しており、宛先の寺院とは懇意である様子が伺われる。中世における「道後」は和氣郡以西を指していることが指摘されており<sup>2)</sup>、本文書の宛先の寺院名や所在地は特定できないが、現在本書状が伝存する今治市東禅寺は伊予の道前地域に位置するから、本文書は当初から東禅寺に伝わったものではないことが判明する。本書状が当初宛所となった寺院から東禅寺に移った経緯や時期は不明であるが、前述したとおり、本書状は遅くとも明治三十五年には東禅寺の所蔵となっており、河野氏ゆかりの重要な文書の一つとして、戦争時の被災も潜り抜けて現在に伝えている。

## 二 得居通栄について

続いて発給者について検討する。すでに知られている史料の中で名を「通栄」

## 【史料紹介】

### 愛媛県今治市東禅寺所蔵 二月三日付得居通栄書状について

土 居 聡 朋

はじめに

本稿は、愛媛県美術館企画展「国宝 高野山金剛峯寺展」の開催を契機に調査の機会を得た、愛媛県今治市の東禅寺が所蔵する年未詳二月三日付得居通栄書状を紹介するものである。

東禅寺は、今治市蔵敷町（本坊 今治市南宝来町）に所在する真言宗醍醐派の寺院である。本尊は等身の薬師瑠璃光如来立像で、山号は靈樹山、院号は醫王院。寺伝によれば伊予国司散位大夫越智益躬が夷族鉄人を討ち取った際に戦没した臣下の霊を弔うために伽藍を創建した。その後天平元年に行基が本尊仏像を自作安置し、後に源頼義・河野親経が伽藍を再建。平安時代末期から鎌倉時代前期に活動した河野通信はこの地で育ち、文治元年（一一八五）七堂伽藍を再興して東禅寺と改め、承久の乱で後鳥羽院方に参じた通信が貞応二年（一二二二）配流先の奥州江刺で没すると、東禅寺殿観光西念大居士として祀られたとする。元弘三年（一三三三）得能通綱の代に伽藍を再建したが兵火のため焼失、文明三年（一四七二）に河野通昭が再建したが、天正十三年（一五八六）に秀吉軍の四国平定のため宝物等は灰燼に帰したという。江戸時代、今治藩の松平定房入部以降は順次再興され、歴代藩主の崇敬を受けた。

かつて寺内に建立されていた薬師堂は、三間四面の単層入母屋造、本瓦葺の唐様の建築で、河野通宣により永正十五年（一五一八）に再建されたもので、室町中期の特色を示すことから明治三十七年（一九〇四）に古社寺保存法に基づく特

別保護建造物（文化財保護法における重要文化財に相当）に指定された。昭和九年（一九三四）には文部省の補助を得て解体修理を行ったが、昭和二十年（一九四五）に戦災のため焼失した。現薬師堂は、解体修理された際の記録及び図面に基づき、昭和三十一年（一九五六）に再建されたものである。空襲により松並木の参道を失い、昭和二十八年（一九五三）今治市都市計画法により境内の間に市道が通り、境内地の姿を変えながらも法燈を護り現在に伝えている。

本稿で紹介する二月三日付得居通栄書状は、東禅寺が所蔵する文書群の一つで、明治三十五年（一九〇二）の台帳には「護摩祈禱依頼状」「河野通栄候ヨリ」と記され、少なくとも明治後期には東禅寺に伝わっていたことは確かだが、長らくその存在が不明であった。佐々木康祐住職が七年ほど前に本書状を寺内で再確認し、今治城及び松前史談会の河野孝氏が調査を行ったが、いずれも公表されることはなかった。その後、国宝高野山金剛峯寺展実行委員会（愛媛県・株式会社あいテレビ）が主催者となって、愛媛県美術館で令和四年十月一日から十一月二十日まで開催された企画展「国宝 高野山金剛峯寺展―空海ゆかりの名宝と運慶・快慶―」の展示品の一つ、約一世紀ぶりの愛媛県内での公開となった高野山上蔵院文書（高野山別格本山金剛三昧院所蔵）を佐々木住職が御覧になられた際、たまたま本書状と似た形状の花押が据えられた文書が展示されていることにお気づきになり、美術館に照会をいただいた。このことを契機として、改めて本書状の内容や過去の経緯を確認したところ、これまで地域史研究の上では知られていない



愛媛県美術館  
令和3年度年報・研究紀要第21号

令和5年3月発行

発行所 愛媛県美術館  
愛媛県松山市堀之内  
TEL.089-932-0010  
FAX.089-932-0511

印刷所 株式会社 明 朗 社





愛媛県美術館